

取扱説明書

RTS25・23・22・20・18



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、トラクタの取扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるようトラクタの近くに保管してください。



トラクタ重要ポイント

1. 片ブレーキを使用しないときは、

常に連結解除ペダルロックレバーを走行(ロック)位置にします。

2. 農道を走行するときは、

スピードを落として路肩に注意します。

3. ほ場へ出入りするときは、

スピードを落とし畦^{あぜ}に直角に走行します。

4. トラクタや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを停止し、

パーキングブレーキをかけ、油圧ロックをします。

5. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし、周囲の状況を確認します。

6. 耕うん爪の点検や交換をするときは、

必ずエンジンを停止し、油圧ロックをします。

7. ロータリを着脱するときは、

平たんな場所で低速で行います。

トラクタの後輪とロータリの間立たない。

8. 運転・作業をするときは、

回転部分には、手や体を近づけない。

必ず周囲の状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を[⚠]を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

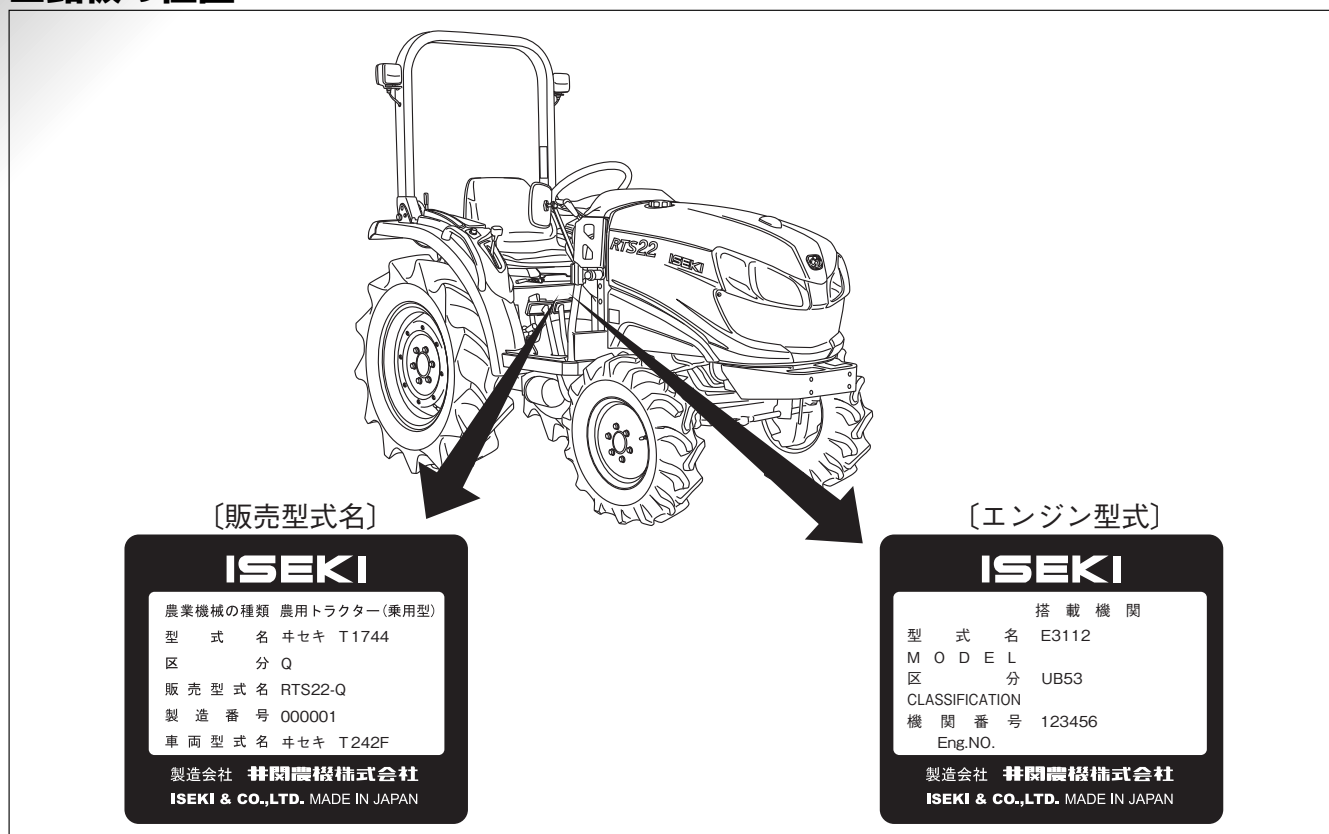
重要なお知らせ

- このたびは、中セキトラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、耕うん・代かき・けん引・運搬などの作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)
- 井関農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、中セキトラクタ（以降トラクタと記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このトラクタの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やトラクタに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、トラクタの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびトラクタ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- トラクタの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいくまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかなによることも、また看過できません。
- このトラクタは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このトラクタを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- このトラクタ（一部仕様を除く）は、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として、道路運送車両の保安基準を満たしています。よって、一般道路を走行するときは、小型特殊自動車運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のトラクタの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本トラクタを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をトラクタに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はトラクタの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本トラクタとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、トラクタ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のトラクタについて併記しています。
お買いあげいただいた、トラクタの型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



RTS0001

■上記（例）の販売型式名 RTS22-Q

■装備内容

区分記号	装備内容
無し	パワーステアリング 電気式2WD・4WD・スーパーフルターン切換え（S25型式除く） 逆転PTO 超低速（クリープ）（G型除く） シンクロリニアシフト（G型除く）
K	電子油圧（耕深制御）
S	電子油圧（耕深制御・水平制御） バックアップ・オートリフト・オートブレーキ（固定）
Q	電子油圧（耕深制御・水平制御） バックアップ・オートリフト・オートブレーキ（可変） アップストップPTO
G	HST（ノークラッチ前後進・主変速切換え）
CY	安全キャブ仕様
(CY無し)	安全フレーム仕様

区分記号	装備内容
N	低床仕様
WW	電子油圧（耕深制御・水平制御） バックアップ・オートリフト・オートブレーキ（固定） 全面マルチ制御
03	ローラグタイヤ・狭幅クローラ
05	狭幅トレッド仕様（ホイール）
50	高床仕様（500mm）
02	狭幅クローラ仕様
S25	電気式2WD・4WD切換え 電子油圧・バックアップ ターフタイヤ仕様

クラス名	装備内容
C	セミクローラ仕様

警告表示について

本トラクタを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。

また、トラクタで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (右図の場合は爆発注意)	(例) 
	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 (右図の場合は火気厳禁)	(例) 
	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 (右図の場合はメガネ着用)	(例) 

目 次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
警告表示について	iii
目 次	iv

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意	1
1.1.1 運転者の条件	1
1.1.2 作業をする前に	2
1.1.3 走行する場合は	4
1.1.4 トラックへの積み・降ろし	6
1.1.5 作業中は	8
1.1.6 点検・整備	10
1.1.7 保管時は	12
1.1.8 耕うん爪の点検や交換時は	13
1.1.9 ロータリの着脱・調整時は	13
1.1.10 運転・作業時	14
1.1.11 電気配線点検時の注意事項	15
1.1.12 バッテリー取り扱い時の 注意事項	16
1.1.13 ブースタケーブル使用時の 注意事項	17
1.1.14 スーパーフルターン・ IQターン(S25型式除く)の 取り扱いの注意	18
1.1.15 HST (G型式)の取り扱いの 注意	19
1.2 公道走行と標識(ナンバープレート)に ついて	20
1.2.1 運転免許証の携帯	20
1.2.2 小型特殊自動車	20
1.2.3 市町村役場への届出と標識 (ナンバープレート)の 取り付け	21
1.2.4 低速車マークについて	21
1.2.5 点検整備	22
1.2.6 自動車保険について	22
1.2.7 その他の法規について	22

1.3 安全フレーム・キャブについて	22
1.4 警告ラベルについて	23
1.5 警告ラベル貼付箇所	24

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	32
2.2 サービスネット	32
2.3 銘板の位置	32
2.4 補修用部品の供給年限について	32

3. 各部の名称

3.1 全体(安全キャブ仕様)	33
3.2 全体(安全フレーム仕様)	35
3.3 3点リンク	35
3.4 レバー・ペダル関係	36
3.5 スイッチ関係	37
3.6 メータパネル	37
3.7 電子油圧操作ボックス	38
3.8 メンテナンス関係	39

4. 作業前点検

4.1 運転席に座る前に	40
4.2 運転席に座って	41
4.3 メインスイッチを「運転」に入れて	42
4.4 エンジンを始動して、徐行しながら	42

5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備	44
5.1.1 シート	44
5.1.2 シートベルト	45
5.1.3 チルトの調節(N型式以外)	45
5.1.4 バックミラー	46
5.1.5 コンビネーションスイッチ	47
5.2 エンジン始動のしかた	48
5.3 エンジン停止のしかた	54

5.4 発進のしかた	55	7.2.3 「耕うん」位置	76
5.5 変速のしかた	58	7.2.4 「こだわり」位置	77
5.6 旋回のしかた	58	7.3 走行切換ダイヤル(S25型式)	78
5.7 坂道での運転	58	7.3.1 「2WD」位置	78
5.7.1 急な上り坂での発進	58	7.3.2 「4WD」位置	78
5.7.2 下り坂での運転	59	7.4 スーパーフルターン(S25型式以外)	79
5.8 けん引	59	7.5 2WDターン(S25型式以外)	81
5.9 停車・駐車のしかた	60	7.6 オートリフト(K・S25型式以外)	83
5.10 運転中の作動確認	62	7.7 オートブレーキ(K・S25型式以外)	84
5.10.1 燃料計	62	7.8 旋回減速(G型式)	86
5.10.2 ブレーキ連結ロック解除 警告灯	62	7.9 PTOの使いかた	87
5.10.3 アワーメータ	62	7.10 3点リンク	90
5.10.4 メータ	63	7.11 作業機	92
5.10.5 エンジンオイル圧力警告灯	63	7.11.1 作業機の取り付け・ 取り外し	92
5.10.6 バッテリ充電警告灯	63	7.11.2 ロワーリンク振れ止め スプリング	93
5.10.7 水温警告灯	63	7.12 バンプアウエイトの取り付け (注文部品)	93
5.11 トラックへの積み・降ろし	64	7.13 けん引作業について	94
6. 作業前に必要な調整		7.14 電子油圧装置の使いかた	95
6.1 輪距の調整	66	7.14.1 作業機昇降装置の使いかた	95
6.1.1 前輪	66	7.14.2 自動耕深制御装置の使いかた (S25型式以外)	101
6.1.2 後輪輪距調節	66	7.14.3 自動水平制御装置の使いかた (K・S25型式以外)	105
6.2 安全フレームの扱い	68	7.15 チェックヒューズの使い方	107
6.2.1 倒しかた	68	7.16 全面マルチ制御装置の使い方 (WW型式)	108
6.2.2 起こしかた	69	7.17 燃料載せ台(給油スタンド)の 使い方	110
7. 作業のしかた		8. 安全キャブの各装置について	
7.1 作業時の運転	70	8.1 安全キャブ装置	111
7.1.1 走行速度	70	8.1.1 ドアの開けかた	111
7.1.2 ほ場の出入り	71	8.1.2 ドアの閉めかた	111
7.1.3 ほ場での旋回	72	8.1.3 乗り降りのしかた	112
7.1.4 デフロックペダルと使いかた	73	8.1.4 ドアの施錠と解錠	112
7.2 走行・作業切換ダイヤル (S25型式以外)	74		
7.2.1 「走行」位置	74		
7.2.2 「4WD」位置	75		

8.1.5	リアガラス	113	9.4.12	クラッチ室の水抜き	148
8.1.6	リヤサイドガラスの開閉	114	9.4.13	クラッチペダル	149
8.1.7	ルームランプ	114	9.4.14	ブレーキペダル	149
8.1.8	作業灯スイッチ	115	9.4.15	ステアリング	150
8.1.9	作業灯の位置調整	116	9.4.16	ユニバーサルジョイントの 点検	150
8.1.10	ワイパスイッチと ウォッシャースイッチ	116	9.4.17	タイロッドエンドの 増し締め	151
8.1.11	C Dラジオ(FM・AMつき)	118	9.4.18	タイヤの空気圧	151
8.1.12	小物皿	119	9.4.19	タイヤ締め付けボルトの 点検	152
8.1.13	カップホルダ	119	9.4.20	アクセルレバー・ペダル	153
8.1.14	作業機制御パネル用タップ	119	9.4.21	電気配線の点検と清掃	153
8.2	エアコン	120	9.4.22	ヒューズおよびスローブロー ヒューズの取り扱い	154
8.2.1	エアコン操作パネル	120	9.4.23	パワステ用ホース	155
8.2.2	エアコンの使いかた	123	9.4.24	水平シリンダホース (K・S25型式以外)	155
			9.4.25	グリース注入	156
9. 点検整備			9.5	安全キャブの点検・清掃・調整	157
9.1	定期点検・整備箇所一覧表	128	9.5.1	エアコンベルトの点検	157
9.2	給油・給水一覧表	131	9.5.2	エアコンコンデンサの点検	157
9.3	エンジン周りのカバー類の脱着	133	9.5.3	エアコンホース・パイプの 点検	158
9.3.1	ボンネットの開閉	133	9.5.4	エアコンフィルタの 点検・清掃	158
9.3.2	サイドカバーの脱着	134	9.5.5	フロン排出抑制法に基づく エアコン機器の簡易点検	159
9.4	点検・清掃・調整のしかた	135	9.5.6	ウインドウォッシャー液の 点検・補充	159
9.4.1	エンジンオイル	135	9.5.7	防振ゴムの点検	159
9.4.2	エアクリーナの清掃	136	9.5.8	安全キャブ専用ヒューズの 交換	160
9.4.3	冷却水	138	9.5.9	安全キャブ専用スローブロー ヒューズの扱い	160
9.4.4	ラジエータの清掃	139	9.5.10	安全キャブドアのラッチ部	160
9.4.5	燃料	140	9.6	クローラの点検・整備・調整	161
9.4.6	ファンベルトの張り具合	142	9.6.1	乗車と作業前点検	161
9.4.7	バッテリー	143			
9.4.8	ミッションオイル	145			
9.4.9	油圧ストレーナの清掃 (C,CG型式)	146			
9.4.10	油圧オイルフィルタの交換 (①C型式以外 ②G型式)	147			
9.4.11	フロントアクスルのオイル	148			

9.6.2	ゴムクローラの張り調整 (RTS25・23C)	162
9.6.3	ゴムクローラの張り調整 (RTS22・20C)	163
9.6.4	遊輪・転輪の点検 (RTS25・23C)	164
9.6.5	グリス注入	165
9.6.6	遊輪・転輪スクレーパの点検と 調整(RTS25・23C)	166

10. 格納時の手入れ

10.1	日常の格納	167
10.2	長期の格納	168
10.2.1	格納前作業	168
10.2.2	格納期間中	169
10.2.3	長期格納後の使用	169

11. 不調時の処置

11.1	エンジン関係	170
11.1.1	始動時	170
11.1.2	運転中	171
11.1.3	メータパネル	173
11.2	トランスミッション・操作系・ 油圧関係	174
11.2.1	クラッチ	174
11.2.2	走行・ブレーキ	174
11.2.3	ステアリングホイール	175
11.2.4	スーパーフルターン (S25型式以外)	175
11.2.5	オートリフト (K・S25型式以外)	176
11.2.6	オートブレーキ (K・S25型式以外)	176
11.2.7	油圧	177
11.2.8	電子油圧関係	178
11.2.9	水平制御(K・S25型式以外)	179

11.3	電装関係	180
11.3.1	バッテリー	180
11.3.2	ランプ類	180
11.3.3	ホーン	180
11.4	安全キャブ関係(安全キャブ仕様)	181
11.4.1	エアコン	181
11.4.2	安全キャブ	182

12. 付表

12.1	推奨潤滑油一覧表	183
12.2	キセキ純正オイル一覧	184
12.3	純正エアコンガス	185
12.4	主な消耗部品一覧表	186
12.5	標準付属品	190
12.6	純正ロータリ適応表	191
12.7	主要諸元表	192
12.8	走行速度表(km/h)	203
12.9	注文部品一覧表	208
12.10	簡易点検実施記録表	209

1. 使用上のポイント

本トラクタを正しく御使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

本製品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

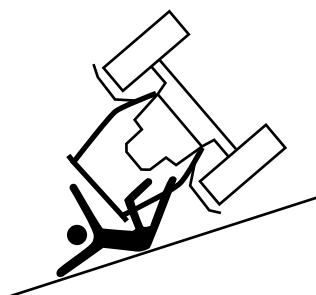
⚠ 警告



以下に該当する場合は、運転をしないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき
- 18才未満の方
- 妊娠しているとき
- 酒を飲んだとき

※ 守らないと、誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきの服装をしてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたり、すべてて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

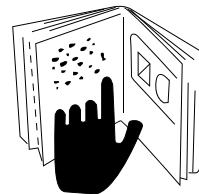


⚠ 注意



ご使用の前に、この取扱説明書をよく読み、記載内容を十分理解してください。

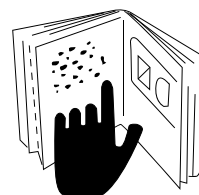
※ 守らないと、思わぬ事故・故障の原因になります。



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

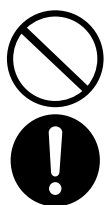
※ 守らないと、借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



1. 使用上のポイント

1.1.2 作業をする前に

⚠ 危険



- **トラクタには火気を近づけないでください。**
くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- **燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**
※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。



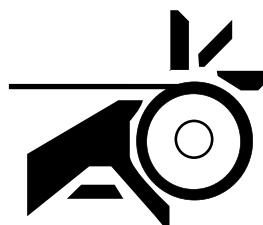
- **エンジンは、電源直結で始動しないでください。**
※ 守らないと、機械が急に動き出し、巻き込まれるおそれがあります。



⚠ 警告



- **トラクタを運転する前に保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。**
※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすおそれがあります。



- **無理のないゆとりある作業計画をたててください。**
※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



- **エンジンを始動するときは必ず座席に座り、すべての変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



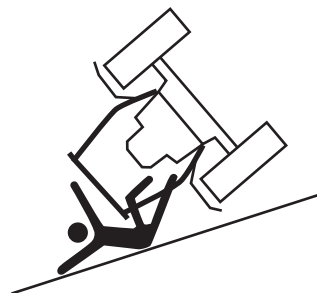
警告



点検・整備は必ず行ってください。

特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れないことがあります。

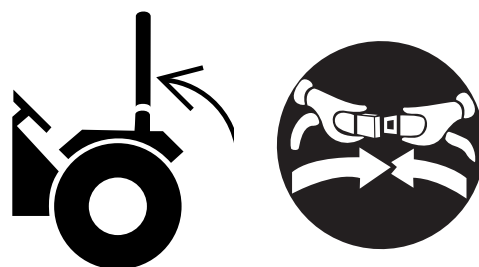
※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



- 安全フレームは、正しく装着された状態で運転してください。
- トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを着用してください。

安全フレームは作業上大切な装備ですので、22ページの「安全フレーム・キャブについて」をお読みください。

※ 守らないと、転倒したときに人身事故を起こすことがあります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。

※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



注意



カバーの隙間や、ガイド穴などにむやみに手や指を差し込まないでください。

※ 守らないと、手や指が引っかかって抜けなくなり、けがをするおそれがあります。

1. 使用上のポイント

1.1.3 走行する場合は

⚠ 危険



トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりしないでください。

※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因となることがあります。



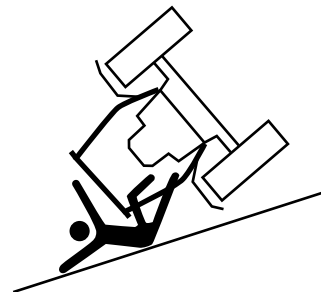
⚠ 警告



- 高速での急旋回や、坂道での急旋回はしないでください。
- 坂道を上がるときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないでください。

足ブレーキの多用はブレーキを傷めます。

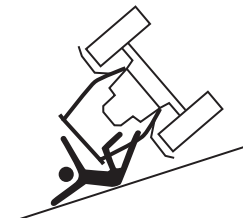
※ 守らないと、スリップや転倒事故を引き起こします。



凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。

路面状態に応じた速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



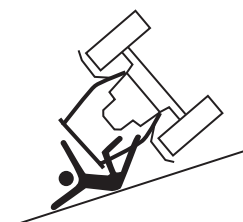
トラクタの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



作業中以外は、必ずブレーキ連結解除ペダルロックレバーを「道路走行」位置にしてください。

※ 守らないで連結解除ペダルを踏み込むとブレーキが片ぎきとなり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。



警告



道路を走行するときは、必ず作業機を取り外し、道路交通法を守ってください。

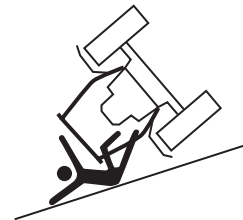
道路では、作業機を装着したトラクタの走行は道路運送車両の保安基準を満たせない場合があります。また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っ掛けて事故を起こすおそれがあります。

※ 守らないと、死亡事故や傷害事故の原因になります。



道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



夜間にトラクタの運転をするときは、すべての変速レバーやその他のレバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行ってください。

※ 確認しないと、予想外の作動をしたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

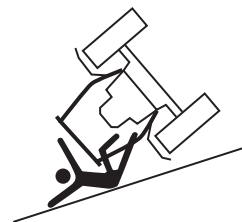


路肩に注意してください。

側溝のある道路や、両側が傾斜している道路を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。

また、路肩が軟弱な道路、路肩に窪みがある道路は、トラクタの重量で崩れる場合がありますので、走行しないでください。

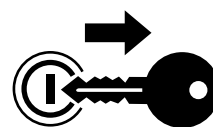
※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒するおそれがあります。



トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.4 トラックへの積み・降ろし

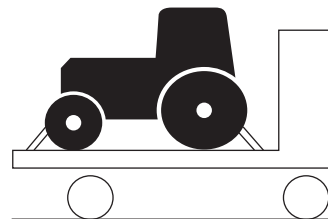
警告



トラック等で運搬するときは、トラクタにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。

また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。

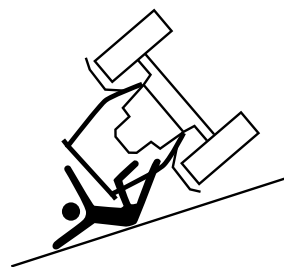


- 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分ある、スリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、ホイール(前後輪タイヤ)仕様では、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」、セミクローラ仕様では、積むときは「前進」、降ろすときは「後進」でゆっくり行ってください。

- アユミは、基準を満たすものを使用し、トラクタの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

- アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。( 64ページ)

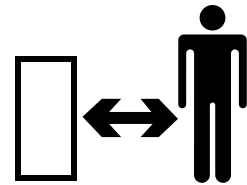


警告



トラクタの周りには人を近づけないでください。

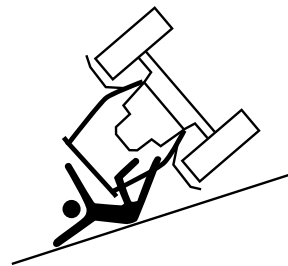
※ 守らないと、死傷事故が起こるおそれがあります。



トラックへの積み・降ろし中は、必ずブレーキ連結解除ペダルロックレバーを「道路走行」位置にしてください。また、クラッチペダルを踏んだり、ブレーキペダルを踏んだりしないでください。

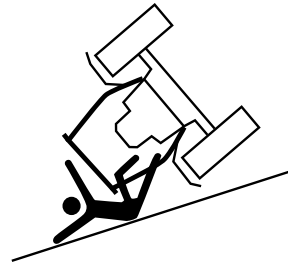
万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路までゆっくりと降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にし、パーキングブレーキをかけ、車輪止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

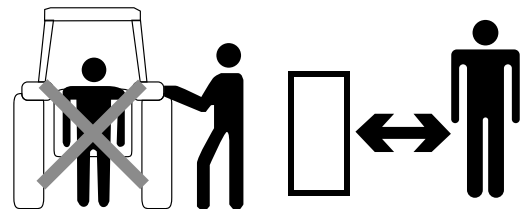


誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

誘導者は機械の直前や直後、真横には、絶対に立たず、十分にトラクタから離れてください。

誘導者とは、合図や声をかけあい、互いの安全に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



1. 使用上のポイント

1.1.5 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警告



回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等、危険な箇所には、手を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間に立って行わないでください。トラクタの脇から扱うようにしてください。



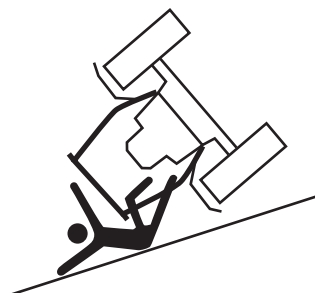
※ 守らないと、トラクタと作業機の間に挟まれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



● ^{あぜ}畦を横断するときは、作業機の回転を止め、作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。

● ^{あぜ}畦の高さが高いところでのほ場の出入りは、必ずアユミを使用してください。

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



警告



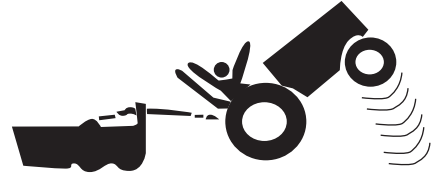
けん引作業は、トラクタ用純正トレーラヒッチ（注文部品）を使用してください。けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。



このトラクタにはトレーラブレーキが装着されていません。けん引する車両の総重量が1050kgを超える場合のけん引は禁止です。

不明な点がありましたら「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になることがあります。



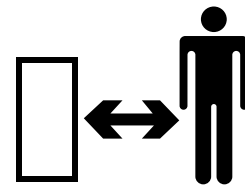
作業中は周りの人に注意（特に子供）してください。

作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。



作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

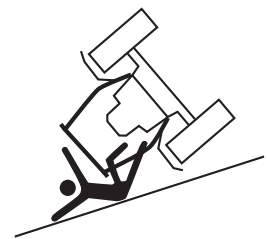


● 夜間作業をされる方には作業灯（注文部品：ランプ（ワーキング）SET（ 208ページ））を装着してください。



● 道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



1.1.6 点検・整備

⚠ 警告



点検・整備は過熱部分が冷えてから行ってください。

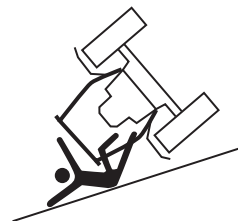


- エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
 - ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後よく冷えてから注意して開けてください。
- ※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



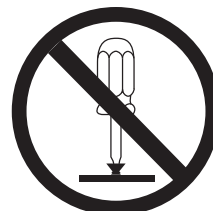
後輪のみをジャッキアップしてエンジンを始動しないでください。

- ※ 守らないと、前輪が回転して、転倒事故を引き起こすことがあります。



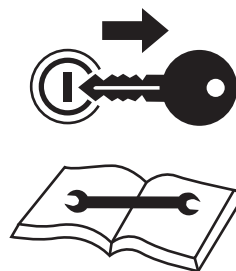
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

- ※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



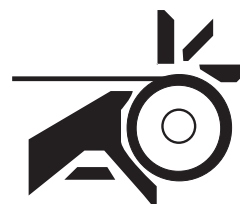
点検・整備は必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

- ※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

- ※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。

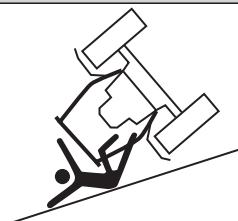


警告



点検・整備するときは、明るく、地面が平坦で硬く、広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



タイヤ・ホイールの取り扱いについては、十分注意してください。

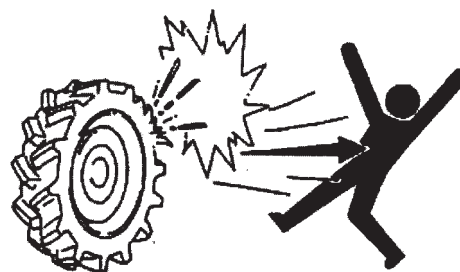
(1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。(151ページ)

(2) タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

(3) タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。

(特別教育を受けた人が行うように、法令で決められています。)

※ 守らないと、タイヤ破損のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。



注意



点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や、整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。



● **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**

● **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**

● **廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



1.1.7 保管時は

警告



作業が終了してシートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

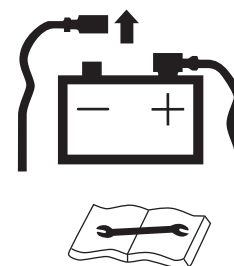
※ 守らないと、火災の原因になることがあります。



長期格納する場合は、バッテリーケーブルを取り外してください。

取り外すときは⊖コードから外してください。

※ 守らないと、ネズミ等がケーブルをかじったとき、ショートし、発火して火災の原因になることがあります。



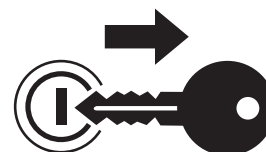
- 燃料パイプの破損や、燃料もれがないか、必ず点検してください。
- 長期格納するときは、燃料タンクは満タンにして、サビや水の発生を防いでください。

※ 守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをすることがあります。



保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



1.1.8 耕うん爪の点検や交換時は

⚠ 警告



点検・整備は、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧ロックしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



1.1.9 ロータリの着脱・調整時は

⚠ 警告



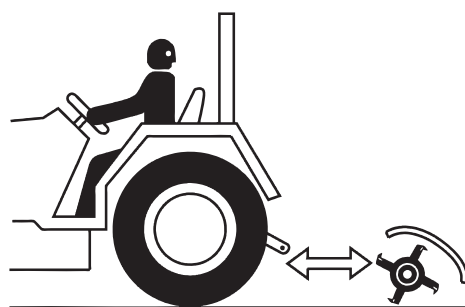
トラクタの後輪とロータリの上に立たないでください。

※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



トラクタを移動してロータリを装着する場合、平たんな場所で、低速で行ってください。

※ 守らないと、ロータリが転倒する等、機械の損傷や傷害事故を起こすおそれがあります。



必要時以外はエンジンを止めてください。

※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



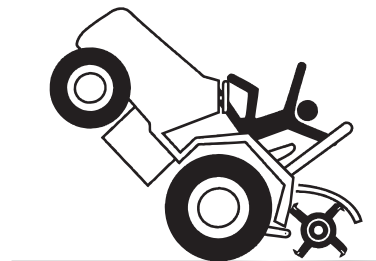
1. 使用上のポイント

⚠ 警告



3点リンク（リフトロッド）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。

※ 外れていると、傷害事故や機械の破損の原因となります。



1.1.10 運転・作業時

⚠ 警告



ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には手や体を近づけないでください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



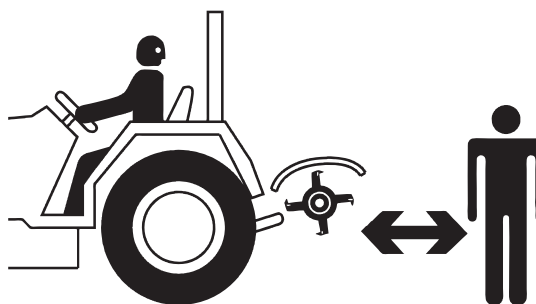
ロータリの上に乗らないでください。

※ 転落事故を引き起こすことがあります。



ロータリを持ち上げ、バックおよび急旋回するときは、必ず周囲の状況を確認してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



1.1.11 電気配線点検時の注意事項

⚠ 危険



配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は早めに交換・修理してください。

※ 守らないと、電気部品のパフォーマンスを損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故を引き起こすことがあります。



バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

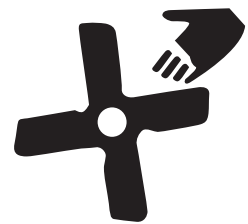
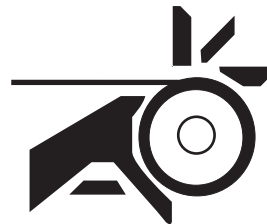


⚠ 警告



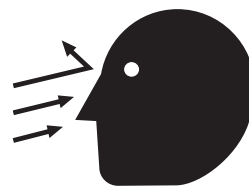
電気配線の点検は必ず、エンジンを停止して行ってください。

※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして傷害事故が起きることがあります。



接続部の点検は、メインスイッチを「停止」にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。

※ 守らないと、火花が飛んだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

1.1.12 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



バッテリーの吸気孔は、ふさがないでください。

※ バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧が上り、爆発するおそれがあります。

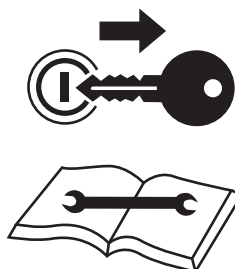


⚠ 警告



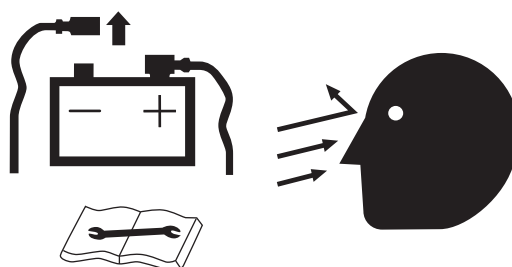
バッテリーの脱着および点検をするときは、メインスイッチを「停止」にし、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリーコード（端子）を取り外すときは、 $\ominus$ コードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、 $\oplus$ コードを先に取り付けます。

※ ショートして火花が飛ぶおそれがあります。



1.1.13 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、ブースタケーブルの取扱説明書にしたがい、危険のないように取り扱ってください。

また、「1.1.12 バッテリー取り扱い時の注意事項」( 16ページ) も参照してください。

危険



ブースタケーブル使用時には、火気を近づけないでください。

※ 守らないと、引火爆発することがあります。



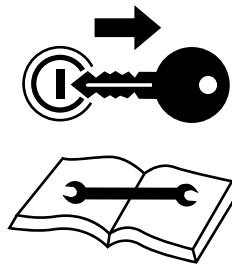
バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。

※ 守らないと、引火爆発することがあります。



ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 守らないと、ブースタケーブルが熱をもち、火災ややけどをおうおそれがあります。



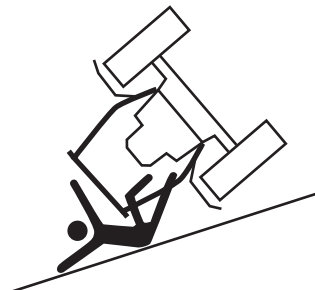
1.1.14 スーパーフルターン・IQターン (S25型式除く) の取り扱いの注意

⚠ 警告



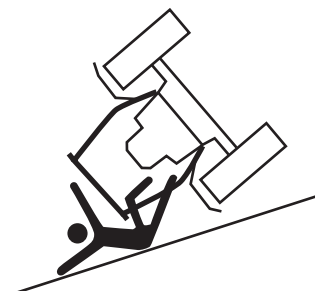
道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行 (2WD)」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



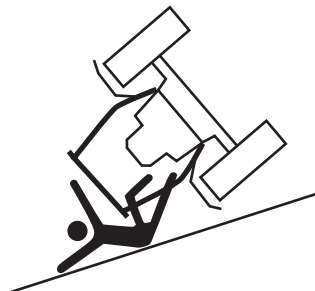
ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行 (2WD)」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、トラクタの故障や傷害事故の原因になるおそれがあります。



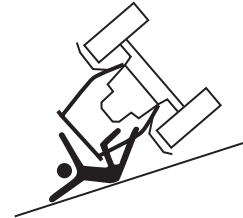
1.1.15 HST(G型式) の取り扱いの注意

⚠ 警告



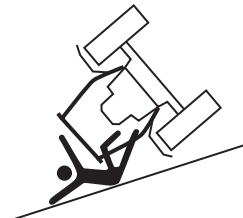
道路走行でのリニアレバー操作（前後進の切り換え）は、エンジン回転を下げ、車速を落として行ってください。特に副変速レバーが「高」の場合はクラッチペダルを確実に踏み込み車体がいったん停止した後で行ってください。

※ 守らないと車体が一瞬反対方向に動いた後で走行方向が切り換わる等の変速ショックが大きく、傷害事故を引き起こすおそれがあり、トランスミッションを損傷する原因ともなります。



リニアシフトレバー・主変速レバーの操作は、必ずトラクタの運転席に座って行ってください。

※ 守らないと、トラクタが急発進・急減速して、衝突・人が転落するおそれがあります。



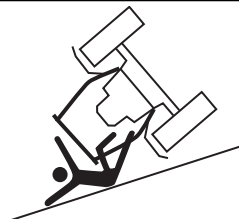
停止時には、必ずパーキングブレーキをかけてください。

※ 守らないと、リニアシフトレバーが中立位置でもエンジンがかかった状態ではトランスミッション内部の「つれ回り」により、トラクタが自然に動き出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。



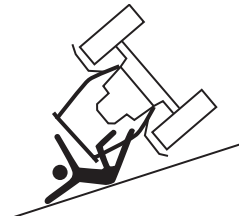
けん引作業や坂道での発進時は、リニアシフトレバーによる発進は避け、必ずクラッチペダルを使用してください。

※ 守らないと、前輪の浮き上がりや転倒の原因になります。



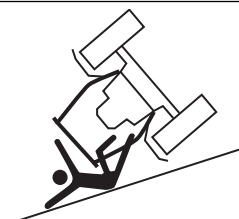
主変速レバーは、ゆっくりと操作してください。

※ 守らないと、トラクタが急発進・急減速して、衝突・人が転落するおそれがあります。



急な上り坂や下り坂、トラックへの積み降ろし、あぜの乗り越え途中での主変速レバー操作はしないでください。

※ 守らないと、前輪の浮き上がりや転倒の原因になります。



1. 使用上のポイント

1.2 公道走行と標識（ナンバープレート）について

このトラクタは、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として道路運送車両の保安基準を満たしています。ご使用の際は以下の点を遵守してください。

1.2.1 運転免許証の携帯

このトラクタを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って、正しい運転をしてください。
※道路交通法上の小型特殊自動車の基準は下表のとおりです。

車体の大きさ	全 長	4.70m以下
	全 幅	1.70m以下
	全 高	2.0m以下（但しガード部等は2.8m以下）
最 高 速 度		15km/h以下

また、けん引して道路走行をする場合、けん引する車両の総重量が750kgを越える場合は、けん引免許が必要となります。

1.2.2 小型特殊自動車

このトラクタは、道路運送車両の保安基準に適合する形状で製作しています。したがって、次のようなことは絶対にしないでください。

- (1) トラクタの各部構造の改造
- (2) 型式の異なるエンジンの搭載
- (3) 届け出タイヤ以外のタイヤの装着
- (4) 各封印部の開封

これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

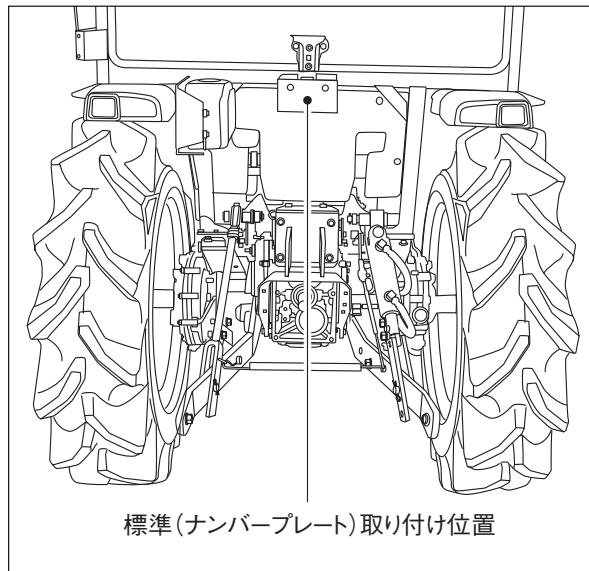
注 意



50型式は、道路運送車両の保安基準を満足しておりません。従って、このトラクタで公道を走行することは違法行為となります。ほ場などへの移動は必ずトラックなどに乗せて運搬し、公道を走行しないようにご注意ください。

1.2.3 市町村役場への届出と標識(ナンバープレート)の取り付け

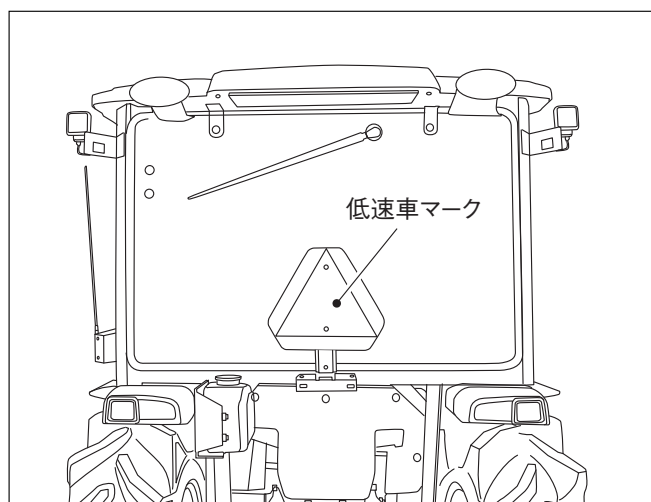
- (1) このトラクタの所有者となられた方は、市町村条例の定めにより市町村役場に届け出て、標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。
- (2) 届け出には、軽自動車税申告書(市町村役場にあり)に必要事項を記入の上、軽自動車税を添えて市町村役場へ提出してください。
尚、届け出の手続きは、市町村により異なることがあるので詳細は、市町村役場または「お買いあげ先」にご相談ください。
- (3) 交付された標識(ナンバープレート)は、トラクタ後部の標識(ナンバープレート)取り付け場所に取り付けてください。
- (4) 市町村役場より年一回、納税通知が郵送されますので、軽自動車税を納税してください。



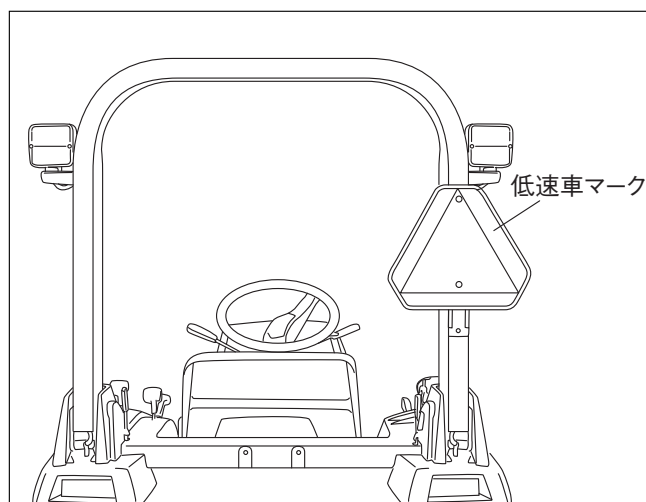
RTS0002

1.2.4 低速車マークについて

このトラクタで道路走行する場合は、低速車表示が必要です。トラクタの速度は自動車に比べると大変遅いため後続車に追突される危険性が、高くなります。これを防止するために低速車であることを知らせる表示板(低速車マーク)の取り付け部を車体後に備えております。道路走行時には必ず取り付けて走行してください。



RTS0013



RTS0014

1. 使用上のポイント

1.2.5 点検整備

トラクタは必要に応じて点検整備を実施し、常に保安基準に適合するよう維持することが求められます。また、灯火類の点灯、ブレーキのきき等は日常的に点検整備する必要があります。点検整備について詳しくは「お買いあげ先」にお申し付けください。

1.2.6 自動車保険について

農作業用の小型特殊自動車には、自動車損害賠償保険を付けることができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

1.2.7 その他の法規について

(1) 道路走行輪距

道路を走行するときは、必ず下表の輪距で走行してください。これ以外の輪距や、作業機を取り付けたままでは“道路運送車両の保安基準”を満足しない場合があるので道路走行することはできません。道路走行輪距

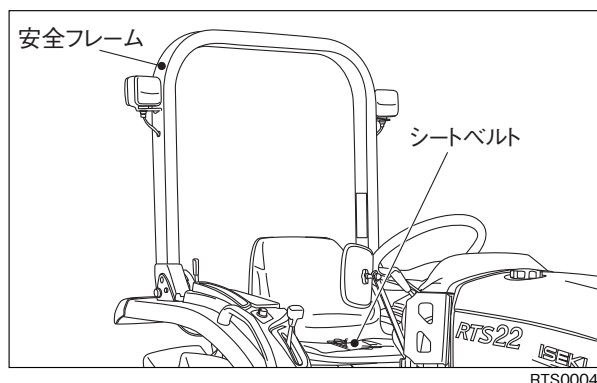
クラス名	型式	前 輪		後 輪	
		タイヤサイズ	輪距 (mm)	タイヤサイズ	輪距 (mm)
RTS25	Q(CY) ,S(CY) ,GQ(CY)	7-16-4PR	1030	11.2-24-4PR	1050
	Q05	7-14-4PR	970	9.5-24-4PR	950
	NS,GNS	6.00-12-4PR	880	8.3-22-4PR	870
	S25	24X8.50-12	980	315/75D-15	990
RTS23	Q(CY) ,S(CY) ,GQ(CY)	7-14-4PR	970	9.5-24-4PR	950
RTS22	Q,S,K	6.00-12-4PR	880	9.5-20-4PR	850
RTS20	Q,S,K	6.00-12-4PR	880	9.5-20-4PR	850
	WW03	6-12-4PR	830	8.3-20-4PR	800
	NS	5-12-4PR	835	8-16-4PR	790
RTS18	Q,S,K	6-12-4PR	830	8.3-20-4PR	800

(2) 道路走行時の作業灯

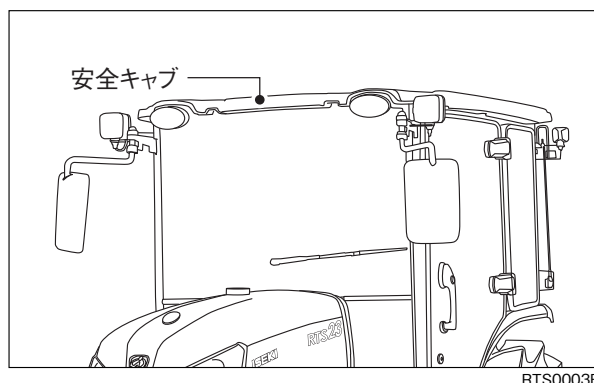
作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条（灯光の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

1.3 安全フレーム・キャブについて

安全フレーム・キャブはトラクタが万一転倒した場合に、運転者への被害を軽減するためのものです。安全フレーム・キャブの取り扱いには特に注意してください。



RTS0004



RTS0003B

⚠ 警告



万トラクタが転倒するときは、ハンドルをしっかり握り、座席より飛び出さないでください。

※ 怠ると、トラクタの下敷きになる等、重大事故を引き起こすおそれがあります。

高さに制限のある屋内、果樹園、ハウス内等の作業で、やむをえず安全フレームを後方に倒す場合は、シートベルトを装着しないでください。

※ この状態では体を保護することはできません。



トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを装着してください。

※ 怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。



安全フレーム・キャブの改造はしないでください。

※ 改造すると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。

万一事故により安全フレーム・キャブが変形したり、損傷した場合は、修理をしないで新しい純正部品と交換してください。

※ 怠ると安全フレームの機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。

補 足

- 安全フレームを倒す場合は、安全フレームと作業機のすき間を確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

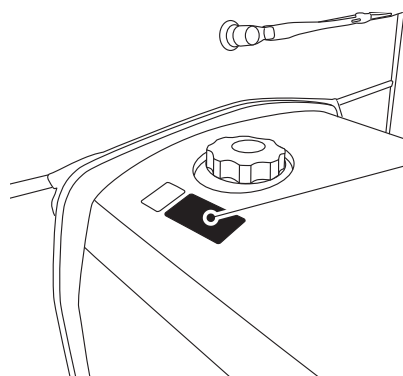
1.4 警告ラベルについて

- (1) このトラクタには、正しく作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- (2) 警告ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- (3) 汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- (4) 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買いあげ先へ注文してください。
- (5) 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

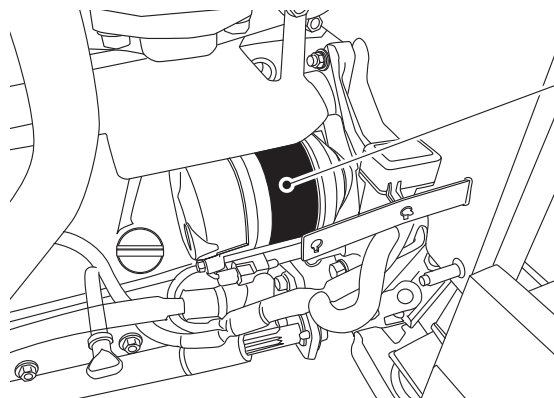
1. 使用上のポイント

1.5 警告ラベル貼付箇所

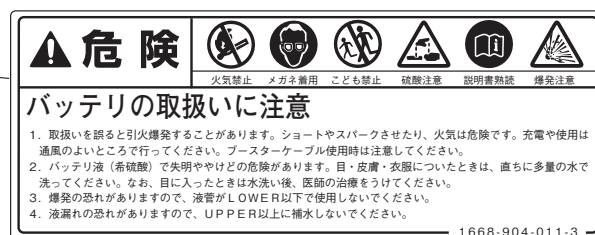
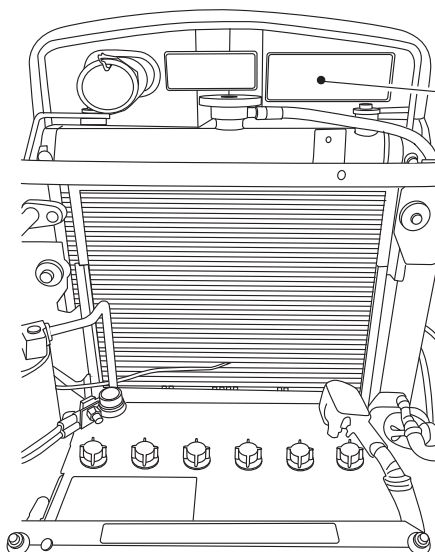
⚠ 危険



2161-901-038-0
ラベル(キケン/カキゲンキン)

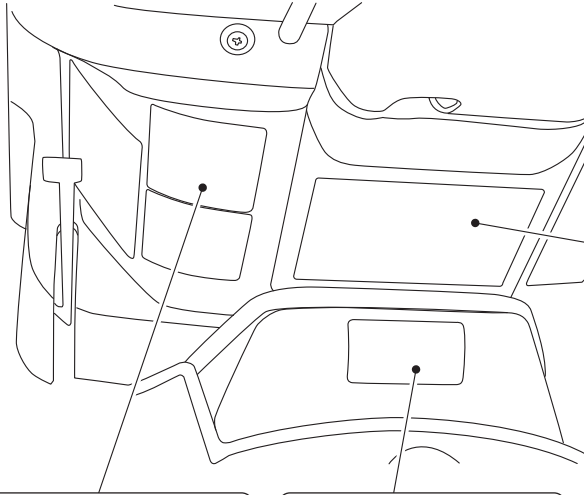


1668-904-009-1
ラベル(キケン/スタータ)



1668-904-011-3
ラベル(キケン/バッテリー)

警告



警告

転倒や衝突による死亡事故を防ぐ為に、道路走行時は連結解除ペダルロックレバーを走行位置（ロック）にすること。

1825-905-001-2

ラベル（ケイコク / ロック）

警告

座席から離れる時は、ブレーキペダルを踏んで、パーキングレバーでブレーキをロックすること。

1825-905-004-0

ラベル（ケイコク / パーキング）

<K・S25 型式以外>

警告

走行・作業切換ダイヤルおよびバックアップの取扱い
使用方法を誤ると危険です。守らないと転倒事故や故障の原因になります。
次の様な時は、走行・作業切換ダイヤルを“走行”または“4WD”の位置にし、さらにバックアップ表示灯が消灯していることを確認してください。

- 道路走行時・フロントローダ作業時
- ほ場の出入り・積み込み・積み降ろし時
- トレーラ作業などのけん引作業時
- 作業機着脱時

走行・作業切換



バックアップ表示灯
モニターパネル内
バック
アップ

操作パネル内
バック
アップ
入

1825-905-002-3

1825-905-002-3

ラベル（ケイコク / フルターン / Q）

<K 型式>

警告

走行・作業切換ダイヤルおよびスーパーフルターンの取扱い
使用方法を誤ると危険です。守らないと転倒事故や故障の原因になります。
次の様な時は、走行・作業切換ダイヤルを“走行”または“4WD”の位置にし、さらにスーパーフルターン表示灯が消灯していることを確認してください。

- 道路走行時・フロントローダ作業時
- ほ場の出入り・積み込み・積み降ろし時
- トレーラ作業などのけん引作業時
- 作業機着脱時

走行・作業切換



スーパーフルターン表示灯
スーパー
フルターン

表示灯はモニター
パネル上です。

1825-905-003-3

1825-905-003-3

ラベル（ケイコク / フルターン / K）

<S25 型式>

警告

バックアップの取扱い

使用方法を誤ると危険です。守らないと傷害事故や故障の原因になります。
次の様な時は、バックアップ表示灯が消灯していることを確認してください。

1. 道路走行時
2. フロントローダ作業時
3. ほ場の出入り時
4. 積み込み・積み降ろし時
5. トレーラ作業などのけん引き作業時
6. 作業機着脱時

バックアップ表示灯

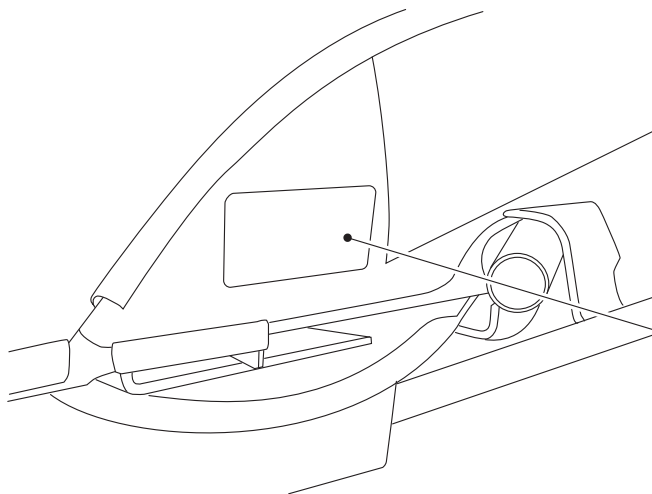
モニターパネル内
バック
アップ

操作パネル内
バック
アップ
入

1829-905-002-0

1829-905-002-0

ラベル（ケイコク / バックアップ）



警告



やけどをする
のでマフラに
さわらないで
ください。

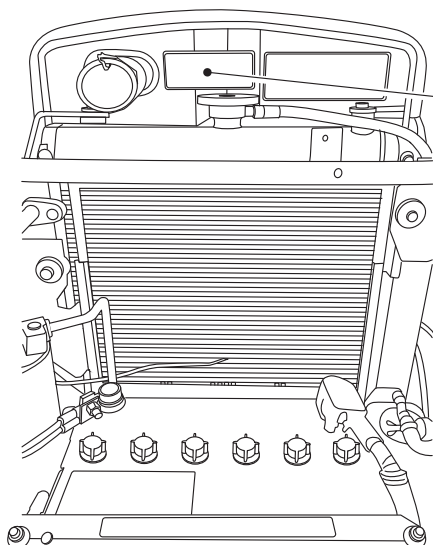
1799-903-071-0

1799-903-071-0

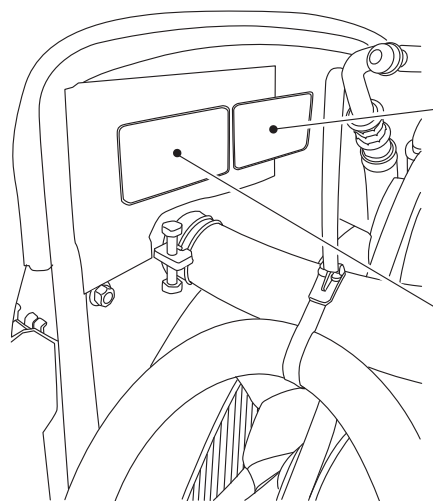
ラベル（ケイコク / マフラ）

1. 使用上のポイント

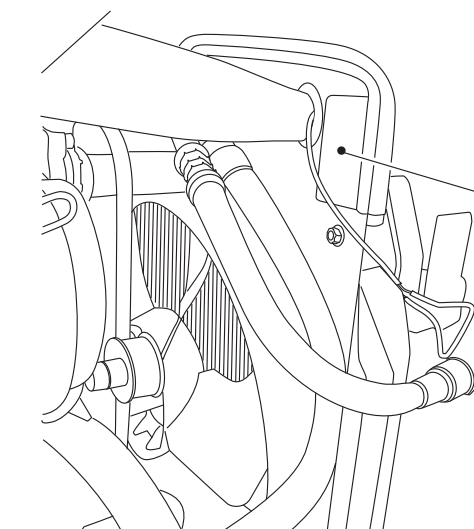
⚠ 警告



1668-904-007-1
ラベル (ケイコク / ラジエータ)



1675-905-007-0
ラベル (ケイコク / マフラ)



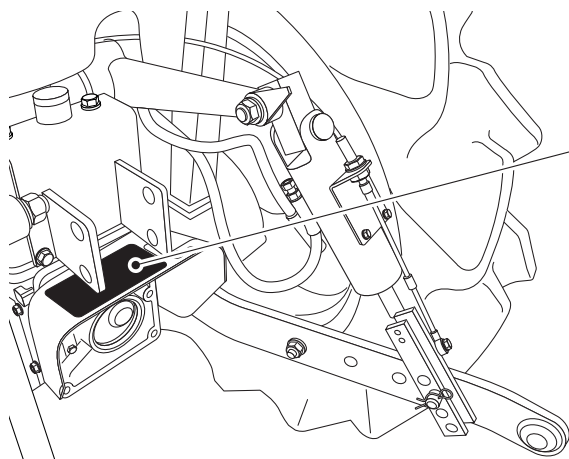
1825-905-007-0
ラベル (ケイコク / シールド)



1668-904-002-1
ラベル (ケイコク / ファン)

RTS0006

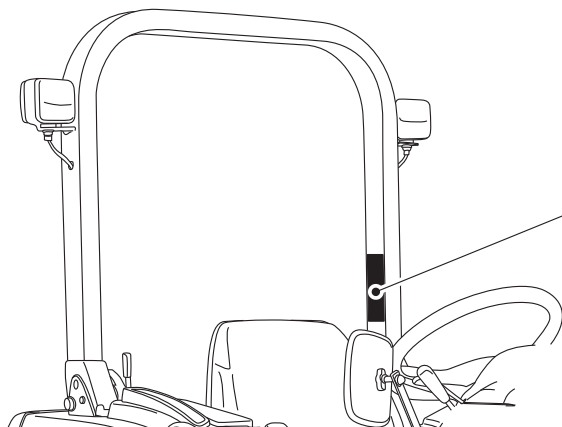
警告



警告	
	- シールドカバーは正しい位置に装着してください。 - 作業機を脱着する場合は、PTOをOFFにしてエンジンを停止して脱着をしてください。 - PTOを使用しないときは、PTOシャフトカバーをしてください。 - トラクターと作業機の人に立つのは危険ですから絶対に入らないでください。
	トラクターの転倒を防ぐため、けん引するときは指定されたヒッチおよびドローバでけん引してください。 1668-904-008-1 3704 574 M2

1668-904-008-1
ラベル(ケイコク/シールド/PTO)

(安全フレーム仕様のみ)

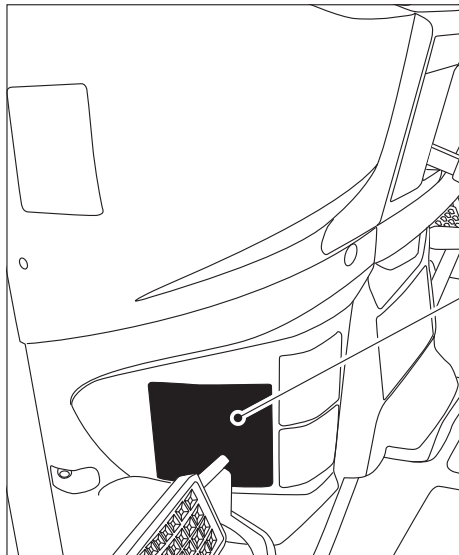


警告	
	- ロブスやキャabinは、正しく装着された状態で運転してください。 - ロブスやキャabinは、改造しないでください。 - ダメージを受けたものは使用しないでください。 - トラクターが転倒するときは、ハンドルをしっかりと握り、席より飛び出さないでください。 - シートベルトは必ず締め、楽な状態に調整してください。 - シートベルトは純正品を御使用ください。 - 可倒式ロブスを倒した時は、シートベルトは締めないでください。
	1668-904-014-2

1668-904-014-2
ラベル(ケイコク/ロブス)

1. 使用上のポイント

⚠ 注意



⚠ 注意

トラクタの運転操作をする前に各部分の取扱説明をよくお読みください

①エンジン始動の前に、トラクタ各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けられていることを確認し、付近にほかの人がいないことを十分確認してください。

②手足、衣服などが回転部分に接近しないように十分にご注意をお願いします。

③駐停車するときは、パーキングブレーキをかけ、作業機を完全におろし、エンジンを停止し、始動キーを抜いてください。

④作業機をトラクタにセットする際は、トラクタの前輪・後輪荷重値を越えないように点検確認してください。

⑤デフロックが自動的に抜けないときには、直ちにクラッチペダルを踏みこんで、トラクタを停止させてください。また、高速走行中はデフロックを使用しないでください。(デフロック付トラクタのみ)

1675-905-001-1

1675-905-001-1
ラベル(チュウイ/ドライブ)

〈G型式以外〉

車速表

適応作業	トラクタ	ロータリ	代かき	モア	ブラウ	走行		
車速 (km/h)	0 1 2 3 5 7 9 11 13 15							
主変速	1	2	3	4	1	2	3	4
副変速	超低速		低速		高速			

1764-905-001-0

⚠ 注意

副変速の高速位置で後進するときは、エンジン回転数を低速回転で行ってください。

1764-905-001-0

1764-905-001-0
ラベル(チュウイ/スピード)

セミクローラ仕様
1764-905-001-0
ラベル(チュウイ/スピード)

〈G型式〉

車速表

適応作業	トラクタ	ロータリ	代かき	モア	ブラウ	走行			
車速 (km/h)	0 1 2 3 5 7 9 11 13 15								
副変速	低速	2	4	6	8	10			
中速	2	4	6	8	10				
高速	2					4	6	8	10

1826-905-051-0

⚠ 注意

エンジン回転数を1500回転以上にして使用して下さい。

副変速は出来るだけ「低速」・「中速」を使用して下さい。

1826-905-051-0

1826-905-051-0
ラベル(チュウイ/スピード/G)

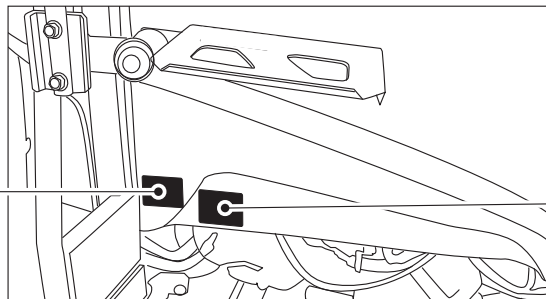
セミクローラ仕様
1826-905-052-0
ラベル(チュウイ/スピード/CG)

⚠ 注意

給油スタンドの上に乗らないで下さい。走行時は折りたたんで固定して下さい。

1729-111-091-0

1729-111-091-0
ラベル(チュウイ/タンク)



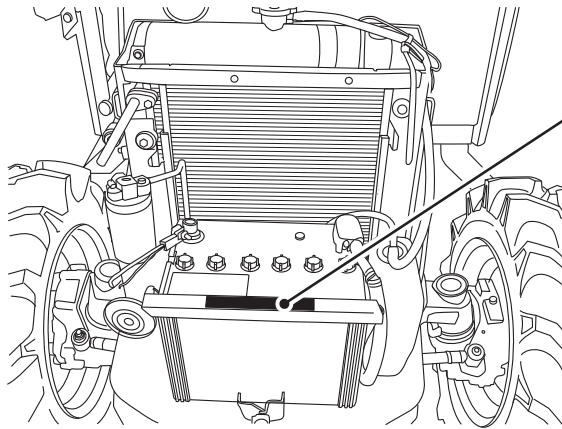
⚠ 注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用して下さい。

1799-903-072-0

1799-903-072-0
ラベル(チュウイ/カバー)

⚠ 注意



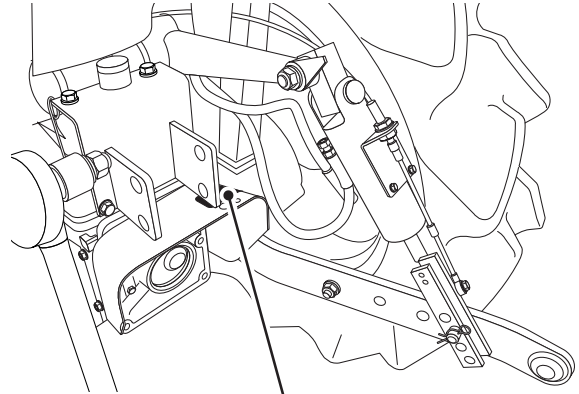
⚠ 注意

バッテリーを外すときは必ず、アース側⊖を先に外してください。

1765-905-006-0

1765-905-006-0

ラベル(チュウイ/バッテリー)



⚠ 注意

道路走行

道路走行のときは、道路運送車両の保安基準を守ってください。
(詳細は、取扱説明書を参照してください。)

点検、整備時

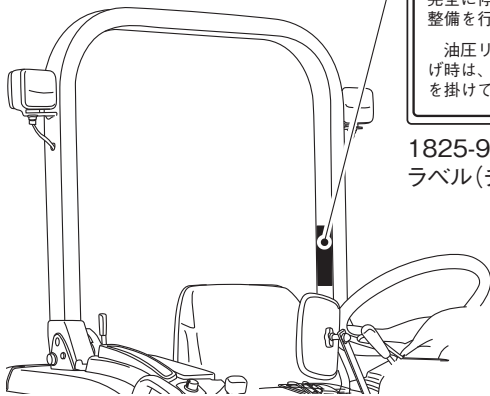
エンジンを停止し、機会が完全に停止した状態で点検、整備を行ってください。

油圧リンクで作業機持ち上げ時は、必ず油圧下降ロックを掛けて作業してください。

1825-902-017-0

1825-902-017-0

ラベル(チュウイ/ソウコウ)



⚠ 注意



カバーの上に乗らないでください。

1690-903-001-0

1690-903-001-0

ラベル(チュウイ/カバー)

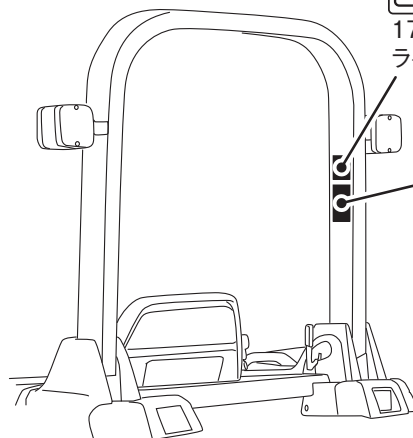
⚠ 注意

道路走行時には必ず低速車マークを装着してください。

1792-903-001-0

1792-903-001-0

ラベル(チュウイ/SMV)



(安全フレーム仕様のみ)

⚠ 注意

可倒式安全フレームの取扱い方法



○路上走行や作業をする時は、①の状態で使用してください。

フレームを倒す時はレバーを後方へ倒し、起こす時はレバーを前方に倒してから、フレームを押して操作してください。操作が終わった時、レバーがフレームと平行になり、フレームが確実に固定されていることを確認してください。

1675-905-004-1

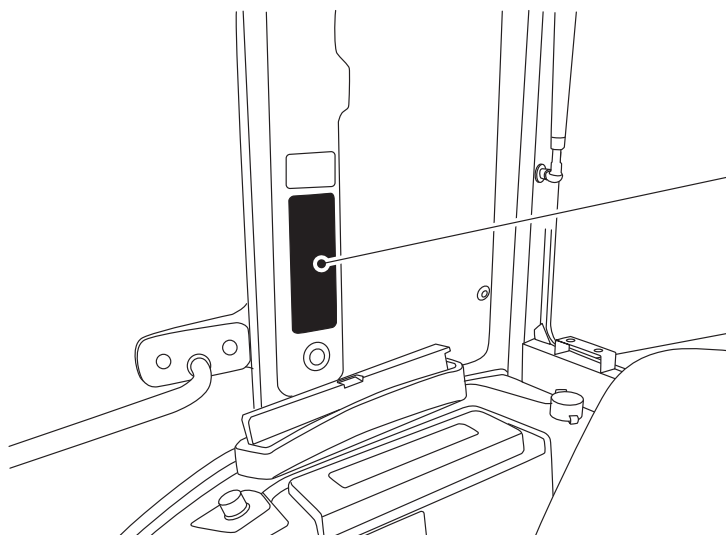
1675-905-004-1

ラベル(チュウイ/SF)

1. 使用上のポイント

⚠ 警告

〈安全キャブ仕様のみ〉



⚠ 警告

1 ロブスやキャabinは、正しく装着された状態で運転してください。

2 ロブスやキャabinは、改造しないでください。

3 ダメージを受けたものは使用しないでください。

4 トラクターが転倒するときは、ハンドルをしっかりにぎり、席より飛び出さないでください。

5 シートベルトは必ず締め、楽な状態に調整してください。

6 シートベルトは純正品を御使用ください。

7 可倒式ロブスを倒した時は、シートベルトは締めないでください。

1668-904-014-2
3704 579 M2

1668-904-014-2
ラベル(ケイコク/ロブス)

⚠ 注意

〈安全キャブ仕様のみ〉

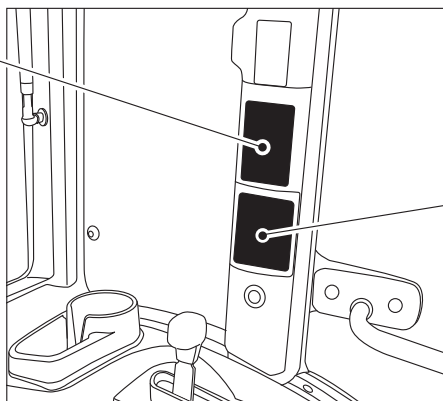
⚠ 注意

道路走行
道路走行のときは、道路運送車両の保安基準を守ってください。
(詳細は、取扱説明書を参照してください。)

点検、整備時
エンジンを停止し、機械が完全に停止した状態で点検、整備を行ってください。
油圧リンクで作業機持ち上げ時は、必ず油圧下降ロックを掛けて作業してください。

1825-902-017-0

1825-902-017-0
ラベル(チュウイ/ソウコウ)



〈G型式以外〉

車速表

作業	トラクタ	ロータリ	代かき	モア	プラウ	走行						
速度	0	1	2	3	5	7	9	11	13	15		
副変速	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
副変速	超低速 低速 高速											

⚠ 注意
副変速の「高速」位置で後進するときは、エンジン回転を低速回転で行ってください。

1766-905-002-0

1766-905-002-0
ラベル(チュウイ/スピード/CY)
セミクローラ仕様
1766-905-004-0
ラベル(チュウイ/スピード/CCY)

〈G型式〉

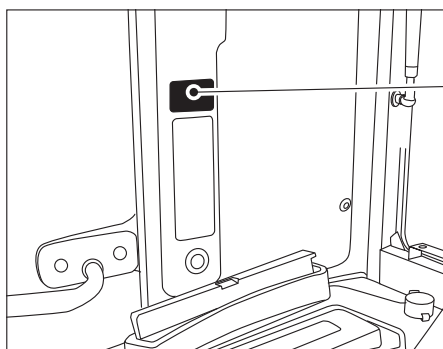
車速表

作業	トラクタ	ロータリ	代かき	モア	プラウ	走行					
速度	0	1	2	3	4	5	7	9	12	15	
副変速	2 4 6 8 10										
副変速	2 4 6 8 10										
副変速	2 4 6 8 10										

⚠ 注意
エンジン回転数を 1500 回転以上にして使用してください。
副変速は出来るだけ「低速」・「中速」を使用してください。

1829-905-051-0

1829-905-051-0
ラベル(チュウイ/スピード/GCY)
セミクローラ仕様
1766-905-052-0
ラベル(チュウイ/スピード/CGCY)



⚠ 注意
道路走行時には必ず低速車マークを装着してください。

1792-903-001-0

1792-903-001-0
ラベル(チュウイ/SMV)

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

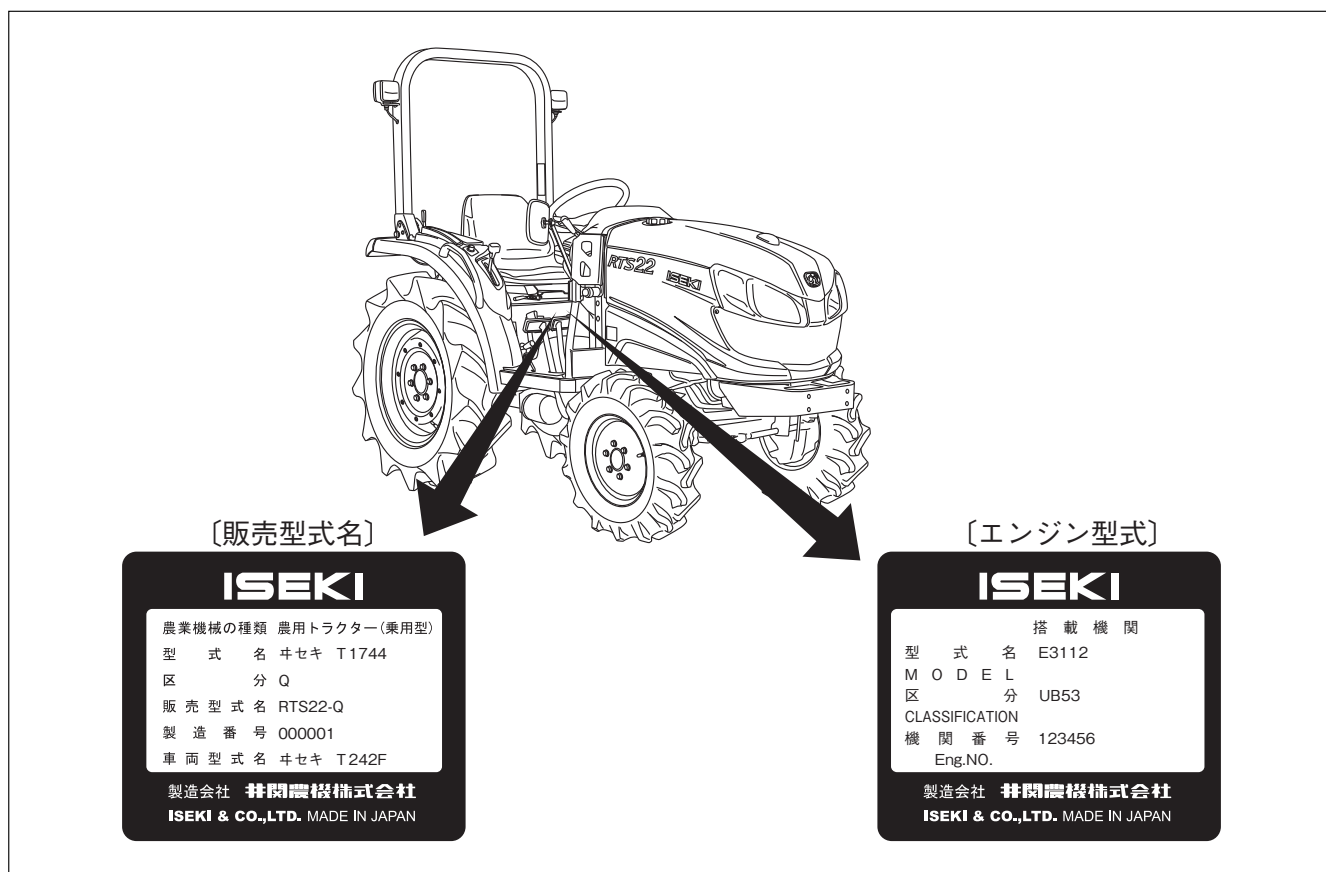
この商品には、キセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際は、

- (1) 販売型式名と製造番号
 - (2) エンジン型式とエンジン機関番号
- をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



RTS0001

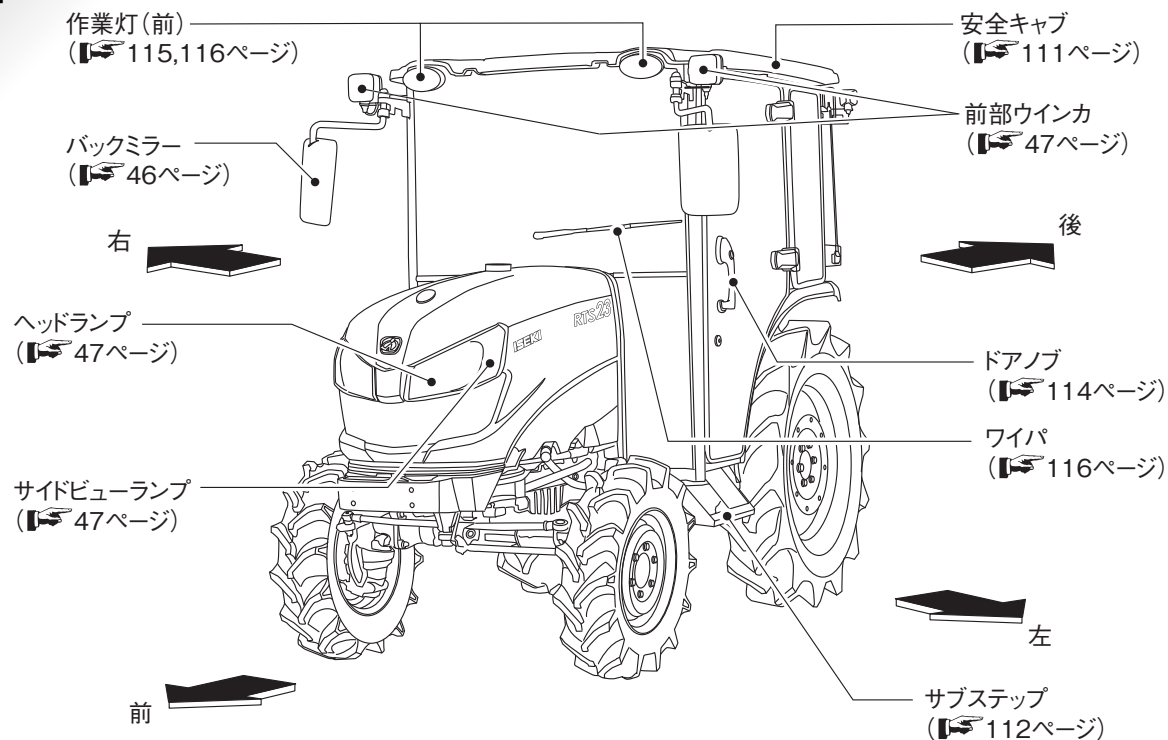
2.4 補修用部品の供給年限について

- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称

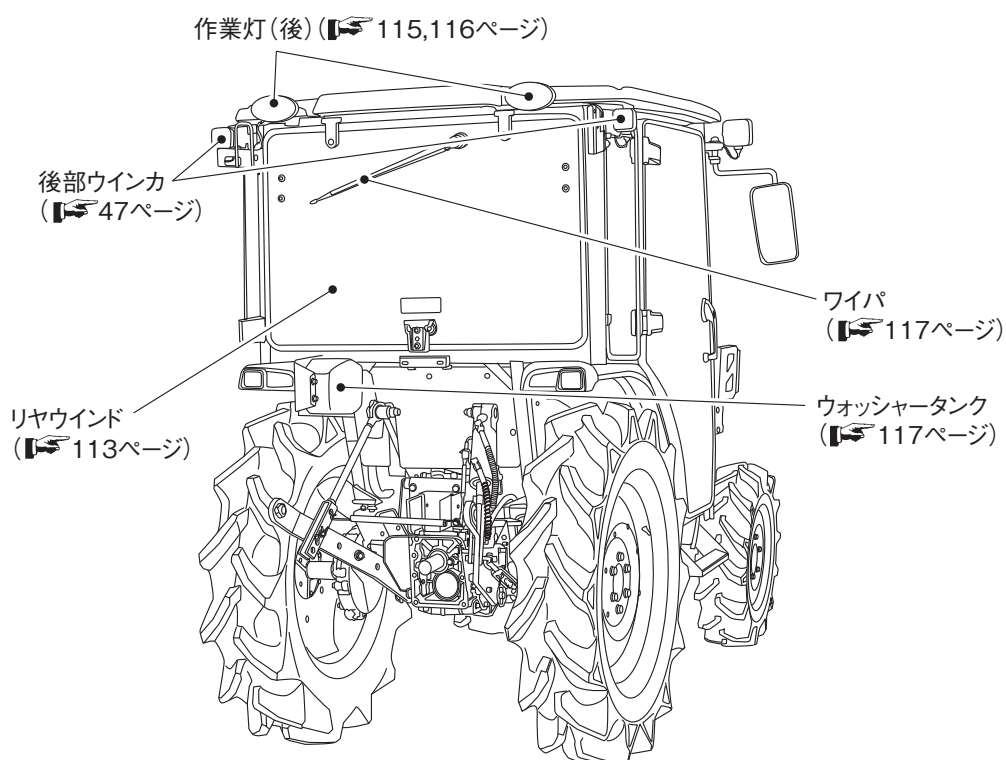
3.1 全体（安全キャブ仕様）

■全体



RTS0015B

■後面

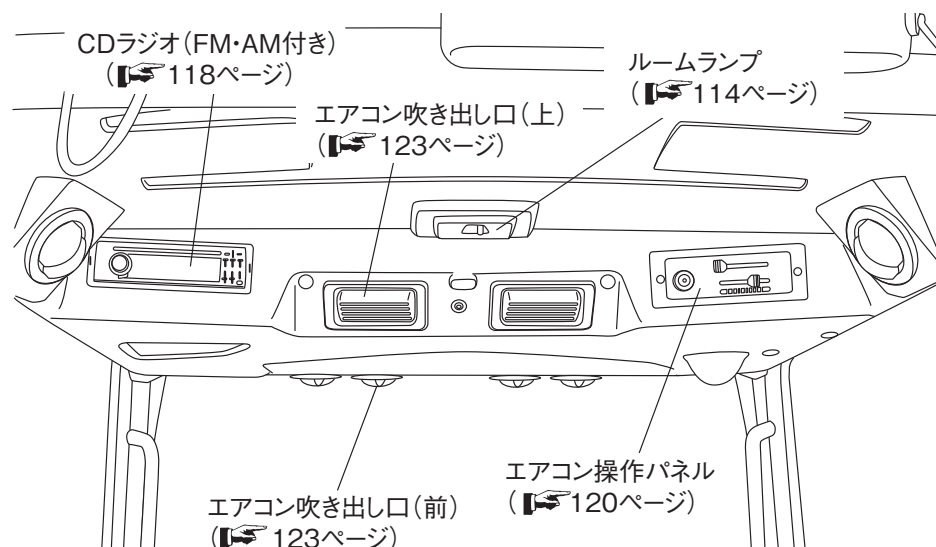


RTS0016B

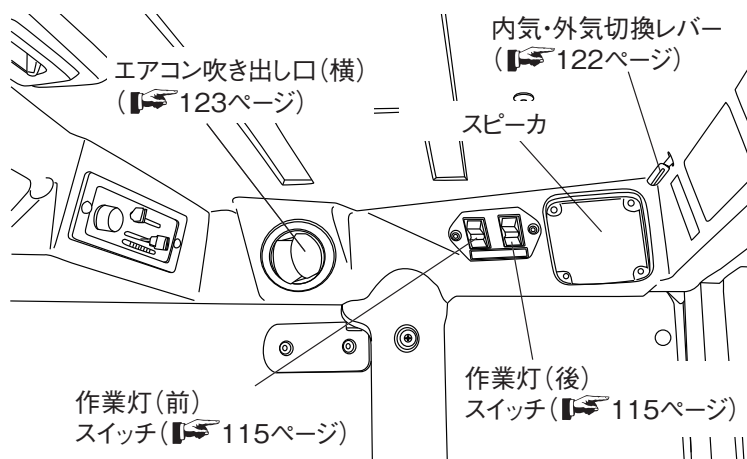
3. 各部の名称

■安全キャブ内部

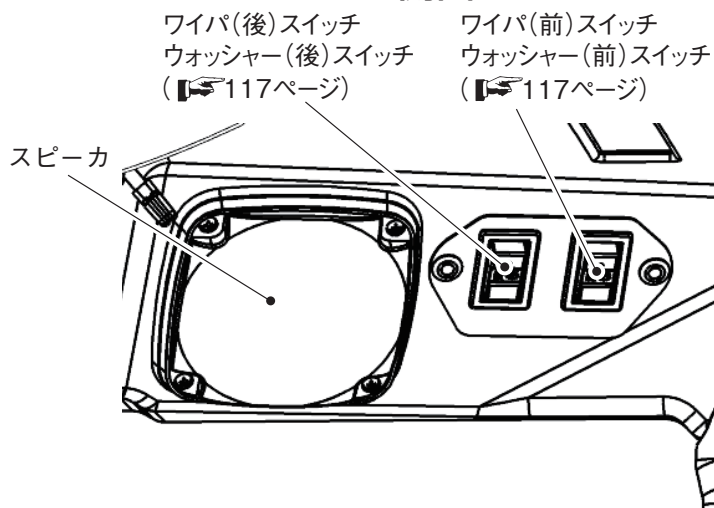
前方



右側面

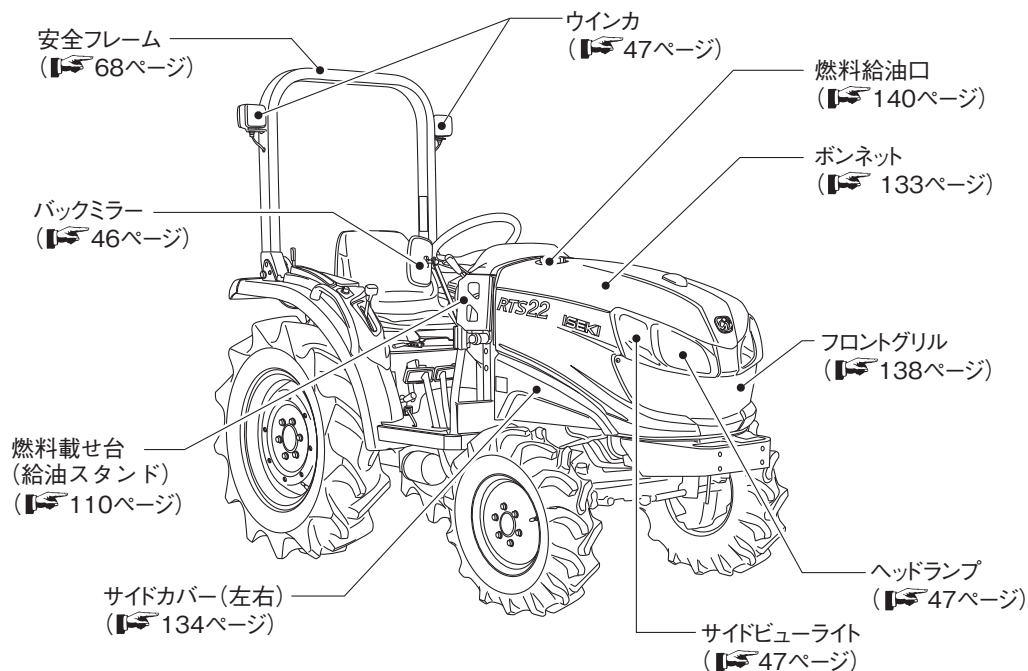


左側面



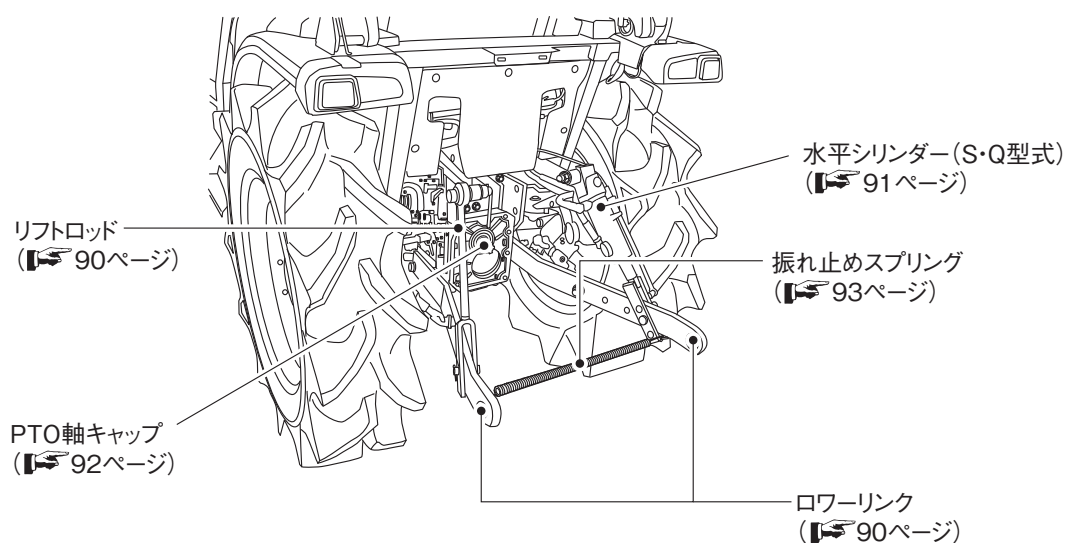
RTS0017B

3.2 全体（安全フレーム仕様）



RTS0018

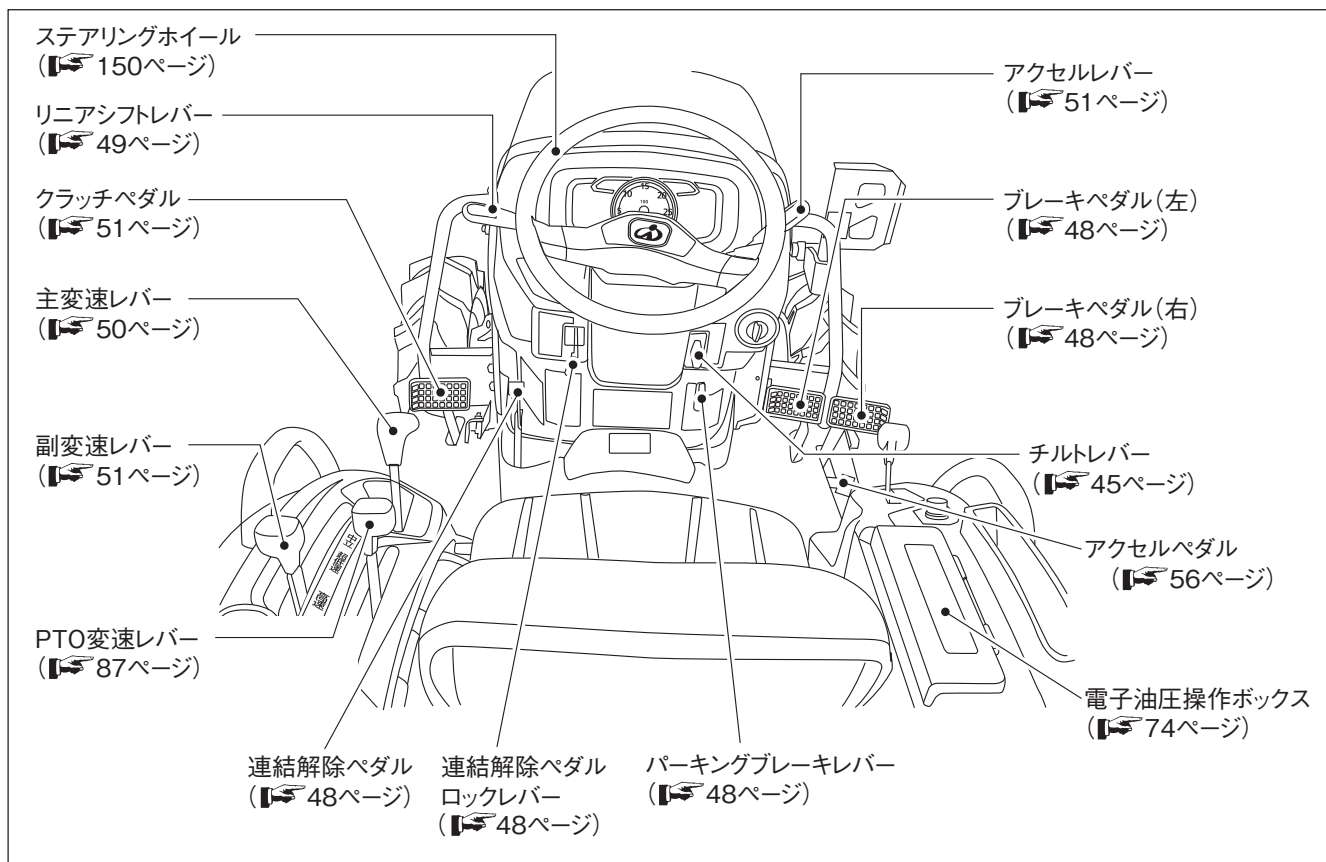
3.3 3点リンク



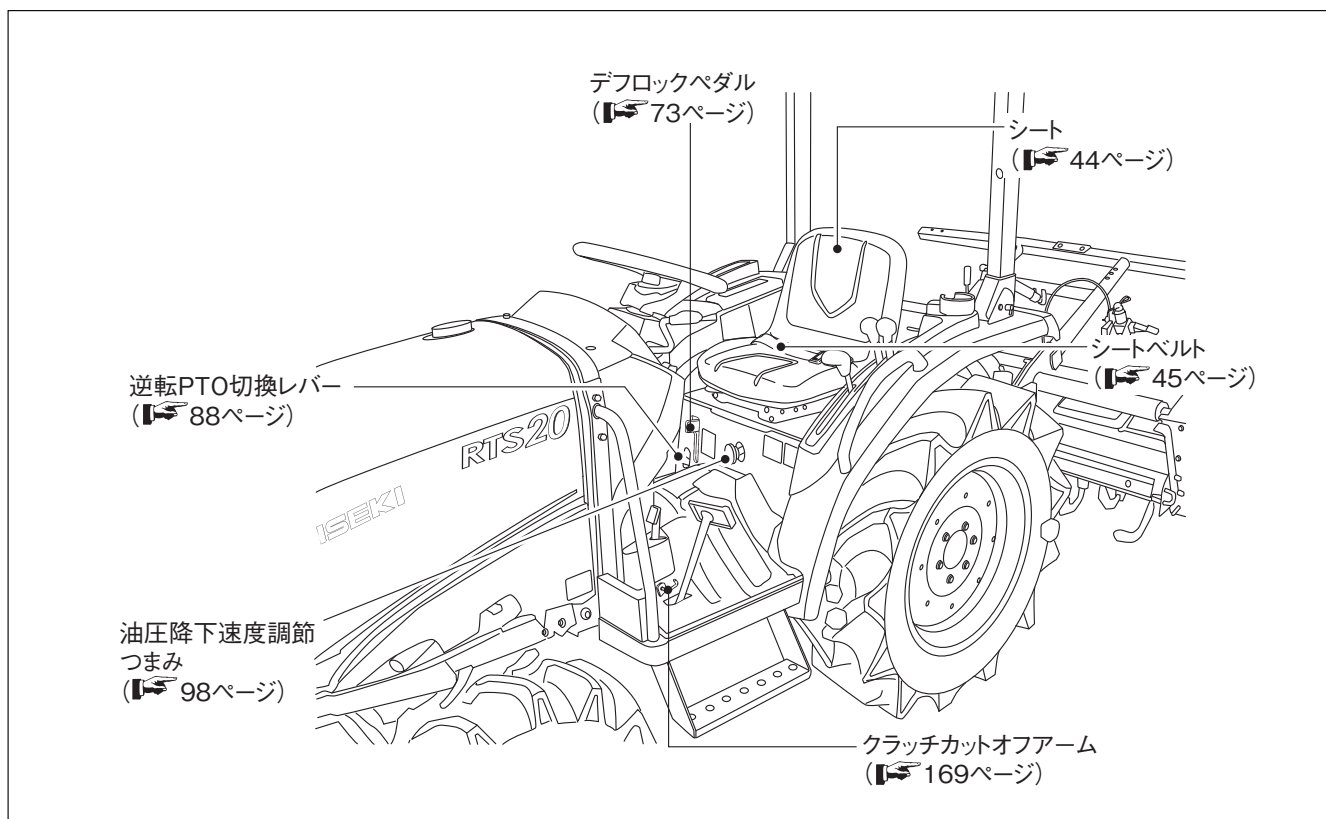
RTS0019

3. 各部の名称

3.4 レバー・ペダル関係

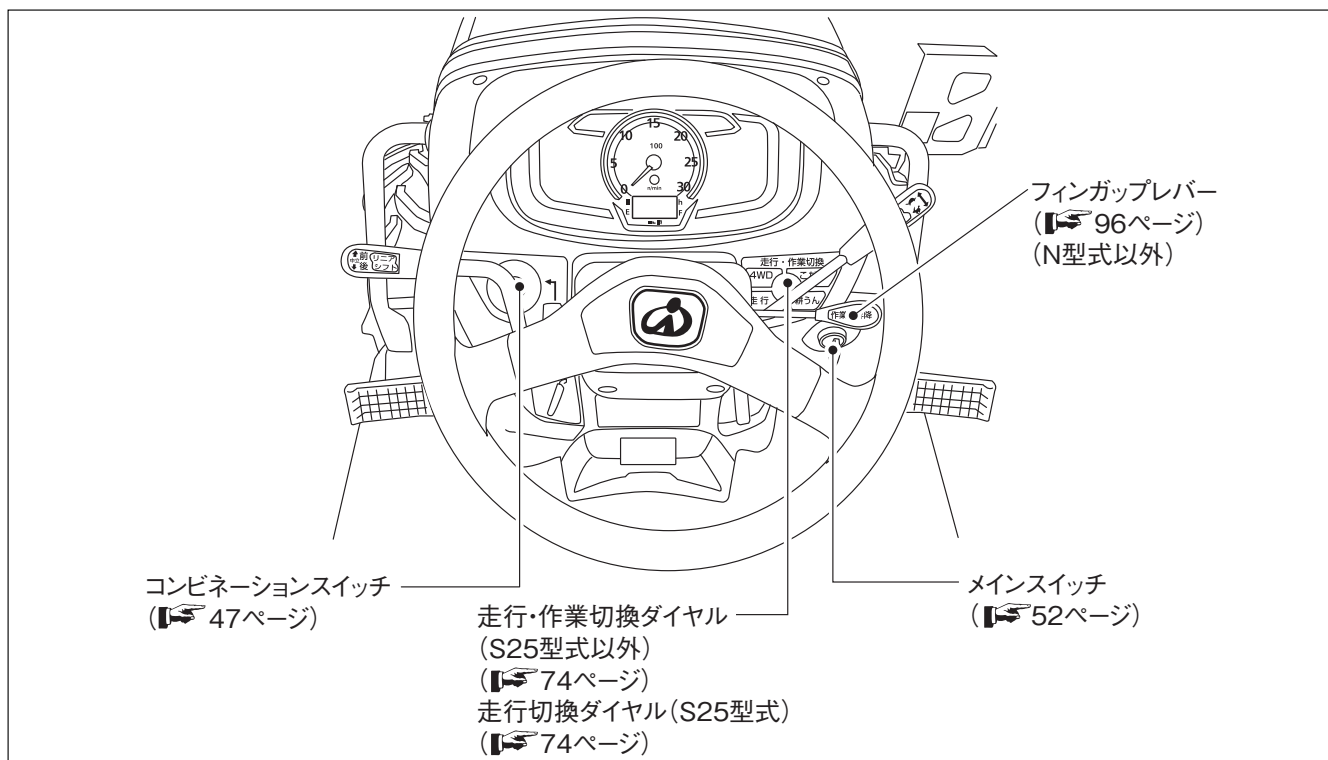


RTS0020



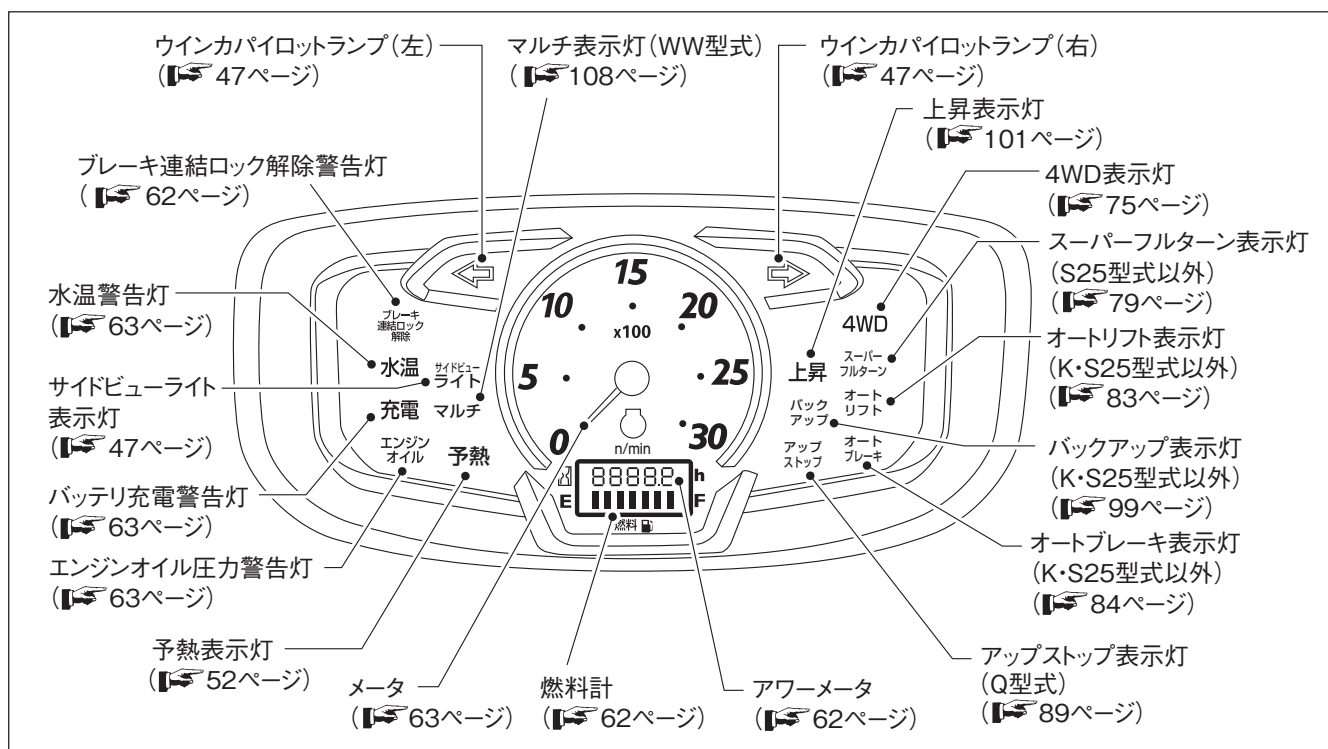
RTS0021

3.5 スイッチ関係



RTS0022B

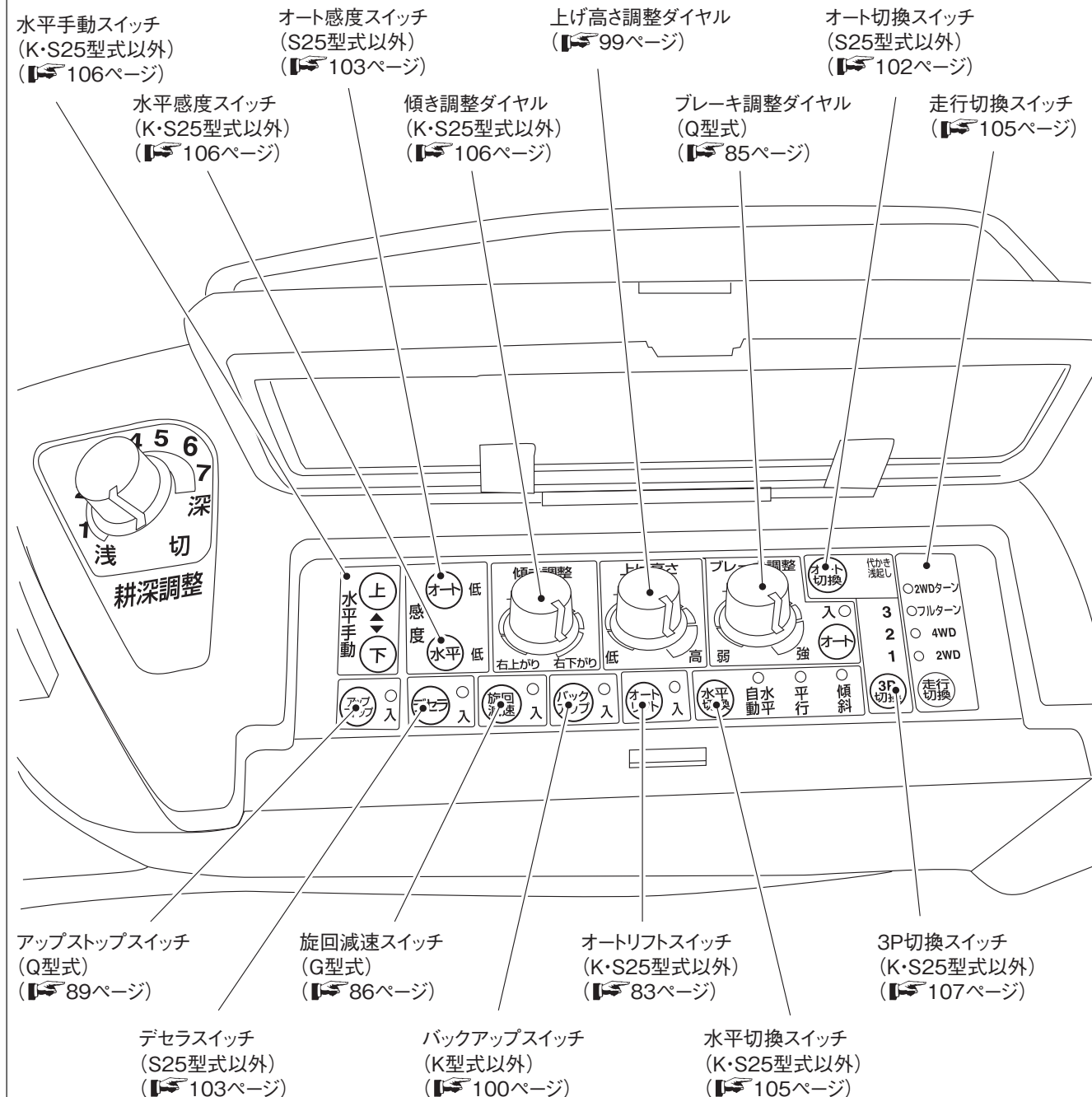
3.6 メータパネル



RTS0023B

3. 各部の名称

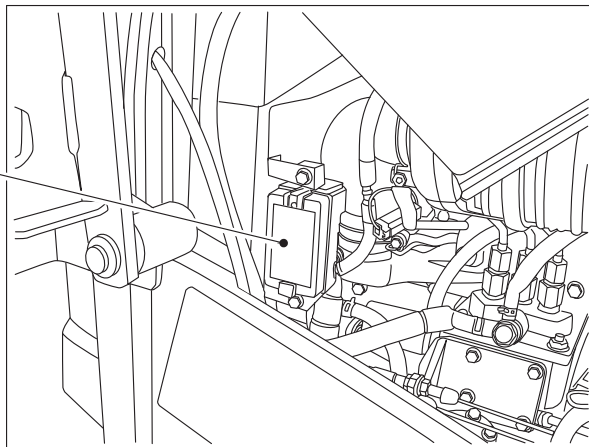
3.7 電子油圧操作ボックス



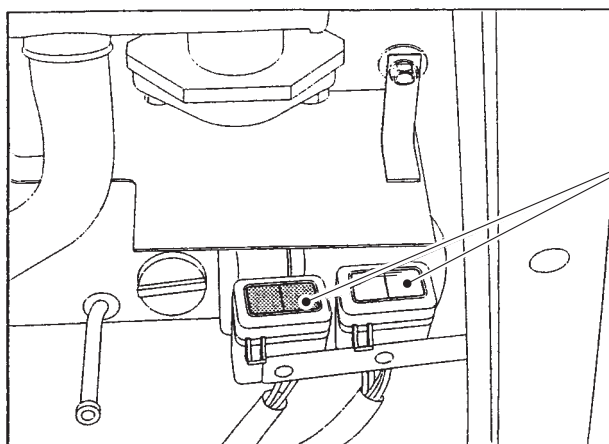
RTS0256

3.8 メンテナンス関係

ヒューズボックス
( 154ページ)



スローブローヒューズ
( 154, 160ページ)



ヒューズボックス
( 160ページ)
※安全キャブ仕様のみ、カバー内側



RTS0024

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険



燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※ 守らないと、火災の原因になります。



燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※ 守らないと、火災等を引き起こすことがあります。

⚠ 警告



必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 運転席に座る前に

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	—
警告ラベルの点検	・はがれ、破損等はありませんか	・新しいものに貼り替えてください。	23,24, 25,26,29
タイヤ	・空気圧は適正ですか ・摩耗、損傷はありませんか	・補充してください ・交換は「お買いあげ先」に相談してください	151,152
油漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
水漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
エンジンオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください キセキスーパーマルチエンジンオイル（10W-30 SH/CF）	135, 183,184
ミッションケースのオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください キセキU・T・Hオイル	145
冷却水	・ラジエータキャップを外し、口元まで冷却水がありますか	・補給してください	138, 183,184
ファンベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	142
エアコン用ベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	157

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
エアコン コンデンサ	・ 防虫網が目づまりしていませんか ・ コンデンサフィンが目づまりしていませんか	・ 網目を清掃してください ・ コンデンサフィンを水道水で清掃してください	157
エアクリーナ	・ バキューエータバルブにゴミはたまっていませんか	・ バキューエータバルブをつまんでゴミを落としてください	136
燃料キャップ	・ ゆるんでいませんか	・ 確実に締め付けます	140
燃料フィルタ	・ 水や沈殿物がたまっていませんか	・ カップを洗浄してください	141
車体各部	・ 損傷がありませんか	・ ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	—
ボルト・ナット	・ ゆるみはありませんか	・ 締め付けてください	—
作業機取付ピン	・ 脱落していませんか	・ 装着してください	—
各ランプ類	・ 損傷がありませんか	・ ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	—
ラジエータ	・ 防虫網が目詰まりしていませんか ・ ラジエータフィンは目詰まりしていませんか	・ 網面を清掃してください ・ ラジエータフィンを水道水で清掃してください	139
標識（ナンバープレート） 反射器	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買いあげ先」に相談してください	—

4.2 運転席に座って

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
ブレーキペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	149
クラッチペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	149
パーキングブレーキ	・ 作動は正常ですか	・ 正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	150
バックミラー	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買いあげ先」に相談してください	—

4. 作業前点検

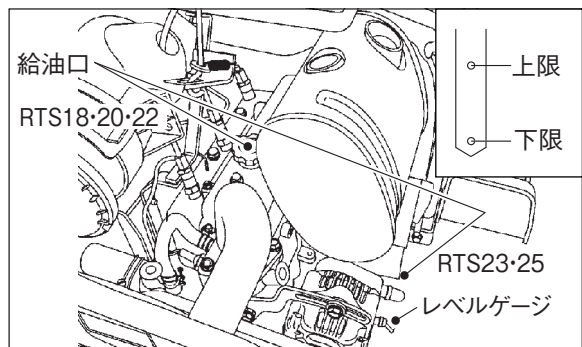
4.3 メインスイッチを「運転」に入れて

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
燃料計	・ 作動は正常ですか ・ 燃料は十分入っていますか	・ 正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください ・ 給油してください	62
各ランプ類 モニタランプ	・ 汚れはありませんか ・ 点灯しますか	・ 清掃してください ・ 点灯しない場合は「お買いあげ先」に相談してください	37
メータ類	・ 作動は正常ですか	・ 正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	37
ホーン	・ 鳴りますか	・ 鳴らない場合は「お買いあげ先」に相談してください	47

4.4 エンジンを始動して、徐行しながら

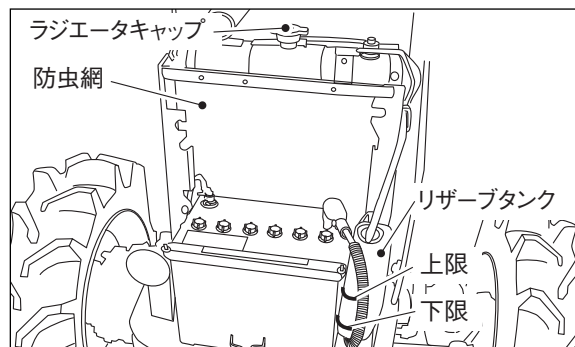
点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
バッテリー充電 警告灯 エンジンオイル 圧力警告灯	・ エンジン始動後、消灯しますか	・ 消灯しない場合は「お買いあげ先」に相談してください	52
排気ガス	・ 色は薄青色ですか ・ 白煙や黒煙を吐きませんか ・ 異常な音はしませんか	・ 白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買いあげ先」に相談してください	—
ブレーキ	・ 効きは悪くありませんか ・ 片効きしませんか	・ 「お買いあげ先」に相談してください	149
ステアリングホイール（ハンドル）	・ 操作力が重くありませんか ・ 振れや取られがありませんか ・ 遊びが多くありませんか	・ 「お買いあげ先」に相談してください	150

〈エンジンオイル〉(135ページ)



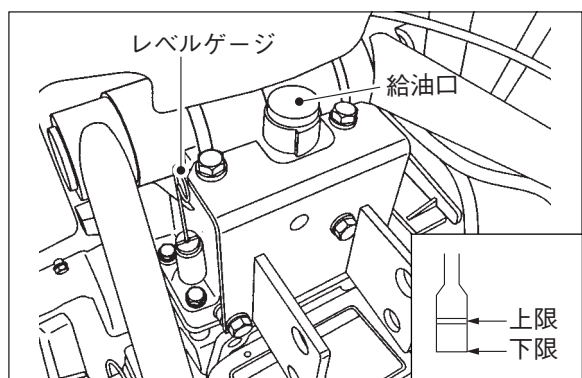
RTS0025

〈冷却水、ラジエータ〉(138,139ページ)



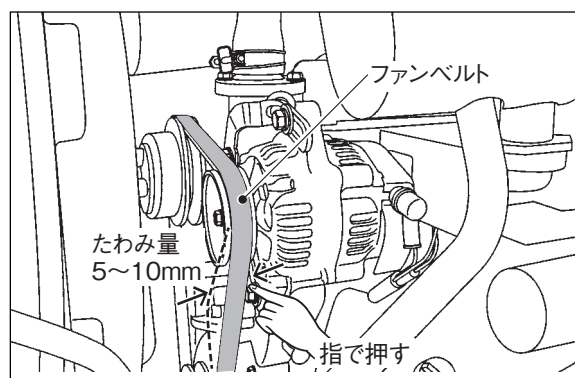
RTS3310B

〈ミッションケースのオイル〉(145ページ)



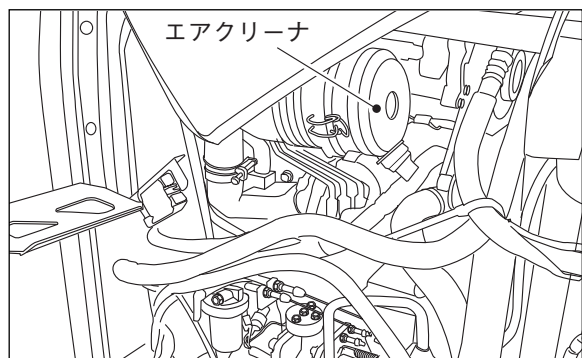
RTS0027

〈ファンベルト〉(142ページ)



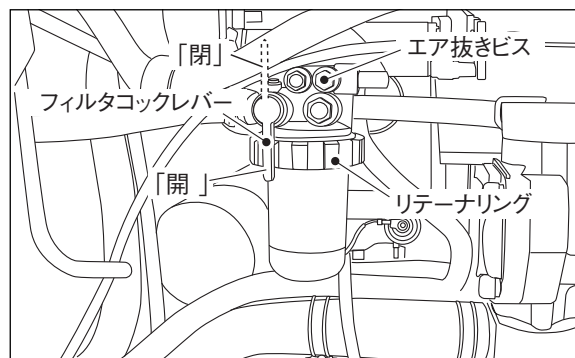
RTS0028

〈エアクリーナ〉(136ページ)



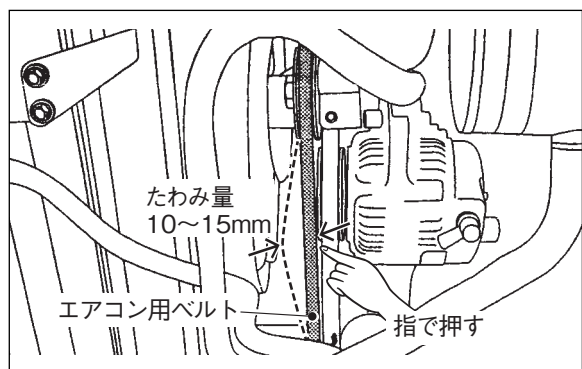
RTS0029

〈燃料フィルタ〉(141ページ)



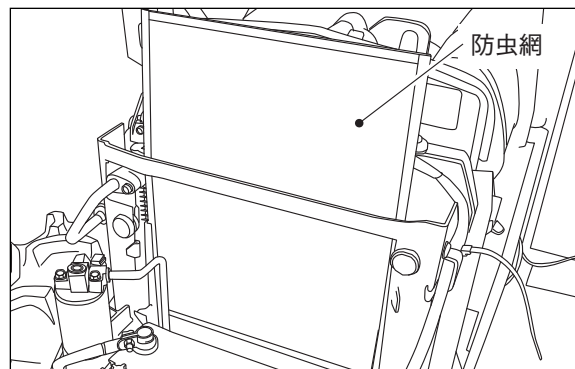
RTS0030B

〈エアコン用ベルト (安全キャブ仕様)〉(157ページ)



RTS0031

〈エアコンコンデンサ (安全キャブ仕様)〉(157ページ)



RTS3337

5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備

正しい運転姿勢になるよう、シート位置、シートベルト位置、バックミラー位置を調節してください。

⚠ 警告



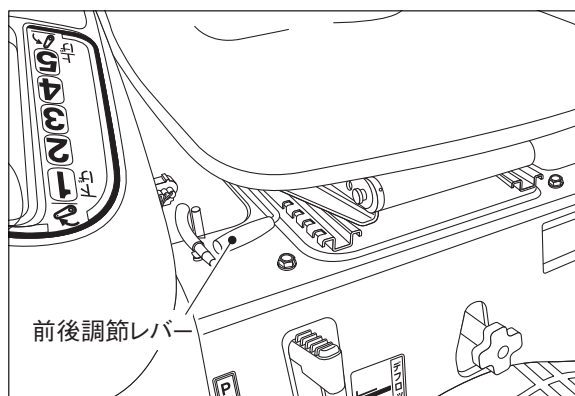
調節はエンジンを始動する前に行ってください。

※ 走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.1.1 シート

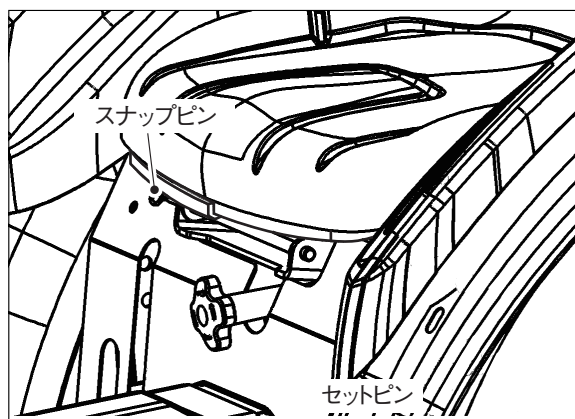
N型式以外

- (1) シート下にあるシート前後調節レバーを「上方に引く」とシートは前後に調節できます。
- (2) 調節後は、レバーがロック位置でロックされていることを確認してください。



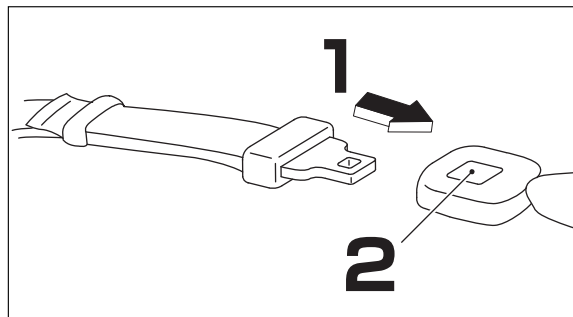
N型式

- (1) シートを支持しているセットピンの取付位置により、シートは前後に調節できます。
- (2) 調節後は、セットピンをスナップピンで確実に抜け止めされていることを確認してください。

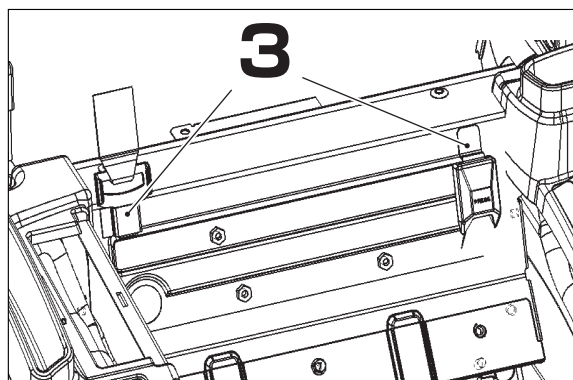


5.1.2 シートベルト

- 1 ベルトがねじれていないことを確認し、ベルトを金具に押し込み装着します。
- 2 ベルトを外すときは、金具の中央の部分を押ししてください。
- 3 外したベルトは、シート後部のホルダに収納してください。



RTS0034

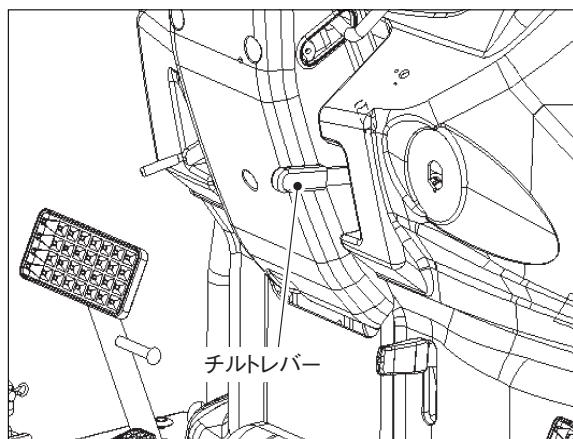


RTS0035

5.1.3 チルトの調節（N型式以外）

運転姿勢に合せて、ステアリングホイール（ハンドル）の向きを3段階に調節できます。

- 1 ステアリングホイール（ハンドル）を手で持ち、チルトレバーを下に下げた状態で位置を調整します。
- 2 チルトレバーから手を離すと、ステアリングホイール（ハンドル）の向きが固定できます。
- 3 調整後、チルトレバーが確実に元の位置に戻っていることを確認してください。



RTS0036

5.1.4 バックミラー

⚠ 注意



狭い場所での走行や、トラクタを格納するときにはバックミラーを接触させないように注意してください。

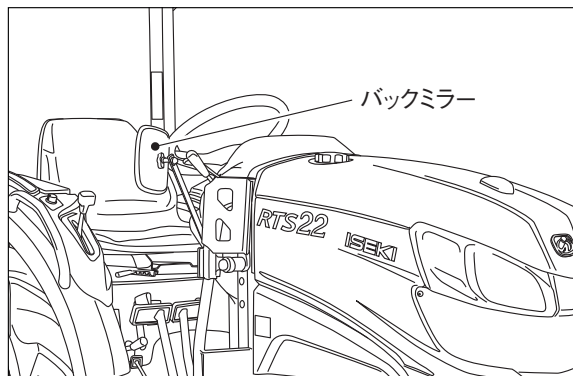
※ バックミラーは車体より側方へ張り出しているため、思わぬ事故を起こすことがあります。



道路走行時は、バックミラーを格納したままで運転しないでください。

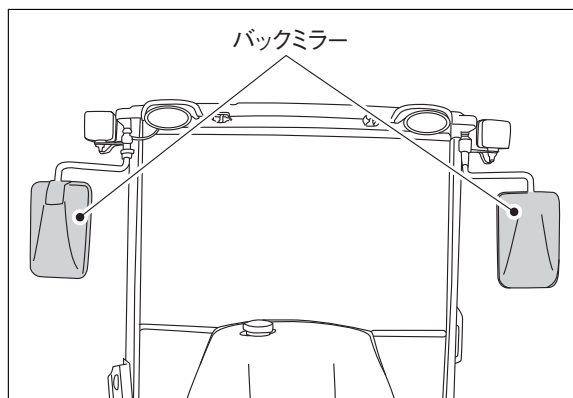
※ 走行中、後方の確認ができないため思わぬ事故を起こすことがあります。

- (1) バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。



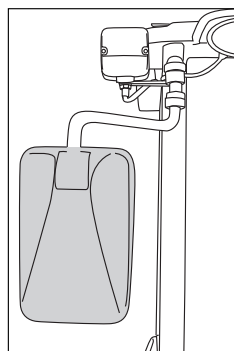
RTS0037

- (2) 安全キャブ仕様のバックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
バックミラーは、格納できますので、狭い場所などで利用してください。



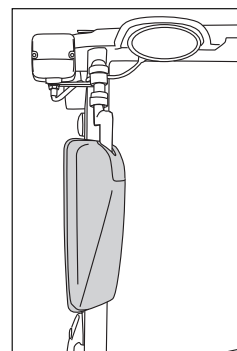
RTS0038

使 用 時



RTS0039

格 納 時



RTS0040

5.1.5 コンビネーションスイッチ

■ライティングスイッチ

- …… ヘッドランプ消灯位置です。
-  …… ヘッドランプ点灯位置です。
-  …… ヘッドランプとサイドビューライト点灯位置です。
このとき、サイドビューライトの表示灯も点灯します。



RTS0041

⚠ 注意



道路走行中、サイドビューライトは必ず消灯してください。

※ サイドビューライトを点灯したまま道路を走行することは、他の交通車両の妨害となることから禁止されております。

■ウインカスイッチ

- (1) スイッチを操作すると、ウインカランプおよびメータパネル内のウインカパイロットランプが点滅します。
- (2) 右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻してください。

補 足

- ウインカパイロットランプが、異常に速く点滅するときは、ウインカランプの球切れが考えられます。
すべてのウインカランプが点滅するか確認してください。

■ホーンボタン

メインスイッチを「運転」の位置にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

5. 運転のしかた

5.2 エンジン始動のしかた

⚠ 警告



エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、すべての変速レバーやその他のレバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 守らないと、急発進することがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、必ずPTO変速・リニアシフトレバー・副変速レバーを中立にしてください。

※ 変速したままエンジンを始動すると、不意にトラクタ本体が動いたりPTO軸が回転し、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

※ 換気が不十分な場合、排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意



パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

※ かけたまま走行するとブレーキを傷めます。

- 1 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、連結解除ペダルが収納されて左右のブレーキペダルが連結されているか確認してください。

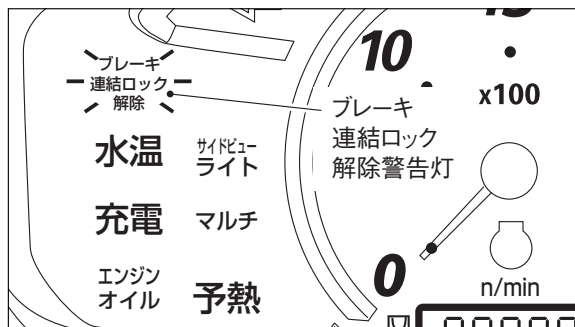
- 2 ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、パーキングブレーキレバーを矢印方向に「下げ」たままブレーキペダルをはなすとパーキングブレーキがかかります。

補足

- ブレーキペダルを強く踏むと、パーキングブレーキは自動的に解除されます。
- 連結解除ペダルロックレバーが「ほ場（解除）」位置のときはブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。
- 連結解除ペダルロックレバーが「道路走行（ロック）」位置にないときはパーキングブレーキレバーが押し下げられません。

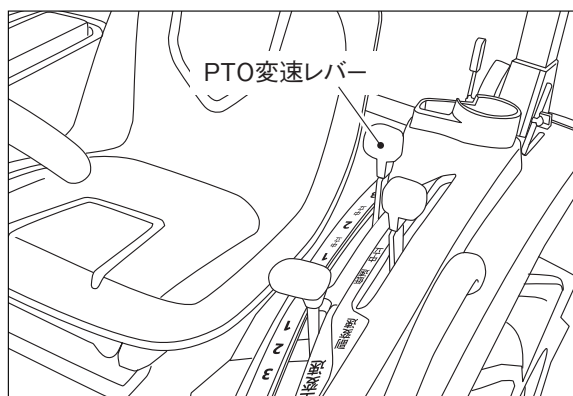


RTS0042



RTS0043

3 PTO変速レバーを「中立」にします。



RTS0045

4 リニアシフトレバーを「中立」にします。

G型式以外

補 足

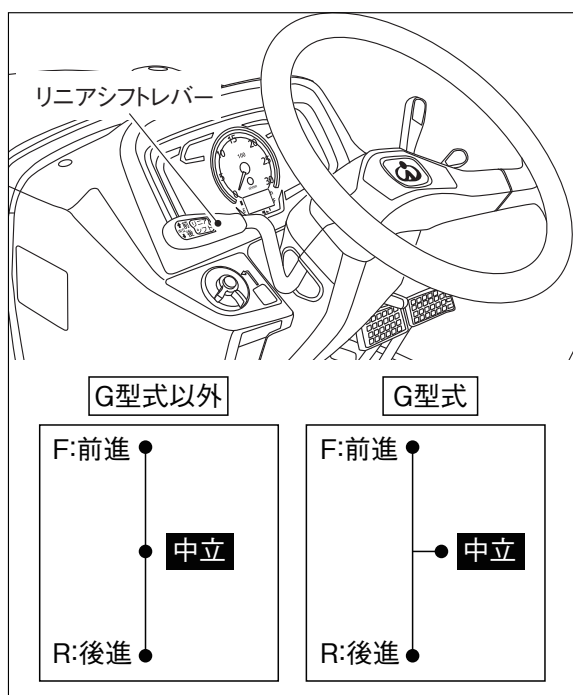
- リニアシフトレバーは、前進・後進シフトを行うレバーです。
走行しない場合は「中立」にしてください。

G型式

リニアシフトレバーを「中立」にします。

補 足

- リニアシフトレバーは、前進・後進シフトを行うレバーです。
変速する場合は、レバーを持ち上げてから水平方向に動かしてください。
G型式は「中立」位置以外ではエンジン始動しません。
走行しない場合は「中立」にしてください。



RTS0046B

⚠ 警告



リニアシフトレバーを前進または後進に入れたままエンジンを停止した後、メインキーを「入」にするとブザーが鳴ることがあります。これは前後進させるための油圧シリンダが中立に戻っていないための警告ブザーです。エンジン始動後自動的にシリンダが中立に戻り、ブザーが止まるまではクラッチペダルを踏み込んだままにしてください。
平地でリニアシフトレバーを「中立」にしてもトラクタが動く又はリニアシフトレバーを操作した時、連続ブザー音が鳴る場合は、直ちに使用を中止し、「お買いあげ先」または、「サセキ販売店」にて修理を受けてください。

※ 守らないと、車体が動いて衝突事故を引き起こす原因となります。

5. 運転のしかた

5 主変速レバーが任意の変速位置に確実に入っていることを確認してください。

G型式以外

補 足

- 主変速レバーは「1速」「2速」「3速」「4速」の4段変速が出来ます。
リニアシフトレバー、副変速レバーとの組み合わせにより、前後進12段の変速が出来ます。



RTS0047

G型式

補 足

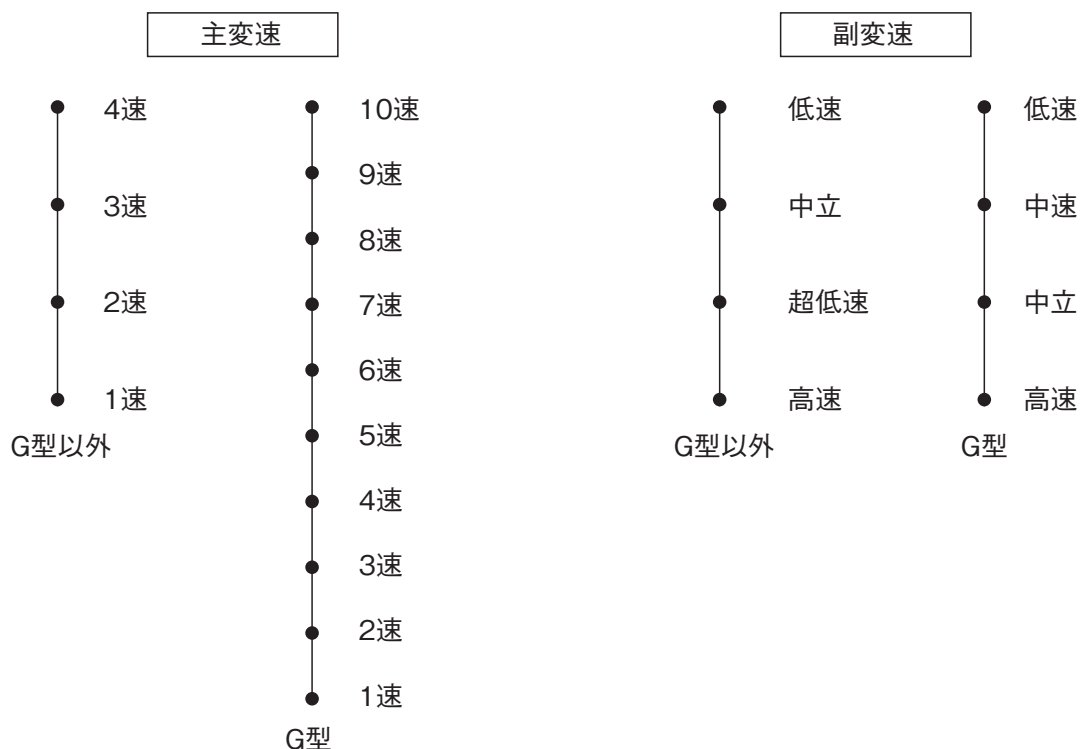
- 主変速レバーは10段ノークラッチ変速ができます。
リニアシフトレバー、副変速レバーとの組み合わせにより、前後進30段の変速が出来ます。

警告



走行（作業）状態で主変速レバーを操作した時、連続ブザー音が鳴った場合は、直ちに機械を停止してください。

※ 守らないと、車体が予想外に動いて衝突事故を引き起こす原因となります。



6 副変速レバーを「中立」にします。

G型式以外

補 足

- 副変速レバーは「超低速」「低速」「高速」の3段の変速が出来ます。

G型式

副変速レバーを「中立」にします。

補 足

- 副変速レバーは「低速」「中速」「高速」の3段の変速が出来ます。



RTS0048

注 意



リニアシフト・主変速・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから操作してください。G型式のみリニアシフト・主変速レバーは走行中にクラッチペダルを踏まずに操作できます。

※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。(G型式のリニアシフト。主変速レバーを除く)

警告



G型式はクラッチペダルを踏まずにリニアシフトの操作ができますが、クラッチペダルを踏んで操作する場合は一杯まで踏み込んで操作してください。

※ クラッチペダルを踏み込み途中（半クラッチ）でリニアシフトを操作しペダルを離すと車体が一瞬、反対方向に動き、その後切り換わり大変危険です。

7 アクセルレバーを「中程」まで引きます。

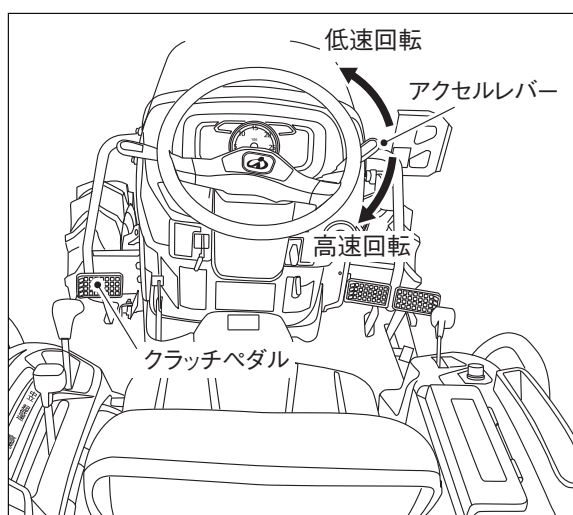
補 足

- アクセルレバーはエンジンの回転数を制御するレバーです。手前に引くと高速回転になり、前方に押し低速回転になります。

8 クラッチペダルを踏み込み、クラッチを「切」にします。

補 足

- クラッチペダルは、踏み込むとクラッチが切れ、足を離すとクラッチがつながります。
- クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。
- クラッチペダルは切るときは速く、つなぐときはゆっくりと操作してください。



RTS0049

注 意



作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ 半クラッチ状態となり寿命が短くなります。

5. 運転のしかた

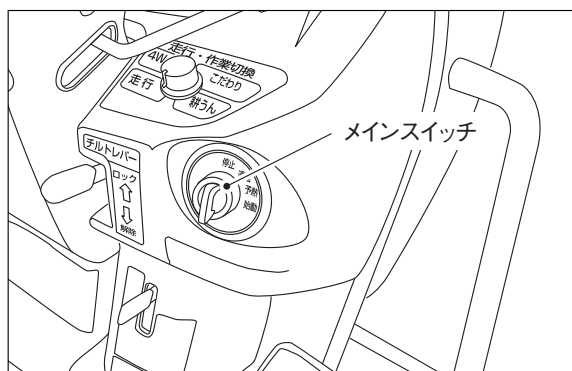
- 9** メインスイッチにキーを差し込み、「運転」の位置に回します。(イラストは安全フレーム仕様)

注意



メインスイッチを「運転」の位置、安全キャブ仕様は「ACC」の位置で長時間放置しないでください。

※ バッテリー上がりの原因となります。



RTS0050

- (1) このときモニタランプのエンジンオイル圧力警告灯およびバッテリー充電警告灯が点灯していることを確認してください。(37ページ)

- (2) メインスイッチは次の位置があります。

・安全キャブ仕様

停止 …………… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。

ACC …………… エンジンが停止中、CDラジオが使用できます。

運転・予熱 …… 自動的に予熱します。およびエンジン回転中の位置です。

始動 …………… エンジンを始動する位置です。手を離すと自動的に「運転・予熱」位置に戻ります。

・安全フレーム仕様

停止 …………… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。

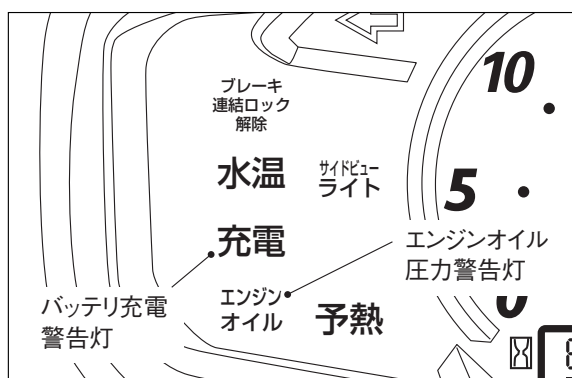
運転 …………… エンジン回転中の位置です。

予熱 …………… 予熱位置です。5秒間保持した後、「始動」してください。

始動 …………… エンジンを始動する位置です。

手を離すと自動的に「運転」位置に戻ります。

- 10** キーを「始動」の位置に回します。
エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチを「運転」の位置に戻してください。
エンジン始動後、エンジンオイル圧力警告灯、バッテリー充電警告灯が消灯していることを確認してください。



RTS0051

注意



エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。

※ スタータの破損の原因となります。



スタータの作動は1回10秒程度とし、エンジンが始動しないときは10秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。

※ 連続してスタータを作動させると、バッテリーが放電し寿命が短くなります。

- 11** クラッチペダルからゆっくり足を離し、エンジン中速回転（約1500 rpm）で十分に暖機運転を行ってください。
気温により右表程度の時間、暖機運転を行ってください。

気温	暖機運転時間
0℃以上	5～10分
0℃～-10℃	10～20分
-10℃～-20℃	20～30分
-20℃以下	30分以上

警告



暖機運転中は必ずパーキングブレーキをかけてください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



換気が不十分な場所では、暖機運転をしないでください。

※ 排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意



走行・作業前には必ず、暖機運転を行ってください。

※ 守らないと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼き付き、および油圧系の故障の原因となります。

補 足

- 本トラクタの油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時はオイルの粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸い込みにくくなることがあります。また、油圧系より音が発生することがありますので暖機運転は必ず行ってください。
- 上記の現象はオイルの温度上昇と共に解消しますので、異常ではありません。

5.3 エンジン停止のしかた

⚠ 警告



エンジン停止時は、パーキングブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、事故の原因となります。



エンジン停止のため、エンジン周辺部にふれる場合は注意してください。

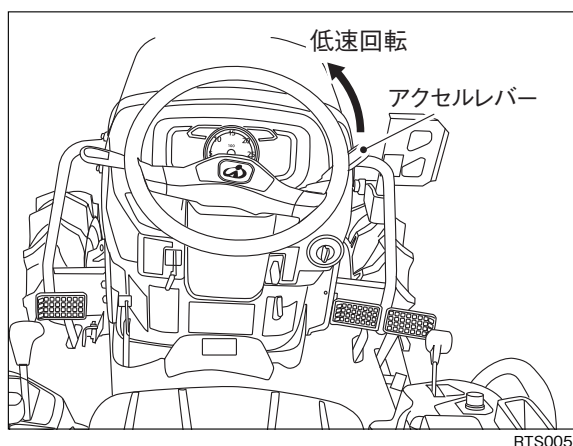
※ エンジン周辺部は高温のため、やけどをするおそれがあります。

- 1** アクセルレバーを前方にいっぱい押し、エンジンを低速回転にします。

補足

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間ほど無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。
- G型式は、エンジン停止時は必ずリニアシフトレバーを「中立」にして、2秒程度たってからエンジンを停止するようにしてください。

※リニアシフトレバーを「前進」または「後進」に入れたままエンジンを停止した後や、リニアシフトレバーを「中立」にして、直ぐにエンジンを停止した後にメインキーを「運転」にすると、ブザーが鳴ることがあります。これは前後進させるための油圧シリンダが中立に戻っていないための警告ブザーです。ブザーが鳴った場合は、リニアレバー・副変速レバーを「中立」にして、クラッチペダルを踏みこみ、エンジンを始動して、ブザーが鳴らなくなってからクラッチペダルから足を離してください。



- 2** メインスイッチを「停止」位置にします。エンジンは停止します。

補足

- 万一、故障しエンジンが停止しないときは、「お買いあげ先」にご相談ください。
- G型式はパーキングブレーキをかけないでエンジンを停止すると、警告音が鳴り続けます。



- 3** メインスイッチのキーは必ず抜きます。

5.4 発進のしかた

発進をする前に、下記の項目を確認してください。

警告



トラクタを発進させるときは、前後左右の状況を確認し、トラクタの近辺に人を近づけないでください。(特に子供に注意してください。)

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落したり物が落下したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



道路を走行するときは、デフロックペダルが解除してあるか確認してください。

※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

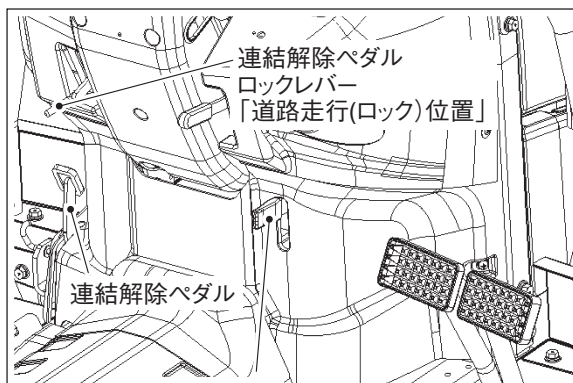


RTS0054

道路走行するときは、必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行(ロック)」位置にし、連結解除ペダルが収納されていることを確認してください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してください。

※ 守らないとブレーキが片ぎきとなり車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。



RTS0042A

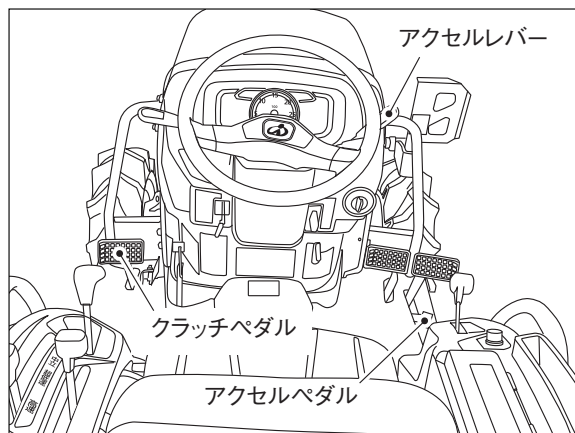
5. 運転のしかた

警告



道路走行するときは、アクセルレバーではなく必ずアクセルペダルを使用してください。

※ 守らないと、正常な走行スピードのコントロールができなくなるおそれがあります。



RTS0056

クラッチペダルは、ゆっくり離してください。

※ 急に離すと急発進して転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

道路走行時には、走行・作業切換ダイヤルを「走行」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し、衝突・転倒事故の原因になります。



負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時はトラクタが後方に転倒しないよう注意してください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。

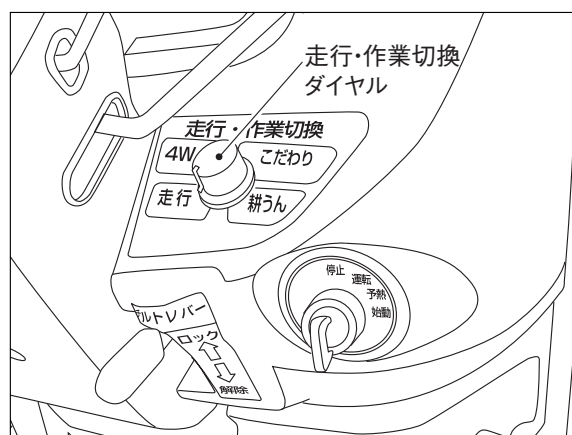
注意



作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ 半クラッチ状態となり寿命が短くなります。

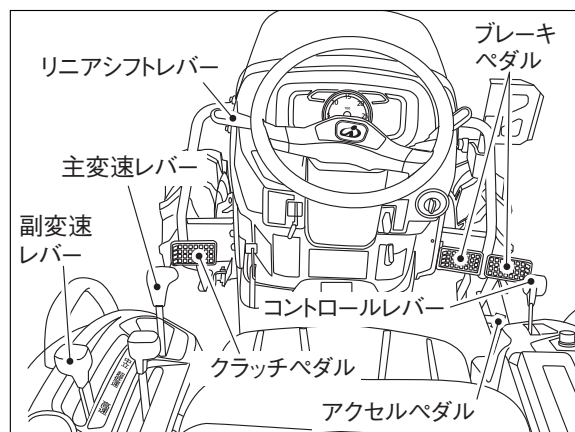
- 1 走行・作業切換ダイヤルを「走行」または「4WD」位置にします。(75ページ)



RTS0057

2 コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。

- (1) エンジン始動後「上昇表示灯」が点滅しているときは、作業機昇降装置が「準備状態」になっています。
(96ページ参照)
- (2) コントロールレバーを「上げ」か「下げ」方向に操作して「準備状態」を解除してください。「上昇表示灯」が消灯します。コントロールレバーで作業機を上げ（下げ）てください。



RTS0058

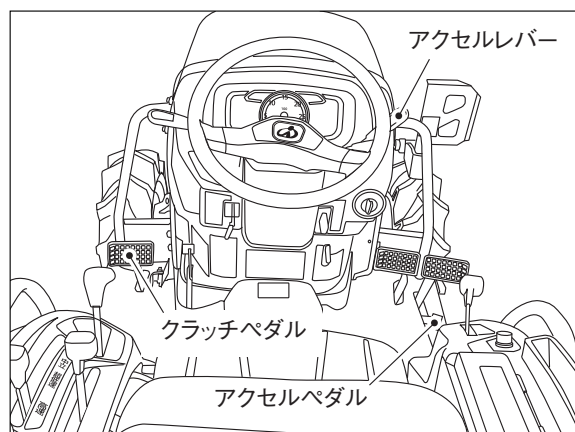
3 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。

4 アクセルレバーでエンジン回転を1500回転程度まで上げます。(G型式のみ)

5 リニアシフトレバー、主変速レバー、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。

6 ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを外します。

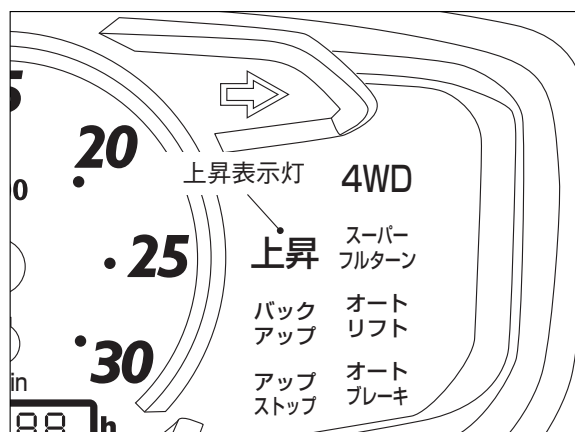
7 アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながら、クラッチペダルをゆっくりと離します。



RTS0056

補 足

- アクセルペダルはアクセルレバーと連動しています。ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がリ、ペダルから足を離すとアクセルレバーの設定回転まで戻ります。
- 走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を延ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。また、速度調節をクラッチで行わないようにしてください。
- 道路走行するときは、PTO変速レバーは常に中立にしておいてください。
- G型式は主変速レバー「1」～「2」程度、副変速レバー「高速」位置で、エンジン回転アイドル程度程度の低回転で走行すると、車体がギクシャクするような動きになる場合があります。これは、HSTミッションの特性であり、故障ではありません。エンジン回転を1500回転以上にして使用してください。



RTS0106

5. 運転のしかた

5.5 変速のしかた

変速のしかたについては、「副変速レバー」「主変速レバー」の項目を参照してください。
(48, 49ページ)

5.6 旋回のしかた

警告



旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速位置を低速にしてください。

※ 高速で急旋回すると、機体バランスを崩し、転倒事故につながります。

5.7 坂道での運転

警告



坂道では急旋回をしないでください。

※ 守らないと、機体バランスを崩し、転倒事故の原因になるおそれがあります。

坂の途中では、クラッチを切ったり、リニアシフトレバー・副変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。

※ 守らないと、スリップや転倒事故の原因となるおそれがあります。

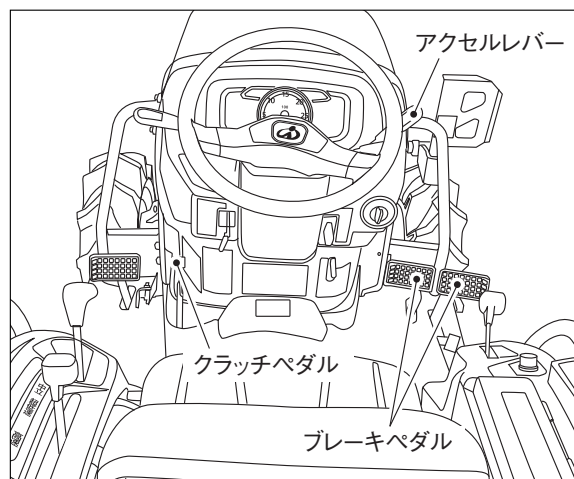


坂の状況に応じた適切なスピードで走行してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

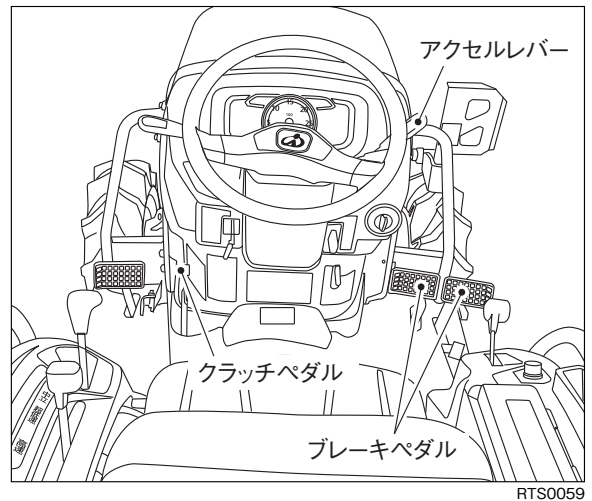
5.7.1 急な上り坂での発進

- 1 ブレーキペダルを踏み込みます。
- 2 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。
- 3 各変速レバーを低速位置に入れます。
- 4 アクセルレバーでエンジン回転を中速（約 1500 rpm）にします。



RTS0059

- 5 クラッチペダルをゆっくり離し、半クラッチ状態にします。
- 6 同時にブレーキペダルの踏み込みを少しゆるめます。
- 7 アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足をゆっくり離すとトラクタは発進します。



RTS0059

5.7.2 下り坂での運転

下り坂では、エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

5.8 けん引

警告



けん引する車両の総重量が1050kgを超える場合のけん引は禁止です。

※ このトラクタにはトレーラーブレーキが装着されていません。



けん引作業を行う場合は、必ず純正品のヒッチを使用してください。

※ 守らないと、トラクタが浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

けん引はこのトラクタに合った作業機をけん引ヒッチに取り付けて使用してください。

※ 適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になります。
不明な点がございましたら「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

補足

- けん引して道路走行する場合、けん引する車両の総重量が750 kgを超えるときは、けん引免許が必要となります。

5.9 停車・駐車のしかた

危険



トラクタを草やワラの上に止めて空ぶかしをしたり、高回転にしないでください。

※ 排気管の熱や排気ガスによりワラ等に着火し、火災の原因になるおそれがあります。

警告



トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、パーキングブレーキをかけ、車止めをしてください。

また、駐車するところは広く平坦で地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐・停車のときは必ずパーキングブレーキをかけてください。

このトラクタは常時噛合式のトランスミッション機構を採用していますので、リニアシフトレバー・副変速レバーが「中立」でも車体が動くことがあります。特に

① ミッションオイルが低温のとき

② エンジン回転が高いとき

に起こりやすくなります。この現象は異常ではありません。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出すおそれがあります。



HST仕様（G型式）は副変速を入れたままエンジンを止めても、エンジnbrブレーキはききません。必ずパーキングブレーキをかけてください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。（パーキングブレーキをかけないと警告ブザーが鳴り続けます。）



HST仕様（G型式）において、停車するときには必ず、トラクタが完全に停止し、変速レバーを「中立」にしてから、クラッチペダルを離してください。

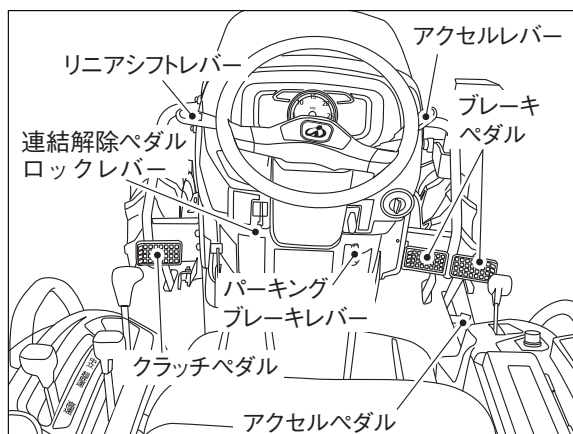
HST仕様（G型式）は、HSTミッションを前後進させるために、油圧シリンダを使用しています。

そのため、クラッチペダルを踏み込み、リニアシフトレバーだけを「中立」にして、すぐにクラッチペダルを離すと、油圧シリンダが戻りきらない位置でつながるため、車体が動いて、傷害事故を引き起こしたり、機械を破損するおそれがあります。

平地でリニアシフトレバーを「中立」にしてもトラクタが動く場合は、直ちに使用を中止し、「お買いあげ先」または、「キセキ販売店」にて修理を受けてください。

1 アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。

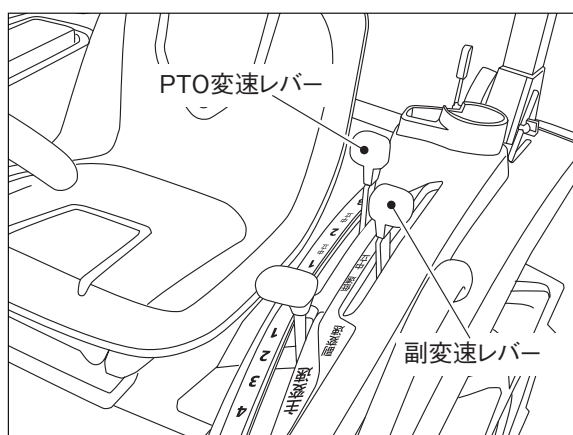
2 クラッチペダルを踏み込み、同時にブレーキペダルを踏み込みます。



RTS0060

3 トラクタが完全に停止してから、リニアシフトレバー、副変速レバーを「中立」、PTO変速レバーを「中立」にします。

4 連結解除ペダルロックレバーが「道路走行(ロック)」位置にあることを確認してから、ブレーキペダルを踏み込み、パーキングブレーキレバーを押し下げて、パーキングブレーキをかけます。

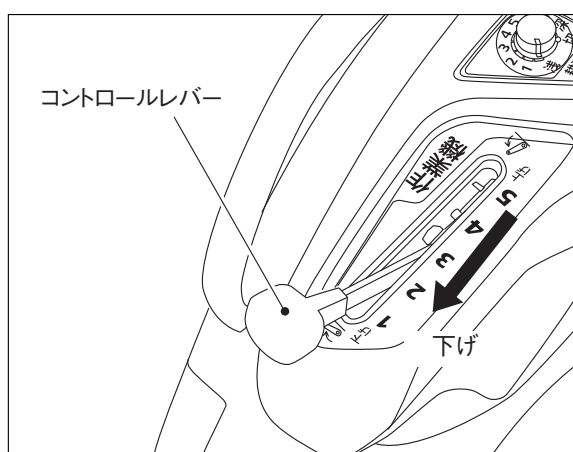


RTS0061

補 足

- G型式はパーキングブレーキをかけないでエンジンを停止すると、警告音が鳴り続けます。

5 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろしてください。



RTS0062

5. 運転のしかた

5.10 運転中の作動確認

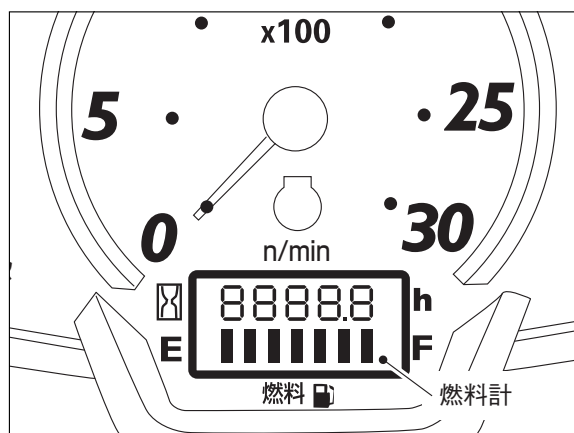
このトラクタは、トラクタメータパネルにある計器やランプによって、運転中に必要な情報を伝えます。運転中、メータパネル類に異常はないか、モニタランプが点灯していないかを常に注意してください。道路走行中は、メータパネル類で確認し速度の出しすぎに注意してください。

5.10.1 燃料計

メインスイッチを「運転」の位置で燃料の量を表示します。

補 足

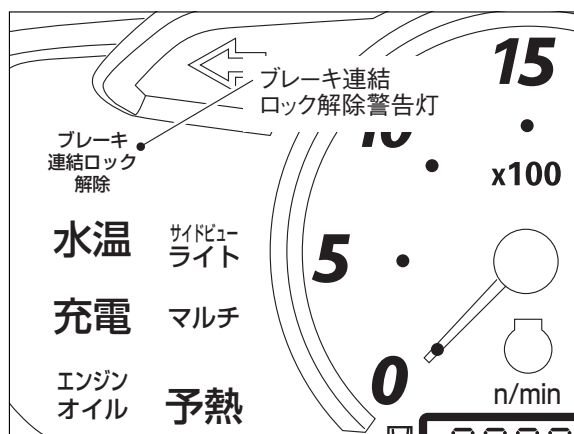
- トラクタが傾斜している場合、正しい燃料の量を示さないことがあります。
- トラクタが傾斜した後、水平になっても、正しい燃料の量を示すまでに少し時間がかかります。
- 燃料残量が少なくなると、液晶が点滅します。



RTS0063

5.10.2 ブレーキ連結ロック解除警告灯

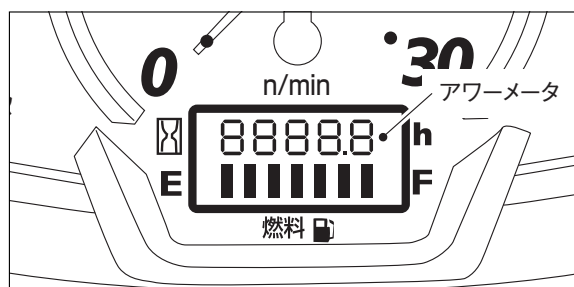
連結解除ペダルロックレバーを「ほ場（解除）」位置にするとブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。道路走行やほ場での移動など片ブレーキ作業をしない時は、連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にして、ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してから、走行してください。



RTS0064

5.10.3 アワーメータ

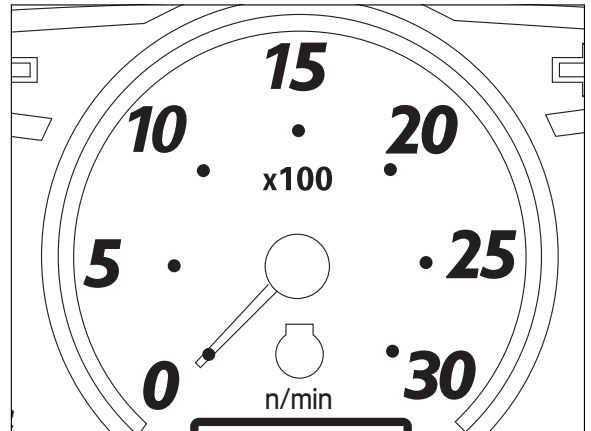
積算時間は、5桁になっています。
最後の1桁は、1/10時間を示します。



RTS0065

5.10.4 メータ

メータの外周部がエンジン回転数を示します。

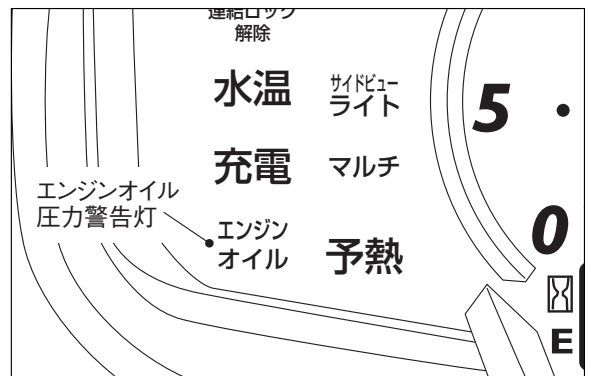


RTS0066

5.10.5 エンジンオイル圧力警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。

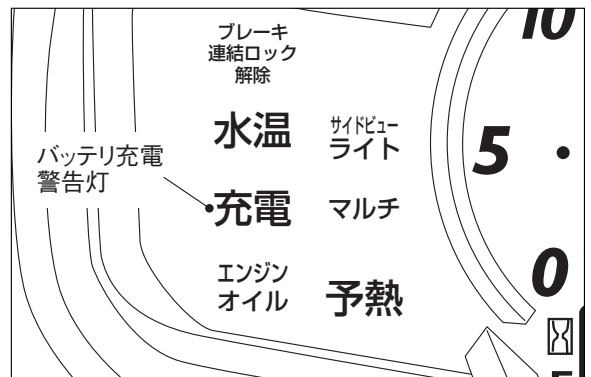
点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。



RTS0067

5.10.6 バッテリー充電警告灯

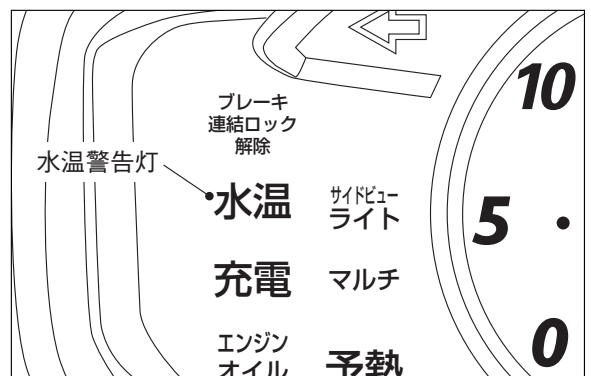
エンジン運転中充電しているとランプが消えます。



RTS0068

5.10.7 水温警告灯

メインスイッチが「運転」で、冷却水の温度がオーバーヒート近くなると点滅し、さらに温度が上がりオーバーヒートになると、点灯します。このような状態になったときには「11. 不調時の処置」(171ページ) を参照してください。



RTS0069

5. 運転のしかた

5.11 トラックへの積み・降ろし

トラックへの積み・降ろしは平たんで広く硬い場所で行ってください。

また、アユミは基準以上のものを用意してください。

警告



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



● **積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」でゆっくり行ってください。**

● **アユミ板は、基準以上のものを使用し、トラクタの重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。**

● **アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。**

● **万一に備えて、トラクタの周りには人を近づけないでください。**

※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラックへの積み・降ろし中は、必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にしてください。

また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。

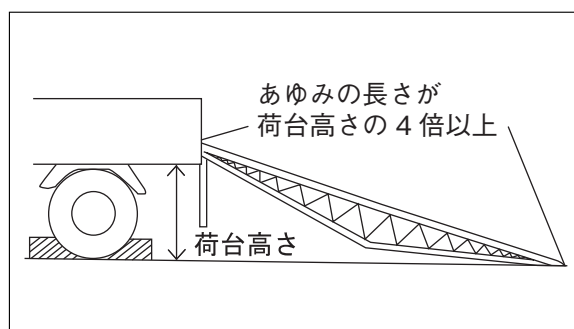
トラック等で運搬するときは、トラクタにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。

補 足

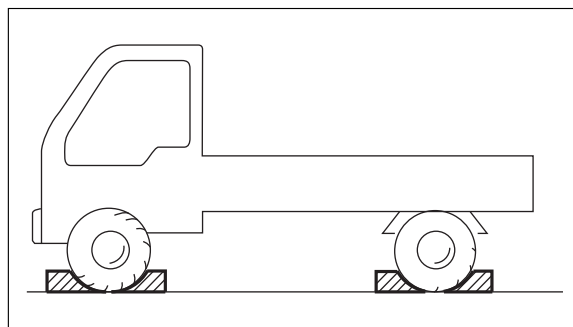
● アユミ板の基準

- ・長さ：荷台高さの4倍以上
- ・幅：35cm以上
- ・強度：1,000kg以上（1本当たり）
- ・数量：2本使用
- ・すべり止めの処理があること。



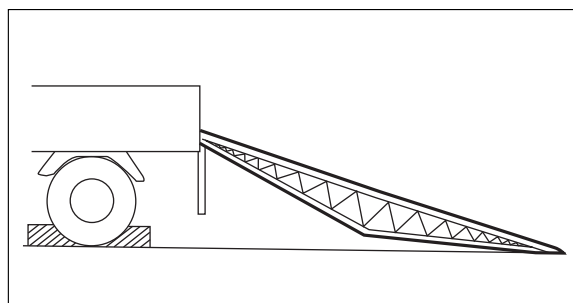
RTS0070

- 1 積み込むトラックのエンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをします。



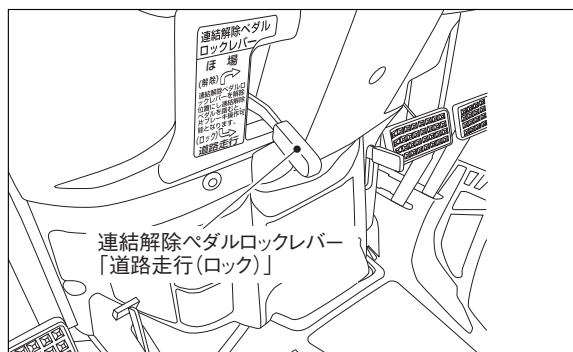
RTS0071

- 2 アユミ板のフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けてください。



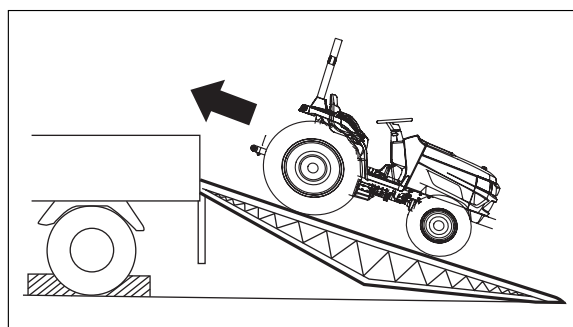
RTS0072

- 3 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、連結解除ペダルが収納位置にあること、またブレーキペダルが左右連結されていることを確認してください。



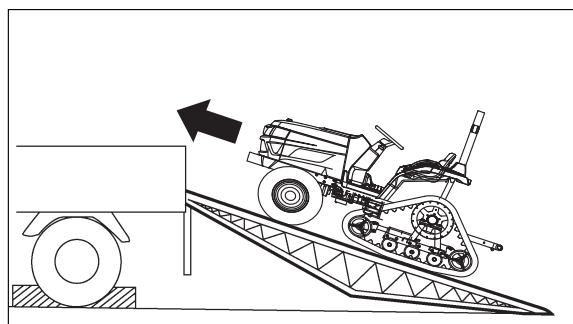
RTS0073

- 4 (1) ホイール仕様の場合
トラックに積むときは「後進」、降ろすときは「前進」で、ゆっくり行ってください。



RTS0074

- (2) セミクローラ仕様の場合
積み・降ろしの際はあらかじめ直進性を見定めてから行ってください。
トラックに積むときは「前進」、降ろすときは「後進」で、ゆっくり行ってください。
逆方向で積み・降ろしを行うと、前輪が浮き上がることがあります。



RTS2071

6. 作業前に必要な調整

6.1 輪距の調整

⚠ 警告



けん引作業・傾斜地での作業等の場合は、後輪輪距を広くして使用してください。

※ 最小輪距では左右のバランスが不安定になり、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ジャッキアップするときは、平たんで地面の硬い場所でエンジンを停止し、ジャッキとトラクタの安定を確認し、前輪に車止めをしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.1.1 前輪

前輪輪距は変更できません。

左右のタイヤを入れ替えることはしないでください。

6.1.2 後輪輪距調節

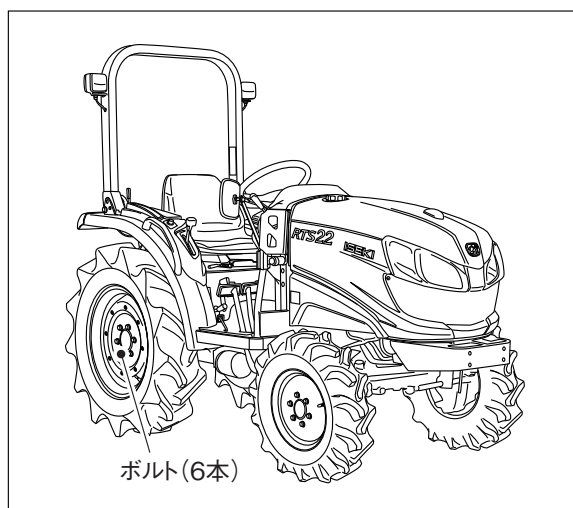
1 ボルトをゆるめた後、ジャッキで車体を上げ、ファイナルケースに支持台をかませて後輪を浮かせてください。

2 ボルトを取り外し、輪距の調節をします。

補足

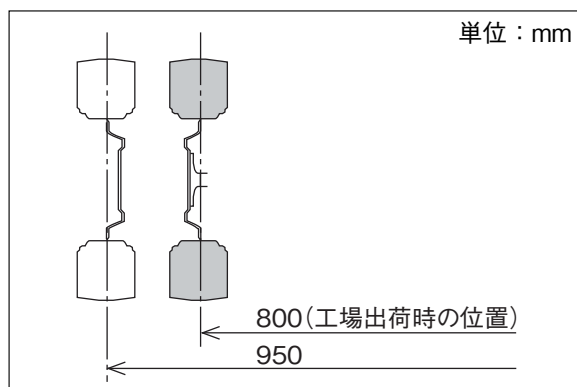
- タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。
- 各部のボルトは確実に締め付けてください。

後輪…98～118N・m (1000～1200kgf・cm)



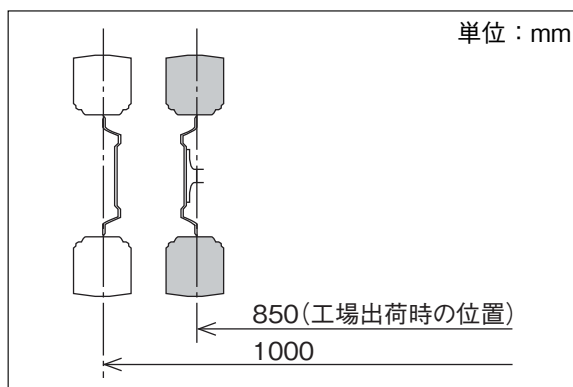
RTS0075B

RTS18・RTS20WW03後輪



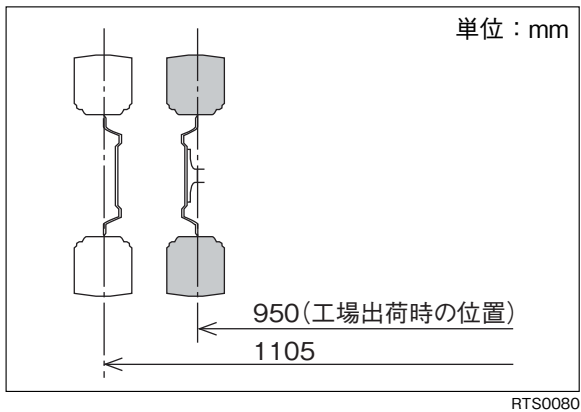
RTS0076

RTS20・RTS22後輪

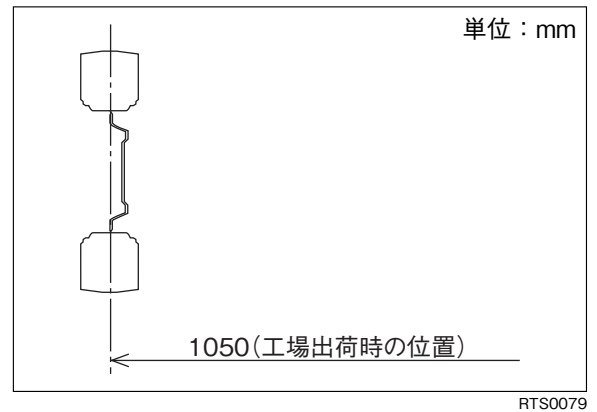


RTS0077

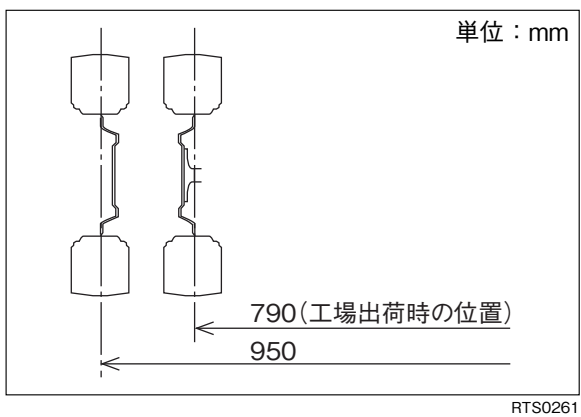
RTS23・RTS25Q05後輪



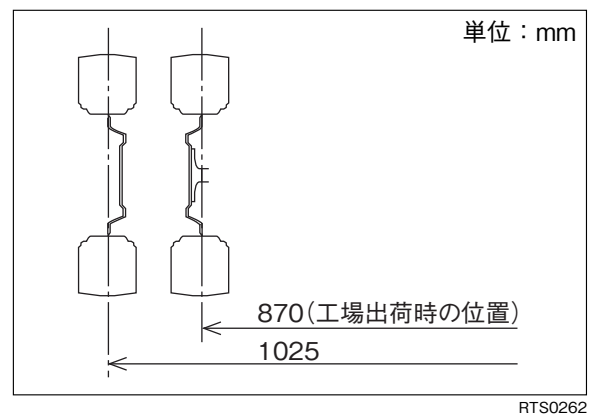
RTS25後輪



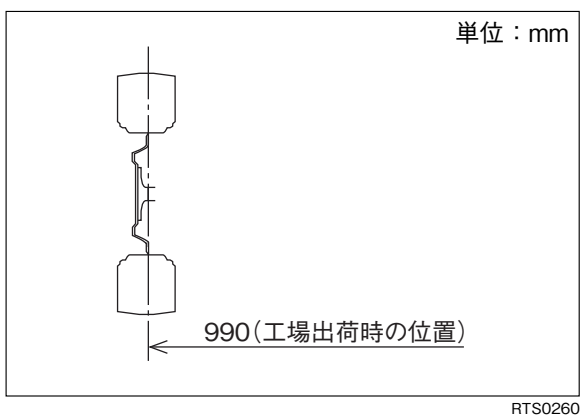
RTS20N後輪



RTS25N後輪



RTS25S25後輪



⚠ 注意



輪距を工場出荷時以外の位置に調整したときには、道路走行できません。

※ 工場出荷時の輪距以外では道路運送車両の保安基準に適合しません。

6. 作業前に必要な調整

6.2 安全フレームの扱い

⚠ 警告



作業上、やむをえず安全フレームを倒さなければならないとき以外は、立てて使用してください。



安全フレームを倒したときは、シートベルトは装着しないでください。

※ 安全フレームを「倒した」状態では、安全フレームとしての機能はありません。転倒時には重大事故を起こすおそれがあります。

安全フレームを「倒す」または「起こす」ときは、平たんな場所でパーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。

※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

補 足

- 安全フレームを倒すときは、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

注 意



安全フレームを倒したまま作業機を上昇させる場合は干渉に注意してください。（特にロータリの尾輪を上向きに装着している場合）

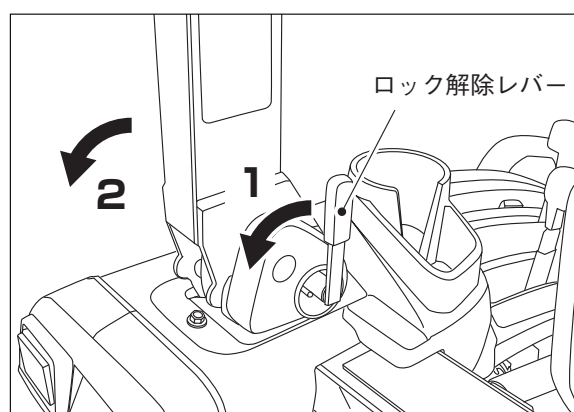
※ 守らないと安全フレームとウインカと作業機が干渉・破損するおそれがあります。上げ位置調整を必ず行ってください。

6.2.1 倒しかた

1 安全フレームを片手で支え、ロック解除レバー（左右各1箇所）を車体後方へ止まるまで回します。

2 安全フレームを後方へ倒します。

3 ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームが固定されます。



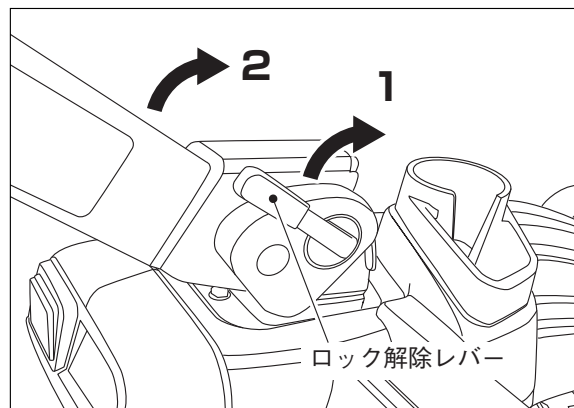
RTS0081

6.2.2 起こしかた

- 1 安全フレームを片手で支え、ロック解除レバー（左右各1箇所）を車体前方へ止まるまで回します。
- 2 安全フレームを前方へ起こします。
- 3 ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームが固定されます。
- 4 ロック解除レバーが安全フレームと平行になることを確認してください。

補 足

- 安全フレームを前後に動かし、確実に固定されているか確認してください。



7. 作業のしかた

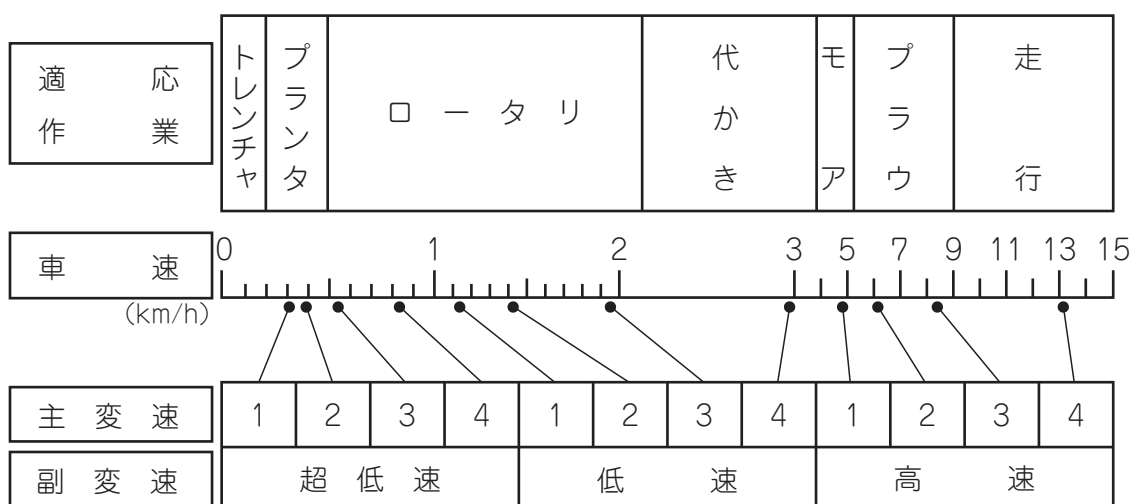
7.1 作業時の運転

7.1.1 走行速度

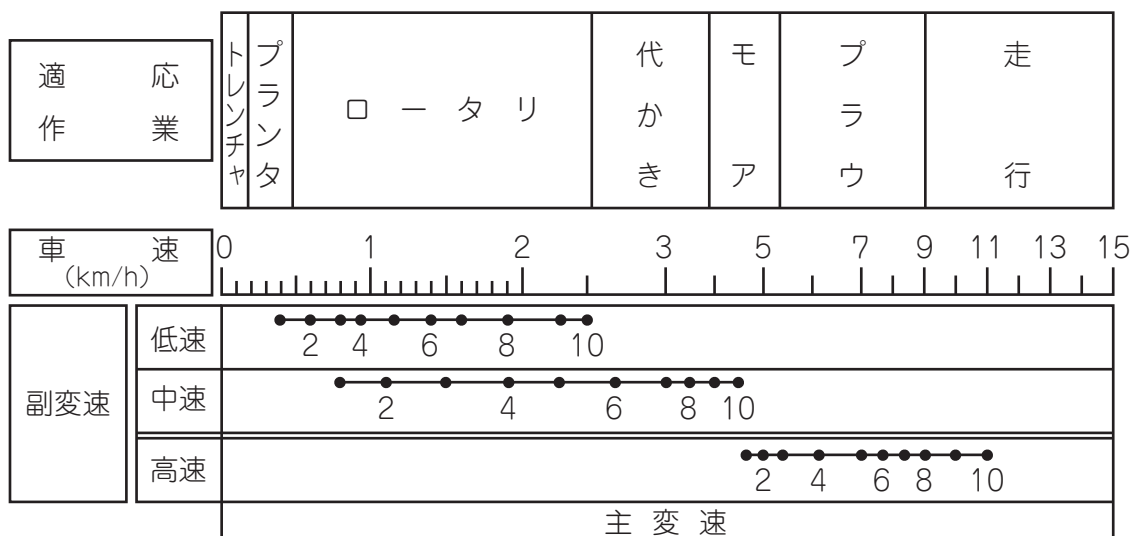
- (1) トラクタの走行速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で、作業をしてください。

車速の目安

(G型式以外)



(G型式)



7.1.2 ほ場の出入り

警告



必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、左右のブレーキペダルが連結されていることを確認してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こすことがあります。

道路とほ場の高低差が大きい場合や、^{あぜ}畦の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。

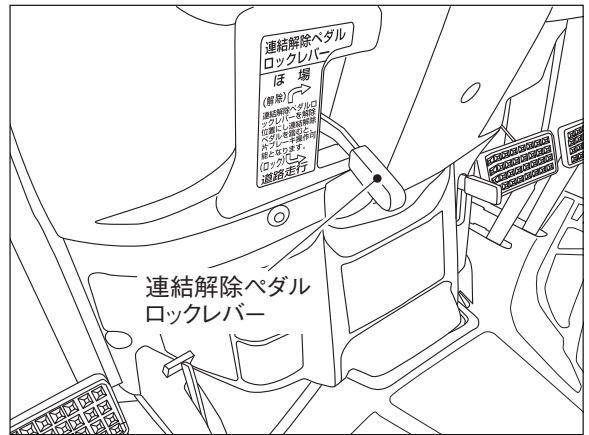
※ 使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒するおそれがあります。

^{あぜ}畦等の段差を横断するときは、PTOの回転を停止し、作業機の地上高を低くし低速で、^{あぜ}畦と直角にゆっくりと走行してください。

※ 斜めに走行すると、スリップや転倒の原因となります。

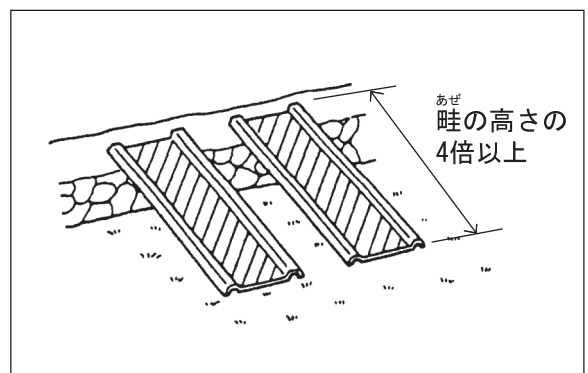
常に前・後輪のバランスを考えながら操作をしてください。

※ バンパウエイト代わりに人が乗ったりすると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



RTS0055

- (1) 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、左右のブレーキペダルが連結されていることを確認してください。
- (2) 道路とほ場の高低差が大きい場合や、^{あぜ}畦の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。
- (3) ゆっくりとした速度で、畦に直角に前進でのり越えてください。



RTS0084

7.1.3 ほ場での旋回

⚠ 警告



連結解除ペダルロックレバーは、ほ場内でのみ「ほ場（解除）」位置にしてください。ほ場の出入りや道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、ブレーキペダルが連結されていることを確認してください。（メータパネル内のブレーキ連結ロック解除警告灯が消灯していることを確認してください。）

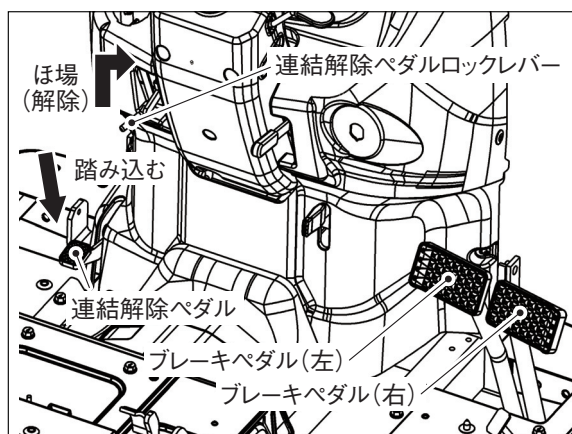
※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こすことがあります。



作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

- (1) ほ場での旋回は、連結解除ペダルロックレバーを「ほ場（解除）」位置にし、連結解除ペダルを踏込んで左右のブレーキペダルを左右独立して使用すれば、小さく旋回できます。
この場合は、ステアリングホイール（ハンドル）を切ると同時に旋回しようとする方向のブレーキペダルを踏み込んでください。
- (2) 作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、適切な作業をしてください。



RTS0085

7.1.4 デフロックペダルと使いかた

⚠ 警告



デフロックを入れたままで旋回しないでください。

※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。



道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。

※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置です。片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏み込むとスリップが防止できます。

- (1) ペダルを踏み込む …… ロックされます。
- (2) ペダルから足を離す …… 自動的にロックが外れます。外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



RTS0054

■デフロックの使い方

デフロック装置は、非常に便利で役に立ちますが取り扱いを誤ると転倒等の危険や故障の原因にもなります。注意して使用してください。

＜デフロックの使用例＞

- (1) ほ場への出入りに片輪がスリップし、トラクタが進まないとき。
- (2) 凹凸ほ場で片側がスリップするとき。
- (3) 軟弱ほ場で片側がスリップし、走行不能になったとき。

補 足

- デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。
- デフロックペダルから足を離してもデフロックが外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

7. 作業のしかた

7.2 走行・作業切換ダイヤル（S25型式以外）

作業が変わったり、道路走行に移ったりする場合に、駆動状態やいろいろな制御の設定をワンタッチで行うことができるダイヤルです。

7.2.1 「走行」位置

道路走行やフロントローダ作業をする場合に使用します。

(1) 固定される設定。

(a) 走行切換：「2WD」になります。

「2WD」が作動します。

※「走行」位置では「4WD」、「フルターン」、「2WDターン」には設定できません。

(b) バックアップ（S・Q型式）：「切」になります。

(c) オートリフト（S・Q型式）：「切」になります。

(d) オートブレーキ（S・Q型式）：「切」になります。

※「走行」位置では「入」設定に変更できません。
一時的に変更可能な設定。

(e) オート切換：「標準」になります。

(f) 水平切換（S・Q型式）：「手動」になります。

(g) デセラ：「切」になります。

(h) オート感度：「標準」になります。

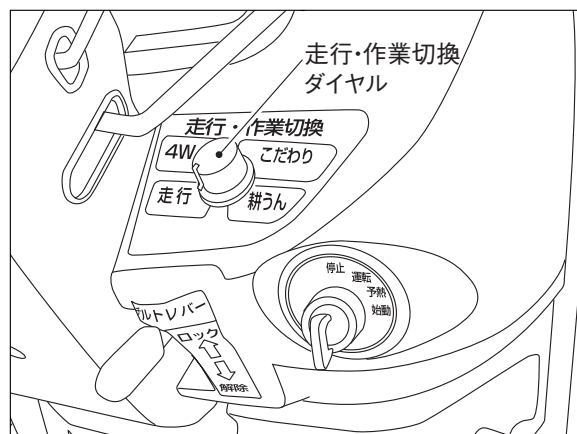
(i) 水平感度（S・Q型式）：「標準」になります。

(j) 旋回減速（G型式）：「切」になります。

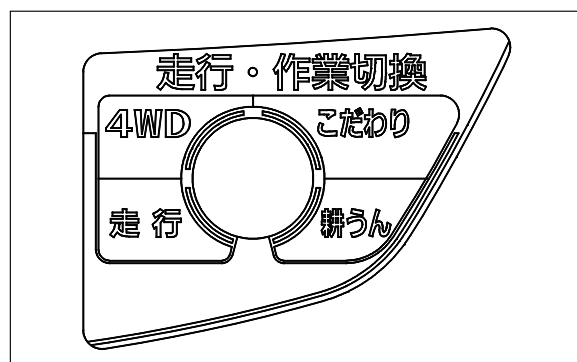
自動的に上記(初期設定)の設定になります。

「走行」位置で(e)～(j)の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「走行」位置に切り換えると「走行」位置で設定した状態に切り換わります。

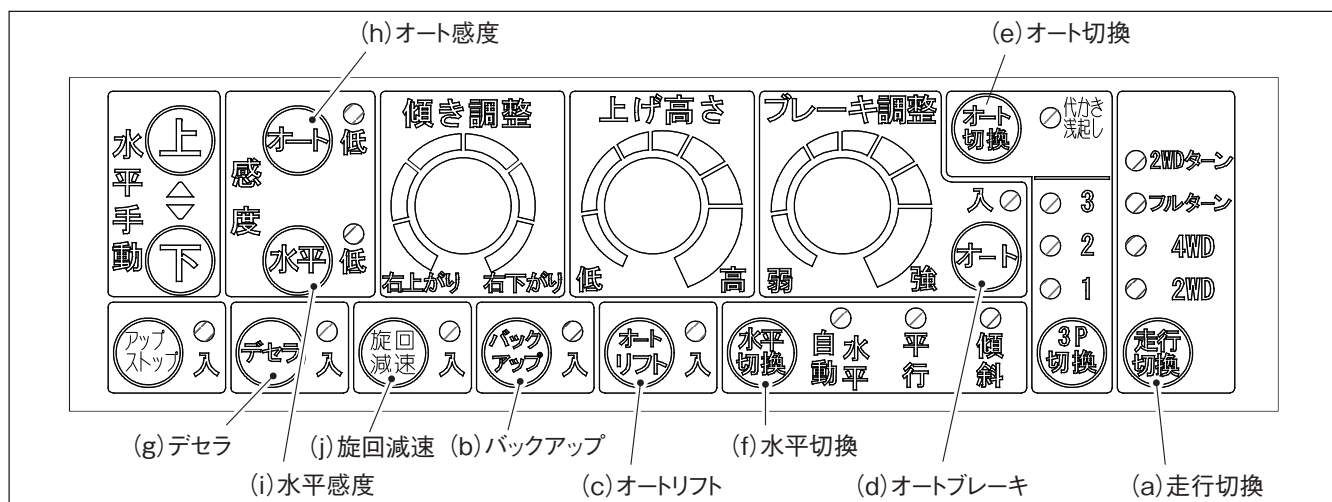
「走行」位置で設定していた状態はメインスイッチを「停止」状態にすると、初期設定に戻ります。



RTS0057



RTS0086B



RTS0087B

補 足

- 各装置の詳細は、76～79ページおよび、99～107ページを参照してください。

7.2.2 「4WD」位置

道路走行やフロントローダ作業をする場合に使用します。

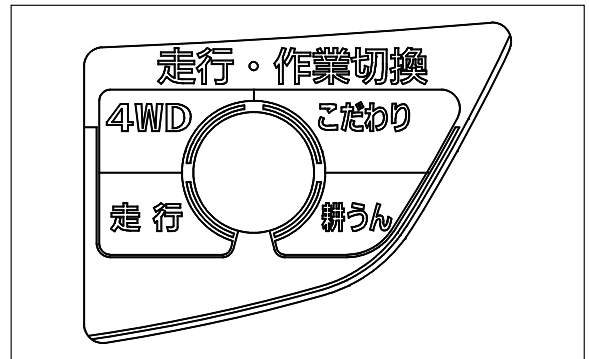
- (1) 固定される設定。
- (a) 走行切換：「4WD」になります。
「4WD」が作動します。
※「4WD」位置では「2WD」、「フルターン」、「2WDターン」には設定できません。

- (2) 一時的に変更可能な設定。
- (b) バックアップ (S・Q型式)：「切」になります。
 - (c) オートリフト (S・Q型式)：「切」になります。
 - (d) オートブレーキ (S・Q型式)：「切」になります。
 - (e) オート切換：「標準」になります。
 - (f) 水平切換 (S・Q型式)：「手動」になります。
 - (g) デセラ：「切」になります。
 - (h) オート感度：「標準」になります。
 - (i) 水平感度 (S・Q型式)：「標準」になります。
 - (j) 旋回減速 (G型式)：「切」になります。
- 自動的に上記(初期設定)の設定になります。
「4WD」位置で (b)～(j) の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「4WD」位置に切り換えると「4WD」位置で設定していた状態に切り換わります。

「4WD」位置で設定した状態はメインスイッチを「停止」状態にすると、初期設定に戻ります。

補 足

- 各装置の詳細は、79～85ページおよび、99～107ページを参照してください。



RTS0086B

7.2.3 「耕うん」位置

ロータリで一般的な耕うん作業をする場合に使用します。

(1) 一時的に変更可能な設定。

- (a) 走行切換：「フルターン」になります。
直進時は「4WD」、旋回時は「スーパーフルターン」が作動します。
- (b) バックアップ：「入」になります。(S・Q型式)
- (c) オートリフト：「入」になります。(S・Q型式)
- (d) オートブレーキ：「入」になります。(S・Q型式)
- (e) オート切換：「標準」になります。
- (f) 水平切換：「自動水平」になります。(S・Q型式)
- (g) デセラ：「入」になります。
- (h) オート感度：「標準」になります。
- (i) 水平感度：「標準」になります。(S・Q型式)
- (j) 旋回減速：「入」になります。(G型式)

自動的に上記(初期設定)の設定になります。

「耕うん」位置で(a)～(j)の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「耕うん」位置に切り換えると「耕うん」位置で設定した状態に切り換わります。

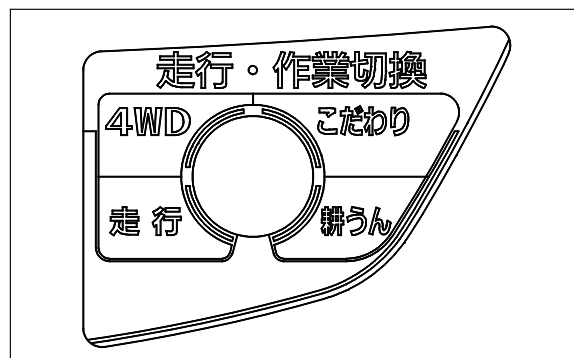
「耕うん」位置で設定していた状態はメインスイッチを「停止」位置にすると、初期設定に戻ります。

(2) 作業が終わり、道路走行するときは、ダイヤルを「走行」位置に合せてください。

(3) 作動状態はトラクタメータのモニタランプが点灯・点滅し確認できます。

補 足

- 各装置の詳細は、79～85ページおよび、99～107ページを参照してください。
- ダイヤルを「耕うん」位置にすれば一度に各装置が作動可能状態になります。作業や条件によって任意に設定を変えたい場合は76ページを参照してください。

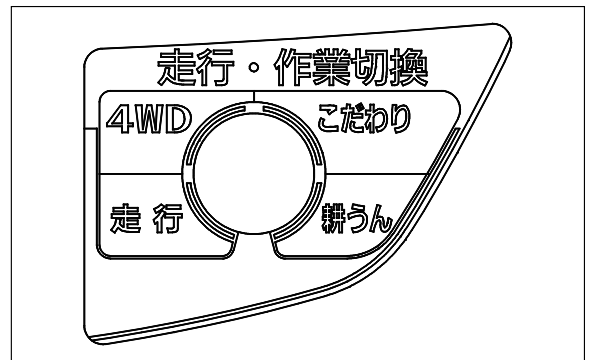


RTS0086B

7.2.4 「こだわり」位置

「耕うん」位置では一般的な耕うん作業に便利な装置が、すべて作動可能状態となりますが、作業や条件によって任意に設定を変えたい場合には、「こだわり」位置で設定して使用してください。

作業開始前、「こだわり」位置に切り換えるだけで任意の設定にすることができます。



RTS0086B

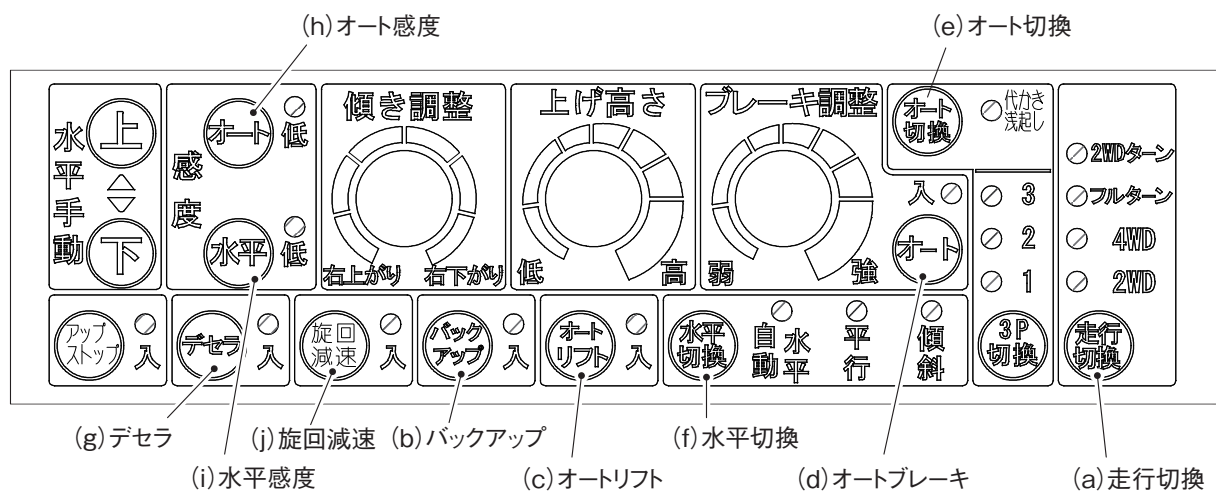
- (1) 変更可能な設定
 - (a) 走行切換
 - (b) バックアップ (S・Q型式)
 - (c) オートリフト (S・Q型式)
 - (d) オートブレーキ (S・Q型式)
 - (e) オート切換
 - (f) 水平切換 (S・Q型式)
 - (g) デセラ
 - (h) オート感度
 - (i) 水平感度 (S・Q型式)
 - (j) 旋回減速 (G型式)

出荷時は、上記(初期設定)の設定になります。

「こだわり」位置で(a)～(j)の設定を変更した場合、他のどの位置に切り換えた後でも、「こだわり」位置に切り換えると、「こだわり」位置で設定した状態に切り換わります。

「こだわり」位置で設定した状態はメインスイッチを「停止」位置にしても、設定された状態が記憶されていますので、毎回記憶させた設定になります。

※誤操作防止のため、3秒間は記憶されません。



BTS0087B

補 足

- 各装置の詳細は、79～85ページおよび、99～107ページを参照してください。

7.3 走行切換ダイヤル（S25型式）

2WDと4WDの切換をワンタッチで行うことができるダイヤルです。

7.3.1 「2WD」位置

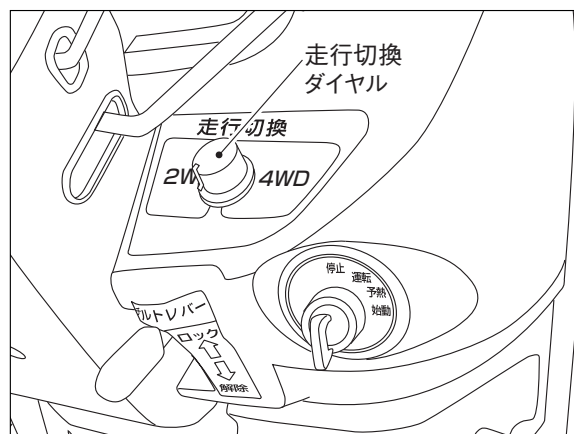
後輪のみ駆動され、前輪は駆動されない2WDとなります。

道路走行やフロントローダ作業をする場合に使用します。

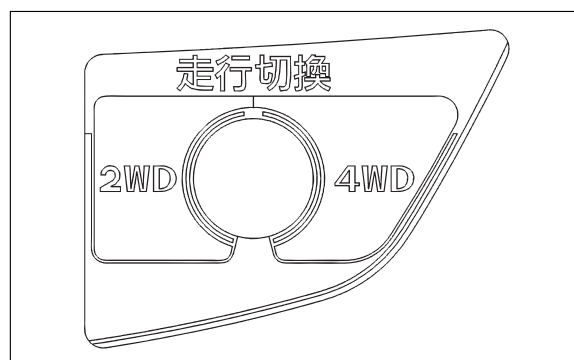
7.3.2 「4WD」位置

前輪と後輪が駆動される4WDとなります。

傾斜地作業・トレーラ作業等の牽引力を必要とする場合に使用します。



RTS0259



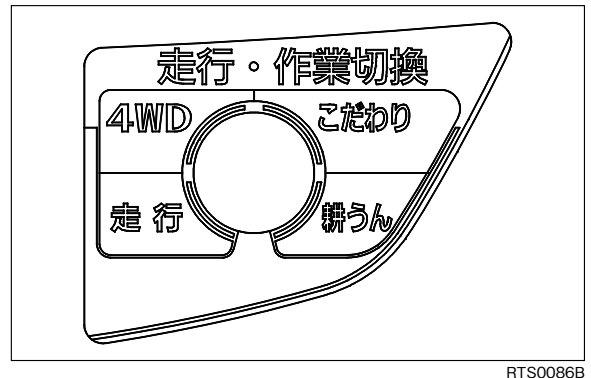
RTS0258

7.4 スーパーフルターン（S25型式以外）

ロータリでの耕うん作業時、ステアリングを操作して旋回すると、スーパーフルターンが作動します。前輪の回転が速くなり、小回りがきいて素早く旋回できます。

■走行・作業切換ダイヤル

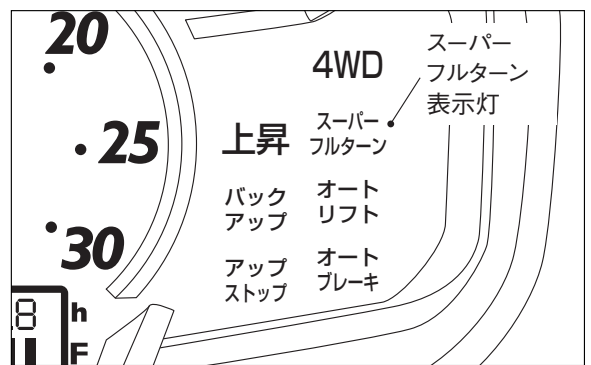
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でスーパーフルターンが作動します。電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WD」「4WD」「2WDターン」にすることでスーパーフルターンを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとスーパーフルターンが「入」に設定が戻ります。
- (2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「フルターン」ランプ点灯にしてスーパーフルターンを「入」にすると、スーパーフルターンが作動します。この場合、メインスイッチを「停止」位置にしてもスーパーフルターンが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回スーパーフルターンが作動できるようになります。



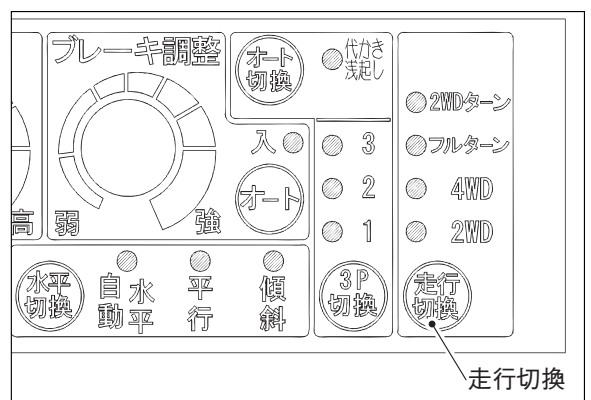
RTS0086B

■スーパーフルターン表示灯

- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」のとき、および、「こだわり」で、走行切換を「フルターン」に設定しているとき、スーパーフルターン表示灯が点灯します。
- (2) また、下記の状態では、表示灯は点滅し、スーパーフルターンは作動しません。
 - (a) 副変速レバーが「高速」位置のとき



RTS0088B



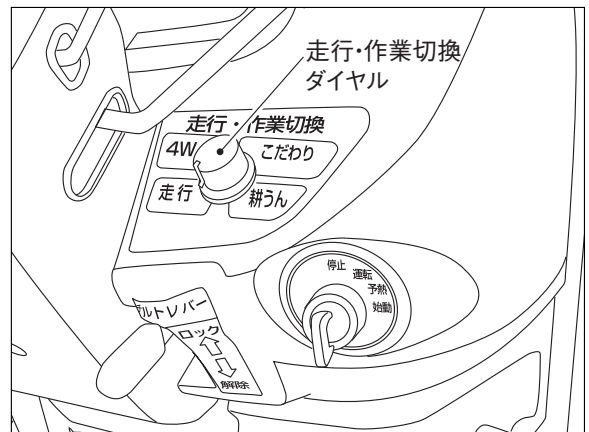
RTS0089A

7. 作業のしかた

■スーパーフルターンの作動

- (1) 旋回時ステアリングホイール（ハンドル）を切っ
ていき、前輪の切れ角が設定角以下では通常の
4WDの回転数で前輪が駆動されます。
- (2) それ以上の切れ角になると、スーパーフルター
ン機能が働き、前輪が通常の約2倍の回転数で
駆動され、旋回径が小さくなり、素早く旋回で
きます。

※ステアリングホイール（ハンドル）が直進時は、4
輪駆動になります。



RTS0057

⚠ 警告



**道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD）」または「4WD」位置にして
ください。**

※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し転倒事故の原因になります。

**ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置
にしてください。**

※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し転倒事故の原因になります。

**フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行
（2WD）」または「4WD」位置にしてください。**

※ 守らないと、スーパーフルターンが作動しトラクタの故障や傷害事故の原因となるお
それがあります。

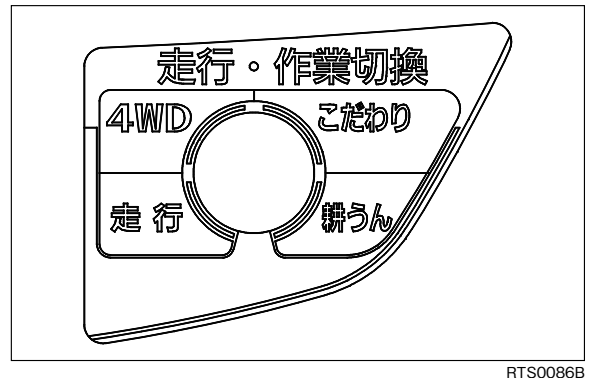
※ほ場の条件により、スーパーフルターンでの旋回が困難な場合は、「4WD」にて繰り返し旋回を行って
ください。

7.5 2WDターン (S25型式以外)

ロータリでの耕うん作業時、直進状態では4WDが作動し、ステアリングを操作して旋回すると、2WDに切り換ります。前輪の引きずりが少なくなり、旋回時にほ場を荒らしにくくなります。

■走行・作業切換ダイヤル

- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WDターン」ランプ点灯にして2WDターンを「入」にすると、2WDターンが作動しますが、メインスイッチ「停止」位置にするとスーパーフルターンが「入」に設定が戻ります。
- (2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WDターン」ランプ点灯にして2WDターンを「入」にすると、2WDターンが作動します。この場合、メインスイッチを「停止」位置にしても2WDターンが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回2WDターンが作動できるようになります。



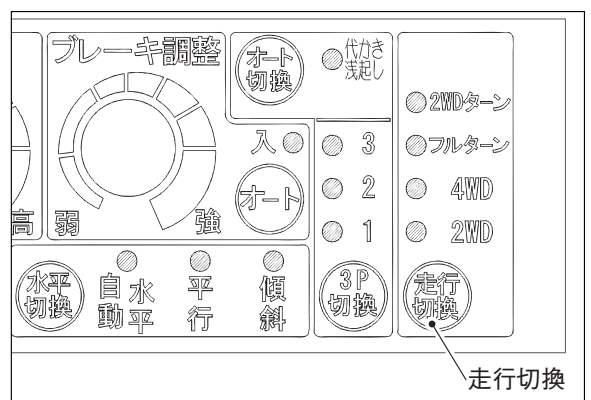
RTS0086B

■表示灯

- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」のとき、および、「こだわり」で、走行切換を「2WDターン」に設定しているとき、ハンドルが直進状態のとき、4WD表示灯が点灯します。
- (2) また、下記の状態では、2WDターンは作動しません。
 - (a) 副変速レバーが「高速」位置のとき



RTS0088B



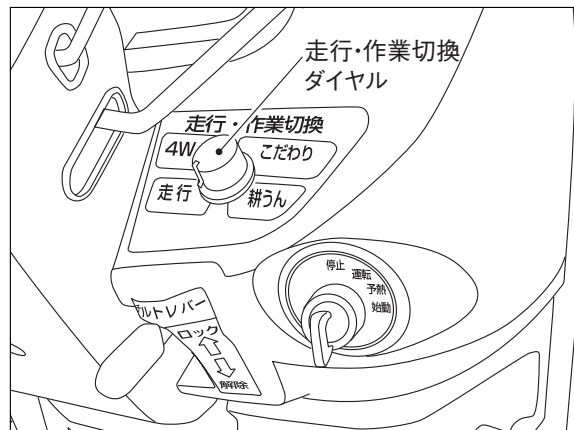
RTS0089A

7. 作業のしかた

■2WDターンの作動

- (1) 旋回時ステアリングホイール（ハンドル）を切っ
ていき、前輪の切れ角が設定角以下では通常の
4WDの回転数で前輪が駆動されます。
- (2) それ以上の切れ角になると、2WDターン機能
が働き、2WDに切り換り、前輪の引きずりが
少なくなり、旋回時にほ場を荒らしにくくなり
ます。

※ステアリングホイール（ハンドル）が直進時は、4
輪駆動になります。



RTS0057

⚠ 警告



道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD）」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、2WDターンが作動し転倒事故の原因になります。

ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、2WDターンが作動し転倒事故の原因になります。

フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD）」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、2WDターンが作動しトラクタの故障や傷害事故の原因となるおそれがあります。

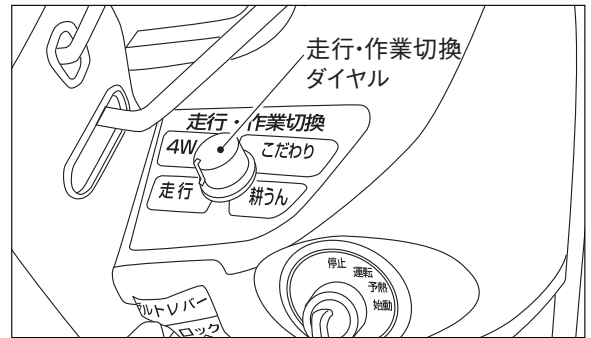
※ほ場の条件により、2WDターンでの旋回が困難な場合は、「4WD」にて切り返し旋回を行ってください。

7.6 オートリフト（K・S25型式以外）

ロータリでの耕うん作業時、ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、オートリフトが作動し、自動的にロータリが上昇します。

■走行・作業切換ダイヤル

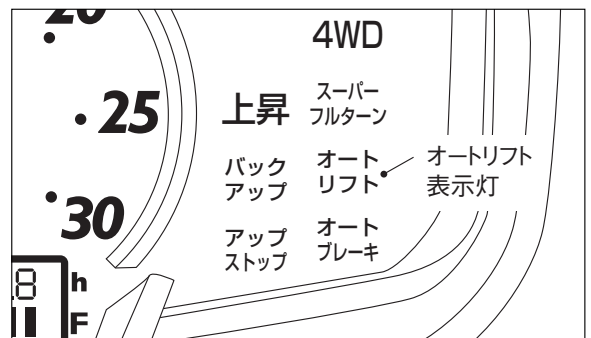
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でオートリフトが作動します。
電子油圧操作ボックス内のオートリフトをランプ消灯にすることでオートリフトを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとオートリフト「入」に設定が戻ります。
- (2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」をランプ点灯にしてオートリフトを「入」にすると、オートリフトが作動します。メインスイッチを「停止」位置にしてもオートリフトが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回オートリフトが作動できるようになります。
- (3) また、走行・作業切換ダイヤルが「4WD」の位置で電子油圧操作ボックス内のオートリフトを「入」にすることでオートリフトが作動します。



RTS0057

■オートリフト表示灯

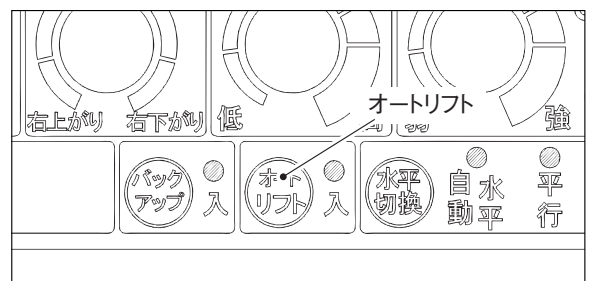
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」および、「こだわり」「4WD」でオートリフト「入」に設定しているとき、オートリフト表示灯が点灯します。
- (2) 下記の状態では表示灯は点滅し、オートリフトは作動しません。
 - (a) 副変速レバーが「高速」位置のとき
 - (b) ロータリを「下げ」た後、5秒間
 - (c) リニアシフトレバーが「後進」のとき
 - (d) オートリフトを「入」操作、またはロータリーを「下げ」た後、一度もハンドルを旋回位置から戻していないとき



RTS0090

■オートリフトの作動

- (1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、オートリフトが作動し、自動的にロータリが上昇します。
- (2) 旋回終了後、ロータリを降下させるときは、フィングアップレバーまたはコントロールレバーを操作してください。



RTS0091B

補 足

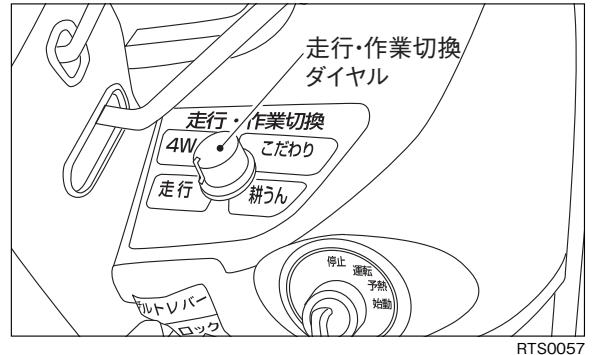
- 高速での走行時は、オートリフトは作動しないようになっていますが、走行・作業切換ダイヤルは「走行」位置にすることを心がけてください。
- オートリフトはステアリングホイール（ハンドル）の回転速度にも連動しています。曲がったほ場では旋回操作をしなくても、オートリフトが作動する場合があります。
この場合は、電子油圧操作ボックス内のオートリフトを「切」(ランプ消灯) にしてください。

7.7 オートブレーキ (K・S25型式以外)

耕うん作業時、ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回すると、自動的に片ブレーキが作動します。旋回操作が簡単になります。

■走行・作業切換ダイヤル

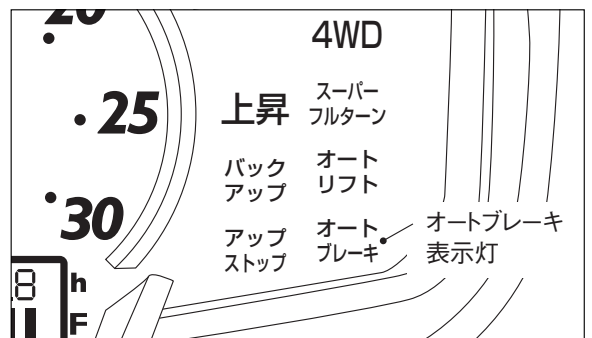
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でオートブレーキが作動します。
電子油圧操作ボックス内のオートブレーキをランプ消灯にすることでオートブレーキを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとオートブレーキ「入」に設定が戻ります。
- (2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」をランプ点灯にしオートブレーキを「入」にすると、オートブレーキが作動します。メインスイッチを「停止」位置にしてもオートブレーキが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回オートブレーキが作動できるようになります。
- (3) また、走行・作業切換ダイヤルが「4WD」の位置で電子油圧操作ボックス内のオートブレーキを「入」にすることでオートブレーキが作動します。



RTS0057

■オートブレーキ表示灯

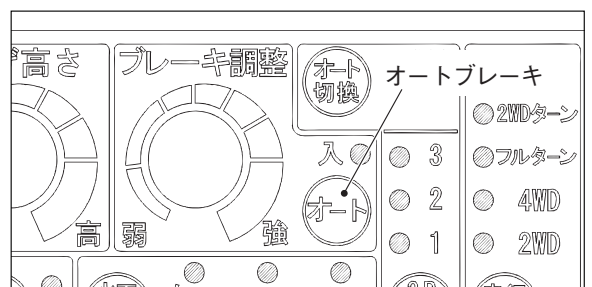
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」および、「こだわり」・「4WD」でオートブレーキ「入」に設定しているとき、オートブレーキ表示灯が点灯します。
- (2) また、下記の状態では、表示灯は点滅し、オートブレーキは作動しません。
 - (a) 副変速レバーが「高速」位置のとき
 - (b) ロータリ「上昇」後、20秒間オートブレーキが作動しないとき
(旋回操作がないとき)
 - (c) リニアシフトレバーが「後進」のとき



RTS0092

■オートブレーキの作動

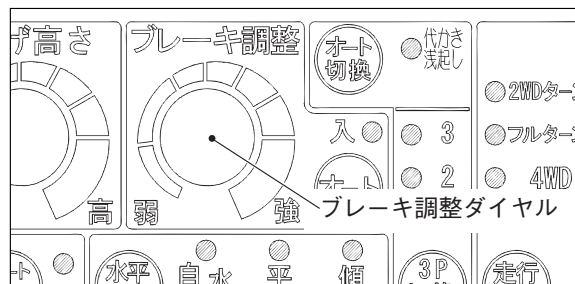
- (1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、自動的に片ブレーキが作動します。
- (2) 旋回終了後、ロータリを降下させるときは、フィンガップレバーまたはコントロールレバーを操作してください。



RTS0093

■ブレーキ調整（Q型式）

- (1) 片ブレーキのブレーキ力を調整することができます。
- (2) 電子油圧操作ボックス内のブレーキ調整ダイヤルを、右に回すとブレーキ力は強くなり、左に回すとブレーキ力は弱くなります。
- (3) 調整の目安を下表に示します。



ほ場条件	ダイヤル位置	旋回径	旋回跡
乾田 未耕うん地	「ブレーキ調整」の 「強」	小さくなります	地面が軟らかい場合は かなり荒れます
畑地 湿田	「ブレーキ調整」の 「弱～中程」	ブレーキ力が弱いほど 旋回径は大きくな ります	ブレーキ力が弱いほど 荒れにくくなります。
湿田 超湿田	「ブレーキ調整」の 「弱」	大きくなります	

補 足

- ブレーキ力はダイヤルを「ブレーキ調整」の「強」にしても、ほ場条件によってはタイヤがロックしない場合があります。
- 高速での走行時は、オートブレーキは作動しないようになっていますが、走行・作業切換ダイヤルは「走行」位置にすることを心がけてください。
- オートブレーキはステアリングホイール（ハンドル）の回転速度にも連動しています。曲がったほ場では旋回操作をしなくても、オートブレーキが作動する場合があります。この場合は、電子油圧操作ボックス内のオートブレーキを「切」(ランプ消灯) にしてください。

⚠ 警 告



ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、傾斜地作業やフロントローダ作業等の前輪に荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行(2WD)」または、「4WD」位置にして行ってください。

※ 守らないと、転倒事故の原因となるおそれがあります。

K・S・Q型式の走行・作業切換ダイヤルは、ボリューム方式を使用していますので、部品のバラツキにより、各モードの境目近くではラベルと表示灯が一致しない場合があります。ダイヤルはなるべく各モードの真中位置に合わせ、希望するモードの表示灯が点灯していることを確認してください。

※ 守らないと、転倒事故の原因となるおそれがあります。

7.8 旋回減速（G型式）

ほ場内での高速作業において、旋回するときや、ほ場4隅の切り返し等で走行速度が自動的に遅くなり、ゆっくりと走行できる機能です。

■走行・作業切換ダイヤル

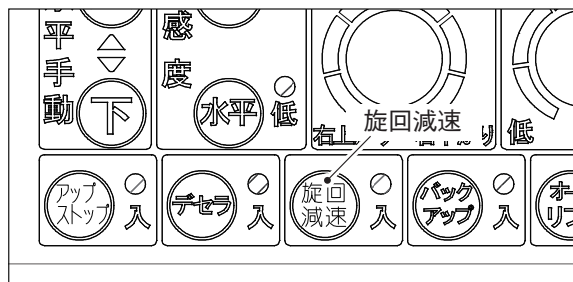
- (1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置で旋回減速が作動します。
電子油圧操作ボックス内の旋回減速をランプ消灯にすることで旋回減速を「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にすると旋回減速「入」に設定が戻ります。
- (2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の「旋回減速」をランプ点灯にして旋回減速を「入」にすると、旋回減速が作動します。メインスイッチを「停止」位置にしても旋回減速が「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回旋回減速が作動できるようになります。
- (3) また、走行・作業切換ダイヤルが「4WD」の位置で電子油圧操作ボックス内の旋回減速を「入」にすることで旋回減速が作動します。



RTS0057

■旋回減速の作動

- (1) オートリフト（ 83ページ）と旋回減速が作動する状態で、ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、オートリフトと旋回減速が作動し、自動的に作業機が上昇し、車速が約20%遅くなります。
- (2) 旋回終了後、フィンガップレバーまたはコントロールレバーを操作して作業機を下降させると、車速が自動的に旋回前の車速に復帰します。



RTS0091C

補 足

- 旋回減速は主変速が「1速」・「2速」位置では作動しません。
- 旋回減速は副変速「高速」位置では作動しないようになっていますが、走行時には走行・作業切換ダイヤルを「走行」位置にしてください。
- 旋回減速はリフトアームの上昇・下降にも連動しています。作業中に作業機を上昇させると車速が遅くなります。作業に支障がある場合には、電子油圧操作ボックス内の旋回減速を「切」（ランプ消灯）にしてください。

7.9 PTOの使いかた

■PTO軸回転速度（S25型式以外）

トラクタのPTO軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で作業をしてください。

PTO変速 レバー		作業内容	回転数 (min ⁻¹) ※定格時					
			RTS25,23	RTS25,23-G	RTS22	RTS22-G	RTS20,18	RTS20-G
正転	1速	ロータリ耕うん	523	543	544	565	523	543
	2速		819	850	815	846	783	813
	3速	うね立	1266	1314	1231	1279	1184	1229
逆転	1速	土寄せ (未耕地耕うん 作業はしないで ください)	505	544	526	566	505	544
	2速		792	852	788	848	757	815
	3速		1224	1317	1190	1281	1145	1232

■PTO変速レバー

⚠ 警告



低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用しないでください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。



作業機に指定されたPTO軸回転速度を遵守してください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

S25型式以外

PTO軸(動力取出軸)の回転速度は、レバー操作により、3段階に変速できます。

「1」位置 …… 荒起こし作業をします。

「2」位置 …… 通常耕起をします。

「3」位置 …… 砕土作業をします。

S25型式

PTO軸(動力取出軸)の回転速度は、レバー操作により、2段階に変速できます。

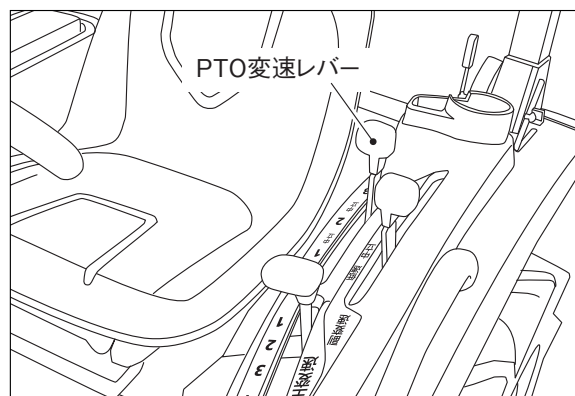
「1」位置 …… 正転：523min⁻¹ 逆転：505min⁻¹

「2」位置 …… 正転：728min⁻¹ 逆転：704min⁻¹

※エンジン定格回転時

補 足

- PTO変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸の回転が完全に停止してから行ってください。
入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。



RTS0045

7. 作業のしかた

■逆転PTO変速

⚠ 警告



逆転でロータリ作業機を使用するときは、車速はできるだけゆっくりとし、エンジン回転を低くしてお使いください。

※ 守らないと、土や小石等が飛散して、周囲の人や作業者に危害を及ぼすおそれがあります。

注意



逆転では既耕地での土寄せ作業以外は絶対に行わないでください。

※ 作業機の破損の原因となります。

使用方法を誤らないでください。

※ トラクタ・作業機の故障の原因となります。

PTO軸の回転方向は逆転させることができます。

- (1) 逆転PTO切換レバーを「逆転」の位置にすると、PTO軸の回転方向が逆転します。
- (2) ほ場の四隅に土がたまった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。

補 足

- 逆転での作業を終えた後、ロータリの爪の増し締めを行ってください。



RTS0095

■アップストップPTOスイッチ（Q型式）

PTO軸を次のような回転状態に選択できます。

(1) 「入」(ランプ点灯)

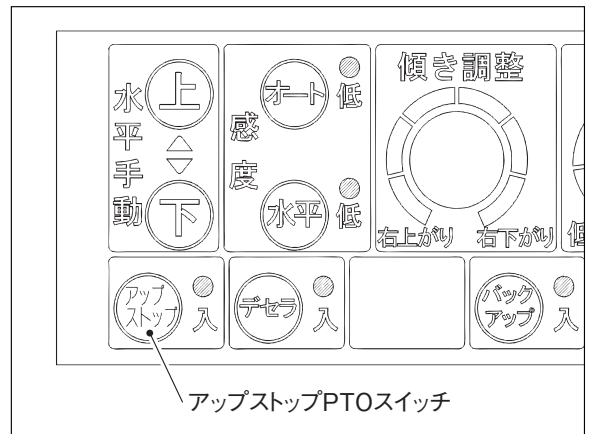
アップストップ機能が作動し、作業機が上昇し始めると、自動的にPTO軸の回転が停止します。

- (a) ブロードキャスター、ドリルシーダー等の作業が楽になります。
- (b) ロータリ作業で、耕うん爪が土中にあるときに回転が停止します。
 - ・ 耕うん溝が小さくなり枕地の凸凹が少なくなります。
 - ・ 爪に付着した泥、ワラが飛散しにくくなります。

- (c) ユニバーサルジョイントの保護および騒音防止ができます。

フィンガップレバー、またはコントロールレバーを「下げ」にすると、すぐにPTOは回転し始めます。

また、クラッチペダルをいっぱい踏み込めばPTO軸の回転は停止します。



RTS0096

(2) 「切」(ランプ消灯)

アップストップPTOは作動しません。

補 足

- フィンガップレバー/ポジションレバーによる操作、作業機の慣性により、「入」「切」のタイミングが異なる場合があります。

⚠ 注 意



PTOレバーが入っていて、アップストップPTOスイッチが「入」のとき、作業機を降ろすとPTO軸が回り始めます。トラクタの回りには人を近づけないでください。

※ 思わぬ事故の原因になるおそれがあります。



必要のないときは、必ずPTO変速レバーを中立にしてください。

※ 守らないと、誤操作等による思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

7. 作業のしかた

7.10 3点リンク

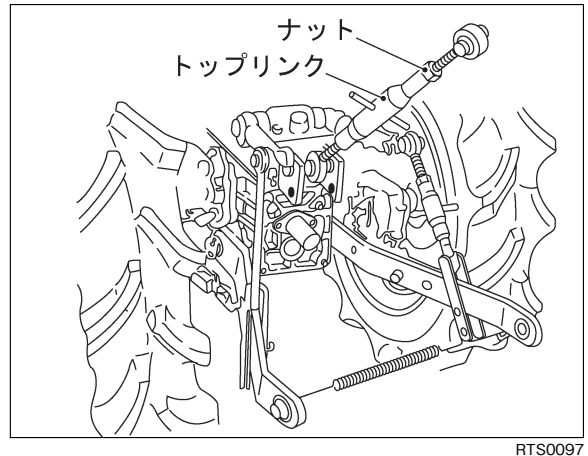
このトラクタの3点リンクは、JIS 0 型のリンクに対応しています。作業機は正しく取り付け、調整してください。

■トップリンク（注文部品208ページ参照）

- (1) トップリンクの取り付け位置（穴）は、作業機の種類によって異なります。
作業機の取扱説明書の指示に従ってください。
- (2) トップリンクの長さを伸縮させ、作業機の傾きを調整してください。

補 足

- 一般作業機（標準3Pロータリ等）を取り付けの場合は、トップリンクマストが、トラクタ側の部材（リヤフレーム等）と干渉する場合がありますので、注意して上げてください。干渉する場合は、上げ位置の規制を行ってください。（ 99ページ）



■チェックチェーンの調整

ロワーリンクの左右の振れ幅をチェックチェーンで調整してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ	5～6 cm左右に動く程度に張り、スナップピンで回り止めをする。
ロータリハロー	ゆるみのない程度に張り、スナップピンで回り止めをする。

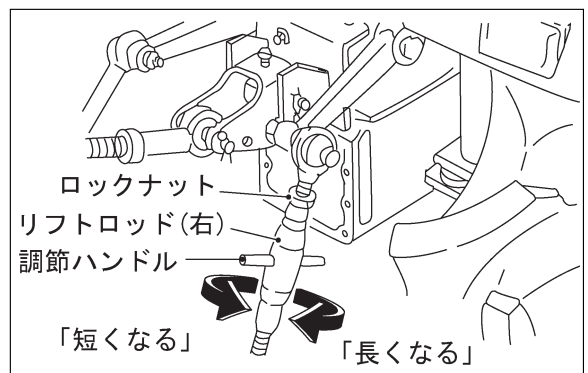


補 足

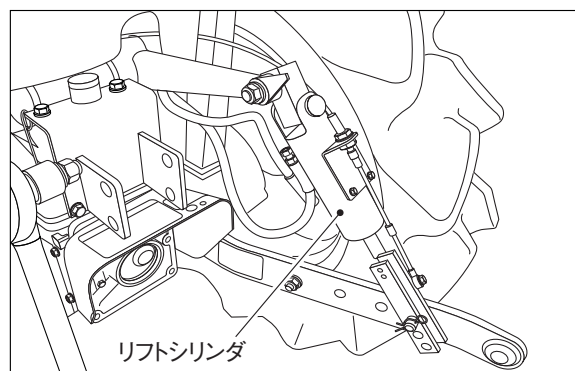
- 3点リンク用作業機を装着したとき、チェックチェーン、および、ロワーリンクが後輪と干渉するおそれがある場合は、後輪輪距を広げてください。

■リフトロッドの調整

- (1) 機械式（K・S25型式）の場合
リフトロッド（右）の調節ハンドルで、左右のロワーリンクの高さを調整してください。調整後は、調節ハンドルをロックナットで固定してください。



- (2) 自動水平式 (K・S25型式以外) の場合
 水平手動スイッチを作動し、左右のロワーリンクの高さを調整してください。
 スイッチから手を離すと、その位置でリフトシリンダの作動が止まります。
 ( 106ページ)



RTS0100

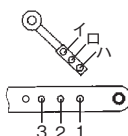
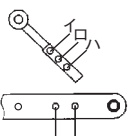
■リフトロッド取り付け穴位置

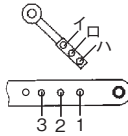
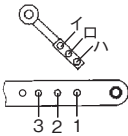
リフトロッドのロワーリンクへの取り付けは、右図のように、一般作業機、特3Pロータリの場合と使い分けてください。

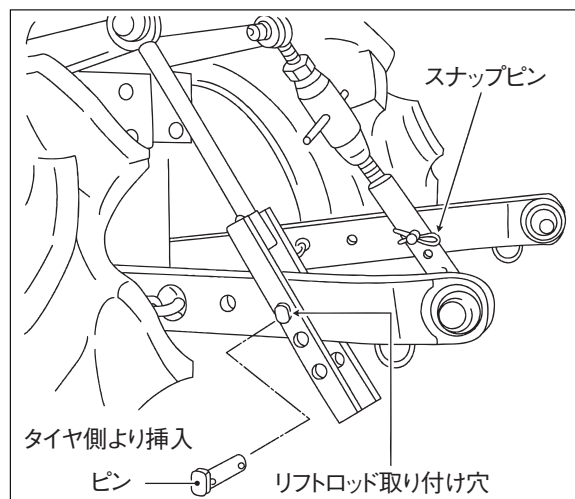
ピンはタイヤ側から取り付けてください。

補 足

- 一般作業機 (標準3Pロータリ等) を取り付けの場合は、トップリンクマストが、トラクタ側の部材 (リヤフレーム等) と干渉する場合がありますので、注意して上げてください。干渉する場合は、上げ規制を行ってください。( 99ページ)

RTS 22・ 20・ 18		特3Pロータリ (RAS)	1-□
		特3Pロータリ (RBS)	2-□
		一般作業機	3-□ 3-ハ
RTS 25・ 23		特3Pロータリ (RAS・RBS)	1-イ
		一般作業機	2-□ 2-ハ

RTS 22C・ 20C		特3Pロータリ (RAS・RBS)	2-□
		一般作業機	3-□ 3-ハ
RTS 25C・ 23C		特3Pロータリ (RAS・RBS)	2-イ
		一般作業機	3-□ 3-ハ



RTS0101

7.11 作業機

7.11.1 作業機の取り付け・取り外し

作業機の取り付け・取り外しは、作業機の取扱説明書に従い、行ってください。

警告



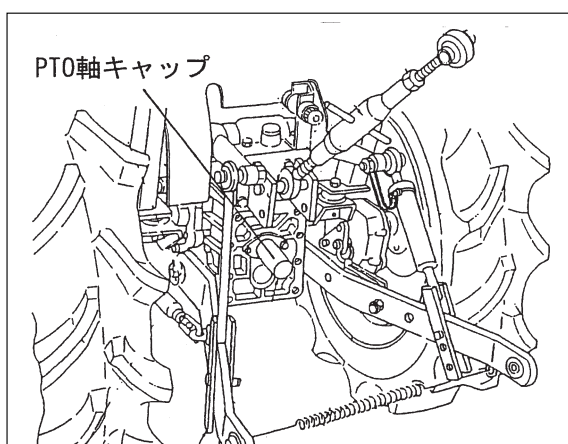
作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間立たないでください。

※ トラクタと作業機にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機を外した状態で、PTO軸を回転させないでください。また、PTO軸を使わない場合は、PTO軸キャップを取り付けてください。

※ 守らないと、手や衣服が軸に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



RTS0102

作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。

※ 守らないと、転倒したり、転落するおそれがあります。



作業機の取り付け・取り外しは、平たんで地面の硬い場所で行ってください。

※ 守らないと、機械が急に動いたり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

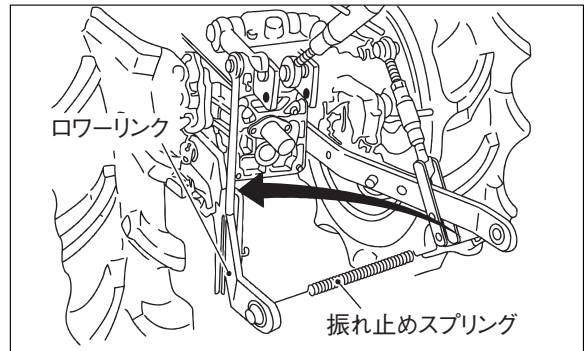
直装タイプの作業機を取り付け・取り外しするとき、および、中セキ純正クイック5Pヒッチ、作業機メーカーのオートヒッチを取り付け・取り外しをするときは、必ずエンジンを停止してください。

特にPTO軸とユニバーサルジョイントを取り付け・取り外しをするときは、PTO変速レバーを中立にしてください。

※ 守らないと、手や衣服が軸に巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.11.2 ロワーリンク振れ止めスプリング

- (1) 作業機を使用しないときは、左右のロワーリンクの間に振れ止めスプリングを掛け、ロワーリンクがタイヤ・クローラに当たらないようにしてください。
- (2) 作業機を装着したときは、ロワーリンク（左）前方のフックを利用し、スプリングを収納してください。



RTS0103

7.12 バンパウエイトの取り付け（注文部品）

⚠ 警告



バンパウエイトを装着しても前輪荷重がトラクタ総重量の20%以下になる作業機は装着しないでください。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



バンパウエイトは純正品を使用してください。

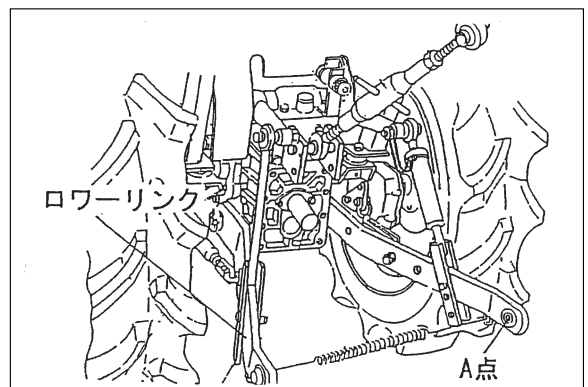
※ 守らないと、バンパウエイトが確実に固定されず、脱落します。

前輪荷重が20%以下になるのは、ロワーリンクA点での荷重が下表の数値以上のときです。

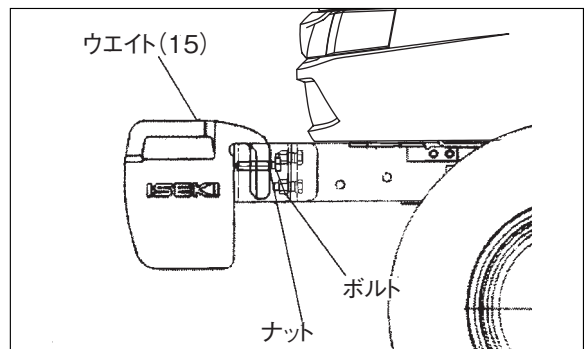
	前輪荷重が20%以下となる ロワーリンクA点荷重
RTS22・20・18	380 Kg以上
RTS25・23	425 Kg以上

バンパウエイトの必要枚数は使用する作業機の実用説明書を参考にするか、「お買いあげ先」にご相談ください。

標準装備のバンパには、ウエイトを最大4枚まで装着可能です。（ 208ページ）



RTS0104



RTS0105

7.13 けん引作業について

警告



けん引作業を行う場合は、必ず純正品のトレーラヒッチ（ 208ページ）を使用してください。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

50型式はけん引作業はできません。

7.14 電子油圧装置の使いかた

補 足

- 電子油圧装置の性能を発揮するためには、十分な暖機運転を行って使用してください。
(53ページ)

警告

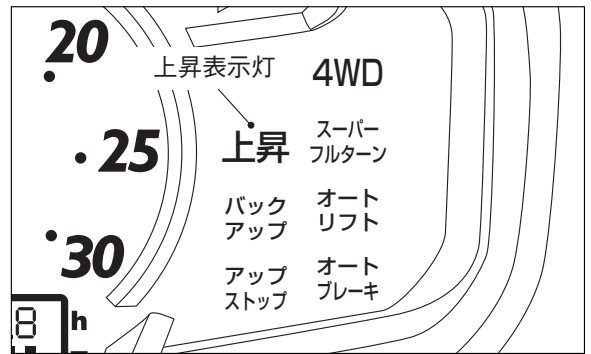


作業中、トラクタから離れるときは必ず作業機を下げて、エンジンを停止してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.14.1 作業機昇降装置の使いかた

■準備状態

- (1) このトラクタの電子油圧装置では、エンジン始動時等では、制御をすぐに開始せず「準備状態」になります。
エンジン始動時やセンサカプラを抜き差ししたときに、油圧装置が昇降動作することを防止しています。
- (2) このとき、上昇表示灯が点滅しています。



補 足

下記の場合、準備状態になります。

- エンジンを始動したとき
- 耕深調整ダイヤルを耕深調整範囲から「切」または、「切」から耕深調整範囲に切り換えたとき
- リヤカバーセンサのカプラを抜き差ししたとき
- リフトアーム角センサのカプラを抜き差ししたとき
- センサチェック用「ヒューズ」を抜き差ししたとき

■準備状態の解除

- (1) コントロールレバーを「上げ」か「下げ」方向に操作し、コントロールレバー操作位置と作業機高さが一致したとき、ブザーが「ピッ」と鳴り、準備状態が解除できます。
- (2) 準備状態が解除され、上昇表示灯の点滅が止まります。

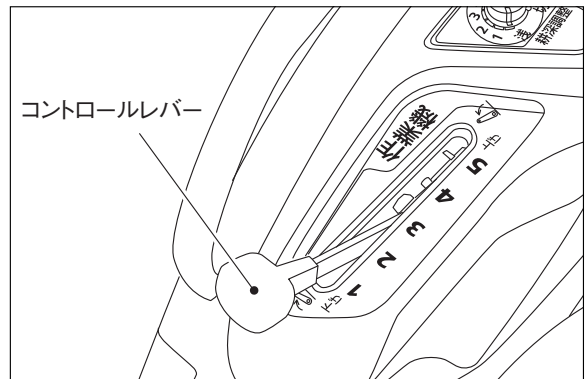
7. 作業のしかた

■コントロールレバー

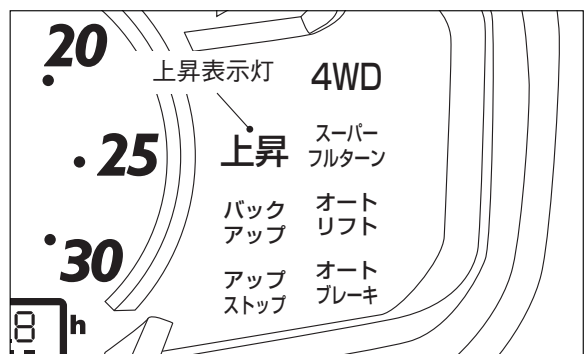
コントロールレバーは、作業機を自由に「上げ」「下げ」できる装置です。途中でレバーを止めると作業機もその位置を保つポジションコントロールができます。

使いかた

- (1) レバーを後方いっぱいまで引く
作業機 …… 上げ位置設定高さまで上がる
「上昇」表示灯 …… 点灯
- (2) レバーを前方いっぱいまで倒す
作業機 …… 下がる。
(フリーフローティングの状態になります。)
「上昇」表示灯 …… 消灯
- (3) レバーを途中で止める
作業機 …… ポジションコントロールの位置で、停止する。
「上昇」表示灯 …… 消灯



RTS0107



RTS0106

■フィンガップレバー・フィンガップスイッチ

警告



フィンガップレバー・フィンガップスイッチはほ場内での作業時のみ使用してください。
ほ場以外ではコントロールレバーを使用してください。

※ これを怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意



あぜ際の作業をするために作業機を降ろすときは、コントロールレバーでゆっくり下げてください。

※ フィンガップレバー・フィンガップスイッチで下げると^{あぜ}畦と作業機が干渉し、^{あぜ}畦や作業機が破損するおそれがあります。

N型式以外

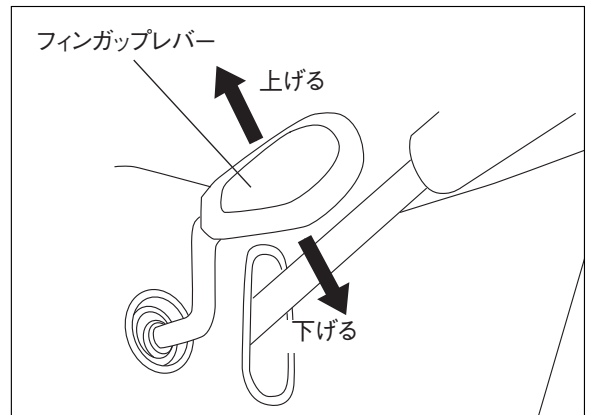
フィンガップレバーをワンタッチで操作するだけで、作業機上昇・下降ができます。

(1) レバーを上げる

- 作業機 …… 上げ位置設定高さまで上がる。
- 上昇表示灯 …… 点灯

(2) レバーを下げる

- 作業機 …… コントロールレバー位置まで下がる。
- 上昇表示灯 …… 消灯



RTS0108

N型式

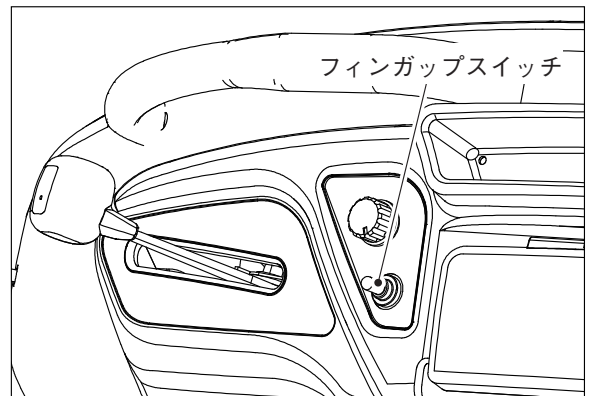
フィンガップスイッチをワンタッチで操作するだけで、作業機上昇・下降ができます。

(1) スwitchを後方へ引く

- 作業機 …… 上げ位置設定高さまで上がる。
- 上昇表示灯 …… 点灯

(2) スwitchを前方へ倒す

- 作業機 …… コントロールレバー位置まで下がる。
- 上昇表示灯 …… 消灯



RTS2001

補 足

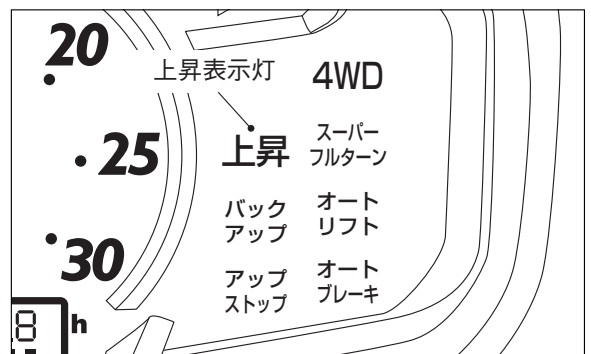
- 上昇表示灯が点滅中の準備状態では、フィンガップレバーで作業機の上昇・下降はできません。準備状態の解除をしてください。

(97ページ)

- フィンガップレバーを上げ方向に操作すると、作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によってはトラクタと干渉する場合があります。

特に、作業機を付け換えたときは、コントロールレバーを操作し、作業機をゆっくり上げ、トラクタと干渉しないことを確認してください。

- 最上昇位置でトラクタ干渉する場合は、上げ高さ調整ダイヤルで干渉しない位置に設定してください。(99ページ)



RTS0106

7. 作業のしかた

■油圧降下速度調節つまみ

⚠ 警告



次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。

(1) 道路走行するとき。

(2) ロータリの爪交換、草、ワラ等の除去。(必ず、エンジンも停止してください)

(3) 作業機の点検・調整。(必ず、エンジンも停止してください)

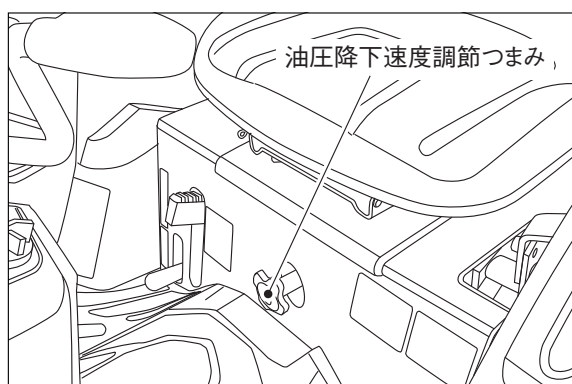
その後、コントロールレバーを下げ方向に動かして、作業機が落下しないことを確認してください。確認後、コントロールレバーは再度後方にいっぱいに引いてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になるおそれがあります。

作業機の降下速度を調節できます。

作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

- (1) 反時計回りに操作すると
作業機は、はやく降ります。
重量が軽い作業機に適用します。
- (2) 時計回りに操作すると
作業機は、ゆっくり降ります。
重量が重い作業機に適用します。
- (3) 時計回りにいっぱいまで操作すると、作業機は
降下しません。(ロックします)



RTS0109

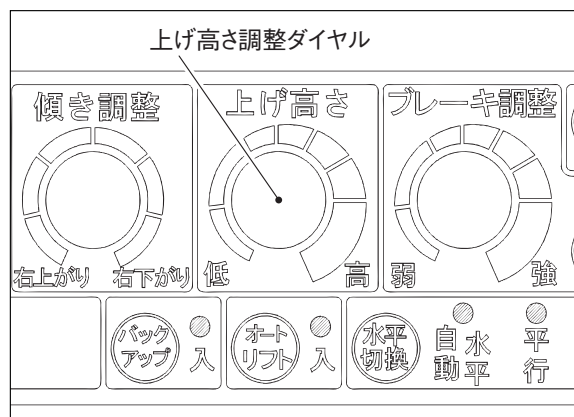
補 足

- ロータリ作業をするときは、降下速度を遅くしてください。
- ブラウ作業をするときは、降下速度を早くしてください。
- ロックするとき、必要以上にノブを回さないでください。ノブが固着してゆるまなくなることがあります。

■上げ高さ調整ダイヤル

コントロールレバーを最上げにして、作業機を最上昇させた位置およびフィンガップレバーで作業機を上げたときや、バックアップで作業機が上がったときの上げ位置を、任意の高さに規制できます。

- (1) ダイヤルを「高」側に回すと、作業機の最上昇位置が高くなります。
- (2) ダイヤルを「低」側に回すと、作業機の最上昇位置が低くなります。



RTS0110

上げ高さ調整ダイヤル	作業機最上昇位置
低い 高い 「高」側に回す	高くなる
低い 高い 「低」側に回す	低くなる

■バックアップスイッチ（K型式以外）

⚠ 警告



ほ場以外では、必ずバックアップスイッチを「切」にしてください。

※ これを怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意



コントロールレバーまたは、フィンガップレバーを操作して作業機を上げてから後進してください。

このバックアップは、リニアシフトレバーを「後進」に操作したときのみ、作業機が自動的に上昇するシステムになっています。リニアシフトレバーが「後進」位置のまま作業機を下げた場合、そのまま後進してもバックアップは作動せず、作業機は下がったままになります。

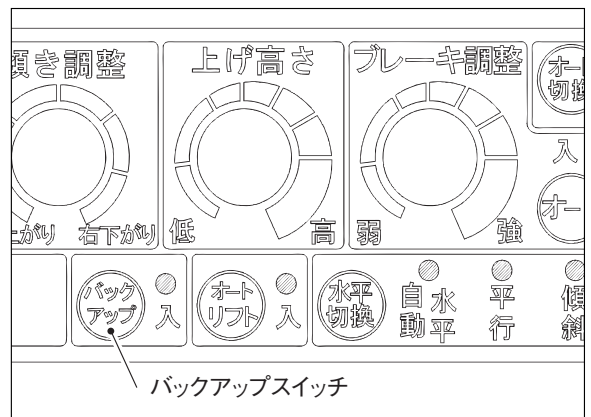
※ 守らないと、機械が破損するおそれがあります。

7. 作業のしかた

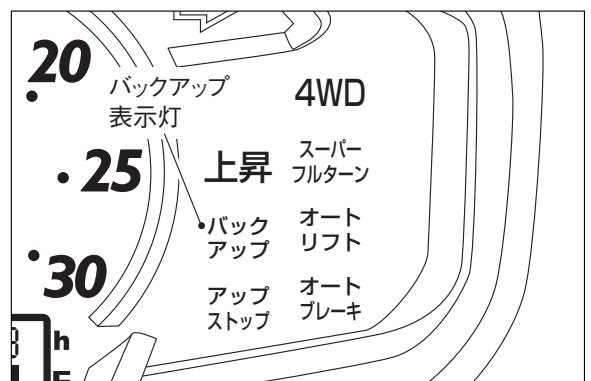
リニアシフトレバーを「後進」の位置にすると、作業機が自動的に上がります。作業機の上げ操作をしないまま後進してしまい、作業機が破損してしまうことを防止します。

- (1) バックアップスイッチを「入」の位置にする、または走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」位置にすると、バックアップが作動可能となります。

バックアップ表示灯が点灯します。



RTS0111

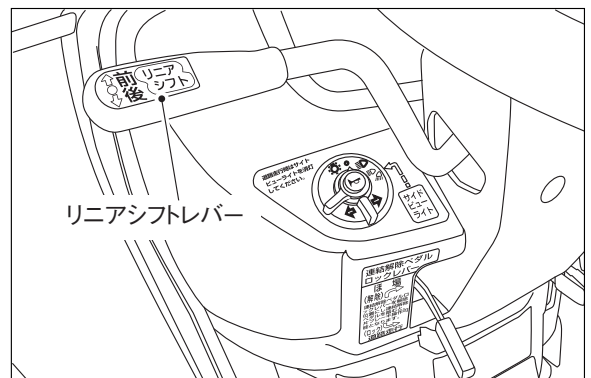


RTS0112

- (2) リニアシフトレバーを「後進」の位置にします。作業機が上げ高さ調整ダイヤル設定位置まで自動的に上がります。
- (3) 作業機を下げる場合は、フィンガップレバーを下げるか、コントロールレバーを一度最上げ位置にします。さらにレバーを下げると作業機が降下します。

補 足

- この機能は、リニアシフトレバーを「後進」の位置にしたときのみ、作業機が上がります。
- リニアシフトレバーを「後進」の位置にしている間、ブザーが鳴ります。バックアップスイッチの切換位置に関係なくブザーは鳴ります。



RTS0113

■上昇表示灯

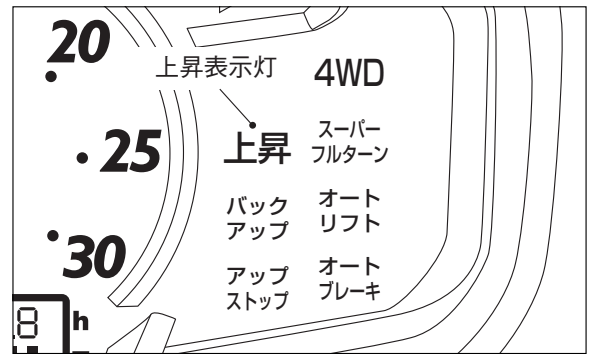
作業機の状態が、上昇ランプの表示状態によってわかります。

点灯 …………… 作業機上昇

消灯 …………… 作業機下降

点滅 …………… 準備状態

準備状態の解除方法は、90ページを参照してください。



RTS0106

7.14.2 自動耕深制御装置の使いかた（S25型式以外）

補 足

- 自動耕深制御装置を十分に機能させるために、作業機を最上げ位置から接地するまでの時間が1～1.5秒程度となるよう、油圧降下速度調節つまみを調整してください。
接地するまでの時間が長すぎると、整地の仕上がりが悪くなります。

■耕深調整ダイヤル

- (1) 自動耕深制御での耕うん深さの調整と、ポジションコントロールへの切り換えができます。
- (2) このダイヤルで希望の耕うん深さを設定してください。
「深」…………… 耕うん深さが深くなります。
「浅」…………… 耕うん深さが浅くなります。
「切」…………… 自動耕深制御は作動しません。
ポジションコントロールになります。



RTS0114

補 足

- 耕深調整範囲から「切」、または「切」から耕深調整範囲に切り換えたときは、「準備状態」になります。
「準備状態」のときは、自動耕深制御は作動しません。
「準備状態」を解除して、作業をしてください。(95ページ)
- うね立て作業等ロータリのリヤカバーを上げたまま作業するときや、尾輪を付けて作業する場合は、耕深調整ダイヤルを「切」にしてください。

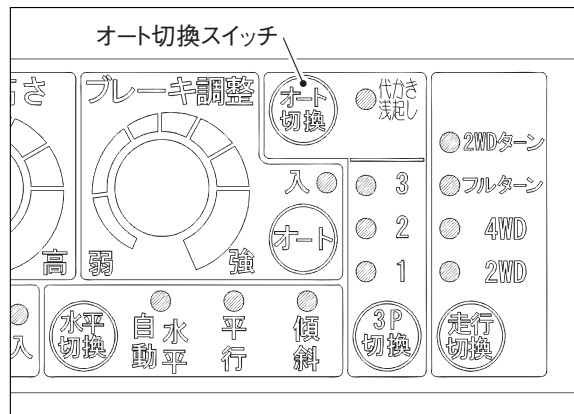
■オート切換スイッチ

(1) オート切換スイッチを1回押すごとに下記の状態に切り換わります。

「標準」消灯……自動耕深制御装置が作動します。

「代かき・浅起し」点灯…自動耕深制御装置が作動します。

代かきや浅起し作業に有効で、耕深設定が浅いときに、作業機をコントロールレバーで吊ったような感じでリヤカバーオート制御を行います。



RTS0115

補 足

- 耕深調整範囲から「切」、または「切」から耕深調整範囲に切り換えたときは、「準備状態」になります。

「準備状態」のときは、自動耕深制御は作動しません。

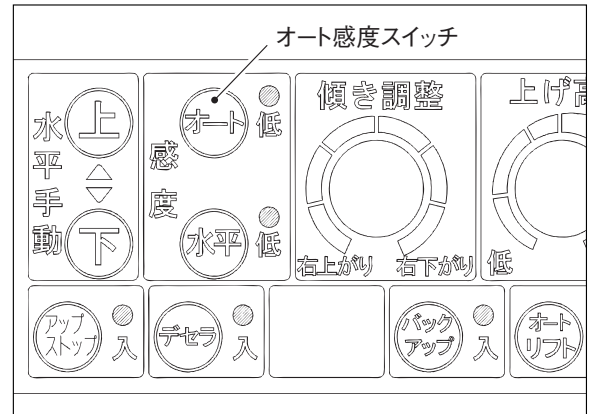
「準備状態」を解除して、作業をしてください。(95ページ)

- 「代かき・浅起し」点灯位置で耕深設定が特に浅いときにデセラ作動位置のほうが深くなって、デセラが作動しなくなり整地の仕上がりが悪くなることがあります。

デセラ作動位置の調整は「お買いあげ先」へお問い合わせください。(103ページ)

■オート感度スイッチ

- (1) オート感度スイッチを1回押すごとに自動耕深制御の動作感度が切り換わります。
「低」消灯時 …… 一般的な作業で使用します。
「低」点灯時 …… ロータリの昇降動作が鈍くなります。
- (2) 浅起こしやロータリがハンチングする（細かく上下を繰り返す）ようなとき、「低」にするとスムーズに作業ができます。

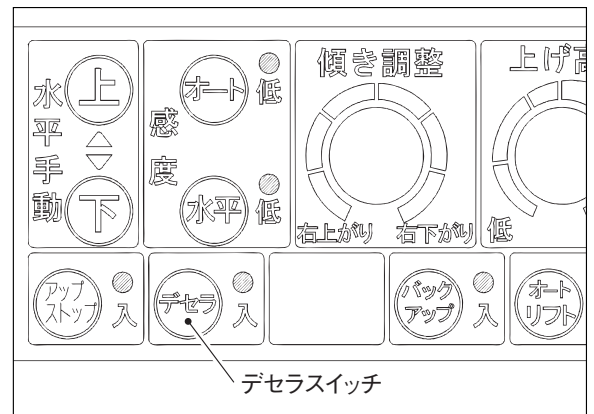


RTS0116

■デセラ機構

自動耕深制御がスムーズに作動するよう、ある一定の位置からロータリの降下速度が遅くなるようにした機構です。

- 「入」点灯時 …………… デセラ機構が作動します。
「入」消灯時 …………… デセラ作動スイッチを1回押すと、ランプが消灯し、デセラ機構も作動しません。



RTS0117

■デセラ作動位置調整

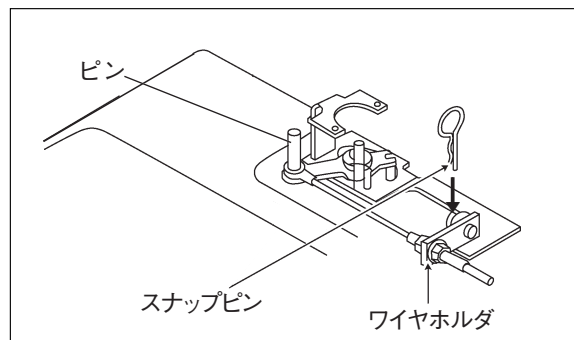
- (1) ㄱセキ純正ロータリを装着した場合、工場出荷時のデセラ機構がきき始める位置は、ロータリの耕うん爪が接地前5～10cm程度範囲に設定しています。
- (2) 他の作業機を装着したとき等、デセラ作動位置を変更することができます。
「お買いあげ先」へお問い合わせください。

補 足

- 自動耕深制御装置を十分に機能させるために、作業機を最上げ位置からデセラ作動位置までの時間が1～1.5秒程度となるよう、油圧降下速度調節つまみを調整してください。
接地するまでの時間が長すぎると、整地の仕上がりが悪くなります。
- デセラ作動位置の設定が悪いと、自動耕深制御の性能が十分発揮できず、整地の仕上がりが悪くなることがあります。デセラ作動位置の調整は「お買いあげ先」へお問い合わせください。

■ケーブル（オート）の取り付け

- (1) シート右下のワイヤ取付部にロータリに装着されているケーブル（オート）のワイヤホルダを差し込み、スナップピンで固定してください。ワイヤの先端金具をセンサアームのピンに取り付けてください。
- (2) エンジンを始動し、コントロールレバーで一度ロータリを最上げ位置まで上昇させたあとに、レバーでロータリを下げます。リヤカバーの上げ・下げに応じて、ロータリが上がり・下がりすることを確認してください。



RTS0119

■ケーブル（オート）の取り外し

ロータリを外す場合は、スナップピンを抜いてケーブル（オート）を取り外すと同時に、ワイヤホルダを取り外してください。

補 足

- クイックヒッチ（D型式）を装着した作業機については、操作レバーの操作でワンタッチに着脱ができます。

7.14.3 自動水平制御装置の使いかた（K・S25型式以外）

トラクタが左右方向に傾いても、作業機の水平姿勢を一定に保つシステムです。

水田、傾斜地を問わず、均平性がよくなります。

■走行・作業切換ダイヤル

走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」にすると、自動水平制御装置が作動できます。

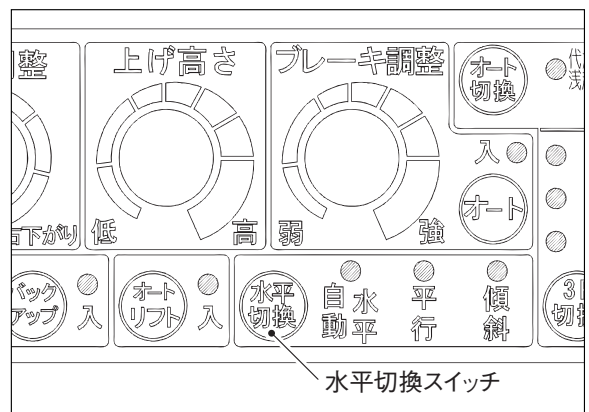
「耕うん」以外の位置では、電子油圧操作ボックス内の水平切換スイッチによって、「入」「切」を選択できます。



RTS0057

■水平切換スイッチ

- (1) 走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」にするだけで、自動的に水平切換スイッチランプの「自動水平」が点灯し、自動水平制御装置が作動可能な状態になります。
- (2) スイッチを1回押すごとに下記の状態に切り換わります。
 - (a) 「自動水平」点灯
自動水平制御装置が作動し、トラクタ本体の傾きに関係なく、傾き調整ダイヤルで設定した一定角度に作業機を保ちます。
 - (b) 「傾斜」点灯
傾斜地面に対して常に平行になるように作業機を保ちます。
 - (c) 「平行」点灯
作業機がトラクタ本体と平行になります。
 - (d) 消灯
水平手動スイッチにより、作業機をトラクタ本体に対し、希望の傾きにすることができます。



RTS0120

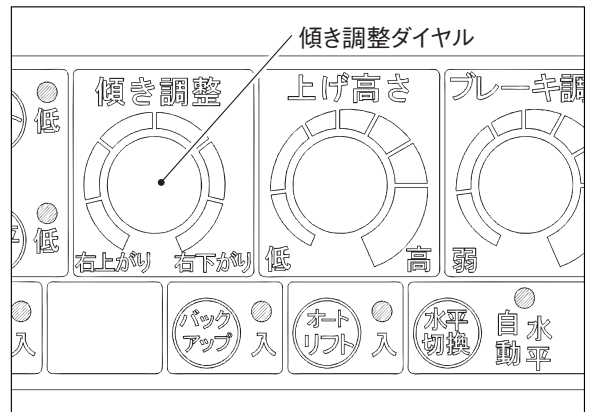
7. 作業のしかた

■傾き調整ダイヤル

水平切換スイッチが「自動水平」のとき、作業機の傾きを任意に設定できます。

「右下がり」… 作業機が右下がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。

「右上がり」… 作業機が右上がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。



RTS0121

■水平手動スイッチ

注意



トラクタと干渉する場合は、上げ高さ調整ダイヤルで干渉しない位置に設定してください。

※ 守らないと、作業機を最上げ位置にし、かつ水平装置が「右上げ」になったとき、作業機によってはトラクタと干渉し破損するおそれがあります。

水平切換スイッチが消灯しているとき、

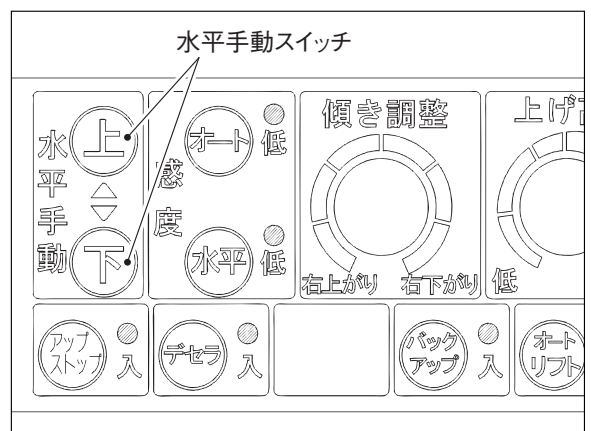
(1) 作業機を手動で、左右に傾斜させることができます。

「下」…………… 作業機が右下がり方向に動きます。

「上」…………… 作業機が右上がり方向に動きます。

(2) 水平手動スイッチを止めた位置で傾きが止まります。

作業機取り付け時等に使用すると便利です。



RTS0122

■水平感度スイッチ

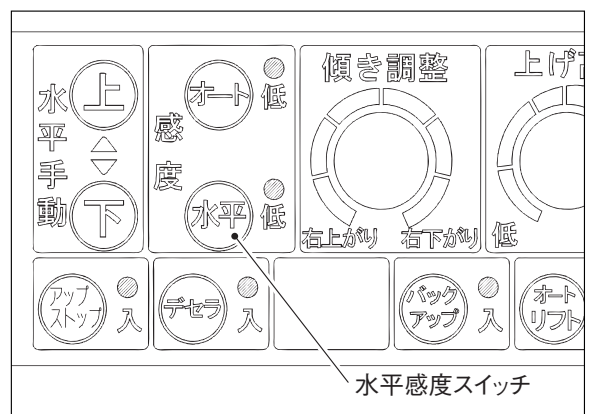
(1) 自動水平制御の動作感度が切り換わります。

「低」消灯時 …… 一般的な作業で使います。
(標準)

「低」点灯時 …… 自動水平制御の動作が鈍くなります。

(2) 作業機が左右にハンチングする（細かく上下を繰り返す）ようなとき、「低」にするとスムーズに作業ができます。

おもに、代かき作業で使います。

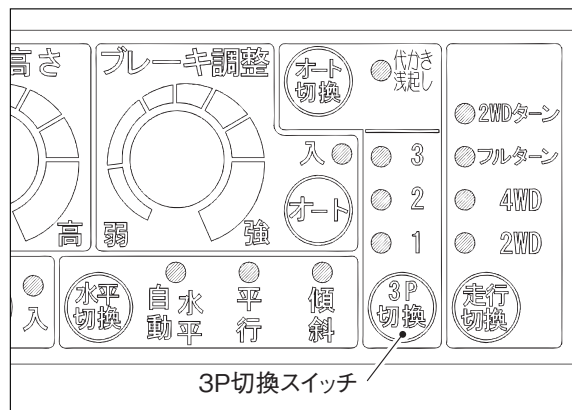


RTS0123

■3P切換スイッチ

作業機の取り付け方によって、切り換える必要があります。

スイッチを1回押すごとに切り換わります。



RTS0124

	RTS22・20・18	RTS25・23
「1」点灯時	・ 中セキ純正 クイック特殊5Pロータリ (RAS-D型) の場合	・ 中セキ純正 クイック特殊5Pロータリ (RAS・RBS-D型) の場合
「2」点灯時	・ 中セキ純正 直装特殊3Pロータリ (RAS) の場合	・ 中セキ純正 直装特殊3Pロータリ (RAS・RBS-S型) の場合
「3」点灯時	・ カテゴリO規格の一般作業機の場合 中セキ純正 特殊3Pロータリ (RBS-S・D型) の場合	・ カテゴリO規格の一般作業機の場合

補 足

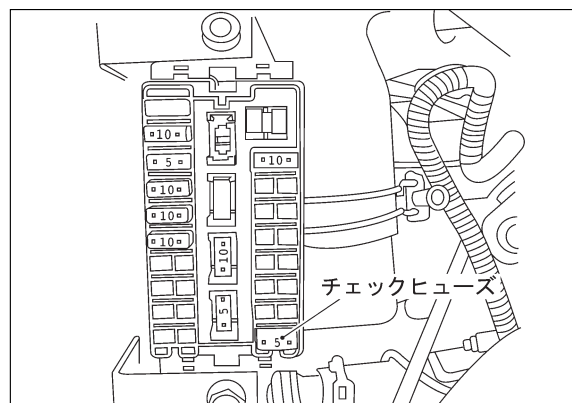
- 3P切換を適正に行わなかった場合、水平制御は作動しますが、精度が悪くなります。
必ず、取り付け作業機にあった位置に切り換えてください。

7.15 チェックヒューズの使い方

このヒューズを外すと、水平油圧装置のスイッチやセンサ類の故障や、配線の外れをチェックすることができます。詳細は「お買いあげ先」にご相談ください。

補 足

- チェックヒューズが外れていると、電気制御装置が作動しません。必ずチェックヒューズをつないで操作してください。



RTS0125

7.16 全面マルチ制御装置の使い方（WW型式）

全面マルチ作業機を装着した場合に、ダブルセンサで独自の制御を行い、うねをきれいに作ります。

補 足

- 電子油圧装置の性能を発揮するためには、十分な暖気運転を行って使用してください。
- 以下に説明してある内容以外は「7.13 電子油圧装置の使いかた」(95ページ) を参照してください。

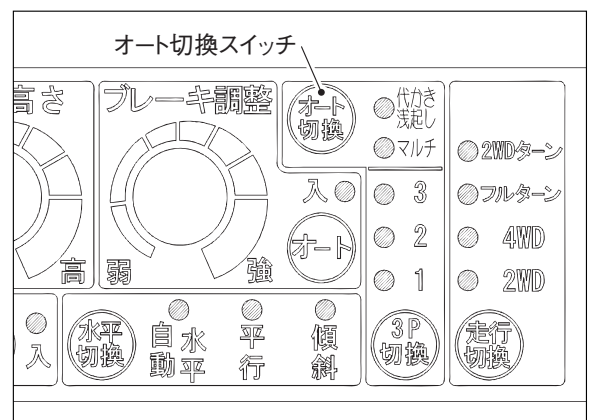
■オート切換スイッチ

オート切換スイッチを1回押すごとに下記の状態に切り換わります。

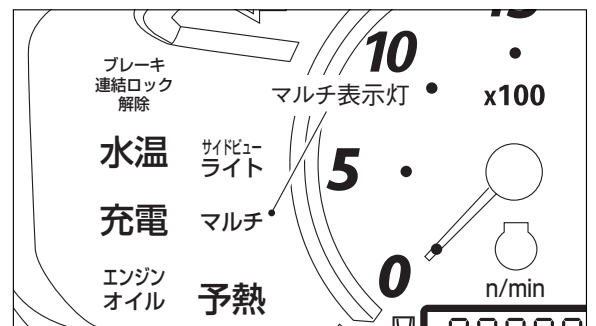
「標準」消灯 …………… 自動耕深制御装置が作動します。

「代かき・浅起し」点灯 …… 代かき・浅起し作業に有効な自動耕深制御装置が作動します。

「マルチ」点灯 …………… 全面マルチ作業機からの信号を使用する全面マルチ制御装置が作動します。メーターパネル内のマルチ表示灯が点灯します。



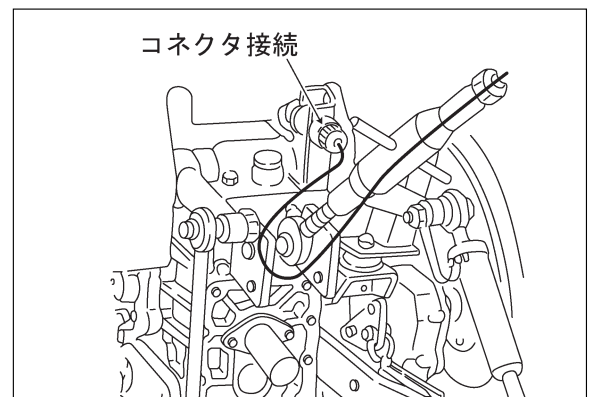
RTS0263



RTS0264

■作業機のセンサの接続

全面マルチ作業を行うときは、作業機にセンサを取り付け、ハーネスをトラクタ側のハーネスと接続してください。



RTS0265

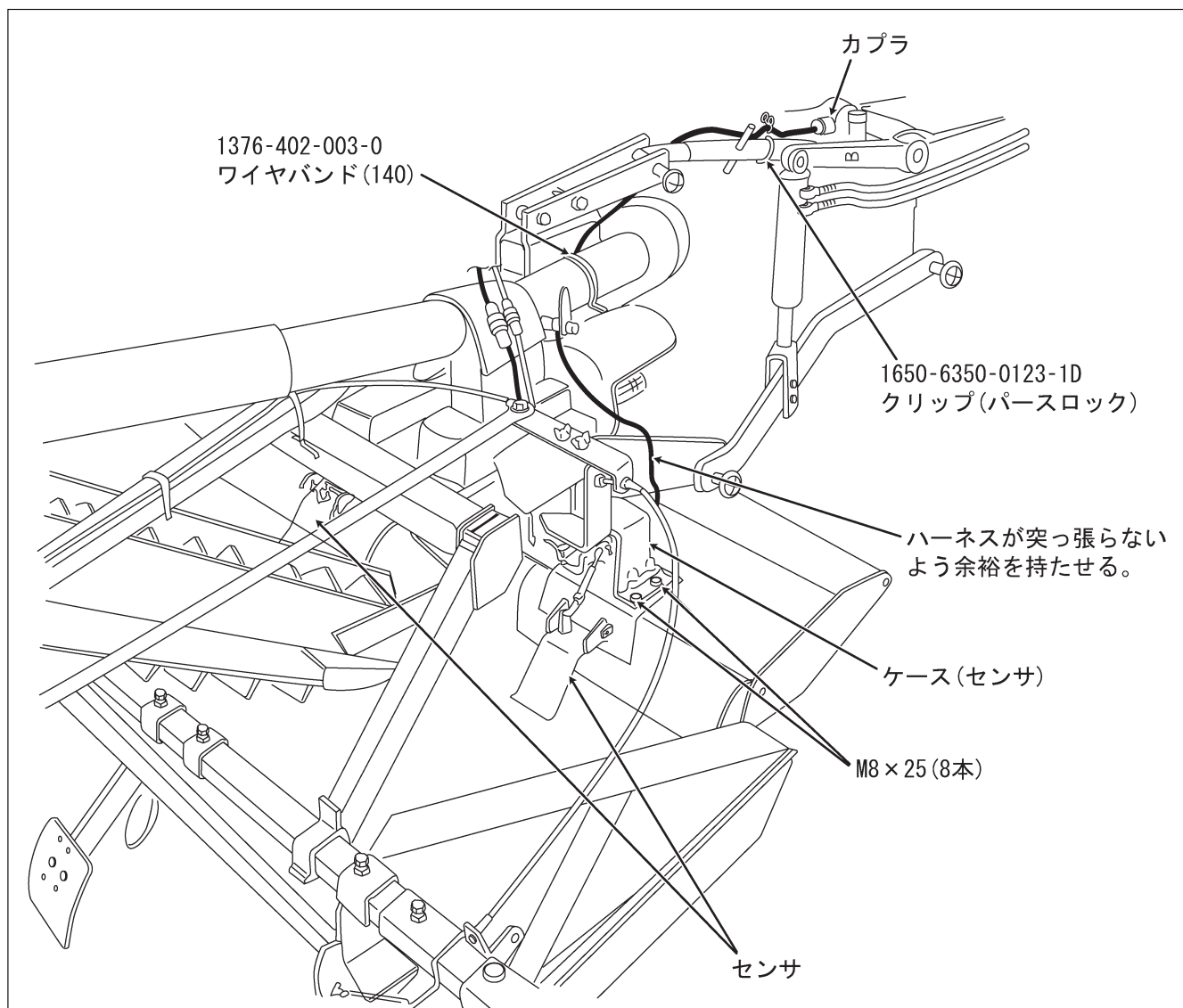
■全面マルチ作業機

注 意



トラクタから作業機を外す場合は、必ずカプラを抜いてください。また、カプラにはゴムキャップを取り付け、土やホコリが入らないようにしてください。

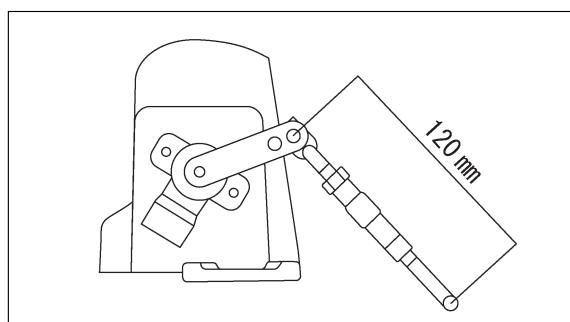
※ 守らないと、部品の破損につながります。



RTS0265

■全面マルチ作業機のロッド長

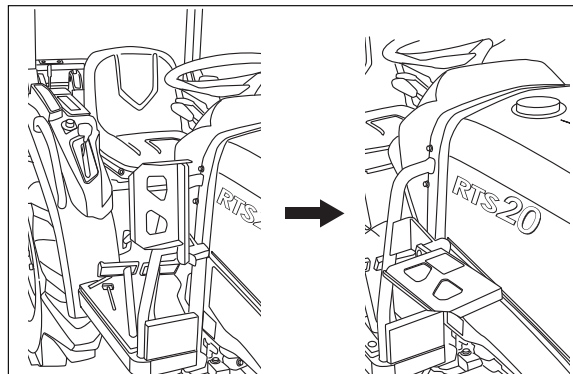
全面マルチ作業機のロッド長は出荷時に120mmにしてあります。調整は不要です。



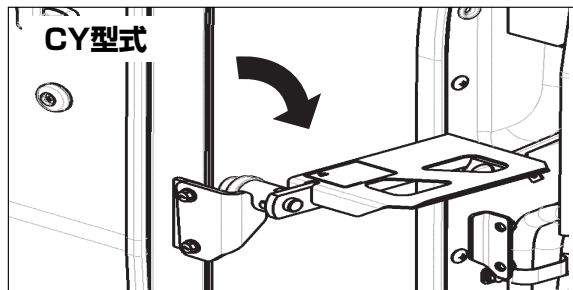
RTS0265

7.17 燃料載せ台（給油スタンド）の使い方

- (1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作し、前輪を直進状態（真っ直ぐ）にします。
- (2) 燃料載せ台（給油スタンド）を下方向に回転させます。
- (3) ピンが溝に確実に入り込んだことを確認してください。
- (4) 燃料容器（ポリタンク容器）を静かに置いて給油をしてください。
- (5) 収納するときは、握り部をつかんで外側に引っ張り、ピンが溝からはずれてから下方向に回転させ、カチッとロックする位置で止めてください。



RTS0126



RTS0127

⚠ 警告



燃料置き台（給油スタンド）の上に乗らないでください。

※ 守らないと、傷害事故やトラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

注意



走行時は折りたたんで固定してください。

※ 守らないと、トラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

8. 安全キャブの各装置について

8.1 安全キャブ装置

注 意

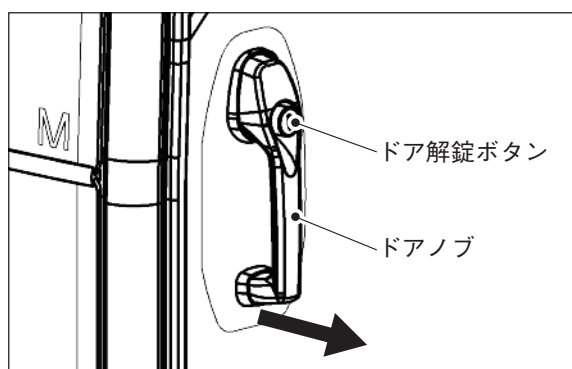


ガラスの取り扱いはいねいに行ってください。
安全キャブ内には物を載せないでください。
※ 破損し、傷害事故を起こすおそれがあります。

8.1.1 ドアの開けかた

■車外から

ドア解錠ボタンを押し込み解錠し、ドアノブを引いてドアを開けます。



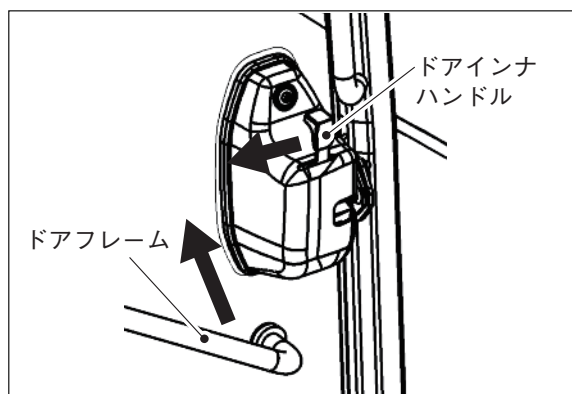
RTS0128

■車内から

ドアインナーハンドルを手前に引いて解錠し、ドアフレームを外側へ押しドアを開けます。

補 足

- 装着した作業機が、ドアと干渉するおそれがある場合は、1段階のみドアの開き量を狭くすることができます。
詳細は、「お買いあげ先」までご相談ください。



RTS0129

8.1.2 ドアの閉めかた

ドアノブ、または、ドアフレームをにぎり、ゆっくりと閉めます。

⚠ 注 意



ドアを閉めるときは、手等を挟む可能性があるため十分注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

注 意



ドアを開いたまま、もしくは、半ドアの状態では道路走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、ドアが不意に開いたり、ドアの破損を引き起こすおそれがあります。

8. 安全キャブの各装置について

8.1.3 乗り降りのしかた

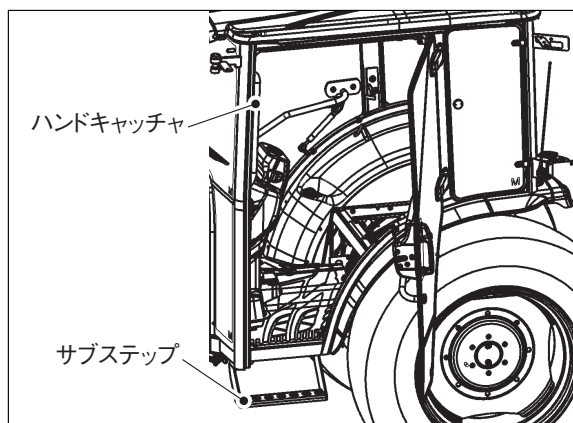
注 意



乗り降りするときに、ドア開閉ダンパに荷重をかけないでください。

※ 守らないと、ダンパが変形し、ドアの破損等を引き起こすおそれがあります。

乗り降りする際は、ハンドキャッチャーに手をかけ、サブステップに確実に足を乗せてください。



RTS0130

! 注 意



ドアにぶらさがらないでください。

※ 守らないと、ドアの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ドアの作動範囲以上に無理にドアを押し開けないでください。

※ 守らないと、ドアの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

8.1.4 ドアの施錠と解錠

(1) キーをドアロック部に差し込み、反時計回りに90°回すと、施錠します。

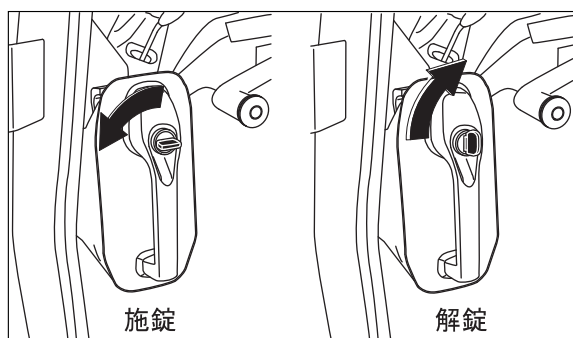
キーは水平位置にして抜き取ります。

(2) 時計回りに90°回すと、解錠します。

キーは垂直位置にして抜き取ります。

補 足

- 安全キャブ内からはドアの施錠と開錠はできません。



TJV0403

注 意



トラクタから離れるときには、盗難防止のため確実に施錠してください。

※ 守らないと、トラクタが盗難されるおそれがあります。

8.1.5 リアガラス

⚠ 注意



リアガラスを開けるときは、後部の状況を確認してください。

※ 守らないと、ウインドの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



リアガラスを閉めるときは、手等を挟む可能性があるため十分注意してください。

※ 守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

注意

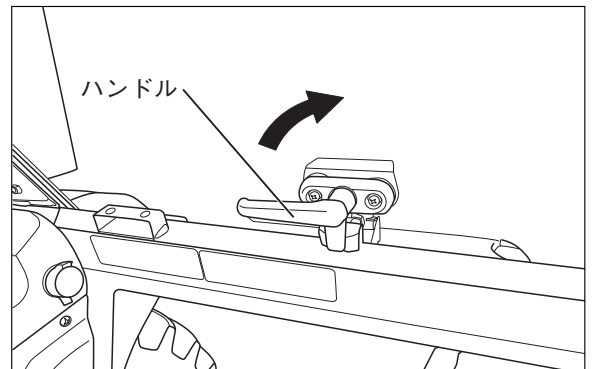


ハンドルをロック位置のままリアガラスを閉めないでください。

リアガラスを開けたまま走行または、作業しないでください。

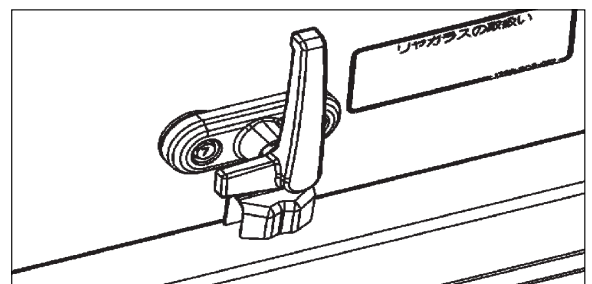
※ 守らないと、ハンドルが破損するおそれがあります。

- 1 ハンドル部を持ち90°回転してロックを解錠します。リアガラスを少し押し出すとダンパの作用によって自動的に開きます。

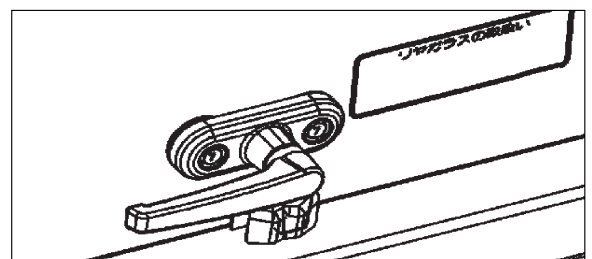


TJV0404

- 2 閉めるときはハンドルを解錠した状態で、ロックが確実にできるところまで前方に引き、90°回転してロックしてください。



TJV0405



TJV0405

8. 安全キャブの各装置について

8.1.6 リヤサイドガラスの開閉

左右後部にあるリヤサイドガラスは開閉することができます。

注 意



道路走行するときは、リヤサイドガラスを閉め確実にロックしてください。

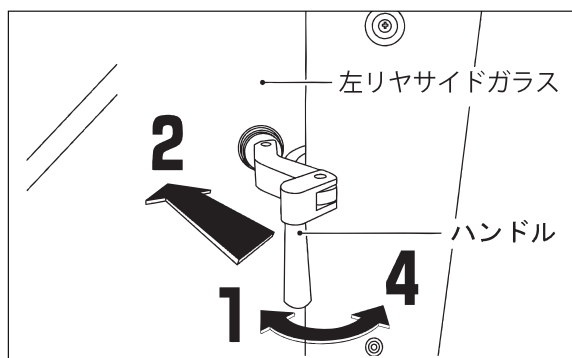
※ 守らないと、リヤサイドガラスが破損するおそれがあります。

1 リヤサイドガラスを開けるときは、ハンドルを引きロックを解除します。

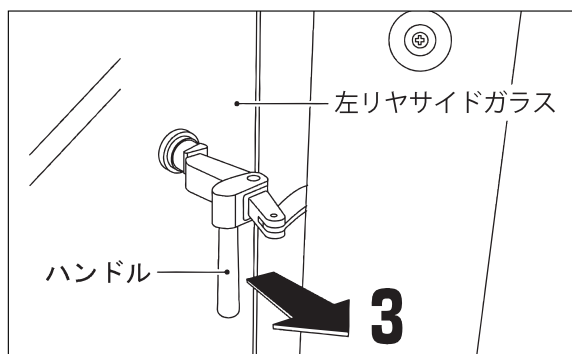
2 次にハンドルを外へ押し込めば、リヤサイドガラスは開いた状態で固定できます。

3 リヤサイドガラスを閉じるときは、ハンドルを持ち、ガラスを手前に引きます。

4 ハンドルを矢印方向へ回し、確実にロックしてください。



TJV0407



TJV0408

8.1.7 ルームランプ

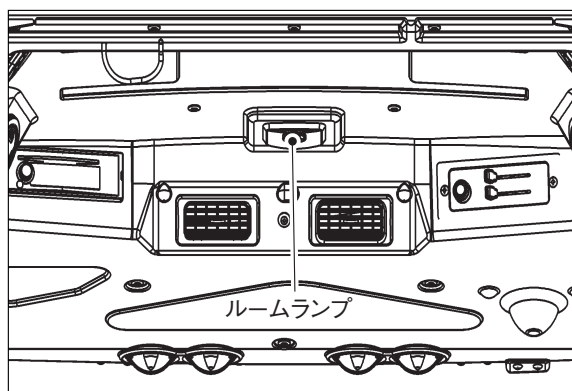
スイッチの位置により点灯状態が次のようになります。

「ON」……常時、点灯します。

「・」……ドアを開けたとき、点灯します。

ドアを閉めると、消灯します。

「OFF」……常時、消灯します。



RTS0131

8.1.8 作業灯スイッチ

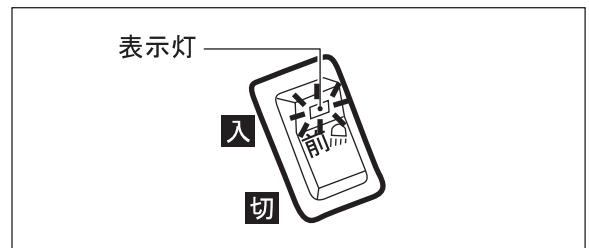
⚠ 注意



道路走行中、作業灯は必ず消灯してください。

※ 作業灯を点灯したまま道路を走行することは、違法行為になるとともに、他の車両の交通を阻害するおそれがあります。

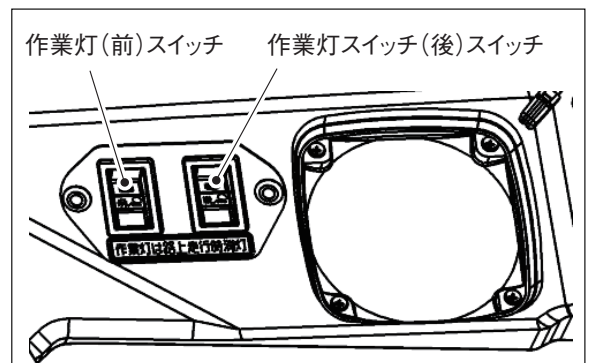
- (1) スイッチの上側を押し「入」にすると、作業灯は点灯します。
このとき、スイッチの表示灯も点灯します。
- (2) スイッチの下側を押し「切」にすると、作業灯は消灯します。
このとき、スイッチの表示灯も消灯します。



RTS0132

補 足

- ほ場での夜間作業で、作業灯の威力が発揮できます。
トラクタの前方の広い範囲が明るくなり、作業しやすくなります。
- エンジンを停止したときは、バッテリー上がりを防止するために、作業灯スイッチは必ず「切」にしてください。
- 作業灯を点灯しての外部電源の使用は避けてください。
バッテリーが放電することがあります。
- 作業灯点灯消灯は、天井右横の作業灯スイッチで行います。



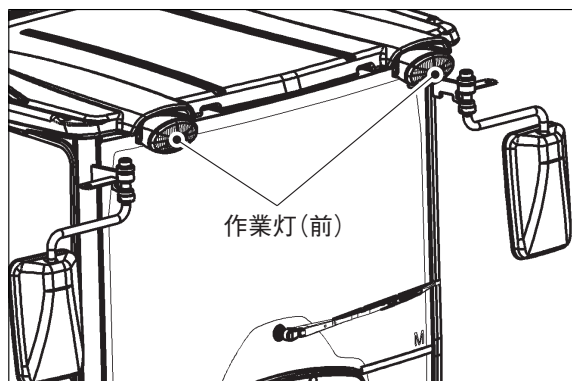
RTS0133

8.1.9 作業灯の位置調整

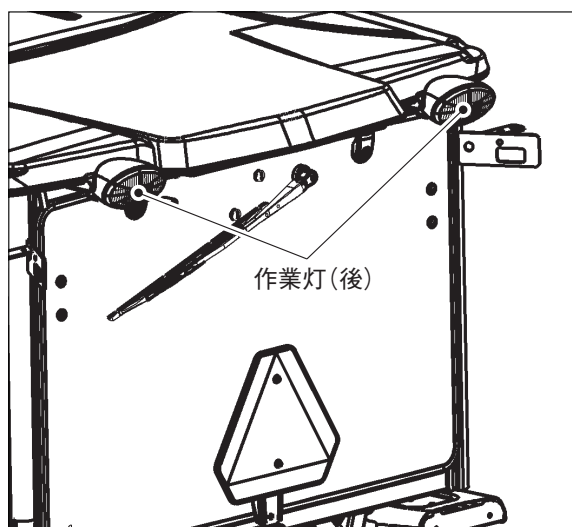
- (1) 作業灯の照射方向を替えることができます。取り付けボルトをゆるめ「上下」および「左右」方向に回してください。
- (2) 調整後、取り付けボルトは締め付けてください。

補 足

- 作業灯（後）は、左右方向及び下方方向の調整となります。



RTS0134



RTS0135

8.1.10 ワイパスイッチとウォッシャースイッチ

注 意



エンジンを停止したまま、ワイパーを長時間使用しないでください。

※ 守らないと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。

※ 守らないと、ウォッシャーモータの故障の原因になります。



ワイパースwitchはウォッシャー液を噴出させてから使用してください。

※ 守らないと、カラふきとなりガラスに傷をつけます。

凍結時にワイパーを作動するときは氷を取り除いて使用してください。

寒冷時、ワイパーブレードが凍結することがあります。

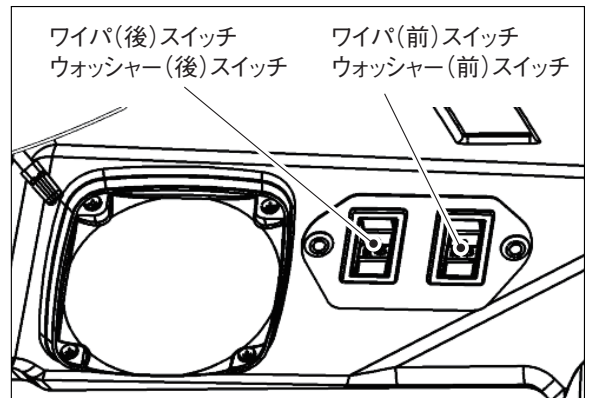
※ 守らないと、ワイパーモータ・ワイパーブレードの故障の原因になります。

■ワイパ（前）（後）とウォッシャー（前）（後）

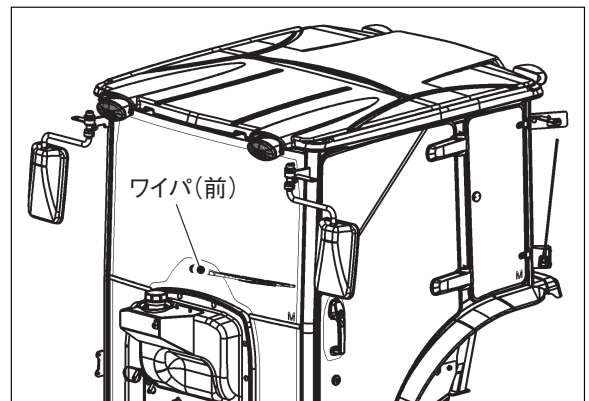
- (1) スイッチの上側を押すと、ワイパが作動します。
さらに押し込むとウォッシャー液が噴出します。
- (2) スイッチの下側を押すと、ワイパは停止します。
さらに押し込むと、ウォッシャー液が噴出します。

補 足

- ワイパの操作は、天井左横のワイパスイッチで行います。



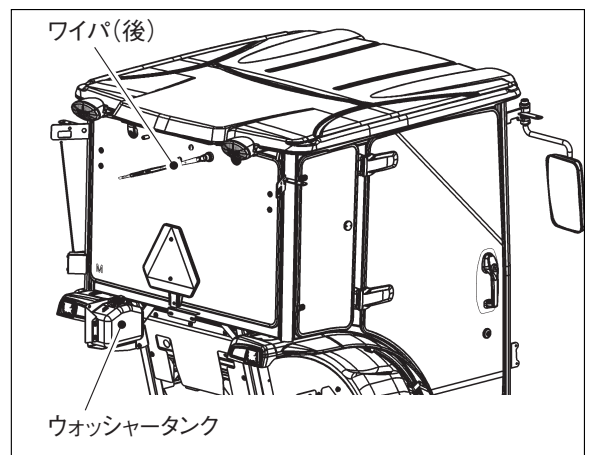
RTS0136



RTS0137

■ウォッシャータンク

ウォッシャー液が少なくなったら、自動車用ウォッシャー液を補充してください。
ウォッシャータンクは、リヤフェンダ内側にあります。



RTS0138

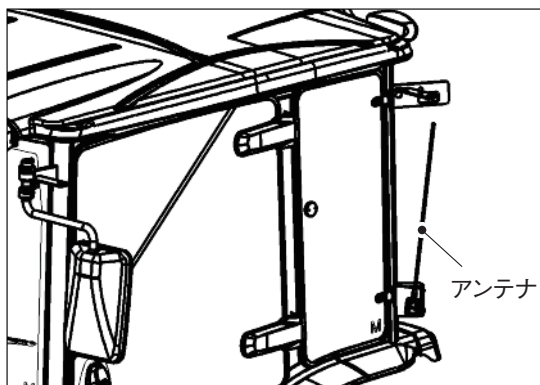
8.1.11 CDラジオ（FM・AMつき）

注 意



トラクタ本体に機体カバー等をかけるときは、トラクタ本体側に押してください。

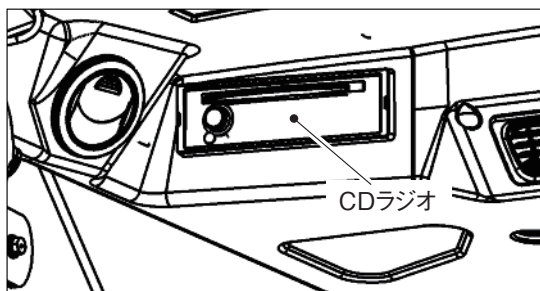
※ 守らないと、アンテナの破損につながります。



RTS0139

CDを使用しないときは、CDを抜き取ってください。

※ そのまま放置すると、野外に日中放置しているときなど安全キャブ内が高温になりCDが変形するなどし、故障の原因になります。



RTS0140

- (1) 取り扱い方法は、添付の取扱説明書を参照ください。
- (2) ラジオの受信感度が悪い場合は、アンテナを伸ばして使用してください。

■故障・修理の問い合わせ

このCDラジオが故障した場合は、下記メーカーにもご相談いただけます。

クラリオン株式会社

クラリオンお客様相談室

TEL：0120-112-140

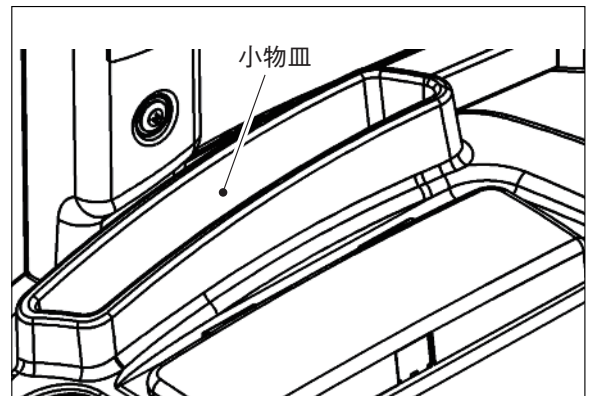
（土・日・祝日・メーカー指定休日を除く/9：30～12：00、13：00～17：00）

FAX：048-601-3807

Clarionホームページ <http://www.clarion.com/jp/ja/info/inquiry/>

8.1.12 小物皿

凹型になっていますので、小物を置くことができます。



RTS0141

8.1.13 カップホルダ

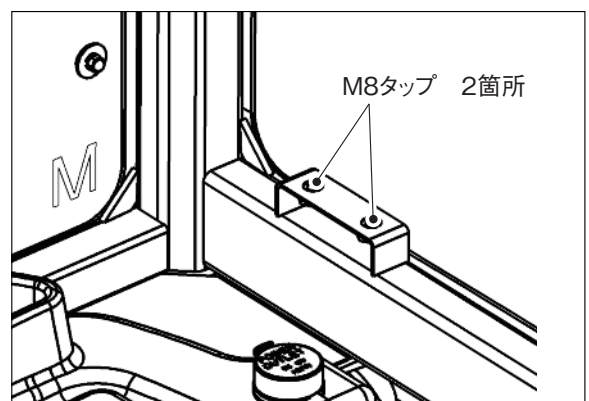
カンやペットボトルを置くことができます。



RTS0142

8.1.14 作業機制御パネル用タップ

フロントロータやその他の作業機を制御するパネルを固定できます。



RTS0143

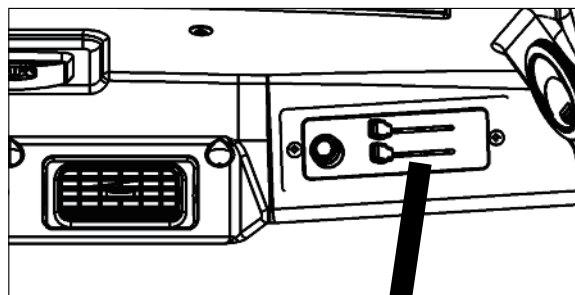
8. 安全キャブの各装置について

8.2 エアコン

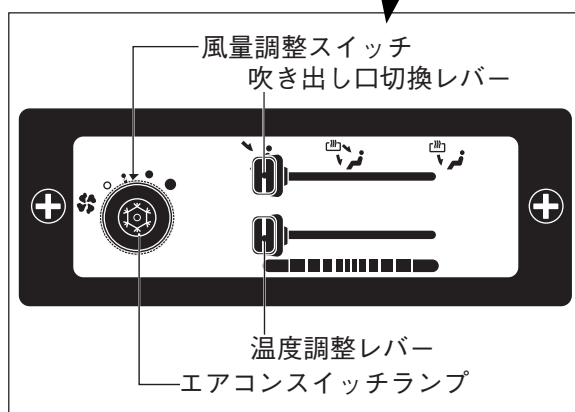
8.2.1 エアコン操作パネル

■エアコンスイッチ・ランプ

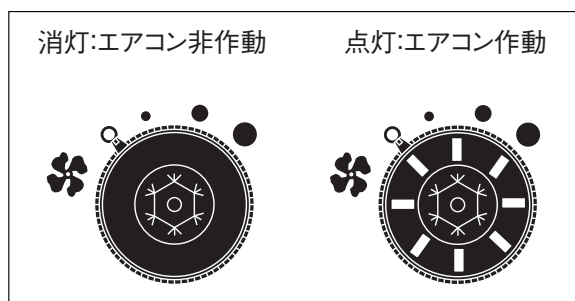
- (1) スイッチを押すと、スイッチランプが点灯し、エアコンが作動します。
(ただし、風量調整スイッチが「停止」のときは、作動しません。)
- (2) もう一度スイッチを押すと、スイッチランプが消灯し、エアコンが切れます。



RTS0144



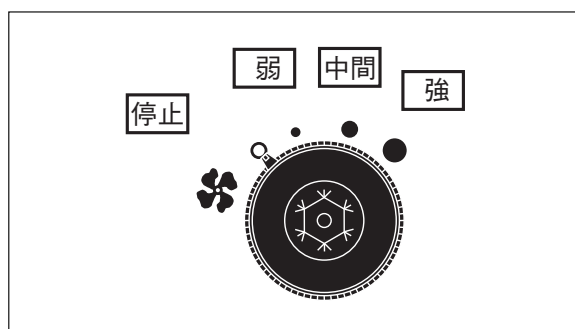
RTS0145



RTS0146

■風量調整スイッチ

- (1) スイッチを切り換えることで、3段階に風量が調整できます。
- (2) 右に回すと風量が増え、左に回すと風量は減ります。左に回しきると、エアコンは停止します。

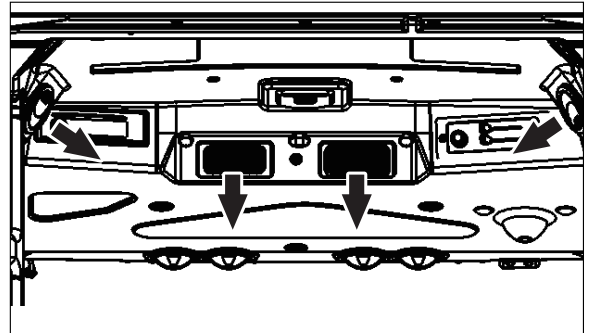


RTS0147

■吹き出し口切換レバー

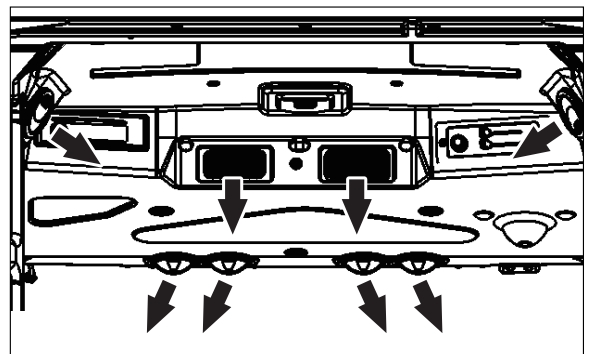
冷房・暖房時の、冷風・温風の吹き出し場所を切りかえることができます。

- (1)  吹き出し口（上）、および、吹き出し口（横）から風が吹き出します。



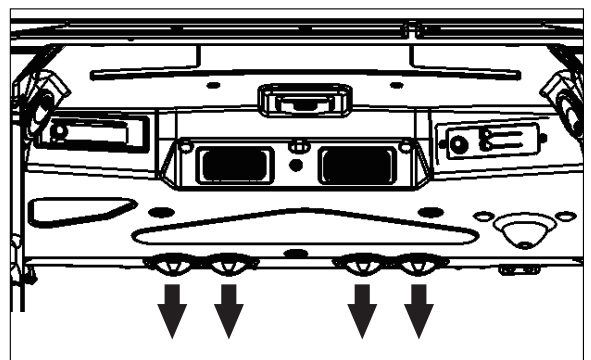
RTS0148

- (2)  吹き出し口（上）、吹き出し口（横）に加え、吹き出し口（前）から風が吹き出します。吹き出し口が多くなるので、風量は少なくなります。運転中はこの位置が最適です。



RTS0149

- (3)  吹き出し口（前）から風が吹き出します。デフロスタ（ガラスの曇り止め）にも使えます。



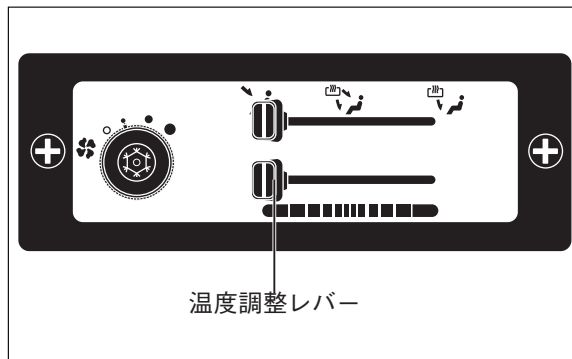
RTS0150

8. 安全キャブの各装置について

■温度調整レバー

冷房・暖房時の冷風・温風の温度を調整することができます。

- (1) 左側 …………… 冷風が出ます。
- (2) 右側 …………… 温風ができます。
- (3) 中間 …………… レバーの位置で、温度を調整できます。



RTS0151

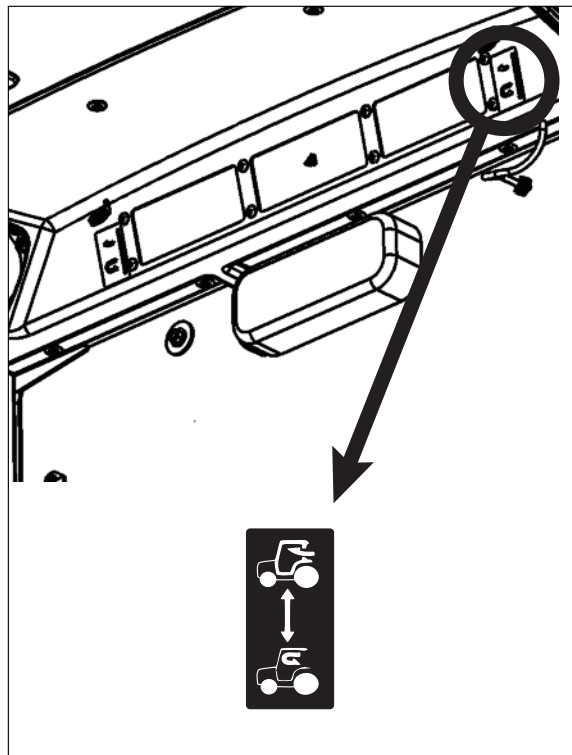
■内外気切換レバー

外気導入と内気循環に切り換えることができます。

- (1) 「外気導入」 …… 外気を取り込みながら、冷風・温風を吹き出します。
通常作業時や、ガラスが曇った場合に使用します。



- (2) 「内気循環」 …… 外気を取り入れず、室内の空気を循環させ、冷風・温風を吹き出します。
はやく、冷暖房を効かせたいときに使用します。工場出荷時はこの位置になっています。



RTS0152

8.2.2 エアコンの使いかた

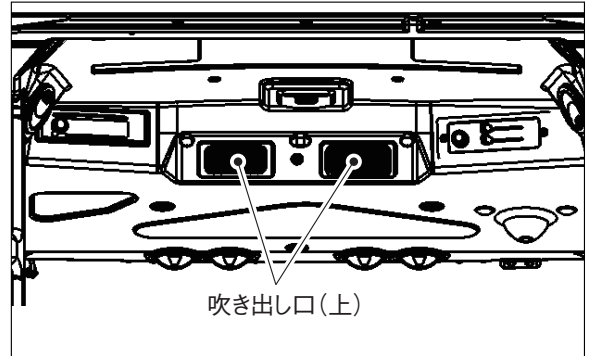
■吹き出し口

吹き出し口は、(上)(横)(前)の3か所にあります。
3か所とも、風の吹き出し角度・方向を調節することができます。

(1) 吹き出し口(上)

運転者方向に直接、冷風・温風を吹き出します。吹き出し口は2つあります。

それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。



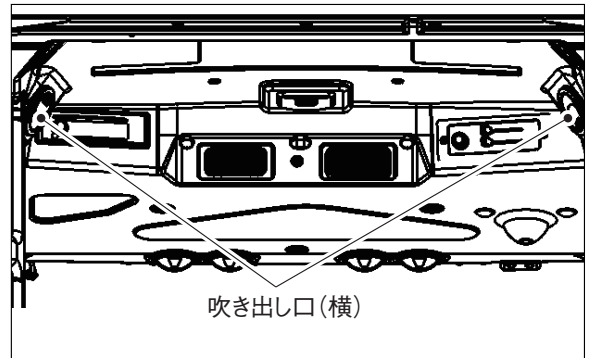
RTS0153

(2) 吹き出し口(横)

運転者の側方から、冷風・温風を吹き出します。

吹き出し口は左右一つずつあります。

それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。



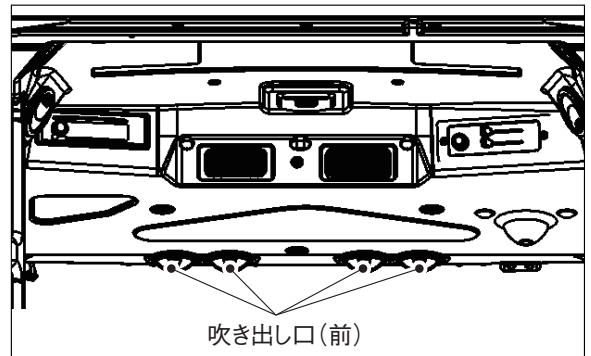
RTS0154

(3) 吹き出し口(前)

安全キャブの前方から、冷風・温風を吹き出します。
フロントガラス方向に吹き出し口を向ければ、デフロスタ(ガラスの曇り止め)にも使用できます。

吹き出し口は4つあります。

それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。

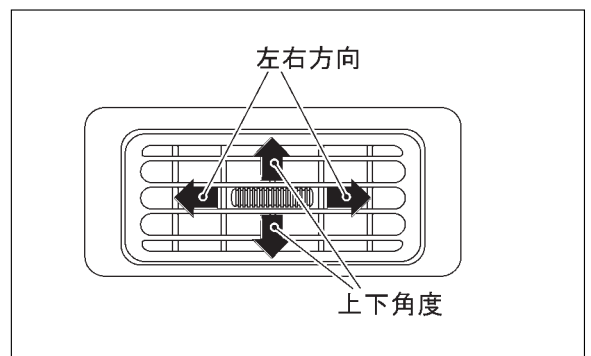


RTS0155

■吹き出し角度・方向の調節

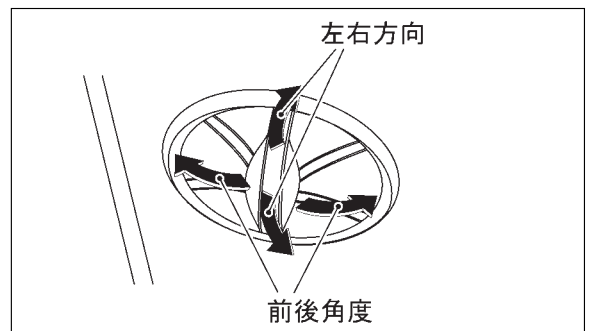
吹き出し口の「上下角度」「左右方向」「前後角度」の調節ができます。

また、吹き出し口を「閉」にすることで他の吹き出し口の風量を増やすことができます。(吹き出し口横)

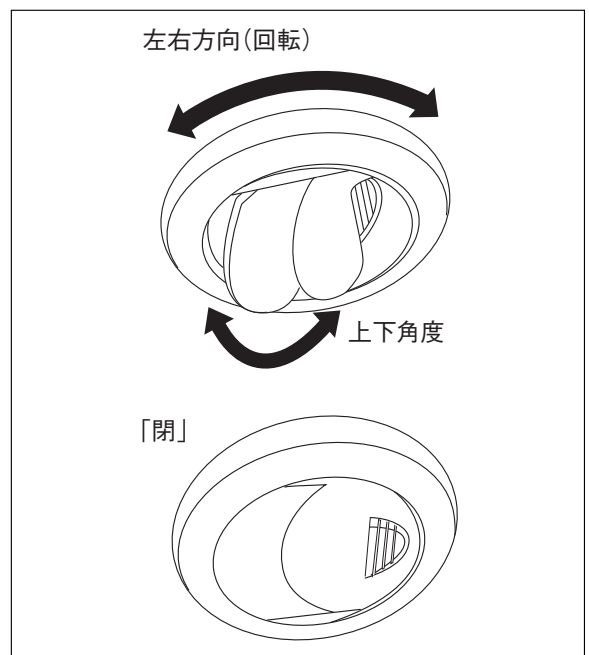


RTS0156

8. 安全キャブの各装置について



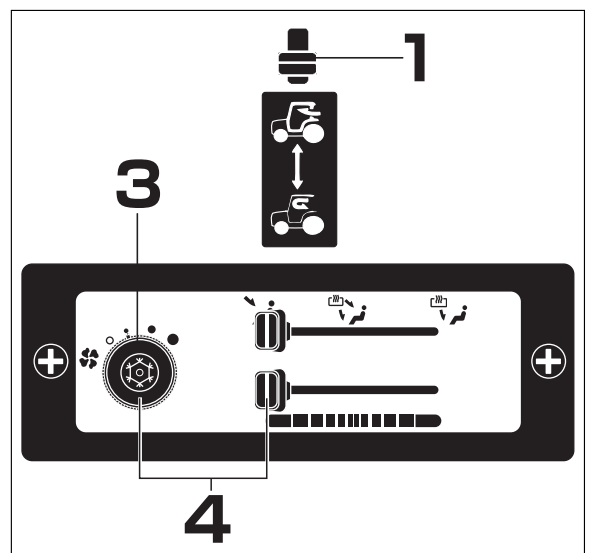
RTS0157



RTS0158

■冷房・除湿

- 1 内外気切換レバーを「内気循環」にします。
- 2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。
- 3 エアコンスイッチを押して作動させます。
- 4 吹き出し口（上）から冷風が吹き出し、安全キャブ内が冷房・除湿できます。お好みに合せ、風量・風向・温度を調節してください。
- 5 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。



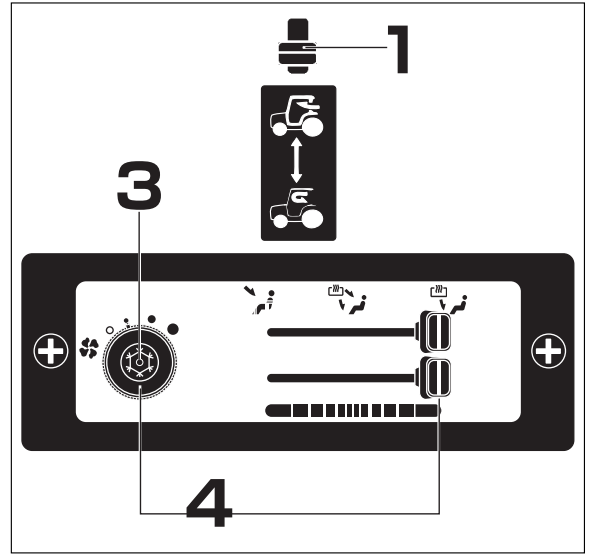
RTS0159

補 足

- 急速に体を冷やしたい時は、 の位置で使用してください。
- 室内全体を冷やしたい時は、 の位置で使用してください。

■暖房

- 1 内外気切換レバーを「内気循環」にします。
- 2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。
- 3 エアコンスイッチは切ってください。
- 4 吹き出し口（前）から温風が吹き出し、安全キャブ内が暖房できます。お好みに合わせ、風量・風向・温度を調節してください。
- 5 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。

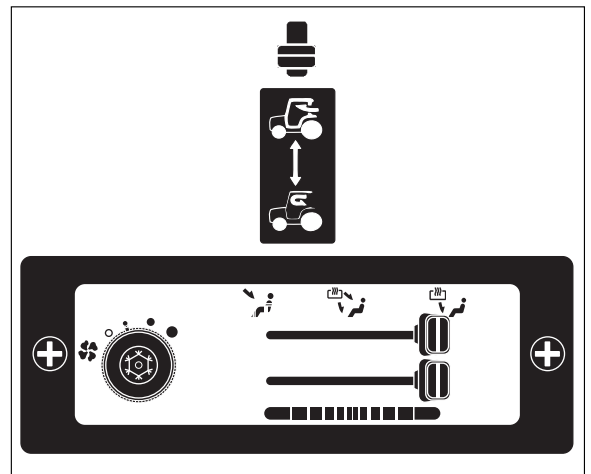


RTS0160

■除湿暖房

湿度の高いとき使用します。

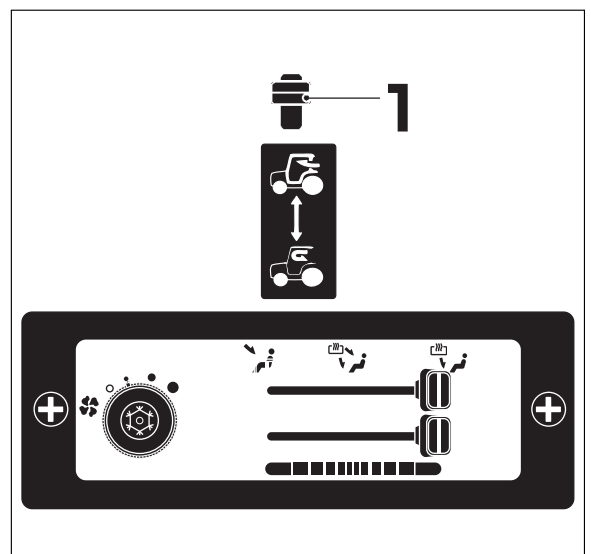
- 1 暖房の状態からエアコンスイッチを押してエアコンを作動させます。
- 2 吹き出し口（前）から温風が吹き出すとともに、安全キャブ内が除湿されます。



RTS0161

■デフロスタ（ガラスの曇り止め・除去）

- 1 内外気切換レバーを「外気導入」にします。
- 2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。ガラスの曇りを除去するときはエアコンスイッチを入れてください。
- 3 吹き出し口（前）から温風が吹き出し、ガラスが曇りにくくなります。



RTS0162

8. 安全キャブの各装置について

補 足

- 外気温が極端に低いときは、エアコンが作動しない場合がありますが、故障ではありません。
- エアコンを使用しないときは、風量調整スイッチを切ってください。エアコンの全機能が停止します。
- 車両の使われ方、ブロワ風量、温度調節により、吹き出し口に結露する恐れがあります。

9. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

警告



給油および点検整備をするときは、(1)トラクタを平たんで広い地面の硬い場所に置き、(2)エンジンを停止し、(3)パーキングブレーキをかけ、(4)油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、(5)キーを抜き、(6)さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、(7)エンジン各部が十分冷えてから、状態を確認して行ってください。

※ 状態を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

注意



- 廃液等を地面にたれ流すことや、河川、湖沼、海洋への投棄をしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



※ 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■新車初期点検

アワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備はトラクタの耐久性にとって大事な項目ですのでお買いあげ先での点検、整備をおすすめします。

補 足

- 点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含んでいます。交換が必要な部品は「**セキ純正部品**」を注文してください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「**お買いあげ先**」へ問い合せください。
- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「**お買いあげ先**」へ依頼して処理してください。

9. 点検整備

9.1 定期点検・整備箇所一覧表

○：点検、補充、調整 △：清掃、洗浄 ★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検時間 点検項目			アワーメータ表示時間													備 考	参 照 ページ			
			作業前	新車 初期 点検 ★	50時間	100時間	150時間	200時間 ★	250時間	300時間	350時間	400時間 ★	450時間	500時間	550時間			600時間 ★	1回／3ヶ月	1回／1年 ★
エ ン ジ ン	エンジンオイル	交換	○	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★				100時間ごと	135	
	エンジンオイルフィルタ	交換		★			★			★			★					200時間ごと	136	
	エアクリーナエレメント	洗浄 交換	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	★		★			100時間ごと 600時間ごと、 または1回/1年	137	
	リザーブタンク冷却水・水量	洗浄 交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★			★		100時間ごと 600時間ごと、 または1回/2年	138	
	ラジエータ本体	洗浄		○												△		1回/2年	139	
	ラジエータホース	点検 交換	○	○			○			○			○			★		200時間ごと 1回/2年	139	
	燃料フィルタ	洗浄 交換	○	△	△	△	△	△	★	△	△	△						100時間ごと 400時間ごと	141	
	燃料パイプ・ホース	点検 交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			★		100時間ごと 1回/2年	141	
	ファンベルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					100時間ごと	142
	バッテリー液面チェック	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				100時間ごと または1回/1年	143
エンジンバルブクリアランス	点検												★					600時間ごと	－	
本 機	ミッションオイル (交換時にはストレーナを清掃)	交換	○	★			★			★			★					200時間ごと	145	
	ミッションオイルフィルタ	交換		★			★			★			★					200時間ごと	147	
	フロントアクスルのオイル	点検 交換	○	○			○			○			★					200時間ごと 600時間ごと	148	
	クラッチ室の水抜き	点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					100時間ごと	148	
	クラッチペダルの遊び	点検 調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					100時間ごと	149	
	ブレーキペダルの遊び	点検 調整	○	○			○			○			○					200時間ごと	149	

○：点検、補充、調整 △：清掃、洗浄 ★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検時間 点検項目			アワーメータ表示時間																備考	参照 ページ
			作業前	新車 初期点検★	50時間	100時間	150時間	200時間★	250時間	300時間	350時間	400時間★	450時間	500時間	550時間	600時間★	1回/3ヶ月	1回/1年★	1回/2年★	
本機	ステアリングジョイント	点検調整は★	○				○					○				○			200時間ごと	150
	タイヤの空気圧	点検補充	○	○			○					○				○			200時間ごと	151 152
	タイヤ締め付けボルト	洗浄交換	○	○	○		○		○		○		○		○				100時間ごと	152
	電気配線	点検交換		○														○★	1回/1年 1回/2年	153
	パワステ用ホース	点検交換		○	○		○		○		○		○		○			★	100時間ごと 1回/2年	155
	水平シリンダホース	交換		○														★	1回/2年	155
	各部のグリース注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50時間ごと 作業前後に実施 代かき、湿田作 業は毎日	156

■安全キャブ仕様

エア コン	エアコン用ベルト	点検調整	○	○			○				○				○				200時間ごと	157
	エアコンコンデンサ	点検洗浄		△			△				△				△				200時間ごと	157
	エアコンホース・パイプ	点検															○		1回/1年	158
	エアコンフィルタ	点検洗浄	○													△			1回/3ヶ月	158
	フロン排出抑制法に基づく簡易点検	点検														○			1回以上/3ヶ月 実施し記録する事	159 209
	ウインドウォッシャー液	補充	○																随時	159
	防振ゴム	点検															○		1回/1年	159
	電気配線	点検交換		○													○★		1回/1年 1回/2年	160

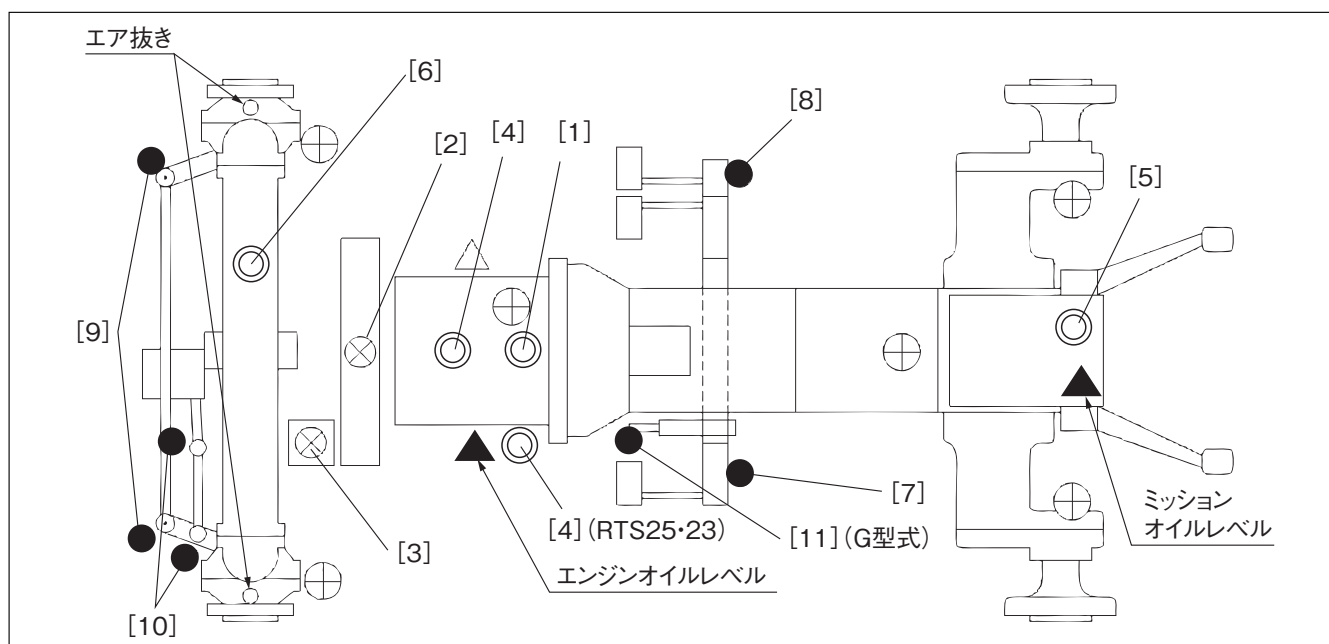
9. 点検整備

■セミクローラ仕様

○：点検、補充、調整 △：清掃、洗浄 ★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間															備考	参照ページ
				作業前	新車初期点検★	50時間	100時間	150時間	200時間★	250時間	300時間	350時間	400時間★	450時間	500時間	550時間	600時間★	1回／3ヶ月		
クローラ部	ゴムクローラの張り調整	点検調整	○	○		○		○		○		○			○				新車初期点検時は必須	162 163
	各部グリースアップ	補充	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					161
	各部ボルト、ナットの緩み	点検	○																	161
	転輪、遊輪のオイルとオイルシール（RTS25・23C）	点検交換	○					○			★				○			★	200時間ごとの点検と400時間ごとのオイル交換	161
	転輪、遊輪のオイルシール（RTS22・20C）	点検	○				★				★				★					161
	スプロケットの摩耗	点検	○																	161
	ゴムクローラの損傷	交換	○																	161
	各部の泥、雪付着	点検洗浄	○																	161
	スクレーバと転輪、遊輪の隙間（RTS25・23C）	点検調整	○	○															作業前の点検	161

9.2 給油・給水一覧表



●：グリース給油（グリースニップル）◎：給油口 ⊕：排油口 ▲：検油口 ⊗：ラジエータ（給水口）
△：ラジエータ（排水口）

番号	給油（水）箇所		容量(L)	使用オイル他
[1]	燃料		28.0	ディーゼル軽油（イ）
[2]	ラジエータ本体	RTS22・20・18	3.5	不凍液（LLC）
		RTS25・23	5.1	
[3]	リザーブタンク		0.6	
[4]	エンジンオイル	RTS25・23・22・20・18	3.1	キセキ・スーパーマルチエンジンオイル （10W-30 SH/CF）
		RTS25・23-CY	4.4	
[5]	ミッションオイル	RTS20-S50除く	25	キセキ　U・T・Hオイル
		RTS20-S50	35	
[6]	フロントアクスル	RTS22・20・18	4.5	キセキ・マルチデラックスギヤオイル（#80）
		RTS20-S50	6.9	
		RTS25～23	5.0	
[7]	クラッチペダル		適量	リチウム系の一般グリース
[8]	ブレーキペダル			
[9]	タイロッドエンド（前）			
[10]	タイロッドエンド（後）			
[11]	HST操作シリンダ			

※ディーゼル軽油(イ)とは、バイオディーゼル燃料を混合しない軽油です。

補 足

- 表中の容量は交換の際の目安です。交換後は必ずレベルゲージ等で適量かどうか確認してください。
- 使用オイルは推奨潤滑油一覧表（ 183ページ）を参照してください。

■クローラ部の給油

注 意



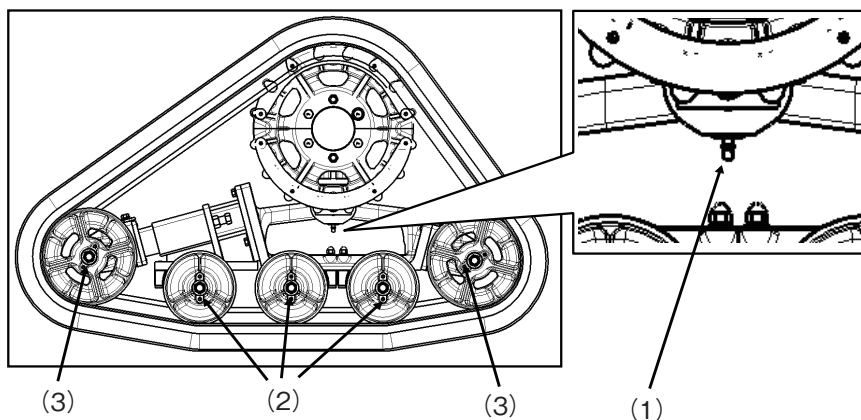
グリースアップの必要な場所は50時間ごとにグリースアップしてください。
(代掻き時は毎回実施してください。)

※ 守らないと、各部のシール性が低下し、泥水等が侵入して、各部で破損が発生し、最悪走行できなくなるおそれがあります。



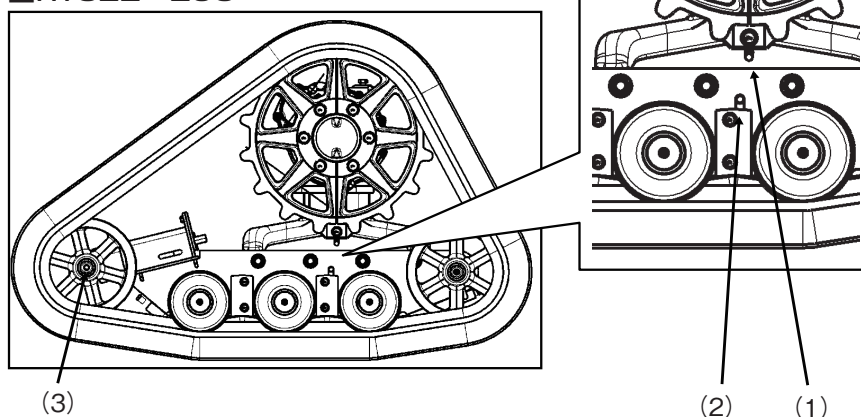
軸受部のオイル量をチェックし、不足ある場合は補充してください。
(RTS25・23C)

■RTS25・23C



番号	給油箇所	容量 (cc)	使用オイル他
[1]	揺動支点部	適 量	リチウム系の一般グリース
[2]	転 輪	60	キセキマルチデラックスギヤーオイル (#80)
[3]	遊 輪	120	

■RTS22・20C



番号	給油箇所	容量 (cc)	使用オイル他
[1]	揺動支点部	適 量	リチウム系の一般グリース
[2]	転輪・後遊輪		
[3]	前遊輪		

補 足

- 表中の容量は交換の目安です。交換後は必ず検油口等で適量かどうか確認してください。(164ページ)
- 使用オイルは推奨潤滑油一覧表 (183ページ) を参照ください。

9.3 エンジン周りのカバー類の脱着

警告



エンジン関係の点検・清掃・調整を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
また、エンジン停止直後は、マフラ、およびその周辺は大変熱くなっています。
十分冷えてから点検・清掃・調整を行ってください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれたりやけどしたり、人身事故の原因になります。



ボンネットやエンジン周辺のカバー類を脱着するときは、巻き込まれないように注意してください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれ人身事故の原因になります。

9.3.1 ボンネットの開閉

警告



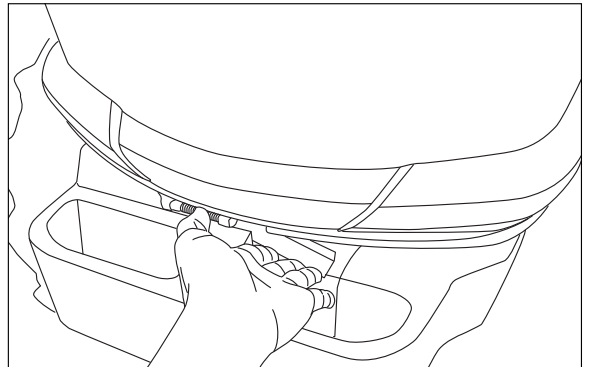
ボンネットを開き、点検・調整するときは、必ずボンネットが、ダンパーで開位置に保持されているか確認してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

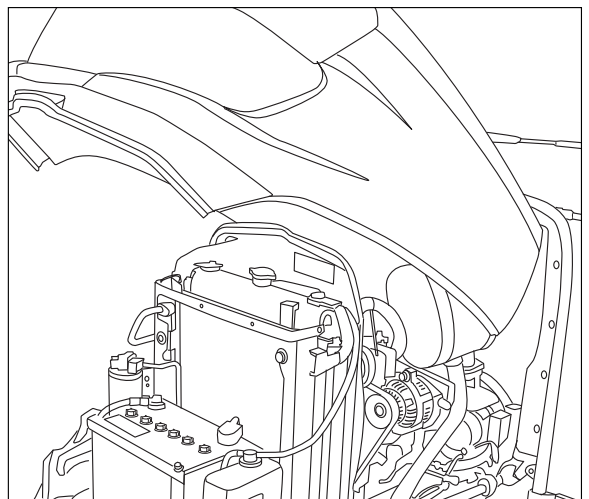
1 レバーを上方向に操作するとロックが外れます。

2 ボンネット先端を持ち上げると、ダンパーにより軽く開きます。

3 ボンネットを閉めるときは、ボンネット先端を持ち降ろしてください。
最後に押し込むと自動的にロックします。



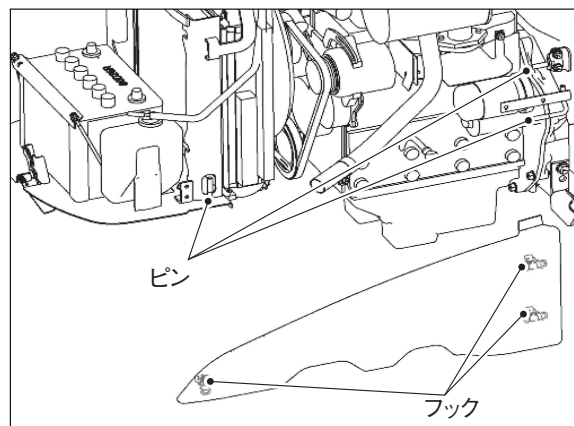
RTS2395



RTS3302

9.3.2 サイドカバーの脱着

- 1** ボンネットを開けます。
- 2** サイドカバーのフック付近を持って外側に開いてください。
- 3** サイドカバーを取り付けるときは、フックをピンに押し込んでください。



RTS2396

9.4 点検・清掃・調整のしかた

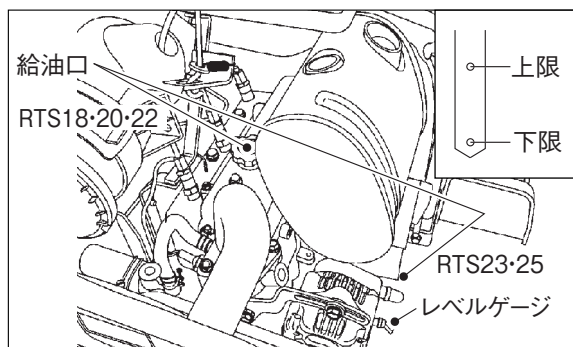
9.4.1 エンジンオイル

■点検・補給

- 1 レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込みます。
- 2 再度抜いて、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。
- 3 レベルゲージが「下限」以下の場合は、補給してください。

補 足

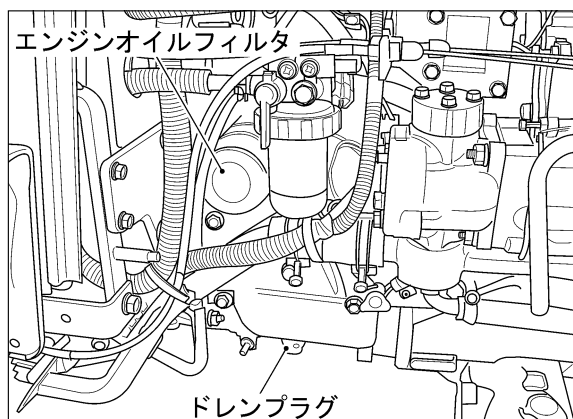
- エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。
- エンジンオイルは必ずキセキ純正オイルを使用してください。
(184ページ)



RTS0025

■交換

- 1 ドレンプラグを外して容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを締めて、給油口からエンジンオイルを規定量まで入れてください。



RTS3304

⚠ 注意



- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。
廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

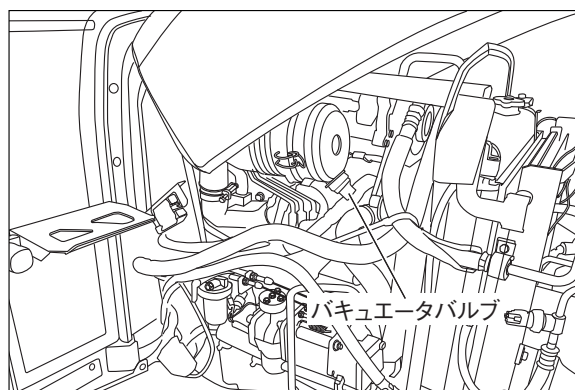
■エンジンオイルフィルタの交換

- 1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取り外します。
- 2 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締め付けます。(シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締め付けてください。)
- 3 給油口からエンジンオイルを規定量まで補給します。
- 4 エンジンを約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないことを確認してから止めます。( 50ページ)
- 5 再びレベルゲージで油面を確認し、不足していれば給油口からエンジンオイルを補給してください。

9.4.2 エアクリーナの清掃

■バキューエータバルブの清掃

- 1 ボンネットを開けます。
- 2 バキューエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落とします。
水分があるときは、エアクリーナ内部を布でふき取ってください。



RTS3305

■エレメントの清掃

注 意



清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。

※ エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

1 クリップを外し、エアクリーナ本体からエレメントを取り外します。

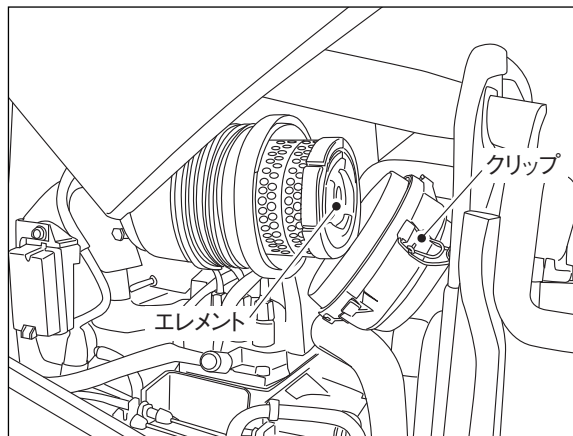
2 エレメントの清掃は以下の要領で行ってください。

- (1) 乾いたホコリが付いている場合
エレメントの内側から空気を吹き付けるかまたは、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
- (2) 湿ったホコリ、油分等で汚れている場合
家庭用中性洗剤を水で薄め、エレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

3 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。

補 足

- エアクリーナ各部の締め付けは、確実に
に行いゴミを吸い込まないようにしてください。



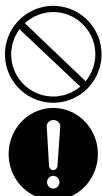
RTS3306

■エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

9.4.3 冷却水

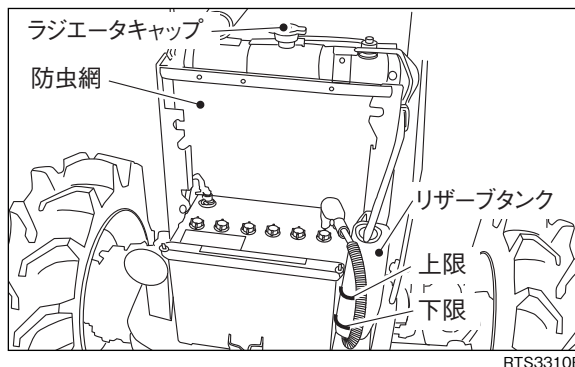
警告



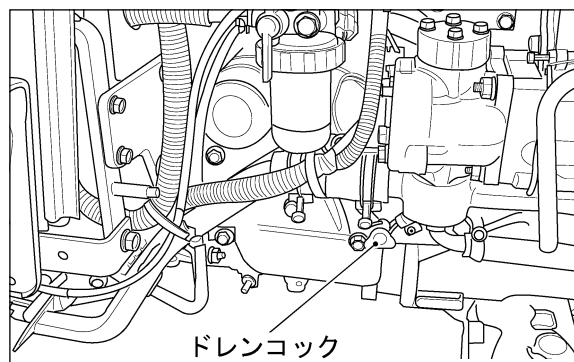
ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後十分に冷えてから注意して開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

点検・補給

- 1 ボンネットとフロントグリルを開きます。
- 2 リザーブタンク内の冷却水が上限「FULL」と下限「LOW」の間にあることを確認します。
- 3 少ない場合はリザーブタンク上限「FULL」まで補給します。
- 4 冷却水が「LOW」より低い位置にある場合はエンジンが十分に冷えてから、ラジエータキャップを外し、本体の液量も確認してください。



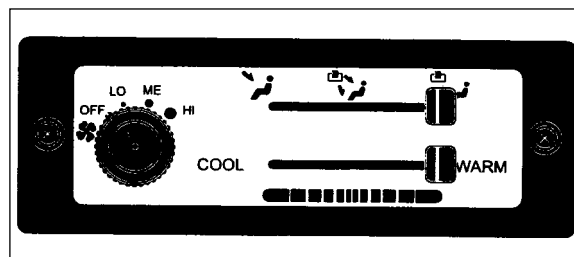
RTS3310B



RTS3308

交換

- 1 冷却水は、エンジン右側のドレンコックを開けて容器に抜きます。同時にラジエータキャップを開けると、排出しやすくなります。
- 2 リザーブタンクの排水は、リザーブタンクを外して行います。
- 3 水道水でラジエータ内部をよく洗浄します。
- 4 ドレンコックを閉じて、冷却水をラジエータ内にいっぱい入れ、リザーブタンクには給水口より上限「FULL」まで入れます。
- 5 ラジエータキャップを確実に締めます。
- 6 エンジンを始動し、約5分間中速回転（約1500rpm）で運転した後、エンジンを停止してください。
安全キャブ仕様は、エアコン操作パネルを右図の位置（暖める）にしてエンジンを運転してください。
- 7 エンジン停止後、十分に冷却水が冷えた後、ラジエータキャップを外します。



RTS3309

- 8 ラジエータ内の冷却水を確認します。不足している場合は、リザーブタンクの給水口より上限「FULL」まで補給します。

補足

- 冷却水は上限「FULL」以上は絶対入れないでください。
ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水が漏れる原因となります。

■不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

- (1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
- (2) 不凍液の混合比は、不凍液メーカーや気温により異なります。不凍液メーカーの説明書に従ってください。
- (3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
- (4) 不凍液の補給
 - (a) 蒸発の場合……………冷却水が減った分だけ清水を補給してください。
 - (b) プリーザより漏れた場合……………同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

9.4.4 ラジエータの清掃

⚠ 警告



ラジエータの清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等の傷害事故を起こすおそれがあります。

■防虫網の清掃

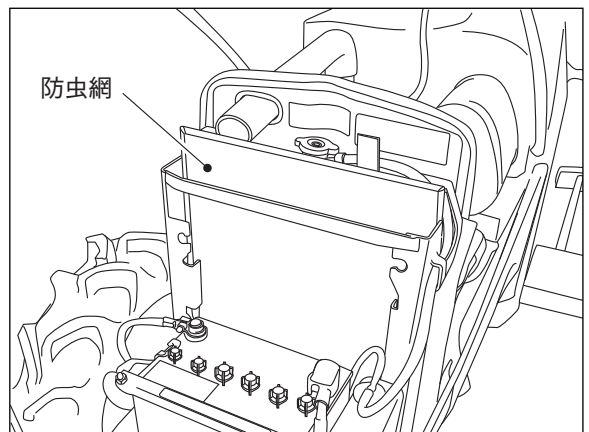
水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫等が付着して詰まることがあります。ボンネットを開け、防虫網を引き出して清掃をしてください。

■ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水で流してください。

補 足

- ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートし、エンジンの焼き付き等の重大な損傷につながる場合があります。
- 強い圧力水を直接ラジエータにかけると、フィンが変形することがあります。十分注意してください。
- エンジン回りの電気配線・電装品には直接水をかけないでください。



RTS3310

■ラジエータホースの点検

ラジエータホースは200時間ごとにひび、亀裂、冷却水漏れがないか点検してください。異常があれば交換してください。

ラジエータホースなどゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。異常がなくても締付バンドと共に2年に1回は新品と交換してください。

9.4.5 燃料

⚠ 危険



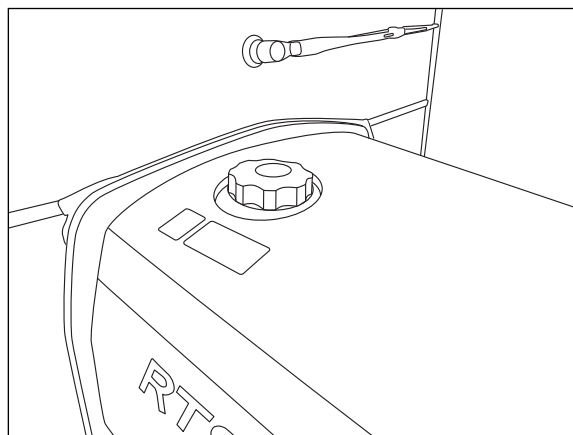
燃料を補給するときは、くわえたばこ等の火気厳禁です。

※ 守らなかった場合、火災の原因になります。

燃料は、ディーゼル軽油を使用してください。

補 足

- 燃料タンク内に、水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。



RTS3311

■満タン警報ブザー

満タン警報ブザーが装備されています。

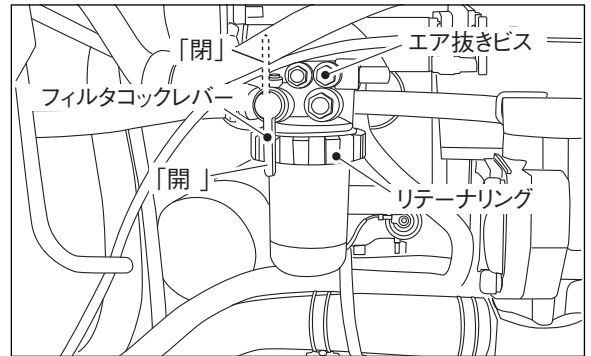
- 1 メインスイッチを「運転」位置にしてください。
- 2 燃料キャップを外し、燃料を給油してください。給油時にブザーが断続的に鳴り、満タンに近づくと断続音から連続音に変わり燃料の給油状況をお知らせします。

補 足

- 連続音に変わったら、入れすぎに注意しながら給油してください。
 - 安全キャブ仕様は、ドアを開けた状態で給油してください。（ドアを閉めているとブザーが聞こえません。）
 - ブザーはメインスイッチを「運転」位置にしてから10秒後に鳴り始めます。
- 3 給油が終わったら、メインスイッチを「停止」位置に戻してください。

■燃料フィルタの清掃・交換

- 1 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿しているか点検します。
- 2 水・ゴミがたまっている場合は、リテーナリングを外し、排出します。
400時間ごとまたは汚れのひどいときは交換してください。
- 3 締め付けは、燃料漏れのないよう十分注意してください。



RTS0030B

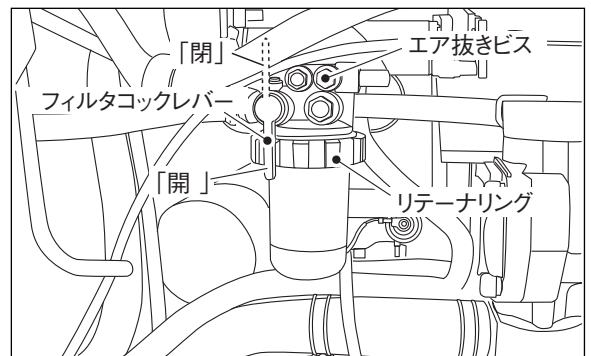
■燃料ホースの点検

燃料ホースは100時間ごとに、点検してください。
ひび・亀裂・燃料漏れがある場合は交換してください。
燃料ホースなどゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。異常がなくても締付バンドと共に2年に1回は新品と交換してください。

■エア抜き

燃料切れや燃料フィルタ・燃料ホースを取り外したときは、燃料系統のエア抜きをする必要があります。

- 1 燃料フィルタのコックレバーを「閉」にして、燃料タンクに燃料を入れます。
- 2 燃料フィルタのコックレバーを「開」にして、メインスイッチを「運転」にします。
- 3 燃料フィルタの下に燃料用の受けをおいてから、燃料フィルタのエア抜きビスをゆるめ、燃料の流出を確認します。
- 4 エア抜き後、燃料漏れのないよう確実に、エア抜きビスを締め付けます。フィルタ等に付着した燃料はきれいに清掃してください。燃料の受けで受けた燃料は専門の処理業者または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。



RTS0030B

9.4.6 ファンベルトの張り具合

⚠ 警告

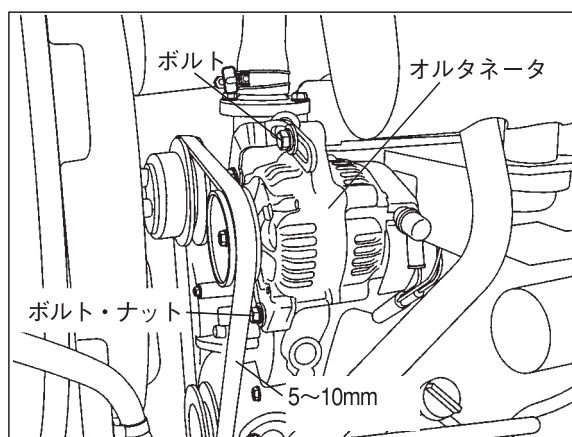


マフラは、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。

※ 守らないと、やけどをすることがあります。

■点検

- 1 ベルトの中央部を押さえて、5～10mm程度たわむか、確認します。
- 2 ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。下記の要領で調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



RTS3314

■調整

- 1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。
- 2 オルタネータを動かし、ベルトの中央部を押さえて、ベルトの張りが5～10mmたわむ程度に調整します。
- 3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。

補 足

- 新品のファンベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

9.4.7 バッテリ

危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

警告



ブースターケーブル使用時には、十分注意して取り扱ってください。

※ 注意を怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。（ 17ページ）

■取り扱い

- (1) 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。
- (2) バッテリーは使用しなくても自己放電しますので、補充電を行ってください。
 - 夏期……………2ヶ月ごと
 - 冬期……………3ヶ月ごと
- (3) トラクタを長期格納する場合は、バッテリーを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。トラクタに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。アースを外したときは、その旨をメモ書きしてトラクタに貼り付けておくと便利です。
- (4) 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

クラス	バッテリー型式
RTS22・20・18	55B24R
RTS25・23	80D26R

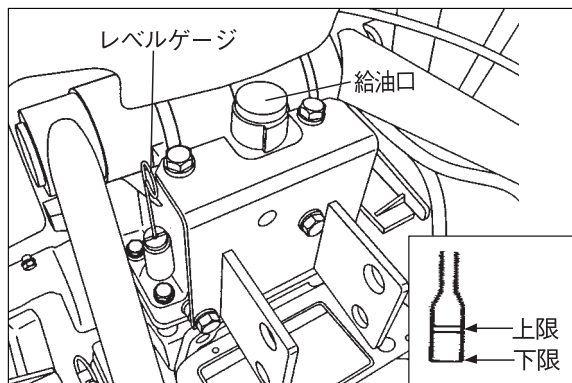
補 足

- バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
- バッテリーを外し、再度取り付けるときには、バッテリーの⊕⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。
これを怠ると、ショートして火花が飛んだりします。

9.4.8 ミッションオイル

■点検・補給

- 1 平たんな場所へトラクタを置きます。
- 2 レベルゲージを外し、先端をきれいにふき、元の状態までねじ込みます。
- 3 再び外し、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。
- 4 「下限」以下の場合は補給してください。ただし、「上限」以上は入れないでください。



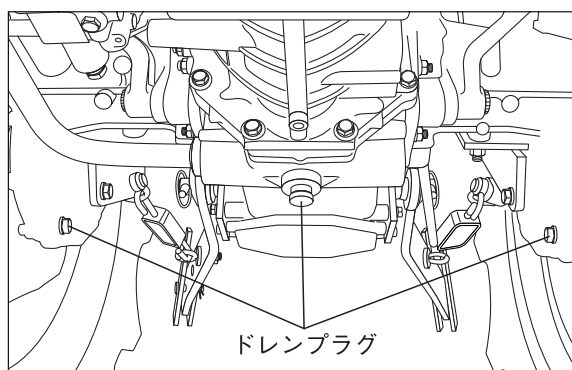
RTS3315

補 足

- ミッションオイルはギヤ油（ギヤオイル）を使用してください。（ 184ページ）

■交換

- 1 ドレンプラグを外して、容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを元通りに戻した後、給油口からオイルを規定量まで入れてください。給油後、オイル量の点検を行ってください。



RTS3316

⚠ 注意



- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

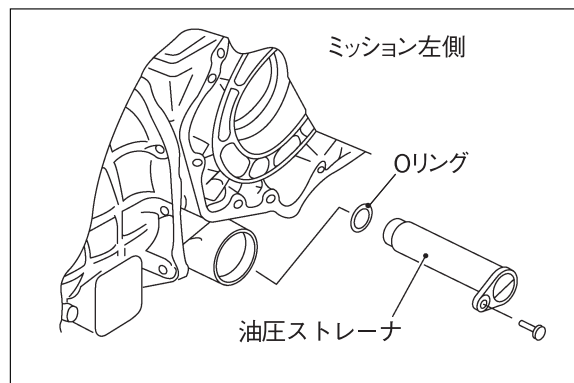
9.4.9 油圧ストレーナの清掃（C,CG型式）

油圧ストレーナが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。清掃は定期的に「お買いあげ先」で行ってください。

- 1 ミッションオイルを容器に抜きます。
( 145ページ)
- 2 ボルトを外し、ストレーナを外します。
- 3 ストレーナを軽油で洗浄します。
- 4 洗浄後、ストレーナをケース内へ挿入し、ボルトを締め付けます。
- 5 給油口からミッションオイルを規定量まで入れます。( 145ページ)

補 足

- CG型式は別途HST油圧オイルフィルタの交換が必要です。( 147ページ)



RTS4301

9.4.10 油圧オイルフィルタの交換 (①C型式以外 ②G型式)

油圧オイルフィルタが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。

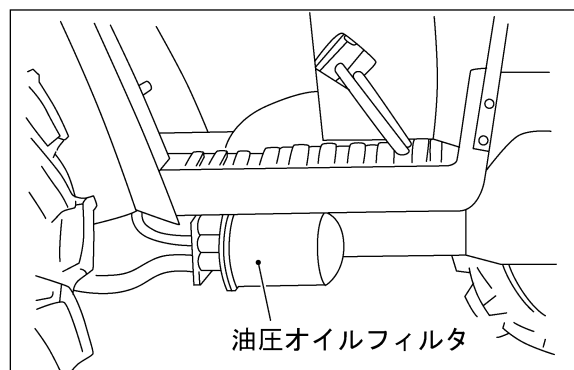
交換は定期的に「お買いあげ先」で行ってください。フィルタはカートリッジ式です。

- 1 ミッションオイルを容器に抜きます。
( 145ページ)
- 2 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取り外します。
- 3 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実にねじ込みます。
- 4 シール面のゴムパッキングが接触してから、約2/3回転、締め付けます。
- 5 給油口からミッションオイルを規定量入れます。( 145ページ)

補 足

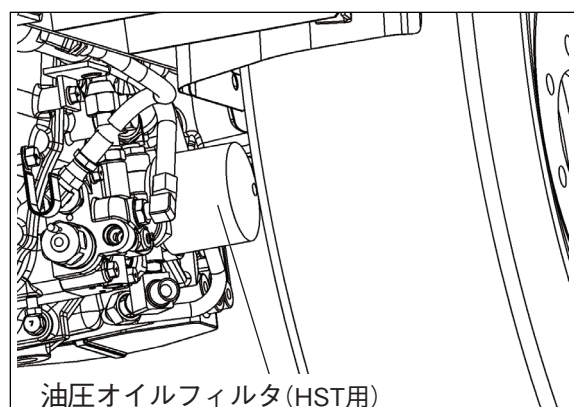
- G型式は右ステップ下側に油圧オイルフィルタ (CG型式除く)、ミッション左側に油圧オイルフィルタ (HST用) があります。

①C型式以外



RTS3317

②G型式



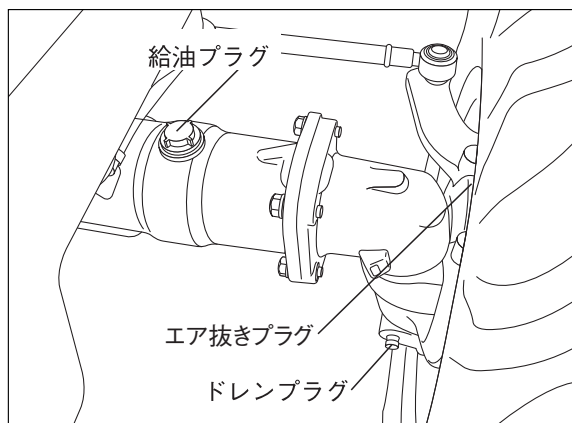
RTS4302

9.4.11 フロントアクスルのオイル

■点検

給油プラグを外し、内部のシャフト中心までオイルがあるかを調べます。

少ない場合はオイルを補給してください。



RTS3318

■交換

1 左右のドレンプラグとエア抜きプラグを外して容器にオイルを抜きます。

2 ドレンプラグを締めて、給油口からオイルを入れます。

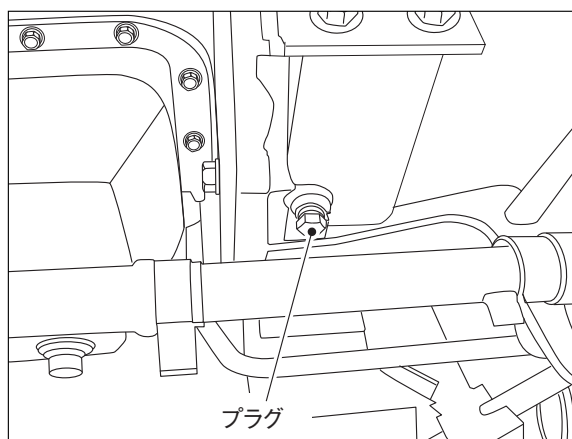
3 給油プラグとエア抜きプラグを確実に締めてください。

補 足

- オイルはマルチデラックスギヤオイルを使用してください。
(184ページ)

9.4.12 クラッチ室の水抜き

クラッチ室下部のプラグを抜き、水やオイル漏れがないか点検してください。



RTS0270

9.4.13 クラッチペダル

■点検

クラッチペダルの遊び量が、20～30mmあるか確認してください。

注 意

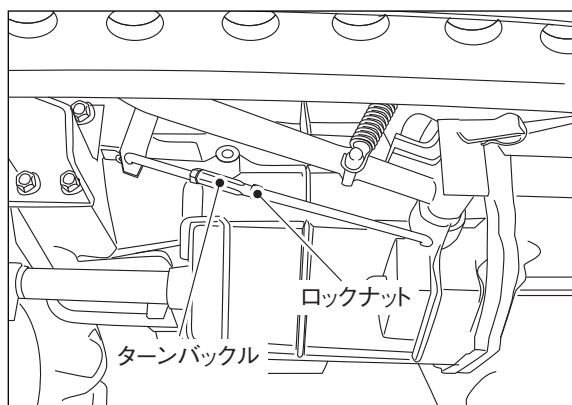
クラッチペダルの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こしクラッチの破損につながります。



RTS3321

■調整

- 1 ロックナットをゆるめます。
- 2 ターンバックルを回してクラッチペダルの遊び量を20～30 mmに調整します
- 3 ロックナットを確実に締め付けてください。



RTS3321

9.4.14 ブレーキペダル

⚠ 警告



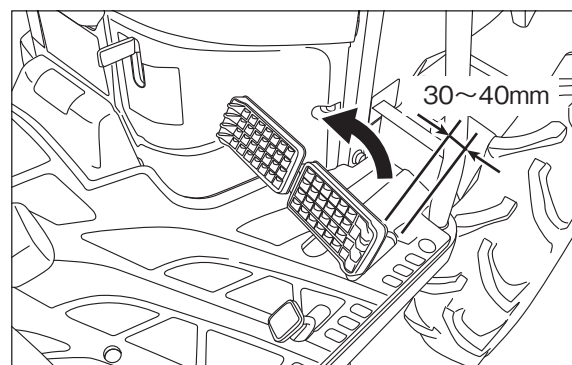
調整時、左右のブレーキペダルの踏み込み量を必ず合せてください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■点検

左右のブレーキペダルの遊び量が、30～40 mmおよび、ブレーキの踏み込み量が左右で均一になっているかを確認してください。

連結解除ロックレバーを「ほ場」位置にして連結解除ペダルを踏み込み、左右のブレーキペダルの連結を解除してから調整をしてください。

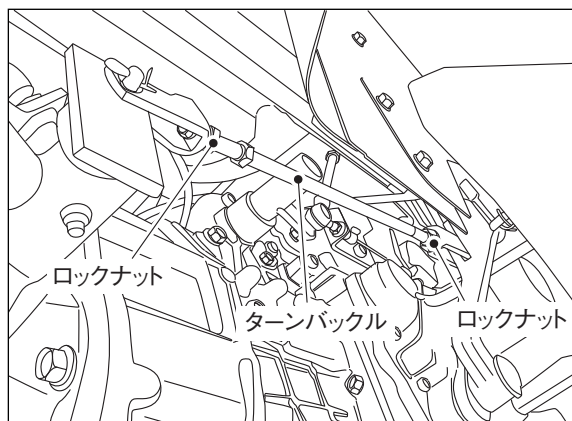


RTS3322

9. 点検整備

■調整

- 1 パーキングブレーキを解除します。
- 2 ロックナットをゆるめます。
- 3 ターンバックルを回してブレーキペダルの遊び量が30～40mmとなり、踏み込み量が左右で均一になるように調整してください。
- 4 前後2箇所のロックナットを確実に締め付けてください。
- 5 調整後、パーキングブレーキが確実にかかること、および、ブレーキが正常に作動することを確認してください。



RTS3323

9.4.15 ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。

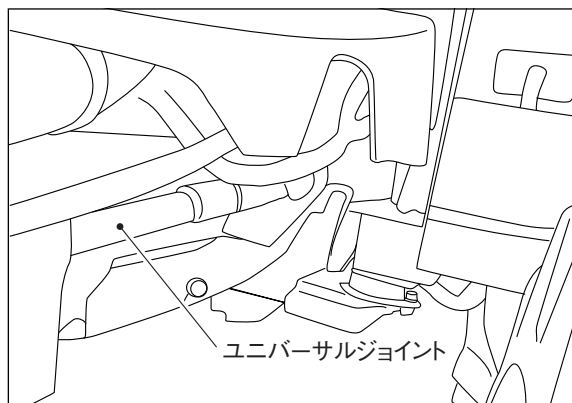
遊びはステアリングホイール（ハンドル）の外周で30～60mmが標準です。

はなはだしい遊びやガタがある場合は「お買いあげ先」で修理してください。

9.4.16 ユニバーサルジョイントの点検

ユニバーサルジョイントを手で触り、ガタがないか確認してください。

異常の場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。



RTS3324

9.4.17 タイロッドエンドの増し締め

警告

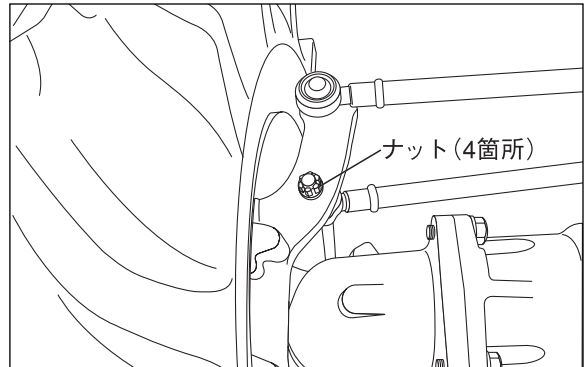


ナットがゆるんでいると、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

※ このまま走行すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

タイロッドエンドのナット（4箇所）がゆるんでいるか確認してください。

異常の場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。



RTS3325

9.4.18 タイヤの空気圧

警告



タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。

※ タイヤ破裂のおそれがあります。



タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。

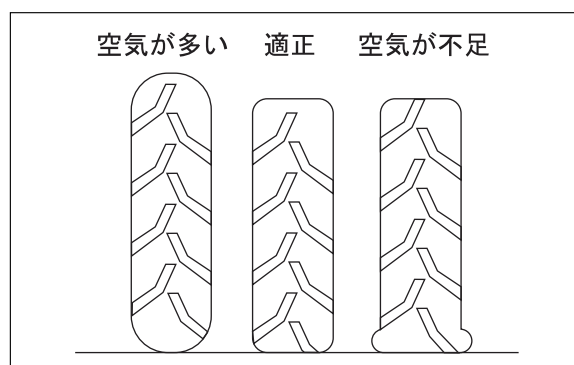
※ 空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。

※ 法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

9. 点検整備

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観上の目安は右図のとおりです。



TR0080_A

クラス名	区分	フロントタイヤ				リヤタイヤ			
		サイズ	パターン	空気圧		サイズ	パターン	空気圧	
				kPa	kgf/cm ²			kPa	kgf/cm ²
RTS25	標準	7-16-4PR	FSLM	180	1.8	11.2-24-4PR	T13H	120	1.2
RTS25・23C	標準		AR2			370X36X90	クローラ	—	—
	02								
RTS25	05	7-14-4PR	FSLM	180	1.8	9.5-24-4PR	T13H	140	1.4
RTS23	標準		FSLM	180	1.8	9.5-24-4PR	T13H	140	1.4
RTS22・20C	標準	6-14-4PR	FSLMD	200	2.0	330X34X84	クローラ	—	—
	02					200X34X84			
RTS20C	GW03								
RTS22・20	標準	6.00-12-4PR	FSLMD	180	1.8	9.5-20-4PR	T13H	140	1.4
RTS20	50					8.3-22-4PR		160	1.6
RTS25	N					24X8.5-12-4PR		M40B	157
	S25	24X8.5-12-4PR	M40B	157	1.6	315/75D-15-4PR	M40B	98	1.0
RTS20	WW03	6-12-4PR	FSLMD	200	2.0	8.3-20-6PR	FL17	240	2.4
RTS18	標準					8.3-20-4PR	T13H	160	1.6
RTS20	N	5-12-4PR	FSLMD	240	2.4	8-13-4PR	T13H		

9.4.19 タイヤ締め付けボルトの点検

⚠ 注意



タイヤ締め付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。

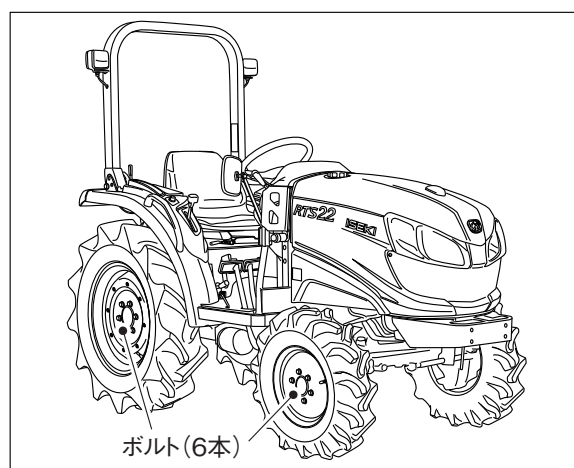
※ ゆるんだまま走行すると脱輪のおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因になります。

タイヤの締め付けボルトがゆるんでいないかを調べてください。

異常がある場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。

締め付トルク

- ・ 前輪：79～93N・m
- ・ 後輪：98～118N・m



RTS0075

9.4.20 アクセルレバー・ペダル

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整を「お買いあげ先」に依頼してください。

9.4.21 電気配線の点検と清掃

危険



傷んだ配線は、すみやかに「お買いあげ先」で交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみ、および、配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

バッテリー、電気配線、および、マフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

注意



メータパネル、バッテリー、エンジン周りの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。

※ 電気部品の故障の原因となります。



1年に1回、「お買いあげ先」での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年に1回交換することをお奨めします。

※ 守らないと、故障が発生しやすくなります。

下記の項目について定期的に点検してください。

- (1) 配線の損傷がないこと。
配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き補修してください。
- (2) 配線のクランプにゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線を固定してください。
- (3) ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部にゆるみがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

9.4.22 ヒューズおよびスローブローヒューズの取り扱い

警告



ヒューズが切れたときは、切れた原因を調査し、修理してください。

「お買いあげ先」にお問い合わせください。

※ 大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

■ヒューズの交換

ヒューズはボンネットを開き、右サイドカバー後方に取り付けています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

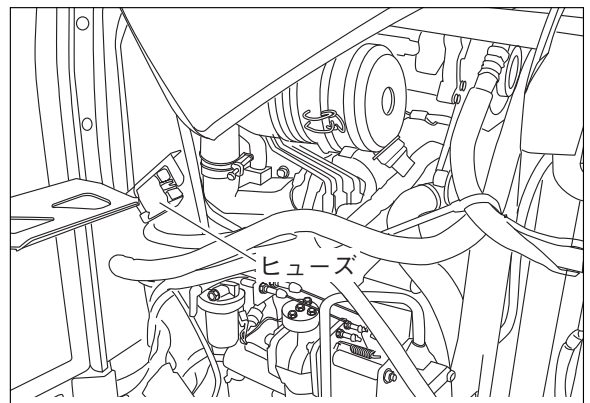
ヒューズボックスカバーにマークが貼り付けてあります。これと照らし合せて確認してください。

CY型以外

CY型

ヒューズ 抜き工具	
メータパネル 電子油圧 15A	ス
燃料ポンプ キーストップ 10A	ベ
外部電源リレー ゼネレータ 10A	ア
ワークランプ ウインカ 10A	ヒ
ヘッドライト ホーン 10A	ユ
	ズ
チェック	5A

ヒューズ 抜き工具	
メータパネル 電子油圧 15A	ス
燃料ポンプ キーストップ 10A	ベ
外部電源リレー ゼネレータ 10A	ア
グロー コントローラ 5A	ヒ
ワークランプ ウインカ 10A	ユ
ヘッドライト ホーン 10A	ズ
作業灯 ソケット ワイヤリレー 10A	
CD ラジオ 10A	
チェック	5A



RTS3327A

■スローブローヒューズ

警告



ヒューズが溶断したときは、溶断した原因を調査し、修理してください。

「お買いあげ先」にお問い合わせください。

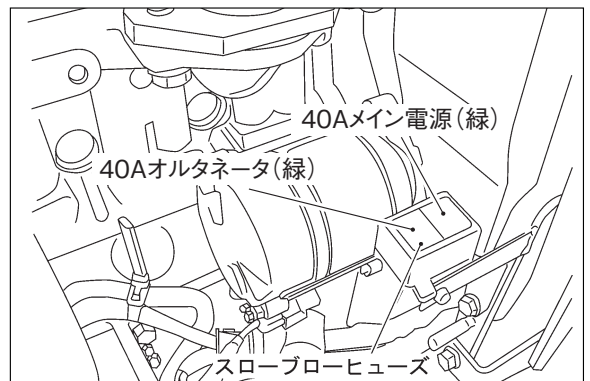
※ 大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

配線中にスローブローヒューズが2個（40A・40A）設置されています。

スローブローヒューズはヒューズの種類で、過大電流が流れたりショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。

<チェック方法>

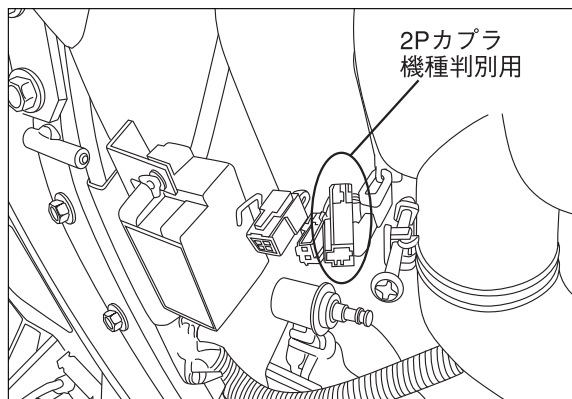
黒いケースのフタを開けるとスローブローヒューズが見えます。溶断している場合は、スローブローヒューズを抜き、交換してください。



RTS3328

■機種判別用カプラ

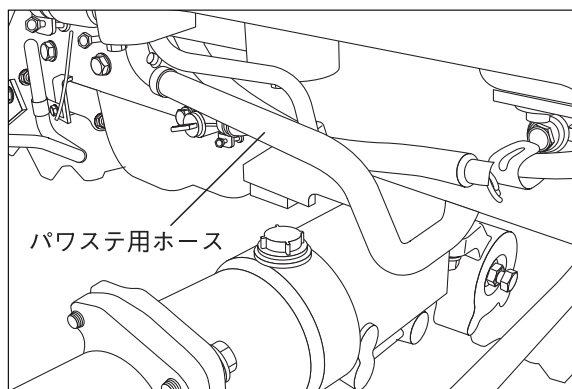
機種判別用の物ですから、外れていても接続したりしないでください。



RTS3329

9.4.23 パワステ用ホース

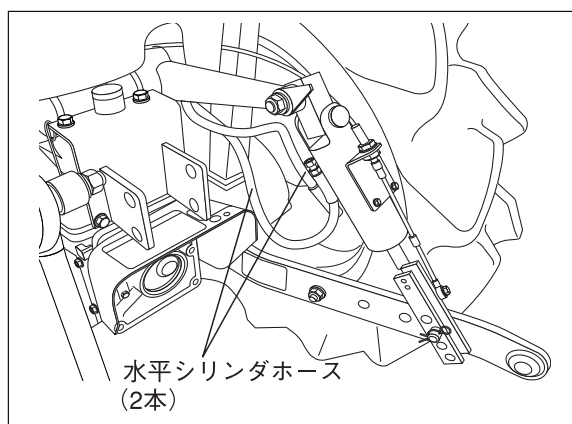
- (1) パワステ用ホースは100時間ごとに、ひび・亀裂・油漏れがないか点検してください。異常がある場合は交換してください。
- (2) パワステ用ホースは異常がなくても、2年に1回は交換してください。



RTS3330

9.4.24 水平シリンダホース (K・S25型式以外)

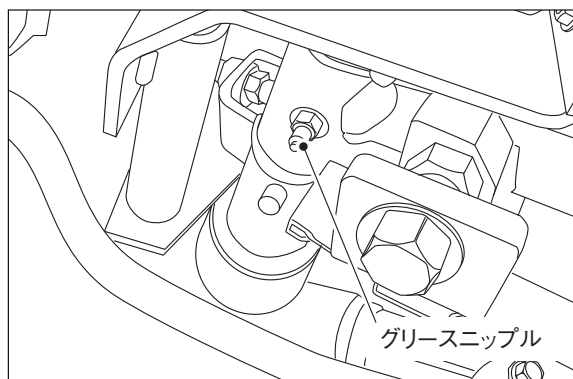
- (1) 水平シリンダホースに、ひび・亀裂・油漏れがないか点検してください。異常がある場合は交換してください。
- (2) 水平シリンダホースは異常がなくても、2年に1回は交換してください。



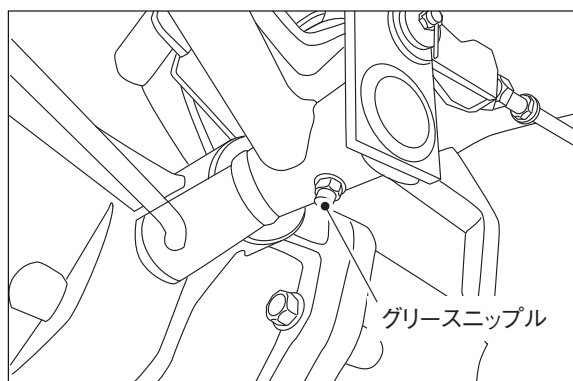
RTS3331

9.4.25 グリース注入

- (1) クラッチペダル・ブレーキペダル
ステップ下側の3箇所にグリースを少量注入してください。

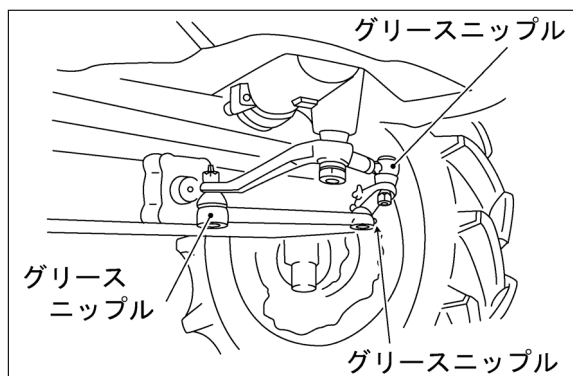


RTS0271



RTS0272

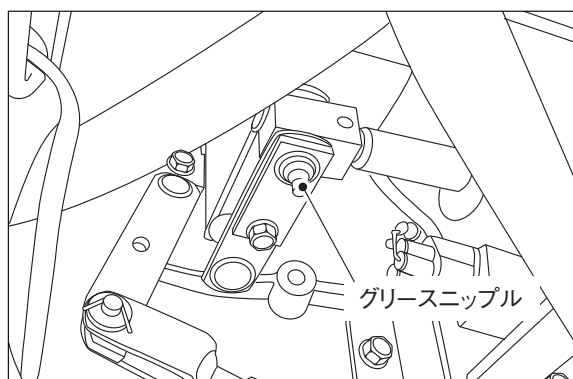
- (2) タイロッドエンド
タイロッドの両端のグリースニップル4箇所にグリースを少量注入してください。



RTS3334

<G型式>

- (3) HST操作シリンダ
HST操作シリンダのピストン先端部のグリースニップル1箇所にグリースを少量注入してください。



RTS0273

9.5 安全キャブの点検・清掃・調整

9.5.1 エアコンベルトの点検

ベルトの中央部を手で抑えて10～15mm程度たわむか、確認してください。

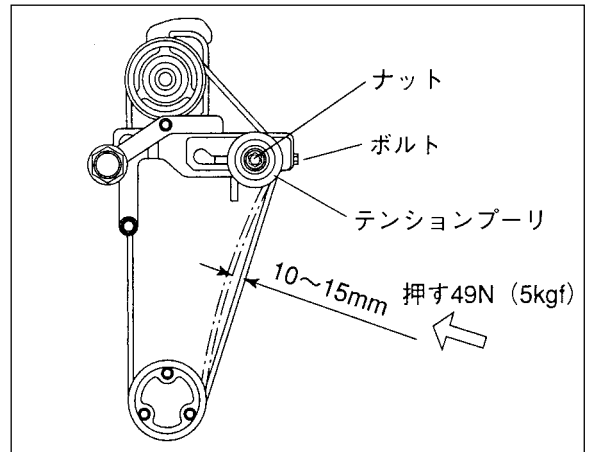
ベルトの張りがゆるいと、エアコンが作動しません。ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。

■エアコンベルトの調整

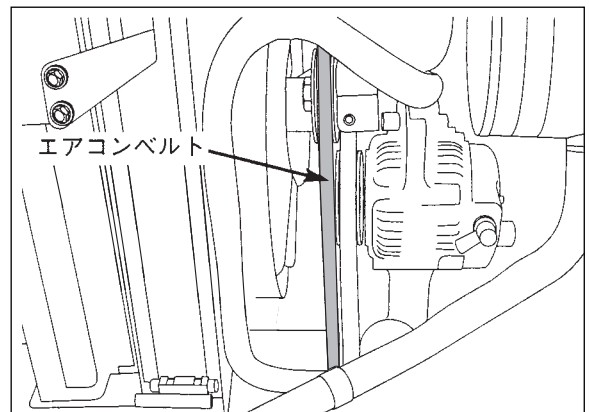
- (1) テンションプーリーを締め付けているナットをゆるめてください。
- (2) ボルトでテンションプーリーを動かし、ベルトの張りが10～15mmたわむ程度に調整します。
- (3) 調整後ナットとボルトを確実に締め付けてください。

補 足

- 新品のエアコンベルトは組み付け直後運転すると、必ず初期伸びが発生します。ベルトを交換した場合は、交換調整後約1時間運転した後に、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、エアコンが効かなくなります。
- 必ず指定ベルトを使用しベルトの張りすぎに注意してください。指定ベルト以外を組み付けたり、張りすぎると、ベルト切れすることがあります。



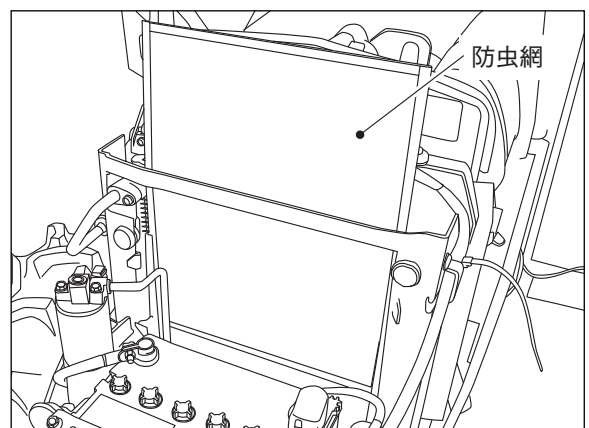
RTS3335



RTS3336

9.5.2 エアコンコンデンサの点検

コンデンサに附着した泥やゴミは防虫ネットを取り外して水道水で洗い落としてください。

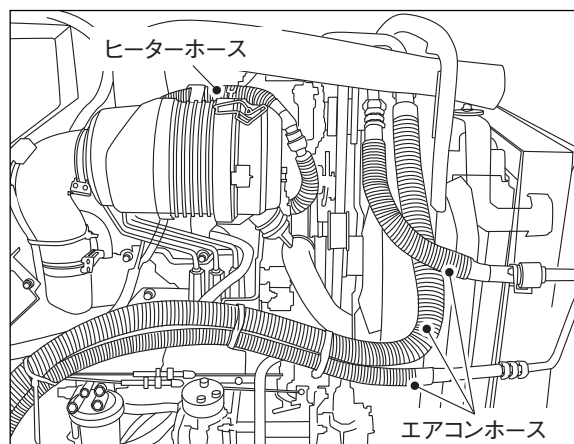


RTS3337

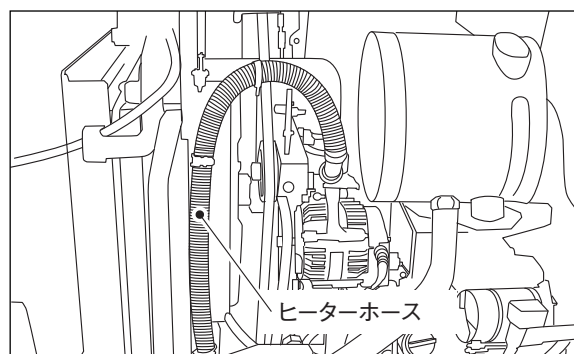
9.5.3 エアコンホース・パイプの点検

エアコンホース・パイプに、ひび・亀裂がないか点検してください。

異常がある場合は「お買いあげ先」で交換してください。



RTS0274



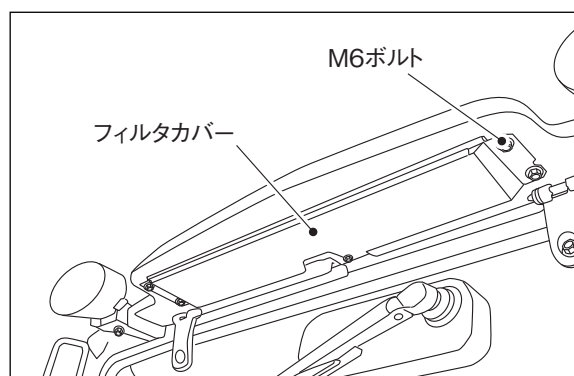
RTS0275

9.5.4 エアコンフィルタの点検・清掃

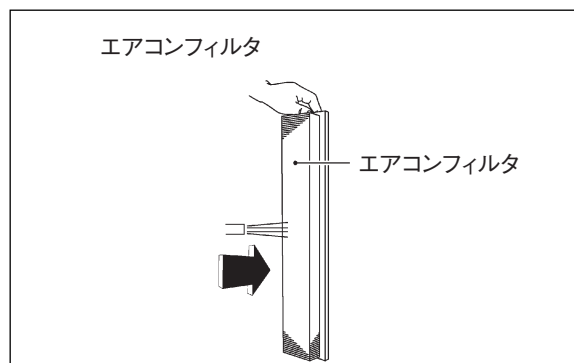
エアコンフィルタの点検・清掃は、使用条件によって異なりますが、1ヶ月に1回程度実施してください。

清掃を怠ると、エアコン風量の低下やエアコン本体の故障の原因となります。

- (1) M6ボルト（4箇所）を取り外しフィルタカバーを開けます。
- (2) エアコンフィルタを取り出してください。
- (3) 風のながれ方向の逆方向より、空気を吹き付けてください。
- (4) 清掃後、元通りに組付けてください。



RTS0276



RTS0277

9.5.5 フロン排出抑制法に基づくエアコン機器の簡易点検

■点検

フロン排出抑制法により、エアコン機器の管理者（トラクタの所有者など）には、機器及びフロン類の適切な管理義務があります。

エアコン機器は、1回以上／3ヶ月の簡易点検が必要です。簡易点検実施記録表（取説最終ページ参照）に記録を取って、エアコン機器を廃却するまで保管してください。

補 足

- 簡易点検の実施は、法律に基づく義務です。違反した場合には、都道府県による指導・助言の対象となる場合があります。

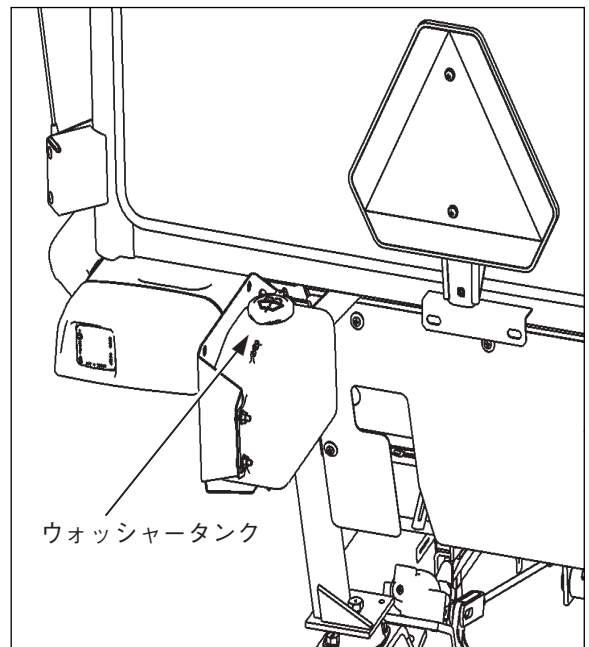
9.5.6 ウィンドウォッシャー液の点検・補充

ウォッシャー液が少なくなったら、自動車用ウォッシャー液を補充してください。

- (1) ウォッシャータンクの右側の爪を押したまま回動し、後方に出してください。
- (2) キャップを外し、規定量（約2.2L）までウォッシャー液を補充してください。

補 足

- 清水のままだと、冬期に凍結することがあります。凍結した場合ウィンドウォッシャー液は噴出されません。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。故障の原因になります。
- ウォッシャーノズルのつまりを防ぐために、ゴミがウォッシャータンク内に入らないようにしてください。



RTS0139

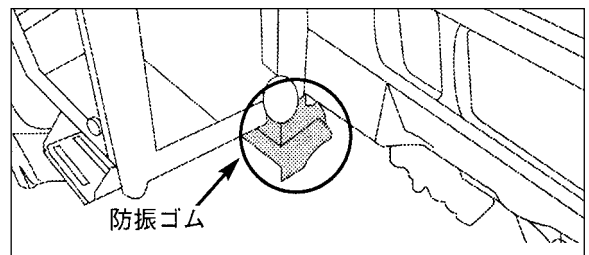
9.5.7 防振ゴムの点検

防振ゴムはフロアフレーム・キャビンの前後左右に4箇所あります。

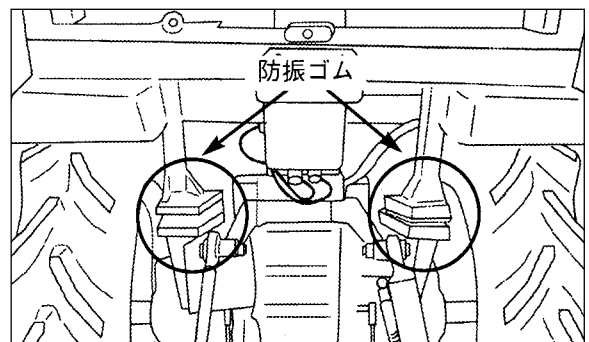
1年に1回、取付ボルトのゆるみやゴムの亀裂がないか点検してください。

補 足

- 防振ゴムがへたってくると、安全キャブが大きく揺れたり、振動が大きくなります。ゴムの亀裂等があれば「お買いあげ先」で交換してください。



RTS3343



RTS3344

9.5.8 安全キャブ専用ヒューズの交換

警告

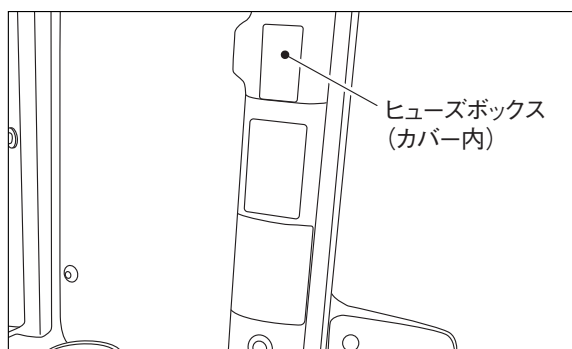


ヒューズが溶断したときは、溶断した原因を調査し、修理してください。

「お買いあげ先」にお問い合わせください。

※ 大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

- (1) ヒューズは安全キャブ室内の左側のカバー内にあります。
- (2) ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。
大容量のヒューズをつけると焼損の原因となりますので行わないでください。
- (3) カバーにシールを貼り付けていますので、これと照らし合わせてチェックしてください。

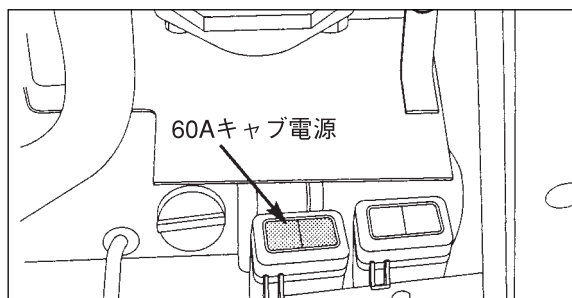


RTS3345

15A	作業灯（後）	5A	ルームランプ
15A	作業灯（前）	15A	プロア
15A	CDラジオ（メモリ）	15A	ソケット
10A	ワイパモータ（前）	7.5A	エアコン
10A	ワイパモータ（後）	15A	ワイパスイッチウォッシャ

9.5.9 安全キャブ専用スローブローヒューズの扱い

- (1) スローブローヒューズはヒューズの種類で、過大電流が流れたりショートしたときに、ヒューズが溶断して配線の損傷を防ぎます。
- (2) 60A安全キャブ回路（ヒューズの色：黄）ワイパや作業灯が同時に作動しないような場合は、エンジンルーム内スタータの上のスローブローヒューズを点検してください。

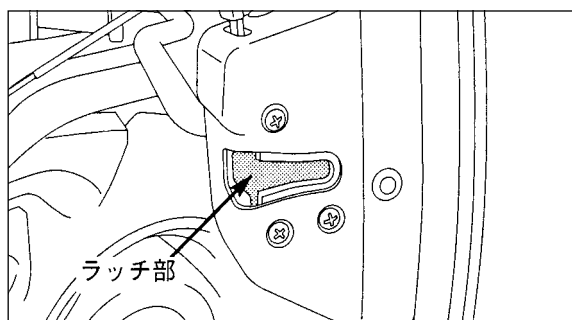


RTS3346

9.5.10 安全キャブドアのラッチ部

左右のドアのラッチ部にグリースを少量塗布してください。

使用オイル：リチウム系の一般グリス。



RTS3347

9.6 クローラの点検・整備・調整

セミクローラ仕様機はホイール（タイヤ）仕様機に比べ、点検整備を必要とする箇所が多くあります。機械の寿命アップや故障を未然に防ぐ為、日頃の点検・整備を必ず行ってください。

また、メンテナンスシートは、必ず機械に搭載してください。重要な点検・整備箇所をイラスト付で記載していますので、点検・整備がすばやく出来ます。

9.6.1 乗車と作業前点検

■点検項目一覧表

点 検 箇 所	点 検 内 容
ゴムクローラ	●クローラに大きな損傷はありませんか。 ●クローラの張りは適正ですか。
スプロケット 遊輪 転輪	●泥詰まりや石のかみこみはありませんか。 ●雪詰まりはありませんか。 ●草の巻きつきはありませんか。 ●極端な摩耗や偏摩耗はしてませんか。
遊輪 転輪 (RTS25・23C)	●オイル漏れはありませんか。 オイル漏れがある場合は、購入先で点検を受けてください。オイル切れをおこし破損するおそれがあります。
スクレーパ (RTS25・23C)	●隙間は適正ですか。 ●極端な摩耗や偏摩耗や変形はしていませんか。 隙間が適正でない場合、遊輪部やクローラフレームが破損するおそれがあります。
各部のボルト・ナット	●緩みはありませんか。
グリースニップル	●グリースアップを定期的に行ってください。 50h毎のグリースアップが目安です。グリースアップ量の目安は、シャフト部からグリースが湧き出すまでが目安です。

9.6.2 ゴムクローラの張り調整(RTS25・23C)

⚠ 警告

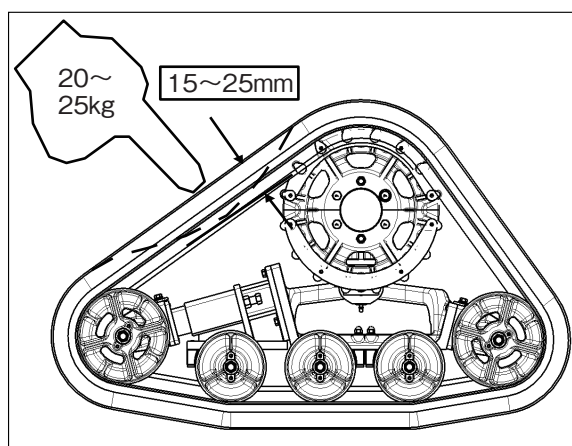


前進走行後停止し、パーキングブレーキをかけてゴムクローラの張りを確認してください。張りが適正でない場合は調整してください。

※ ゴムクローラの張りがゆるいまま走行すると、走行中に脱輪し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。また、張り過ぎは遊輪にクローラの異常な張力が掛かり遊輪を破損するおそれがあります。

■点検

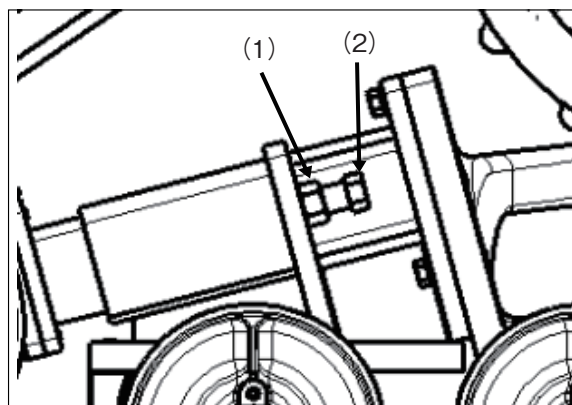
クローラのたわみが20～25kgfで押したとき15～25mmの範囲にあるか確認してください。



RTS0166

■調整

- 1 ロックナット (1) をゆるめます(対辺27)。
- 2 工具を使用し調整ボルト (2) を回し(対辺24)、クローラのたわみが20～25kgfで押した時、15～25mmになるように調整します。
- 3 調整後はロックナットを元どおりに締め付けます。



RTS0167

補 足

- クローラの初期伸びについて
新車時、および新品のクローラは初期運転すると通常少し伸びます。初期運転後は必ず張り調整を行ってください。

9.6.3 ゴムクローラの張り調整(RTS22・20C)

⚠ 警告

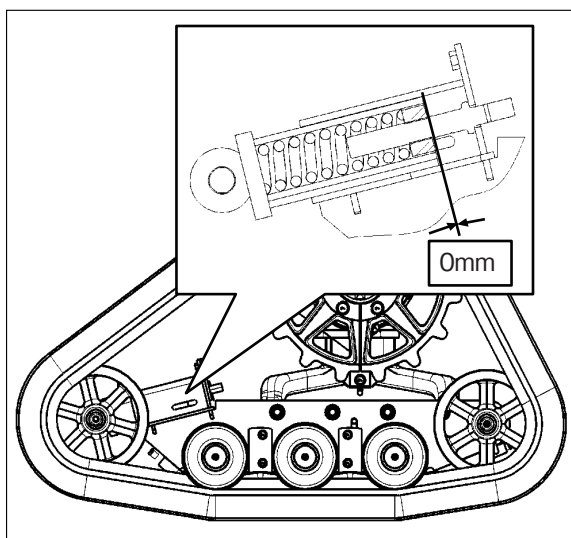


前進走行後停止し、パーキングブレーキをかけてゴムクローラの張りを確認してください。張りが適正でない場合は調整してください。

※ ゴムクローラの張りがゆるいまま走行すると、走行中に脱輪し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。また、張り過ぎは遊輪にクローラの異常な張力が掛かり遊輪を破損するおそれがあります。

■点検

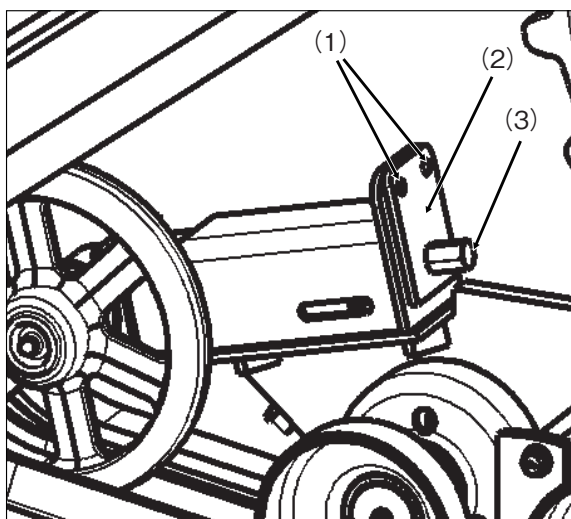
ゲージ穴からのぞいてナットとブラケットの隙間が、0mmになっているか点検します。



RTS0168

■調整

- 1 ボルト（対辺14）(1) を2本外して、ストッパプレート（2）を外します。
- 2 アジャスター（対辺17）(3) を回し、ゲージ穴からのぞいてナットとブラケットの隙間が、0mmになるように調整します。
- 3 調整後はストッパプレートを元どおりに取り付けます。



RTS0169

補 足

- クローラの初期伸びについて
新車時、および新品のクローラは初期運転すると通常少し伸びます。初期運転後は必ず張り調整を行ってください。

9.6.4 遊輪・転輪の点検(RTS25・23C)

⚠ 注意



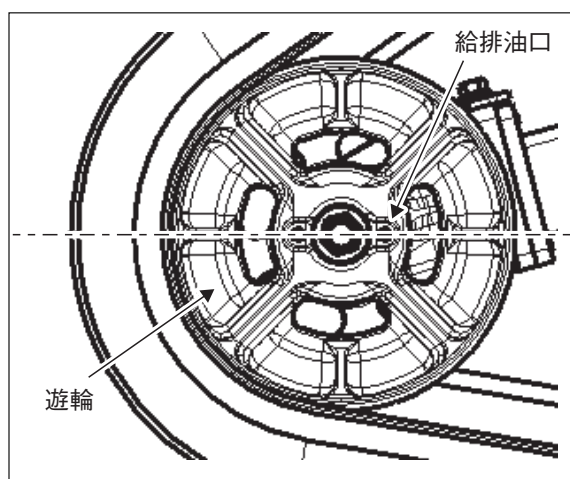
遊輪や転輪にオイル漏れがある場合は、お買いあげ先で点検を受けてください。放置するとオイル切れをおこし遊輪や転輪部が破損するおそれがあります。

■点検

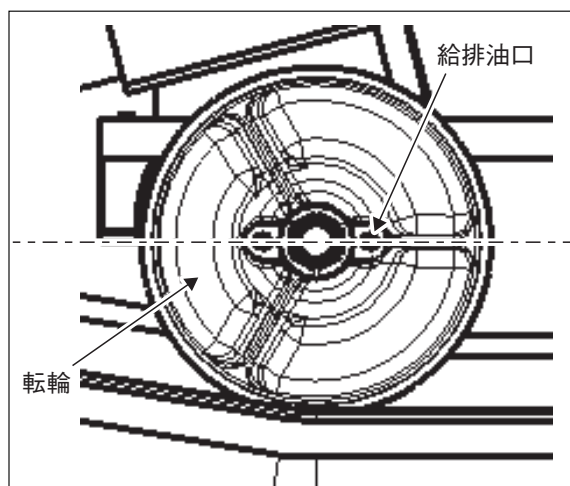
給排油口を車輪中心高さに合わせ、給排油口をはずしオイルが出てくるか確認してください。出てこない場合は「お買いあげ先」にて給油してください。

補 足

- オイル量の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。



RTS0170



RTS0171

9.6.5 グリース注入

⚠ 注意

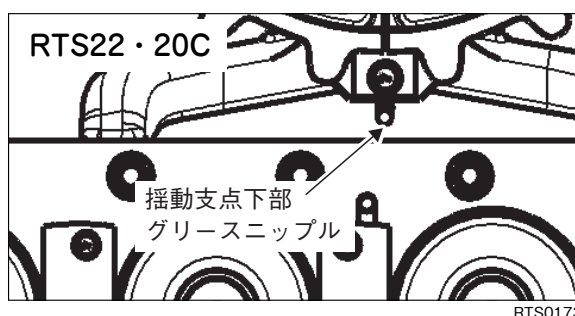
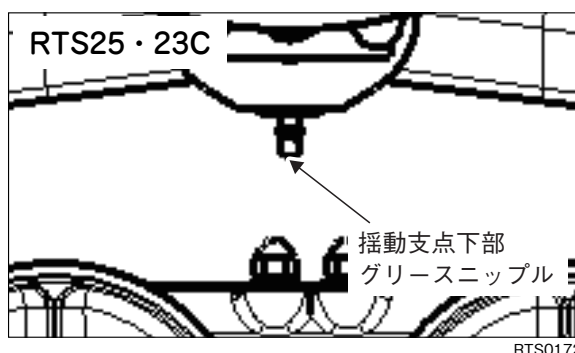


**グリースアップの必要な場所は50時間ごとにグリースアップしてください。
(代掻き時は毎回実施してください。)**

※ 守らないと、各部のシール性が低下し、泥水等が侵入して、各部で破損が発生し、最悪走行できなくなるおそれがあります。

(1) 揺動支点部

左右の揺動支点の下側にあるグリースニップルからグリースを注入してください。
グリースの注入はシャフト部分からグリースが湧き出すまで行ってください。



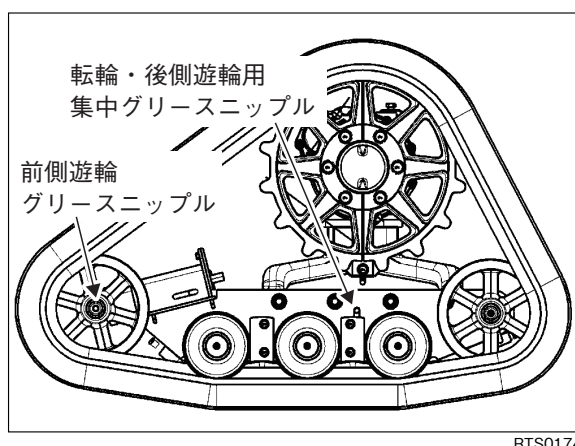
(2) 遊輪・転輪 (RTS22・20C)

左右の前側遊輪側面にあるグリースニップルからグリースを注入してください。
シャフトからグリースが湧き出すまで行ってください。

クローラ転輪部（3箇所）及び後ろ側遊輪の片側計4箇所は集中グリースニップルにて、左右1箇所ずつの給脂が可能です。

全ての転輪及び後ろ側遊輪からグリースが湧き出すまで行って下さい。

(転輪内側に確認用の穴があります。)



RTS0174

9.6.6 遊輪・転輪スクレーパの点検と調整(RTS25・23C)

注意

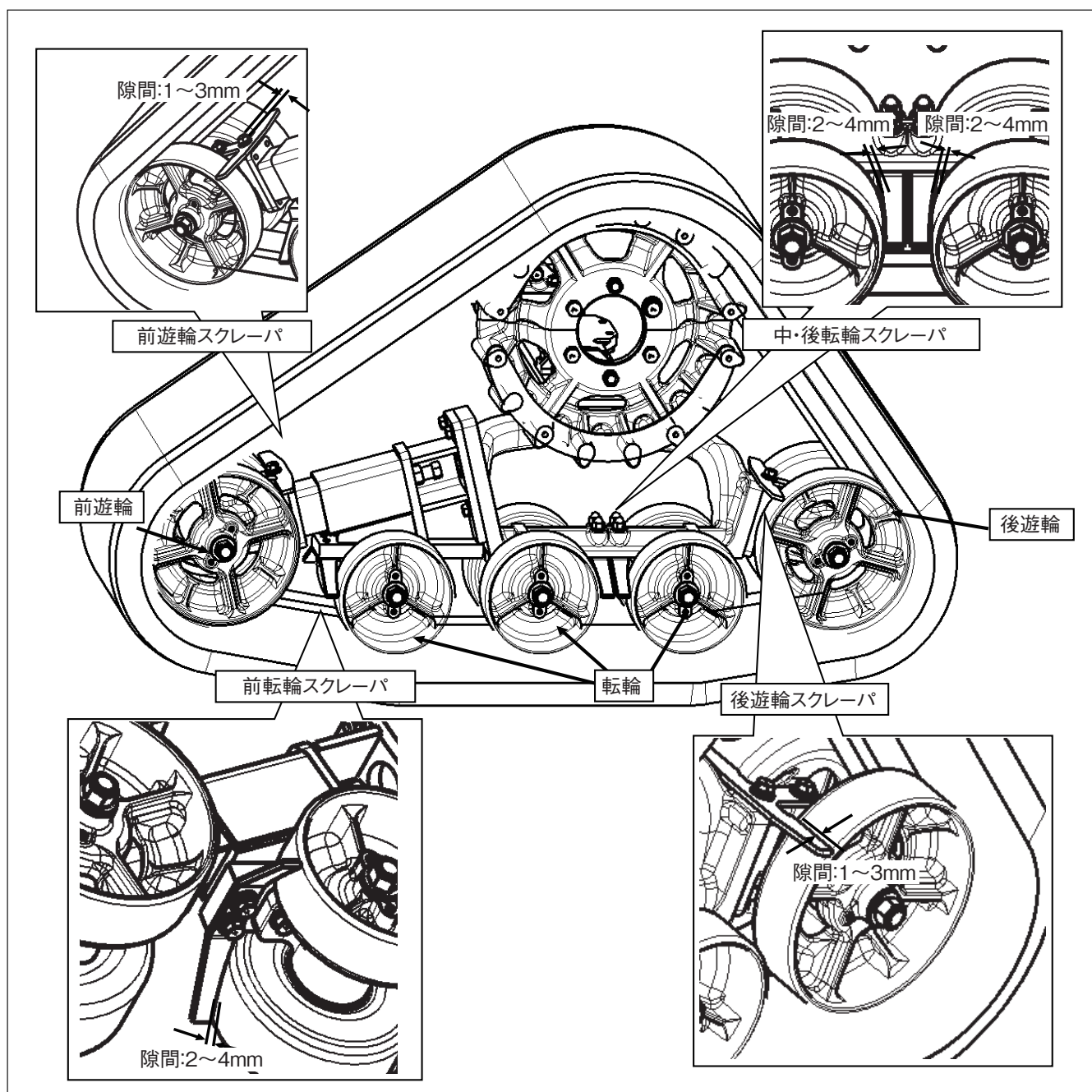


雪や赤土などが遊輪・転輪に巻き付くような作業では、必ずスクレーパを装着し、遊輪・転輪とスクレーパの隙間の確認・調整をしてください。

※ 守らないと、遊輪・転輪部に雪や赤土などが巻き付き、クローラに異常な張力がかかり、遊輪・転輪部が破損し走行できなくなるおそれがあります。

■スクレーパの調整

遊輪・転輪とスクレーパの隙間が下図寸法となるように、スクレーパ長穴部を動かし調整してください。



RTS0175

10. 格納時の手入れ

10.1 日常の格納

警告



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が発生することがあります。

注意



洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等の警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

日常の格納および短期間の格納する前に下記の作業を行ってください。

(1) トラクタはきれいに清掃してください。

特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。

(2) 作業機は必ず降ろしてください。

(3) 格納はできる限り屋内にしてください。

(4) 厳寒時はバッテリーを外し、暖かい室内等に保管すると始動時に効果があります。

(5) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、冷却水を完全に抜いてください。

10. 格納時の手入れ

10.2 長期の格納

危険



作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

警告



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注意



洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等の警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

10.2.1 格納前作業

トラクタを長い間使用しない場合は、格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) トラクタはきれいに清掃してください。
特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させてください。
- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- (6) タイヤの空気圧は標準よりも少し多めに入れてください。
- (7) バランスウエイト等は取り外してください。
- (8) 作業機は取り外すか、または地面に降ろしてください。
- (9) 格納場所は、周囲にワラ等燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしてください。
- (10) 後輪の前後に車止めをしてください。

- (12) バッテリーは、トラクタから取り外し充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。
どうしても取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

警告

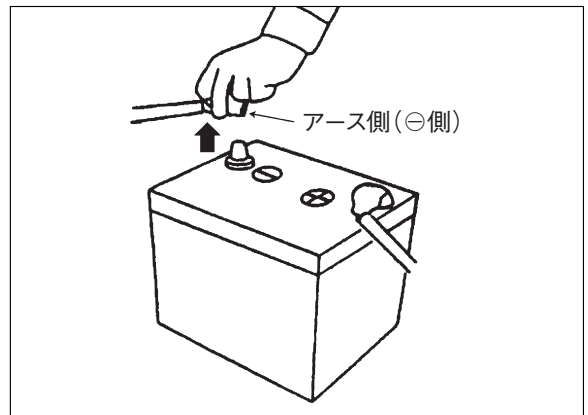


バッテリーあるいは⊖端子を外さないと、ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。

- (13) クラッチペダルを踏み、クラッチカットオフアームを引っかけてください。クラッチが切れた状態になります。

補 足

- クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが固着してクラッチが切れなくなることがあります。



RTS0250



RTS0251

10.2.2 格納期間中

- (1) エンジン防錆のため、1ヶ月に1回、中速回転（1500～2000 rpm）で5～10分間運転してください。
- (2) エアコンのコンプレッサーのオイル切れを防ぐため、1ヶ月に1回、エンジンを始動してください。（CY型式）
エンジンをアイドリングにしてエアコンを5分間程度作動させます。
怠ると、エアコン部品を損傷することがあります。

10.2.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

- (1) 「4. 作業前点検」(40ページ) を確実に行ってください。
- (2) エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

11. 不調時の処置

11.1 エンジン関係

11.1.1 始動時

現 象	原 因	処 置	参照ページ
メインスイッチを「始動」にしても、スタータが回らない場合	●クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを踏み込んでください。	51
	●セフティースwitchの故障。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●バッテリーが放電していませんか。	バッテリーを充電してください。	143
	●各部端子がゆるんでいませんか。	外れ、ゆるみ、腐蝕を点検、清掃し、確実に締め付けてください。 グリースを塗布し防錆をしてください。	153
	●スイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●スタータの故障。		
スタータは回るが、回転が遅い場合	●バッテリーの充電量が不足していませんか。	バッテリーを充電してください。	143
	●アースが不良。	接続部を清掃し、アースを確実に取ってください。	153
	●エンジンオイルの粘度が高くなっていますか。	適正粘度のオイルへ交換してください。	183 184
スタータは回るが、エンジンがかからない場合	●燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	141
	●燃料フィルタが詰まっていますか。	フィルタを清掃・交換してください。	141
	●燃料が供給されていますか。	燃料フィルタのコックを開いて燃料を送ってください。	141
	●エンジン本体の不具合。	「お買いあげ先」で修理してください。	—

11.1.2 運転中

現 象	原 因	処 置	参照ページ
エンジン回転が不規則になる場合	●燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	141
	●燃料フィルタが詰まっていますか。	燃料フィルタを清掃・交換してください。	141
	●噴射ノズルの詰まり。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●パイプ系の燃料が漏れている。		
	●燃料噴射の不揃い。		
	●燃料ポンプが作動不良を起こしていませんか。	ヒューズを点検・交換してください。	154
エンジンを低速にすると停止する場合	●インクジェクション・ポンプの不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●エンジンのバルブクリアランスの不良。		
	●ノズルの不良。		
エンジンが過回転する場合	●ガバナのゴミ詰まり。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●オイル上がり。		
エンジンが突然停止した場合	●燃料が不足していませんか。	燃料補給とエア抜きをしてください。	141
	●エンジンオイルが不足していませんか。	エンジンオイルを補給してください。	135
	●ノズルの不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●オイル不足、潤滑不良によるエンジンの焼き付き。		
オーバーヒートする場合	●冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	138
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整・交換をしてください。 または「お買いあげ先」で修理してください。	142
	●ラジエータが目詰まりを起こしていませんか。	清掃してください。	139
	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検・補給してください。	135

11. 不調時の処置

現 象	原 因	処 置	参照ページ
排気ガスが白い場合	●エアクリーナが詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	137
	●エンジンオイル量が多すぎませんか。	点検し、適正量にしてください。	135
	●燃料供給量の不足。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
排気ガスが黒い場合	●燃料が正規のものでない。	正規の燃料に入れ換えてください。	140
	●燃料が供給過剰。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●ノズル圧力の不足。		
エンジンの出力不足の場合	●ノズルの焼き付き、詰まりおよびカーボンがたまっていますか。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスが漏れていますか。		
	●バルブクリアランス調整不良。		
	●噴射時期不良。		
	●燃料供給量の不足。		
	●エアクリーナが目詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	137

11.1.3 メータパネル

現 象	原 因	処 置	参照ページ
運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する場合	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検・補給してください。	135
	●エンジンオイルの粘度が低くなっていますか。	適正粘度のオイルに交換してください。	183 184
	●プレッシャスイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●オイルポンプの故障。		
	●オイルフィルタエレメントが目詰まりを起こしていませんか。	オイルフィルタを交換してください。	136
運転中にバッテリーチャージ警告灯が点灯する場合	●配線の故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●オルタネータの故障。		
	●バッテリーの不良。	バッテリーを交換してください。	143
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整・交換をしてください。 または「お買いあげ先」で修理してください。	142
	●スローブローヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、スローブローヒューズを交換してください。	154
運転中冷却水温度警告灯が点灯する場合	●ラジエータの水量が少なくなっていますか。	点検・補給してください。	138
	●ラジエータが目詰まりを起こしていませんか。	清掃してください。	139
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整・交換をしてください。	142
	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検・補給してください。	135

11. 不調時の処置

11.2 トランスミッション・操作系・油圧関係

11.2.1 クラッチ

現 象	原 因	処 置	参照ページ
クラッチがすべる場合	●ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	149
	●クラッチライニングの摩耗・焼き付き。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
クラッチが切れない場合	●ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	149
	●クラッチライニングの錆び付き。	「お買いあげ先」で修理してください。	—

11.2.2 走行・ブレーキ

現 象	原 因	処 置	参照ページ
ブレーキのききが悪い、片ぎきである場合	●ブレーキペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊びを調整してください。	149
	●ライニングの摩耗。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●左右の踏み込み量に差はありませんか。	ペダルの踏みしろを調整してください。	149
ブレーキペダルの戻りが悪い場合	●ブレーキ戻しスプリングの破損。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●各摺動部のグリース切れ。	錆を落とし、グリースを注入してください。	156
リニアシフトレバー又は主変速レバーを操作すると連続ブザー音がなる場合 (G型式)	●コントローラの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●油圧システムの不良。		
	●電装・センサ類の不良。		
リニアシフトレバーを「中立」にしてもトラクタが動く場合 (G型式)	●センサ類の調整不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●HSTリンクの調整不良。		

11.2.3 ステアリングホイール

現 象	原 因	処 置	参照ページ
ステアリングホイールが重い、ステアリングホイールが取られる場合	●トーインが正しくない。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●タイヤの空気圧は適正ですか。	規定空気圧にしてください。	151
	●ボールジョイントにガタがある。	増し締めをしてください。 または、「お買いあげ先」で修理してください。	—
ステアリングホイールの遊びが多い場合	●ステアリングシャフトの摩耗。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●ボールジョイントにガタがある。		—

11.2.4 スーパーフルターン（S25型式以外）

現 象	原 因	処 置	参照ページ
スーパーフルターン表示灯が点灯しない場合	●走行・作業切換ダイヤルが、「こだわり」・「耕うん」位置以外になっていませんか。	「こだわり」・「耕うん」の位置にしてください。	79
	●電子油圧操作ボックス内の走行切換の「フルターン」ランプが消灯していませんか。	「フルターン」ランプを点灯させてください。	79
	●副変速レバーが「高速」になっていませんか。	副変速レバーを「高速」以外にしてください。	51
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
スーパーフルターンが作動しない場合	●スイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●バルブの故障。		
	●ライニングの摩耗・焼き付き。		
スーパーフルターンの作動位置が左右で違う場合	●スイッチの調整不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	—

11.2.5 オートリフト (K・S25型式以外)

現 象	原 因	処 置	参照ページ
オートリフトが作動しない場合	●電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」ランプが消灯していませんか。	「オートリフト」ランプを点灯させてください。	83
	●走行・作業切換ダイヤルが「走行」位置になっていませんか。	「走行」以外の位置にしてください。	83
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	83
	●作業機「下げ」操作後、ステアリングホイール(ハンドル)が直進状態になっていますか。	ステアリングホイール(ハンドル)を直進にした後、操作してください。	83
	●電子油圧が「準備状態」のままになっていませんか。	「準備状態」を解除した後、操作してください。	95
	●コントローラの故障	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●油圧系統の不良		
曲がったほ場でオートリフトが作動してしまう場合	●電装・センサ類の不良	電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」ランプを消灯してください。	83
	●ステアリングホイール(ハンドル)の切れ角がオートリフトが作動する位置以上になっていませんか。		

11.2.6 オートブレーキ (K・S25型式以外)

現 象	原 因	処 置	参照ページ
オートブレーキが作動しない場合	●電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」ランプが消灯していませんか。	「オートブレーキ」ランプを点灯させてください。	84
	●走行・作業切換ダイヤルが「走行」位置になっていませんか。	「走行」以外の位置にしてください。	84
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	84
	●作業機「下げ」操作後、ステアリングホイール(ハンドル)が直進状態になっていますか。	ステアリングホイール(ハンドル)を直進にした後、操作してください。	84
	●電子油圧が「準備状態」のままになっていませんか。	「準備状態」を解除した後、操作してください。	95
	●コントローラの故障	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●油圧系統の不良		
	●電装・センサ類の不良		

現 象	原 因	処 置	参照ページ
オートブレーキ表示灯が点滅する場合	●副変速レバーが「高速」になっていませんか。	副変速レバーを「高速」以外に切り換えてください。	84
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	84
	●作業機「上げ」操作後、20秒以上経過後ではないですか。	作業機を一度「下げ」にし、5秒以上経過後に操作してください。	84
曲がったほ場でオートブレーキが作動してしまう場合	●ステアリングホイール(ハンドル)の切れ角がオートブレーキが作動する位置以上になっていませんか。	電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」ランプを消灯してください。	84

11.2.7 油圧

現 象	原 因	処 置	参照ページ
作業機が上がらない場合	●エンジンの回転数が不足していませんか	アクセルレバーを操作し、エンジン回転を高くしてください。	36
	●ミッションオイル量が不足していませんか	規定量まで補給してください。	145
	●吸入パイプ系統からエアを吸い込んでいませんか	ゆるんでいる箇所がないか点検してください。	—
	●オイルフィルタの詰まり	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●油圧ポンプの故障		
	●コントロールバルブの故障		
	●シリンダの破損		
	●電装部品関係の故障		
	●作業機が適応外ではありませんか	適応内作業機を取り付けてください。	—

11.2.8 電子油圧関係

現 象	原 因	処 置	参照ページ
上昇ランプが点滅したままコントロールレバーを操作しても変わらない場合	●チェックヒューズが外れていませんか。	チェックヒューズを差し込んでください。	107
	●コントロールレバーセンサのカプラが外れていませんか。	カプラを接続してください。	—
	●コントロールレバーセンサの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●リフトアームセンサのカプラが外れていませんか。	カプラを接続してください。	—
	●リフトアームセンサの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●配線不良。		
	●コントローラの不良。		
コントロールレバーを最上げ操作すると、上昇ランプが点灯するが、油圧が上がらない場合	●上げ高さ調整ダイヤルは適正位置になっていますか。	上げ高さ調整ダイヤルを調整してください。	99
	●上げ高さ調整ダイヤルの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●バルブ配線は外れていませんか。	カプラを接続してください。	—
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●油圧関係の不良はありませんか。		
コントロールレバーを最下げ操作すると、上昇ランプが消灯するが、油圧が下がらない場合	●油圧降下速度調節つまみがロック位置になっていませんか。	つまみを左に回してください。	98
	●バルブ配線が外れていませんか。	カプラを接続してください。	—
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●油圧関係の不良はありませんか。		
フィンガップレバー・フィンガップスイッチを操作しても油圧が上下しない場合	●上昇ランプが点滅していませんか。	コントロールレバーを操作して、準備状態を解除してください。	95
	●フィンガップレバー・フィンガップスイッチの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●フィンガップレバー・フィンガップスイッチ配線が外れていませんか。	カプラを接続してください。	—

現 象	原 因	処 置	参照ページ
バックアップしない場合 (K型式以外)	●バックアップスイッチが「切」の位置になっていませんか。	バックアップスイッチを「入」の位置にしてください。	99
	●リニアシフトレバー後進側センサの調整不良はありませんか。	「お買いあげ先」で調整してください。	—
	●バックアップスイッチの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●リニアシフトレバー後進側センサの不良はありませんか。		
	●配線不良。		
自動耕深制御が働かない場合 (S25型式以外)	●デプスセンサは接続されていますか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●デプスセンサハーネスが断線していませんか。		
	●デプスセンサの不良はありませんか。		
	●耕深調整ダイヤルの不良はありませんか。		

11.2.9 水平制御 (K・S25型式以外)

現 象	原 因	処 置	参照ページ
水平手動スイッチを操作しても動かない場合	●ヒューズの断線。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	154
	●バルブ配線の外れ。	カブラを接続してください。	—
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●バルブのゴミ詰まり。		
水平切換スイッチを「平行」にしても平行にならない場合	●ストロークセンサが外れていませんか。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●ストロークセンサの調整不良はありませんか。		
水平切換スイッチを「自動」にしてもロータリが水平にならない場合	●傾き調整ダイヤルの調整不良。	トラクタを平たんなところに置いて、ロータリが地面と水平になるように調整してください。	106
	●スロープセンサの不良。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	—
	●スロープセンサの調整不良。	「お買いあげ先」で調整してください。	
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理・交換してください。	

11. 不調時の処置

11.3 電装関係

11.3.1 バッテリ

現 象	原 因	処 置	参照ページ
バッテリーが充電されない場合	●スローブローヒューズの断線。	配線を点検し、スローブローヒューズの交換をしてください。	154
	●配線の故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●オルタネータの故障。		
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	張り調節、ベルトを交換してください。 または、「お買いあげ先」で修理してください。	142
	●バッテリーの機能が低下していませんか。	端子のゆるみ腐食を点検してください。	143

11.3.2 ランプ類

現 象	原 因	処 置	参照ページ
ランプ類が暗い場合	●バッテリーが充電不足ではありませんか。	充電してください。	143
	●結線、接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。 取付部の増し締めをしてください。	153
ランプ類が点灯しない場合	●電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	186
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	154
	●接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	153
ウインカが点灯しない場合	●電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	186
	●フラッシュユニットの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	153
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	154

11.3.3 ホーン

現 象	原 因	処 置	参照ページ
ホーンが鳴らない場合	●ホーンボタンの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●配線不良。		
	●ホーンの損傷。		
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	154

11.4 安全キャブ関係（安全キャブ仕様）

11.4.1 エアコン

現 象	原 因	処 置	参照ページ
エアコンから風が出ない場合	●スローブローヒューズの断線	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●ブロアモータの損傷		
エアコンの風量が少ない場合	●エアコンのフィルタが目詰まりしていませんか	エアコンフィルタの点検・清掃をしてください。	158
	●ブロアモータの回転が遅い	「お買いあげ先」で修理してください。	—
エアコンが冷えない場合	●コンプレッサが回転しない	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●コンプレッサの回転が遅くなっていますか	エアコン用ベルトを点検・調整してください。	157
	●冷媒用ガスが過不足していませんか	「お買いあげ先」で正規量を充填し直してください。	—

11.4.2 安全キャブ

現 象	原 因	処 置	参照ページ
作業灯が点灯しない場合	●電球が切れていませんか	電球を交換してください。	186
	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	160
	●接触不良はありませんか	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	153
ワイパーが動かない場合	●バッテリーが充電不足ではないですか	充電してください。	143
	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	160
	●モータの損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	—
ウインドウォッシャー液が出ない場合	●ウォッシャー液が少なくなっていないですか	規定量まで補給してください。	159
	●接触不良はありませんか	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	153
	●モータの損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	—
ラジオの音が出ない場合	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	160
	●本体の損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	—
ドアの閉まりが悪い、ドアが走行中に開く場合	●ドアダンパの不良	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●ドアロックとストライカの調整不良		
	●ドアロックの損傷		
リヤウインドの閉まりが悪い場合	●ドアロックとストライカの調整不良	「お買いあげ先」で修理してください。	—
	●ダンパウインドの不良		

12. 付表

12.1 推奨潤滑油一覧表

区 分		メーカ名	商 品 名	出荷時充填油											
ディーゼル エンジンオイル		井関農機	キセキ・スーパーマルチエンジンオイル	○											
		有名メーカ	CF級以上												
ギヤオイル	フロント アクスル	井関農機	キセキ・マルチデラックスギヤオイル(#80)	○											
	ミッショ ンケース	井関農機	キセキU・T・Hオイル(80W)	○											
純正ロータリのチェー ンケースギヤケース		井関農機	キセキ・ハイポイドギヤオイル(#140)	○											
一般グリース		協同油脂 他有名メーカのリチュー ム系一般グリース	ユニルーフNo.2	○											
燃 料		有名メーカ品	ディーゼル軽油 燃料は、「ディーゼル軽油」を使用して ください。 ディーゼル軽油には下表の種類があり、 地域・季節により流通している種類が異 なります。使用時期に合わせ、地域・季 節に見合ったものを使用してください。	○											
			種類		ディーゼル軽油の流動点(℃)	特1号	+5以下	1号	-2.5以下	2号	-7.5以下	3号	-20以下	特3号	-30以下
			種類		ディーゼル軽油の流動点(℃)										
			特1号		+5以下										
			1号		-2.5以下										
			2号		-7.5以下										
			3号		-20以下										
特3号	-30以下														
(JIS規格より抜粋)															
流動点付近以下の温度になると燃料の流 動性が悪いとか凍結等によりエンジンの 始動性が悪いとか始動できない事があり ます。															
不 凍 液		モービル 昭和シェル石油 他有名メーカ品を使用	モービルロングライフクーラント (L.L.C.) アンチフリーズ	○											
ウォッシャー液		昭和シェル石油 有名メーカ品	シェルウインドクリーナ	○ (CY型式)											
エアコンガス		デンソー 他有名メーカ品	カーエアコン・クーラ用ガスHFC-134a カーエアコン・クーラ用ガスR-134a	○ (CY型式)											

12.2 中セキ純正オイル一覧

■エンジンオイル

商 品 名	番 手	グレード	容 量	部品コード
スーパーマルチエンジンオイル	10W	SH/CF	200L	7019-009-200-00
			20L	7019-009-300-00

■ミッションオイル

商 品 名	番 手	グレード	容 量	部品コード
U・T・Hオイル	80W	—	20L	7019-019-300-00
			4L×6個	7019-019-400-00

■フロントアクスルオイル

商 品 名	番 手	グレード	容 量	部品コード
マルチデラックスギヤオイル	#80	GL-4	20L	7019-004-300-00
			4L×6個	7019-004-400-00

■純正ロータリのチェーンケースギヤケース

商 品 名	番 手	グレード	容 量	部品コード
ハイポイドギヤオイル	#140	GL-4	20L	7019-003-300-00
			4L×6個	7019-003-400-00

12.3 純正エアコンガス

※冷媒用ガスの回収・充填には、第一種フロン類充填回収業者に依頼されるか、お買いあげ先に相談してください。

冷媒用ガスは必ずHFC-134aを使用し、充填量は600～650g充填してください。

ガスの充填は、全量抜き取り後、規定量を入れてください。

ガス不足や過充填の防止のため、ガスの補充は行わないでください。

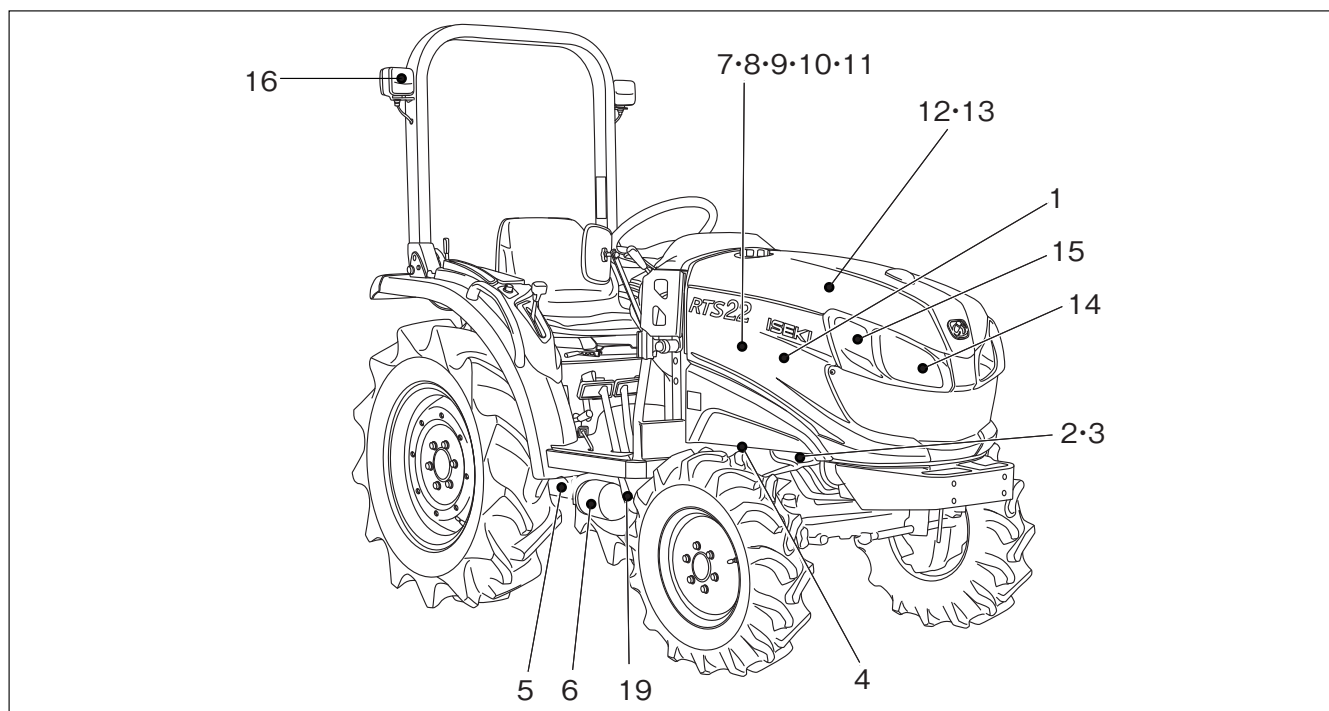
■冷媒サービス缶（メーカー：(株)デンソー）

種 類	品 番	容 量
HFC-134a	445080-0010	200g

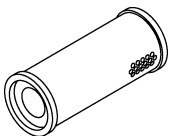
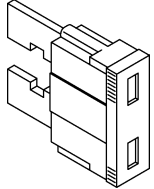
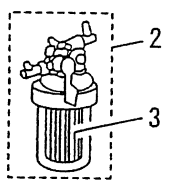
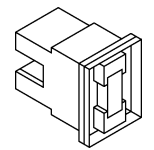
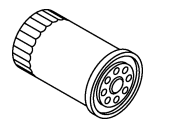
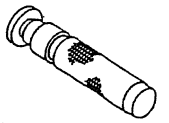
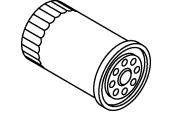
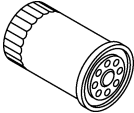
■コンプレッサオイル（メーカー：(株)デンソー）

種 類	品 番	容 量
HFC-134(a)	446963-0030	40cc
	446963-0040	250cc
	446963-0050	4,000cc

12.4 主な消耗部品一覧表



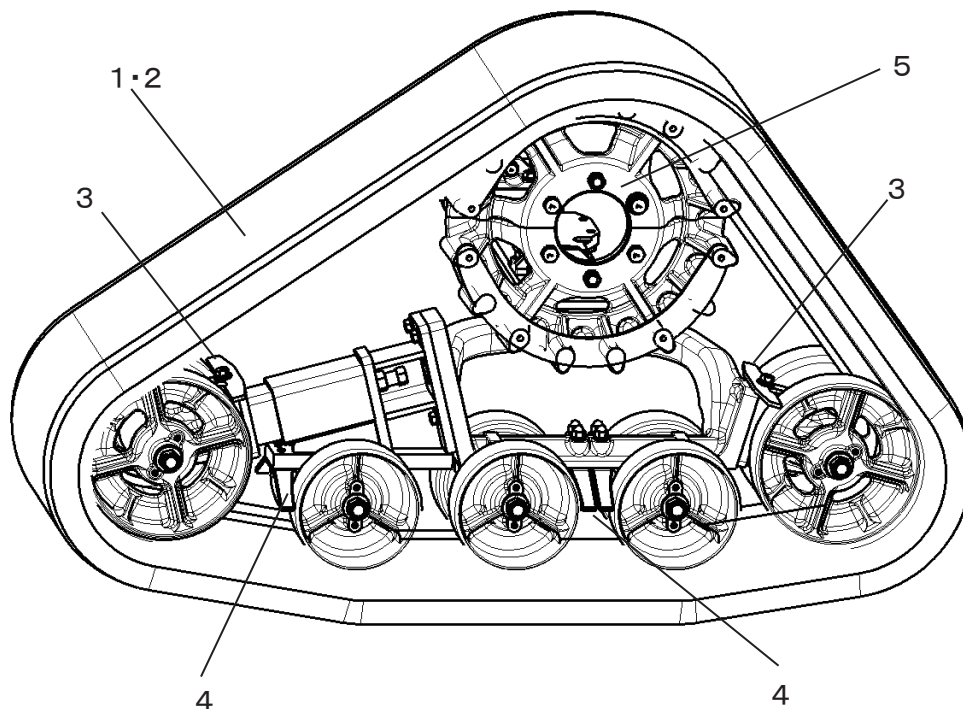
RTS0252B

番号	消耗部品	形 状	番号	消耗部品	形 状
1	エアクリーナエレメント		7 8 9 10 11	ヒューズ (5A) (7.5A)(安全キャブ仕様) ※左ピラーカバー内側 (10A) (15A) (20A)	
2 3	燃料フィルタ エレメント		12 13	スローブローヒューズ (40A) (60A) (安全キャブ仕様)	
4	エンジンオイルフィルタ カートリッジ		14 15 16 17	電球 (ヘッドランプ) 電球 (サイドビューライト) 電球 (方向指示ランプ) 電球 (作業灯) P34参照	
5	油圧ストレーナ (C型式) ※ミッション左側		18	ルームランプP35参照	
6	油圧オイルフィルタ カートリッジ (C型式除く) ※右ステップ下		19	油圧オイルフィルタ (HST用) カートリッジ (G型式) ※ミッション左側	

番号	消耗部品	品 番
1	エレメント ASSY	1725-104-313-00
2	フィルタ (フューエル) ASSY	1716-105-200-20
3	エレメント	1672-105-211-00
4	フィルタ(サクション/400) COMP(C型式)	1805-508-260-00
5	カートリッジ(10) ASSY	1758-509-510-00
6	カートリッジ (オイルフィルタ)	6213-240-002-10
7	ヒューズ (ブレード/32V5A)	3824-247-202-00
8	ヒューズ (ブレード/32V7.5A)	1729-658-202-00
9	ヒューズ (ブレード/32V10A)	3821-262-202-00
10	ヒューズ (ブレード/32V15A)	3821-262-203-00
11	ヒューズ (ブレード/32V20A)	3821-262-204-00
12	ヒューズ (スローブロー) 40A	1650-650-222-00
13	ヒューズ (スローブロー) 60A	1650-650-243-00
14	バルブ (ランプ, 12V23W)	1426-621-002-00
15	バルブ (ランプ, 12V15W)	1764-650-203-00
16	バルブ (21W/アンバ)	1789-660-221-00
17	バルブ (ハロゲン/12V35W)	1792-658-361-00
18	バルブ (ランプ/12V8W)	1792-658-301-00
19	カートリッジ(G型式)	P103-521-302-00

■セミクローラ部の主な消耗部品一覧表

RTS25・23C

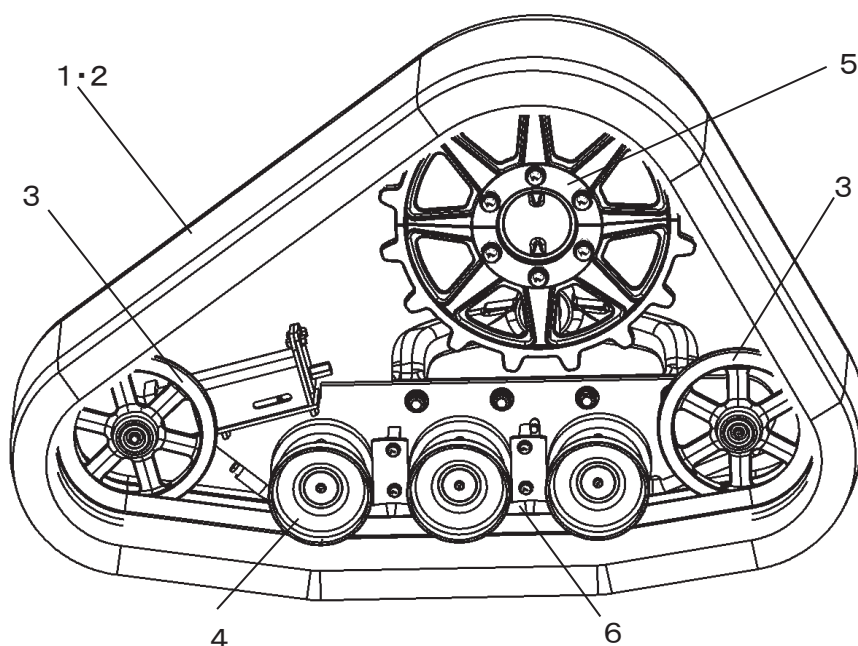


番号	消耗部品	品 名	品 番
1	クローラ	クローラ(370X90X36)	1829-317-001-00
2	クローラ (02型式)	クローラ(280X90X36)	1829-317-002-00
3	遊輪スクレーパ	スクレーパ (ローラ/FR)	1792-640-011-00
4	転輪スクレーパ	スクレーパ (ローラ)	1829-640-007-00
5	スプロケット	スプロケット (ホイール/16)	1829-307-051-00

※クローラ部品の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。

■セミクローラ部の主な消耗部品一覧表

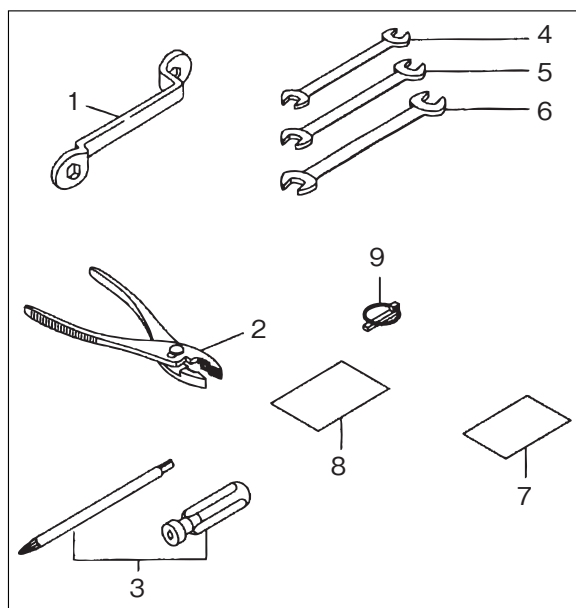
RTS22・20C



番号	消耗部品	品 名	品 番
1	クローラ	クローラ(330X34X84WP)	1717-317-001-20
2	クローラ (02型式)	クローラ(200X34X84IR)	1826-317-001-00
3	遊輪	ローラ(アイドル/230) ASSY	1789-640-970-00
4	転輪	ローラ(145) ASSY	1826-640-250-00
5	スプロケット	スプロケット (ホイール/428)	1789-307-072-00
6	クローラガイド	パー COMP	1789-640-870-00

※クローラ部品の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。

12.5 標準付属品



RTS0253

番 号	品 名	個 数
1	メガネレンチ (17-19)	1
2	プライヤ	1
3	サシカエドライバASSY	1
4	リョウグチスパナ (マル) 10×12	1
5	リョウグチスパナ (マル) 14×17	1
6	リョウグチスパナ (マル) 19×22	1
7	取扱説明書	1
8	サービスブック	1
9	リンクピン	2

12.6 純正ロータリ適応表

中セキ純正ロータリの適応表を下記に示します。

クラス・作業にあった型式のロータリを装着してください。

純正ロータリ以外の作業機については、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

警告



純正ロータリ以外の作業機を取り付けたときは、必要に応じてバンパウエイトを装着してください。

※ 前部が軽くなると、浮き上がったり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリクラス名		クラス名				
		RTS25	RTS23	RTS22	RTS20	RTS18
サイドロータリ	RAS160	○	○			
	RAS150	◎	○			
	RAS140	○	◎			
	RAS14			◎	◎	○
	RAS13			○	○	◎
	RAS12					○
センタロータリ	RBS140	◎	◎			
	RBS13			◎	◎	◎
	RBS12					○

◎：標準（推奨型式）

○：装着可

12.7 主要諸元表

ク ラ ス 名				RTS25		
型 式 名				中セキ T1704		中セキ T1704G
区 分				S〔SCY〕	Q〔QCY〕	GQ〔GQCY〕
駆 動 方 式				四輪駆動		
機 体 寸 法	全		長 (mm)	2810		
	全		幅 (mm)	1330		
	全		高 (mm)	1985		
	軸		距 (mm)	1500		
	輪 距	前 輪 (mm)		1030		
		後 輪 (mm) (調整範囲)		1050		
最 低 地 上 高 (mm)		360				
機 体 重 量 (kg)				985〔1150〕		1070〔1255〕
エ ン ジ ン	型 式 名			E3CD-UB83 〔UB84〕	E3CD-UB75 〔UB76〕	E3CD-UB75 〔UB76〕
	種 類			水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量 (L)			1.498		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)			18.4/2500 {25/2500}		
	使 用 燃 料			ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			28		
	バ ッ テ リ (V.Ah)			12, 55(80D26R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪		7-16		
		後 輪		11.2-24		
	ク ラ ッ チ 型 式			乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式			湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式			パワーステアリング		
	変 速 方 式			常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数			前・後進 12段		前・後進 30段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進 (km/h)		別表		
		後 進 (km/h)		別表		
最 小 回 転 半 径 (m)				1.95		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)			523, 819, 1266		543, 850, 1314
	逆 転 (min ⁻¹)			505, 792, 1224		544, 852, 1317
	軸 寸 法			6スプライン軸径35mm		
け ん 引 装 置				固定ヒッチ（注文部品）		
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式			ポジションコントロール		
	装 着 方 式			3点リンクJ I S O型		

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名				RTS25			
型 式 名				㇏セキ T1704	㇏セキ T1704N	㇏セキ T1704GN	㇏セキ T1704
区 分				Q05	NS	GNS	S25
駆 動 方 式				四輪駆動			
機 体 寸 法	全 長 (mm)			2810			
	全 幅 (mm)			1215	1105		
	全 高 (mm)			1965	1900		
	軸 距 (mm)			1500			
	輪 距	前 輪 (mm)		960	880		980
		後 輪 (mm) (調整範囲)		950 1105	870 1025		990 —
	最 低 地 上 高 (mm)			350	310		285
機 体 重 量 (kg)				955	890	975	885
エ ン ジ ン	型 式 名			E3CD-UB75	E3CD-UB83		E3CD-UB83
	種 類			水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総 排 気 量 (L)			1.498			
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)			18.4/2500 {25/2500}			
	使 用 燃 料			ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			28			
	バ ッ テ リ (V.Ah)			1 2 , 5 5 (8 0 D 2 6 R)			
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪		7-14	6.00-12		24X8.5-12
		後 輪		9.5-24	8.3-22		315/75D-15
	ク ラ ッ チ 型 式			乾式単板			
	ブ レ ー キ 型 式			湿式ディスク式			
	舵 取 り 方 式			パワーステアリング			
	変 速 方 式			常時・選択噛み合い式併用			
	変 速 段 数			前・後進 12段		前・後進 30段	前・後進 12段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進 (km/h)		別表			
		後 進 (km/h)		別表			
最 小 回 転 半 径 (m)				1.95			
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)			523, 819, 1266		543, 850, 1314	523, 728
	逆 転 (min ⁻¹)			505, 792, 1224		544, 852, 1317	505, 704
	軸 寸 法			6スプライン軸径35mm			
け ん 引 装 置				固定ヒッチ（注文部品）			
作 業 機 昇 降 装 置		制 御 方 式		ポジションコントロール			
		装 着 方 式		3点リンクJ I S O型			

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12. 付表

ク ラ ス 名				RTS25C				
型 式 名				中セキ T1704C		中セキ T1704CG	中セキ T1704C	
区								

[] 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名			RTS23		
型 式 名			ギセキ T1714		ギセキ T1714G
区 分			S〔SCY〕	Q〔QCY〕	GQ〔GQCY〕
駆 動 方 式			四輪駆動		
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2810		
	全 幅 (mm)		1215〔1300〕		
	全 高 (mm)		1965		
	軸 距 (mm)		1500		
	輪 距	前 輪 (mm)	960		
		後 輪 (mm)	950		
		(調整範囲) (mm)	1105		
最 低 地 上 高 (mm)		350			
機 体 重 量 (kg)			955〔1120〕		1040〔1225〕
エ ン ジ ン	型 式 名		E3CD-UB77〔UB78〕		
	種 類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量		1.498		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)		17.3/2500 {23.5/2500}		
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		28		
	バ ッ テ リ (V.Ah)		12, 55(80D26R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	7-14		
		後 輪	9.5-24		
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング		
	変 速 方 式		常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数		前・後進 12段		前・後進 30段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	別表		
		後 進	別表		
最 小 回 転 半 径 (m)			1.95		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)		523, 819, 1266		543, 850, 1314
	逆 転 (min ⁻¹)		505, 792, 1224		544, 852, 1317
	軸 寸 法		6スプライン軸径35mm		
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）		
作業機		制 御 方 式	ポジションコントロール		
昇降装置		装 着 方 式	3点リンクJISO型		

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12. 付表

ク ラ ス 名			RTS23C		
型 式 名			中セキ T1714C		中セキ T1714CG
区 分			S	Q	GQ
駆 動 方 式			四輪駆動		
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2900		
	全 幅 (mm)		1330		
	全 高 (mm)		1995		
	軸 距 (mm)		1500		
	輪 距	前 輪 (mm)	1030		
		後 輪 (mm) (調整範囲)	1030		
最 低 地 上 高 (mm)		370			
機 体 重 量 (kg)			1375		1460
エ ン ジ ン	型 式 名		E3CD-UB77〔UB78〕		
	種 類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量		1.498		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)		17.3/2500 {23.5/2500}		
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		28		
	バ ッ テ リ (V.Ah)		12, 55(80D26R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	7-16		
		後 輪	370幅クローラ		
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング		
	変 速 方 式		常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数		前・後進 12段		前・後進 30段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	別表		
		後 進	別表		
最 小 回 転 半 径 (m)			2.0		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)		523, 819, 1266		543, 850, 1314
	逆 転 数 (min ⁻¹)		505, 792, 1224		544, 852, 1317
	軸 寸 法		6スプライン軸径35mm		
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）		
作業機		制 御 方 式	ポジションコントロール		
昇降装置		装 着 方 式	3点リンクJ I S O型		

[] 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名			RTS22		
型 式 名			ギセキ T1744		ギセキ T1744G
区 分			S	Q	GQ
駆 動 方 式			四輪駆動		
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2600		
	全 幅 (mm)		1105		
	全 高 (mm)		1925		
	軸 距 (mm)		1355		
	輪 距	前 輪 (mm)	880		
		後 輪 (mm)	850		
		(調整範囲) (mm)	1000		
最 低 地 上 高 (mm)		300			
機 体 重 量 (kg)			835		920
エ ン ジ ン	型 式 名		E3112-UB53		
	種 類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量		1.123		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)		16.1/2600 {21.9/2600}		
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		28		
	バ ッ テ リ (V.Ah)		12, 36(55B24R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	6.00-12		
		後 輪	9.5-20		
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング		
	変 速 方 式		常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数		前・後進 12段		前・後進 30段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	別表		
		後 進	別表		
最 小 回 転 半 径 (m)			1.9		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)		544, 815, 1231		565, 846, 1279
	逆 転 (min ⁻¹)		526, 788, 1190		566, 848, 1281
	軸 寸 法		6スプライン軸径35mm		
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）		
作業機 昇降装置		制 御 方 式		ポジションコントロール	
		装 着 方 式		3点リンクJISO型	

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12. 付表

ク ラ ス 名				RTS22C		
型 式 名				中セキ T1744C		中セキ T1744CG
区 分				S	Q	GQ
駆 動 方 式				四輪駆動		
機 体 寸 法	全		長 (mm)	2600		
	全		幅 (mm)	1260		
	全		高 (mm)	1970		
	軸		距 (mm)	1355		
	輪 距	前 輪 (mm)		890		
		後 輪 (mm) (調整範囲)		900		
最 低 地 上 高 (mm)		300				
機 体 重 量 (kg)				1035		1120
エ ン ジ ン	型 式 名			E3112-UB53		
	種 類			水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量			1.123		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)			16.1/2600 {21.9/2600}		
	使 用 燃 料			ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			28		
	バ ッ テ リ (V.Ah)			12, 36(55B24R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪		6.00-14		
		後 輪		330幅クローラ		
	ク ラ ッ チ 型 式			乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式			湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式			パワーステアリング		
	変 速 方 式			常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数			前・後進 12段		前・後進 30段
	走 行 速 度 (km/h)	前 進		別表		
		後 進		別表		
最 小 回 転 半 径 (m)				2.0		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)			544, 815, 1231		565, 846, 1279
	逆 転 (min ⁻¹)			526, 788, 1190		566, 848, 1281
	軸 寸 法			6スプライン軸径35mm		
けん引装置				固定ヒッチ（注文部品）		
作業機		制 御 方 式		ポジションコントロール		
昇降装置		装 着 方 式		3点リンクJISO型		

[] 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名			RTS20			
型 式 名			ギセキ T1724			ギセキ T1724G
区 分			K	S	Q	GQ
駆 動 方 式			四輪駆動			
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2600			
	全 幅 (mm)		1105			
	全 高 (mm)		1925			
	軸 距 (mm)		1355			
	輪 距	前 輪 (mm)	880			
		後 輪 (mm)	850			
		(調整範囲) (mm)	1000			
最 低 地 上 高 (mm)		300				
機 体 重 量 (kg)			820	830		915
エ ン ジ ン	型 式 名		E3112-UB49			
	種 類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総 排 気 量		1.123			
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)		14.7/2500 {20.0/2500}			
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		28			
	バ ッ テ リ (V.Ah)		12, 36(55B24R)			
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	6.00-12			
		後 輪	9.5-20			
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板			
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式			
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング			
	変 速 方 式		常時・選択噛み合い式併用			
	変 速 段 数		前・後進 12段		前・後進 30段	
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	別表			
		後 進	別表			
最 小 回 転 半 径 (m)			1.9			
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)		523, 783, 1184			543, 813, 1229
	逆 転 (min ⁻¹)		505, 757, 1145			544, 815, 1232
	軸 寸 法		6スプライン軸径35mm			
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）			
作業機 昇降装置		制 御 方 式	ポジションコントロール			
		装 着 方 式	3点リンクJ I S O型			

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12. 付表

ク ラ ス 名			RTS20			
型 式 名			ㇿセキ T1724N	ㇿセキ T1724	ㇿセキ T1724G	ㇿセキ T1724H
区						

[] 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名			RTS20C		
型 式 名			中セキ T1724C		中セキ T1724CG
区 分			S	S02	GWW03
駆 動 方 式			四輪駆動		
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2600		
	全 幅 (mm)		1260	1100	1065
	全 高 (mm)		1970		
	軸 距 (mm)		1355		
	輪 距	前 輪 (mm)	890		840
		後 輪 (mm) (調整範囲)	900		800
最 低 地 上 高 (mm)			300		
機 体 重 量 (kg)			1035	1025	
エ ン ジ ン	型 式 名		E3112-UB49		
	種 類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量		1.123		
	出 力 (kW/min ⁻¹) (PS/min ⁻¹)		14.7/2500 {20.0/2500}		
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		28		
バ ッ テ リ (V.Ah)			1 2, 3 6 (55B24R)		
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	6-14		6.00-12
		後 輪	330幅クローラ	200幅クローラ	200幅クローラ
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板		
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式		
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング		
	変 速 方 式		常時・選択噛み合い式併用		
	変 速 段 数		前・後進 12段		前・後進 30段
	走行速度 (km/h)	前 進	別表		
後 進		別表			
最 小 回 転 半 径 (m)			1.9		
P T O	回 転 数 (min ⁻¹)		523, 783, 1184		543, 813, 1229
	逆 転 (min ⁻¹)		505, 757, 1145		544, 815, 1232
	軸 寸 法		6スプライン軸径35mm		
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）		
作業機		制 御 方 式	ポジションコントロール		
昇降装置		装 着 方 式	3点リンクJISO型		

〔 〕 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12. 付表

ク ラ ス 名				RTS18		
型 式 名				中セキ T1734		
区						

[] 内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12.8 走行速度表 (km/h)

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	RTS25		RTS23	RTS22	RTS20	RTS18
			S、Q	Q05	S、Q	K、S、Q	K、S、Q	K、S、Q
前進	超低速	1	0.33	0.32		0.34	0.33	0.31
		2	0.42	0.40		0.43	0.41	0.39
		3	0.58	0.55		0.59	0.57	0.53
		4	0.88	0.84		0.90	0.86	0.81
	低速	1	1.19	1.14		1.22	1.17	1.10
		2	1.50	1.44		1.54	1.48	1.39
		3	2.05	1.97		2.10	2.02	1.90
		4	3.13	3.00		3.20	3.08	2.90
	高速	1	5.14	4.93		5.26	5.06	4.76
		2	6.48	6.21		6.63	6.37	6.00
		3	8.85	8.49		9.06	8.71	8.20
		4	13.49	12.94		13.81	13.28	12.49
		エンジン無負荷 最高回転	(14.84)	(14.23)		(14.92)	(14.60)	(13.74)
後進	超低速	1	0.32	0.31		0.33	0.32	0.30
		2	0.41	0.39		0.42	0.40	0.38
		3	0.56	0.53		0.57	0.55	0.51
		4	0.85	0.81		0.87	0.83	0.78
	低速	1	1.15	1.10		1.18	1.13	1.07
		2	1.45	1.39		1.49	1.43	1.34
		3	1.98	1.90		2.03	1.95	1.84
		4	3.02	2.90		3.09	2.98	2.80
	高速	1	4.97	4.77		5.09	4.89	4.60
		2	6.26	6.01		6.41	6.16	5.80
		3	8.56	8.21		8.76	8.42	7.93
		4	13.05	12.51		13.35	12.84	12.08

注1) この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注2) () 内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

12. 付表

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	RTS25C	RTS23C	RTS22C	RTS20C
			S、Q	S、Q	S、Q	S、Q
前進	超低速	1	0.31	0.31	0.29	0.28
		2	0.39	0.39	0.37	0.36
		3	0.54	0.54	0.51	0.49
		4	0.82	0.82	0.77	0.74
	低速	1	1.12	1.12	1.05	1.01
		2	1.41	1.41	1.32	1.27
		3	1.92	1.92	1.81	1.74
		4	2.93	2.93	2.76	2.65
	高速	1	4.82	4.82	4.53	4.35
		2	6.07	6.07	5.71	5.49
		3	8.30	8.30	7.80	7.50
		4	12.65	12.65	11.89	11.43
		エンジン無負荷 最高回転	(13.92)	(13.92)	(12.85)	(12.57)
後進	超低速	1	0.30	0.30	0.28	0.27
		2	0.38	0.38	0.36	0.34
		3	0.52	0.52	0.49	0.47
		4	0.79	0.79	0.75	0.72
	低速	1	1.08	1.08	1.01	0.98
		2	1.36	1.36	1.28	1.23
		3	1.86	1.86	1.75	1.68
		4	2.83	2.83	2.66	2.56
	高速	1	4.66	4.66	4.38	4.21
		2	5.87	5.87	5.52	5.31
		3	8.02	8.02	7.54	7.25
		4	12.23	12.23	11.50	11.05

注1) この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注2) () 内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	RTS25		RTS20		
			NS	S25	S50	WW03	NS
前進	超低速	1	0.32	0.27	0.33	0.31	0.28
		2	0.41	0.40	0.41	0.39	0.35
		3	0.56	0.59	0.56	0.53	0.48
		4	0.85	0.71	0.86	0.81	0.73
	低速	1	1.15	0.96	1.17	1.10	0.99
		2	1.45	1.42	1.47	1.39	1.24
		3	1.98	2.12	2.01	1.90	1.70
		4	3.02	2.53	3.06	2.90	2.59
	高速	1	4.97	4.48	5.04	4.76	4.25
		2	6.26	6.60	6.35	6.00	5.36
		3	8.56	9.88	8.67	8.20	7.32
		4	13.04	11.77	13.22	12.49	11.16
		エンジン無負荷 最高回転	14.35	12.95	14.54	13.74	12.28
後進	超低速	1	0.31	0.26	0.32	0.30	0.27
		2	0.39	0.38	0.40	0.38	0.34
		3	0.54	0.57	0.54	0.51	0.46
		4	0.82	0.68	0.83	0.78	0.70
	低速	1	1.11	0.93	1.13	1.07	0.95
		2	1.40	1.37	1.42	1.34	1.20
		3	1.92	2.05	1.94	1.84	1.64
		4	2.92	2.44	2.96	2.80	2.50
	高速	1	4.80	4.34	4.87	4.60	4.11
		2	6.05	6.38	6.14	5.80	5.18
		3	8.27	9.56	8.39	7.93	7.08
		4	12.61	11.38	12.78	12.08	10.80

注1) この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注2) () 内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

12. 付表

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	RTS25		RTS23	RTS22	RTS20	
			GQ	GNS	GQ	GQ	GQ	GWW03
前進	低速	1	0.44	0.38	0.42	0.40	0.38	0.36
		2	0.60	0.52	0.57	0.55	0.53	0.49
		3	0.79	0.68	0.75	0.72	0.69	0.65
		4	0.98	0.85	0.94	0.90	0.86	0.81
		5	1.19	1.03	1.14	1.09	1.04	0.98
		6	1.41	1.21	1.35	1.28	1.24	1.16
		7	1.63	1.41	1.56	1.49	1.43	1.35
		8	1.87	1.61	1.79	1.71	1.64	1.55
		9	2.12	1.83	2.02	1.93	1.86	1.75
		10	2.86	2.47	2.74	2.61	2.51	2.37
	中速	1	0.83	0.72	0.80	0.76	0.73	0.69
		2	1.14	0.98	1.09	1.04	1.00	0.94
		3	1.50	1.29	1.43	1.37	1.31	1.24
		4	1.87	1.61	1.79	1.71	1.64	1.55
		5	2.26	1.95	2.17	2.07	1.99	1.87
		6	2.68	2.31	2.57	2.45	2.35	2.21
		7	3.11	2.68	2.98	2.84	2.73	2.57
		8	3.56	3.07	3.41	3.25	3.13	2.94
		9	4.03	3.48	3.87	3.68	3.54	3.33
		10	5.45	4.70	5.23	4.98	4.79	4.51
	高速	1	5.01	4.32	4.80	4.58	4.40	4.14
		2	5.46	4.72	5.24	4.99	4.80	4.52
		3	5.99	5.17	5.74	5.47	5.26	4.95
		4	6.53	5.63	6.26	5.97	5.74	5.40
		5	7.08	6.11	6.79	6.47	6.22	5.86
		6	7.64	6.60	7.33	6.99	6.72	6.32
		7	8.22	7.10	7.89	7.52	7.23	6.80
		8	8.82	7.61	8.45	8.06	7.75	7.29
		9	9.42	8.13	9.03	8.61	8.28	7.79
		10	12.11	10.45	11.61	11.07	10.64	10.02
		エンジン無負荷 最高回転	13.32	11.50	12.77	11.96	11.71	11.02
後進	低速	1	0.62	0.54	0.60	0.57	0.55	0.51
		2	0.75	0.65	0.72	0.68	0.66	0.62
		3	0.93	0.80	0.89	0.85	0.81	0.77
		4	1.11	0.96	1.06	1.02	0.98	0.92
		5	1.31	1.13	1.25	1.19	1.15	1.08
		6	1.51	1.30	1.44	1.38	1.33	1.25
		7	1.72	1.48	1.64	1.57	1.51	1.42
		8	1.94	1.67	1.85	1.77	1.70	1.60
		9	2.17	1.87	2.07	1.98	1.90	1.79
		10	2.86	2.47	2.74	2.61	2.51	2.37
	中速	1	1.19	1.02	1.14	1.08	1.04	0.98
		2	1.43	1.23	1.37	1.30	1.25	1.18
		3	1.77	1.52	1.69	1.61	1.55	1.46
		4	2.12	1.83	2.03	1.94	1.86	1.75
		5	2.49	2.15	2.39	2.27	2.19	2.06
		6	2.87	2.48	2.76	2.63	2.53	2.38
		7	3.27	2.83	3.14	2.99	2.88	2.71
		8	3.69	3.19	3.54	3.37	3.24	3.05
		9	4.12	3.56	3.96	3.77	3.62	3.41
		10	5.45	4.70	5.23	4.98	4.79	4.51
	高速	1	5.01	4.32	4.80	4.58	4.40	4.14
		2	5.39	4.65	5.17	4.92	4.74	4.46
		3	5.93	5.12	5.69	5.42	5.21	4.91
		4	6.49	5.60	6.23	5.93	5.71	5.37
		5	7.07	6.10	6.78	6.46	6.21	5.85
		6	7.66	6.61	7.34	7.00	6.73	6.33
		7	8.26	7.13	7.92	7.55	7.26	6.83
		8	8.88	7.66	8.51	8.11	7.80	7.34
		9	9.51	8.21	9.12	8.69	8.36	7.87
		10	12.11	10.45	11.61	11.07	10.64	10.02

注1) この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注2) () 内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	RTS25C	RTS23C	RTS22C	RTS20C
			GQ	GQ	GQ	GQ・GWW03
前進	低速	1	0.39	0.39	0.37	0.36
		2	0.52	0.52	0.49	0.47
		3	0.67	0.67	0.63	0.61
		4	0.83	0.83	0.78	0.75
		5	0.99	0.99	0.93	0.90
		6	1.17	1.17	1.10	1.05
		7	1.35	1.35	1.27	1.22
		8	1.54	1.54	1.45	1.39
		9	1.74	1.74	1.63	1.57
		10	1.96	1.96	1.84	1.77
	中速	1	0.75	0.75	0.71	0.68
		2	0.99	0.99	0.94	0.90
		3	1.28	1.28	1.20	1.16
		4	1.58	1.58	1.48	1.43
		5	1.89	1.89	1.78	1.71
		6	2.22	2.22	2.09	2.01
		7	2.57	2.57	2.42	2.33
		8	2.93	2.93	2.76	2.65
		9	3.31	3.31	3.12	3.00
		10	3.73	3.73	3.51	3.37
	高速	1	3.43	3.43	3.23	3.11
		2	3.74	3.74	3.52	3.39
		3	4.10	4.10	3.86	3.71
		4	4.47	4.47	4.21	4.05
		5	4.85	4.85	4.57	4.39
		6	5.24	5.24	4.93	4.74
		7	5.63	5.63	5.30	5.10
		8	6.04	6.04	5.69	5.47
		9	6.45	6.45	6.08	5.84
		10	8.30	8.30	7.81	7.51
	エンジン無負荷 最高回転		9.13	9.13	8.44	8.26
後進	低速	1	0.60	0.60	0.56	0.54
		2	0.70	0.70	0.65	0.63
		3	0.83	0.83	0.78	0.75
		4	0.97	0.97	0.91	0.88
		5	1.12	1.12	1.05	1.01
		6	1.27	1.27	1.19	1.14
		7	1.43	1.43	1.34	1.29
		8	1.59	1.59	1.49	1.44
		9	1.76	1.76	1.65	1.59
		10	1.96	1.96	1.84	1.77
	中速	1	1.14	1.14	1.07	1.03
		2	1.32	1.32	1.25	1.20
		3	1.58	1.58	1.49	1.43
		4	1.85	1.85	1.74	1.67
		5	2.12	2.12	2.00	1.92
		6	2.41	2.41	2.27	2.18
		7	2.71	2.71	2.55	2.45
		8	3.02	3.02	2.85	2.74
		9	3.35	3.35	3.15	3.03
		10	3.73	3.73	3.51	3.37
	高速	1	3.43	3.43	3.23	3.11
		2	3.69	3.69	3.47	3.34
		3	4.06	4.06	3.83	3.68
		4	4.45	4.45	4.19	4.03
		5	4.84	4.84	4.56	4.38
		6	5.24	5.24	4.94	4.75
		7	5.66	5.66	5.33	5.12
		8	6.08	6.08	5.73	5.51
		9	6.52	6.52	6.13	5.90
		10	8.30	8.30	7.81	7.51

注1) この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注2) () 内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

12.9 注文部品一覧表

トラクタ本体装備の注文部品の一覧を示します。

この表の他にも、当社ではいろいろな種類の作業に適応できる作業機・アタッチメントを取りそろえています。

詳しくは、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

	商品コード	品名	用途・仕様	クラス名
ウ エ イ ト	1825-922-200-00	ウエイト(15) SET	パンパウエイト、15kgX1(最大4個まで装着可能)	RTS全クラス用
	1825-410-900-00	ウエイト(S) SET	アクスルブラケット下部装着ウエイト、30kg	RTS全クラス用 (C型式は除く)
	1546-924-200-00	リヤホイルウエイト(1) SET	後輪装着用ウエイト、33kgX2、30kgX2	RTS25以外
	1546-924-210-00	リヤホイルウエイト(2) SET	後輪装着用ウエイト、33kgX2、30kgX4	RTS25以外
	1546-924-220-00	リヤホイルウエイト(3) SET	後輪装着用ウエイト、33kgX2、30kgX6	RTS25以外
リ ン ク	1614-514-350-20	リンク(トップ) ASSY	普通3P作業機用トップリンク	RTS全クラス用
	1614-251-200-10	ヒッチ(トレーラ) SET	けん引作業用ヒッチ	RTS全クラス用 (S50は除く)
そ の 他	1716-660-900-00	ランプ(ワーキング) SET	右フェンダ後方に装着、1個	CY以外用
	1829-760-400-00	ミラー (ルーム) SET	室内後写鏡	CY用
	1826-690-900-00	リレー(アウトレット/30A) SET	外部電源取り出し用リレー	WW用

12.10 簡易点検実施記録表

フロン排出抑制法に基づく農業機械用エアコン機器等第一種特定製品 簡易点検実施記録表

機種		型式		管理責任者	
----	--	----	--	-------	--

- ・点検頻度は3カ月に1回以上

[illegible]

※点検の際、異常や不具合を発見した場合は、速やかにお買いあげ先へお問い合わせください。

※この点検記録表は、エアコン機器を廃棄するまで保管してください。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 () —
御購入日 平成 年 月 日	型式	区分
車台番号（本機番号）	エンジン番号	同時購入作業機

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部	〒300-2346	茨城県つくばみらい市青木560	☎ 0297-58-5131
技術サービス部			
部品事業部	〒799-2692	愛媛県松山市馬木町700	☎ 089-979-4114

販売会社

(株) 中セキ北海道	〒068-0014	北海道岩見沢市東町2条7丁目1004番地1	☎ 0126-22-3388
(株) 中セキ東北	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎ 0223-24-1111
(株) 中セキ関東	〒300-0331	茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818	☎ 029-887-6131
群馬中セキ販売(株)	〒379-2154	群馬県前橋市天川大島町116	☎ 027-263-3211
(株) 石川商会	〒289-2516	千葉県旭市口-1247	☎ 0479-63-3115
柳田中セキ販売(株)	〒243-0806	神奈川県厚木市下依知250-2	☎ 046-244-2723
(株) 中セキ信越	〒950-1237	新潟県新潟市南区北田中字堀留780-12	☎ 025-362-1161
(株) 中セキ北陸	〒920-0806	石川県金沢市神宮寺2丁目20-8	☎ 076-252-5246
(株) 中セキ東海	〒444-1221	愛知県安城市和泉町大北61	☎ 0566-92-7221
三重中セキ販売(株)	〒514-0821	三重県津市垂水字中境499番地	☎ 059-225-2811
(株) 中セキ関西	〒675-0103	兵庫県加古川市平岡町高畑348-1	☎ 079-424-5357
奈良中セキ販売(株)	〒635-0014	奈良県大和高田市三和町17-29	☎ 0745-22-8771
(株) 中セキ中国	〒739-0024	広島県東広島市西条町御園宇727-2	☎ 082-423-9881
(株) 中セキ四国	〒799-3101	愛媛県伊予市八倉120-1	☎ 089-983-5677
(株) 西岡商会	〒773-0016	徳島県小松島市中郷町前田105-1	☎ 0885-32-3339
(株) 中セキ九州	〒861-2212	熊本県上益城郡益城町平田深迫2550	☎ 096-286-0303